

茨城県教育財団文化財調査報告第296集

薬師入遺跡 2

阿見吉原土地地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上 卷

平成 20 年 3 月

茨城県竜ヶ崎土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第296集

薬師入遺跡 2

阿見吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上 卷

平成 20 年 3 月

茨城県竜ヶ崎土木事務所
財団法人 茨城県教育財団



遺跡全景（南から）



葉師入土遺物

序

茨城県は、21世紀の社会を展望し、県全域にわたる調和のとれた発展を図るために、県内の交通体系の整備を進めています。

一般国道首都圏中央連絡自動車道は、首都圏の再編成・産業活力の向上を図るための基幹施設として計画されたものです。この整備に伴い、阿見町吉原地区に隣接する牛久市に、阿見東インターチェンジが設置されました。

阿見吉原土地区画整理事業は、インターチェンジへの接続道路になる地域幹線道路の整備と共に、インターチェンジ周辺部に商業及び業務系施設や住宅地の形成を図り、当地域及び周辺地域の活性化と秩序ある発展に寄与することを目的として計画されています。

この事業地内には、阿見町の埋蔵文化財包蔵地である篠崎A遺跡や薬師入遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県竜ヶ崎土木事務所から阿見吉原土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査事業の実施について委託を受け、平成18年4月から12月まで薬師入遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は、薬師入遺跡の発掘調査の成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県竜ヶ崎土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實 徳

例 言

- 1 本書は、茨城県竜ヶ崎土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字正上内に所在する薬師入遺跡^{やくしりいせき}の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下の通りである。
調査 平成18年4月1日～平成18年12月31日
整理 平成19年4月1日～平成20年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 川又 清明
主任調査員 綿引 英樹
主任調査員 田原 康司 平成18年9月1日～平成18年9月30日
主任調査員 井上 琢哉 平成18年8月1日～平成18年11月30日
主任調査員 市村 俊英 平成18年4月1日～平成18年6月30日
主任調査員 本橋 弘巳 平成18年7月1日～平成18年12月31日
副主任調査員 小林 悟
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。
主任調査員 綿引 英樹 第3章第3節1～3・5～7、第4節、写真図版
副主任調査員 小林 悟 第1章～3章第2節、第3節3・4
- 5 第78号住居跡から出土した粒状滓などについては、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査官（当時）坂野和信氏にご指導いただいた。
- 6 本書の作成にあたり、当遺跡から出土した炭化材の樹種同定及び土器付着炭化物の成分分析はパレオ・ラボ株式会社、土壌分析についてはバリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察は付章として掲載した。また、旧石器時代の石器実測については株式会社ランクに委託した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅹ系座標に準拠し、X軸=-1,520m、Y軸=+36,280mの交点を基準点(A1a)とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」「B2b2区」のように呼称した。

- 2 遺構番号は、平成16年度報告の継続である。

- 3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構	SI-住居跡	SB-掘立柱建物跡	SK-土坑	SD-溝跡	SF-道路跡
	TM-塚	UP-地下式坑	SX-不明遺構	P-柱穴・ピット	K-攪乱
遺物	P-土器	TP-拓本記録土器	DP-土製品	Q-石器・石製品	M-金属製品
	G-ガラス製品	W-木製品	T-瓦		
土層	K-攪乱				

- 4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- 遺構全体図は600分の1、遺構実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- 遺物実測図は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。
- 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・火床面・赤彩		炉
	竈部材・粘土・炭化材・黒色処理・硬化面		柱痕・煤
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品
▲	木製品・馬歯	— — —	硬化面

- 5 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 6 遺物観察表・一覧表の表記については、次の通りである。

- 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。
- 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位はcm、gで示したが、大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。
- 備考欄には、土器の残存率のほか、必要と思われる事項を記した。

- 7 主軸方向の表記については、次の通りである。

- 「主軸」は、炉(竈)を有する竪穴住居跡については炉(竈)を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸」及び「長軸」方向は、それぞれの軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例：N-10°-E)。
- 地下式坑については竪坑と主室を通る軸線を、火葬土坑については開口部と燃焼部を通る軸線を主軸とした。

抄 録

ふりがな	やくしいりいせきに								
書名	業師入道跡 2								
副書名	阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	Ⅲ								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第296集								
著者名	綿引 英樹 小林 悟								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
業師入道跡	茨城県稲敷郡阿見町 大字吉原土正上内 2719番地の2ほか	08443 — 118	35度 58分 06秒	140度 14分 18秒	24 ～ 25m	20060401 ～ 20061231	36,786㎡	阿見吉原 土地区画 整理事業 に伴う事 前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
業師入道跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点 2か所		石器(楔形石器・石核・ 剥片)		古墳時代前期の第 78号住居跡の床面 から器台を転用し た羽口と粒状滓が 出土し、4世紀代 の鍛冶工房跡と考 えられる。		
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 土坑	15軒 3基	弥生土器(高坏・広 口壺)土製品(紡錘車)				
		古墳時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑	56軒 1棟 2基	土師器(坏・椀・埴 器台・高坏・壺・甕・ 台付甕・瓶)、須恵器 (把手付椀・甕)、手 捏土器、ミニチュア 土器、土製品(土玉・ 小玉・紡錘車)、石器・ 石製品(砥石・紡錘 車・勾玉・白玉・白 玉未製品・有孔円板・ 双孔円板・剣形・滑 石原石・滑石剥片)、 鉄製品(手鎌・釘カ・ 不明鉄製品)、粒状 滓、ガラス製品(小玉)				
	平安時代	竪穴住居跡 土坑	9軒 2基	土師器(坏・高台付椀・ 小皿)、鉄製品(釘・ 不明鉄製品)					
	中世	掘立柱建物跡 地下式坑 溝 道路跡 土坑	3棟 10基 4条 3条 5基	土師質土器(小皿・ 擂鉢・内耳鍋)、石器 (茶臼・砥石)、自然 遺物(マツカサガイ・ ヤマトシジミ)					

	近世	塚 溝跡	3基 1条	石製品(石碑)、金属製品(古銭)
墓跡	中世	火葬土坑 墓坑	2基 1基	金属製品(古銭)
	近世	墓坑	1基	金属製品(煙管・古銭)
生産跡 その他	時期不明	炭焼遺構	13基	
		溝跡	28条	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、土製品(土玉・泥面子)、石器・石製品(剥片)
		道路跡	5条	石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘・敲石・砥石・双孔円板・剣形、馬歯
		土坑	224基	
		ピット 不明遺構	84基 1基	
要約	<p>旧石器時代から近世にかけて断続的に土地利用された複合遺跡である。旧石器時代では、平成14・15年度調査で確認された2か所の石器集中地点がさらに南側や西側に広がる事が確認された。弥生時代の住居跡は、浅い谷を挟んだ南北に15軒確認され、南北で若干の時期差が想定される。古墳時代では、前期から中期の住居跡が多く確認されている。中世・近世の遺構では、大型の地下式坑や「青面金剛」と刻まれた庚申塔が建てられていた塚が3基確認されている。</p>			

目 次

— 上 卷 —

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 旧石器時代の遺構と遺物	9
(1) 調査の方法	9
(2) 石器集中地点	10
2 弥生時代の遺構と遺物	16
(1) 竪穴住居跡	16
(2) 土坑	49
3 古墳時代の遺構と遺物	52
(1) 竪穴住居跡	52
(2) 掘立柱建物跡	206
(3) 土坑	207
4 平安時代の遺構と遺物	210
(1) 竪穴住居跡	210
(2) 土坑	222

— 下 卷 —

5	中世の遺構と遺物	225
(1)	掘立柱建物跡	225
(2)	地下式坑	227
(3)	溝跡	243
(4)	道路跡	247
(5)	火葬土坑	248
(6)	墓坑	250
(7)	土坑	251
6	近世の遺構と遺物	255
(1)	塚	255
(2)	溝跡	265
(3)	墓坑	265
7	その他の遺構と遺物	266
(1)	溝跡	266
(2)	道路跡	283
(3)	炭焼遺構	286
(4)	土坑	294
(5)	ピット	302
(6)	不明遺構	303
(7)	遺構外出土遺物	303
第4節	まとめ	310
付章		
1	薬師入遺跡出土炭化材の樹種同定	326
	野村敏江 (パレオ・ラボ)	
2	薬師入遺跡の放射線炭素年代測定	329
	パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ	
	小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫	
	Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani・藤根 久・野村敏江	
3	薬師入遺跡第78号住居跡の土壌に係る自然科学分析	336
	バリノ・サーヴェイ株式会社	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の建設に伴って周辺部の開発を図り、周辺地域の活性化を目的とした土地区画整理事業を計画している。そうした中、茨城県竜ヶ崎土木事務所は、阿見吉原地区土地区画整理事業を進めている。

平成5年12月17日及び平成11年1月21日、茨城県知事（土木部扱い）は、茨城県教育委員会教育長に対して、阿見吉原地区土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成8年度に現地踏査を、平成11年1月20日～22日及び1月26日～29日、平成17年9月20日～22日及び10月6日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成11年5月6日及び平成17年10月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土木部長（都市局都市整備課扱い）あてに、事業地内に薬師入遺跡が所在する旨回答した。

平成18年1月31日、茨城県竜ヶ崎土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成18年2月15日、茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに、工着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

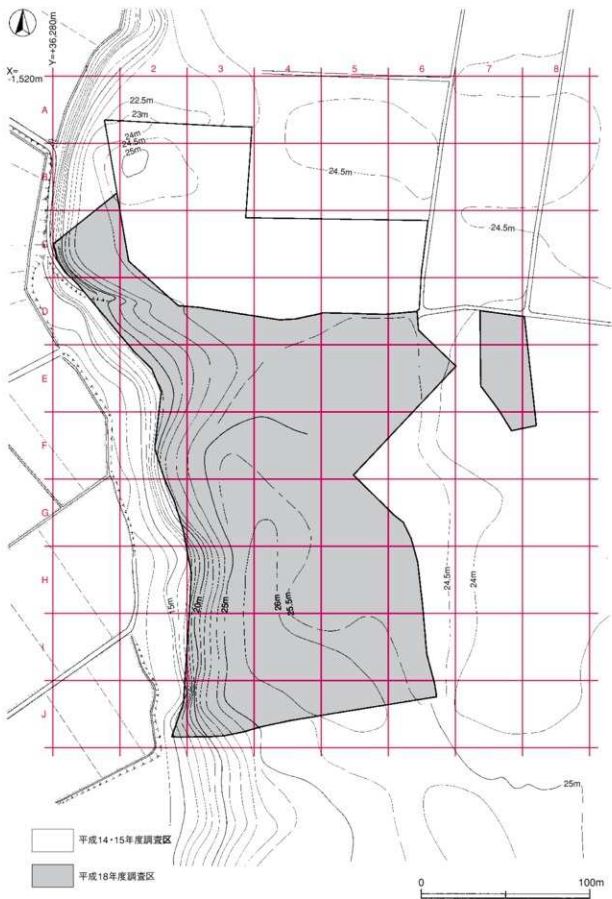
平成18年2月20日、茨城県竜ヶ崎土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、阿見吉原地区土地区画整理事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎土木事務所長あてに、薬師入遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県竜ヶ崎土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年4月1日から12月31日まで、薬師入遺跡の第3次発掘調査を実施することとなった。第1次調査は、平成14年12月1日から平成15年1月31日まで、第2次調査は平成15年11月1日から平成16年3月31日まで行われている。

第2節 調査経過

薬師入遺跡の調査は、平成18年4月1日から12月31日までの9か月間実施した。以下、調査経過について、その概要を表で記載する。

工程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
調査準備 表土除去 遺構確認	■			■					
遺構調査	■								
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■								
補足調査									■



第1図 薬師入遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

薬師入道跡は、稲敷郡阿見町大字吉原字正上内2719番地の2ほかに所在し、霞ヶ浦と利根川に挟まれた標高25～28mの稲敷台地北部に位置している。この台地は小野川、桂川、乙戸川などの河川によって開析され、樹枝状に入り組んだ複雑な地形を呈している。台地周辺は水郷国定公園に含まれる低湿地で水田が広がり、灌溉のための小川や用・排水路が発達している。

台地の地質は、新生代第四期洪積世の古東京湾期に堆積した貝化石を含む海成砂層の成田層を基盤として、これを覆う斜交層理の顕著な竜ヶ崎層と呼ばれる砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3～5.0m)、褐色の関東ローム層(0.5～2.0m)が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

当道跡は、町域の南部、桂川左岸の標高24～25mの舌状台地上に立地している。この台地は南北約1400m、東西約800mの規模を有し、南側に沖積低地、西側及び東側から北側にかけて細長い谷津が入り込んでいる。

当道跡と周辺の土地利用の現状は、台地上は主に畑地及び平地林で、桂川流域の沖積低地は水田として利用されている。

第2節 歴史的環境

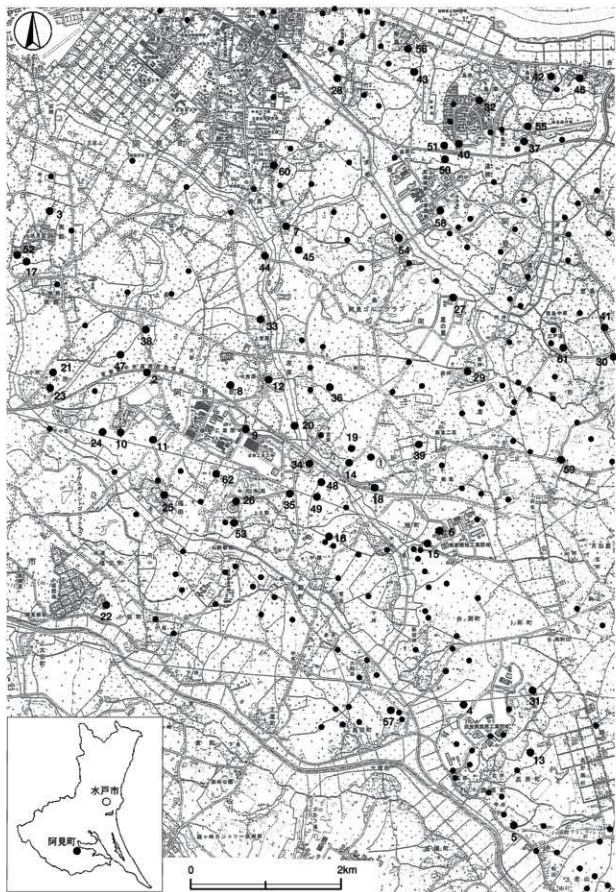
当道跡は、桂川流域の台地上に所在し、旧石器時代から近世まで断続的に利用された複合道跡である。桂川は阿見町内を南流して、牛久市内で乙戸川と合流する。その流域の台地上には多くの道跡が分布している。ここでは、当道跡に関連する周辺道跡について、桂川流域を中心に時代ごとに述べる²⁾。

旧石器時代の道跡は、桂川流域にはほとんど知られないが、平成14・15年度調査の薬師入道跡³⁾で2か所の石器集中地点が確認されている。乙戸川流域では、石器集中地点が確認された谷ノ沢道跡⁴⁾(2)、ナイフ形石器などが出土した実穀寺子道跡⁵⁾(3)があり、このほか、小野川流域では有舌尖頭器が出土した牛久市木戸向A道跡⁶⁾(4)、天王峯道跡⁷⁾(5)が知られている。

縄文時代の道跡は、中期の大規模集落跡である牛久市赤塚道跡⁸⁾(6)をはじめ、下原道跡⁹⁾(7)、手接道跡¹⁰⁾(8)、吉原道跡¹¹⁾(9)などが知られている。乙戸川流域では、陥穴や早期から後期の土器が出土している於山道跡¹²⁾や下小池東道跡¹³⁾(10)、福田道跡¹⁴⁾(11)などが知られている。

弥生時代の道跡は少ないが、下原道跡、花房道跡¹⁵⁾(12)、姥神道跡¹⁶⁾(13)などがあり、後期の竪穴住居跡は花房道跡¹⁷⁾で2軒、姥神道跡¹⁸⁾では12軒が調査されている。乙戸川と小野川の合流地点からさらに下流の左岸に位置する天王峰道跡¹⁹⁾では、竪穴住居跡15軒が調査されており、出土土器は後期に位置づけられている。

古墳時代になると道跡数が急増する。桂川流域では、花房道跡、手接道跡及び篠崎道跡²⁰⁾(14)、御山台道跡²¹⁾(15)、台畑道跡²²⁾(16)、乙戸川左岸の台地上には実穀寺古墳群²³⁾(17)、実穀寺子道跡などが確認されている。当財団が発掘調査した牛久市と阿見町にまたがるナギ山道跡²⁴⁾(18)では、滑石製の白玉や有孔門板などとともに、未製品、原石、剥片及び砥石や砺石が出土している住居跡が調査されており、石製模造品を製作する工房跡の可能性が指摘されている。桂川及び乙戸川流域の台地上には、ガラス小玉、直刀、40点を超える鉄鏝が出土した後期の円墳4基からなる実穀古墳群²⁵⁾や、箱式石棺が確認された内記古墳群²⁶⁾などが分布している¹⁰⁾。



第2図 薬師入道跡周辺遺跡分布図 (国土地理院5万分の1地形図「土浦・玉造・龍ヶ崎・佐原」)

表1 薬師入遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世
①	薬師入遺跡	○	○	○	○	○	○	32	鳥津遺跡		○		○			
2	谷ノ沢遺跡	○						33	根崎遺跡				○			
3	実穀寺子遺跡	○			○	○		34	腰巻遺跡				○			
4	木戸向A遺跡	○	○					35	水堀遺跡				○			
5	天王峯遺跡	○		○	○			36	赤太郎遺跡				○			
6	赤塚遺跡		○					37	宮平貝塚群		○					
7	下原遺跡		○	○	○			38	道記遺跡		○	○	○			
8	手接遺跡		○	○	○			39	板立遺跡			○	○			
9	吉原遺跡		○	○	○			40	頭田遺跡		○	○	○		○	
10	下小池東遺跡		○	○				41	君島古墳群		○		○			
11	福田遺跡		○	○				42	後原古墳群				○			
12	花房遺跡		○	○	○	○		43	古女子古墳群				○			
13	姥神遺跡		○	○	○	○		44	橋向古墳群				○			
14	篠崎遺跡		○	○				45	若栗古墳群				○			
15	御山台遺跡		○					46	若宮古墳群				○			
16	台畑遺跡		○	○		○		47	塚越古墳群				○			
17	実穀古墳群		○	○	○			48	吉原向古墳群				○			
18	ナギ山遺跡		○	○	○	○		49	牛頭座古墳群				○			
19	篠崎A遺跡		○	○	○	○		50	烏瓜台遺跡				○	○		
20	大日遺跡		○	○	○			51	梶内台遺跡				○			
21	前畑遺跡				○	○	○	52	実穀寺子西遺跡		○	○				○
22	小坂城跡							53	久野城跡							○
23	上小池城跡						○	54	上桑城跡							○
24	下小池城跡						○	55	鳥津城跡							○
25	福田城跡						○	56	掛馬館跡							○
26	源壺遺跡		○	○	○	○		57	新堀遺跡							○
27	星合遺跡		○	○	○	○		58	内堀遺跡							○
28	竹来遺跡		○	○	○	○	○	59	割目遺跡							○
29	中ノ台遺跡		○	○	○	○		60	若栗大日塚							○
30	君島天神遺跡		○	○	○	○		61	堂坂庚申塚							○
31	スカキ台遺跡		○	○	○			62	石塚庚申塚							○

奈良・平安時代になると、当遺跡周辺は信太郡子方郷に編入される¹³⁾。桂川流域の集落跡では、9世紀前葉から中葉の仏教関連遺物が出土している篠崎A遺跡¹⁶⁾(19)、手接遺跡¹⁷⁾、花房遺跡¹⁸⁾、大日遺跡¹⁹⁾(20)などがある。大日遺跡では4基の骨蔵器が確認されており、当時の葬送儀礼を考える上で重要な資料となっている。また、乙川流域を代表する中核的な集落跡である牛久市姥神遺跡²⁰⁾では、奈良時代の堅穴住居跡32軒、平安時代の堅穴住居跡21軒が調査されており、灰軸陶器の宝珠硯や「仲止夫」「夫百」などの墨書土器が出土している。

中・近世の遺跡では、篠崎A遺跡、聖天久保遺跡などが確認されている。ナギ山遺跡²¹⁾からは、地下式坑2基や炭焼窯跡、溝跡1条が確認され、土師質土器の小皿や鉢、焙烙、内耳鍋などが出土している。前畑遺跡²²⁾(21)では、掘立柱建物跡3棟、井戸跡5基、溝跡2条などが確認され、溝跡からは900点を越える土銅製の破片が出土している。また、周辺には、小坂城跡(22)、上小池城跡(23)、下小池城跡(24)、福田城跡(25)など、

戦国期の城館跡が数多く確認されており、下小池城跡²¹⁾は、戦国期末期に土岐氏によって築かれたと伝えられており、虎口、薬研堀などが確認されている。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第2図及び表1の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 駒澤悦郎「薬師入遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第239集 2005年3月
- 4) 綿引英樹、後藤孝行「谷之沢遺跡・手塚遺跡・花房遺跡・大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第212集 2004年3月
- 5) a 浅野和久「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 実穀古墳群・実穀寺子遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第144集 1999年3月
b 宮崎修士、柴田博行「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 実穀寺子遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第151集 1999年3月
- 6) 茨城県考古学協会旧石器時代シンポジウム実行委員会『茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—発表要旨・資料集』茨城県考古学協会 2002年12月
- 7) 河野辰男ほか「赤塚遺跡発掘調査報告書」茨城県牛久町赤塚遺跡発掘調査会 1984年4月
- 8) 矢ノ倉正男「主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 於山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第96集 1995年3月
- 9) 註4)に同じ
- 10) 河野辰男ほか「茨城県牛久市文化財調査報告 奥原遺跡発掘調査報告書」奥原遺跡発掘調査会1989年12月
- 11) a 河野辰男ほか「天王峯遺跡報告書」天王峯遺跡発掘調査会 1984年9月
b 河野辰男ほか「天王峯遺跡報告書(第二次調査)」天王峯遺跡発掘調査会 1988年4月
- 12) a 石川義信、後藤孝行「ナギ山遺跡1・柏峰B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第233集 2005年3月
b 栗田功「ナギ山遺跡2(仮称)阿見東1CランプB区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第277集 2007年3月
- 13) 註5)に同じ
- 14) 阿見町史編さん委員会『阿見町史』阿見町 1983年3月
- 15) 牛久市編さん委員会『牛久市史 原始・古代・中世』牛久市 2004年3月
- 16) 小林健太郎「蘆崎A遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第217集 2004年3月
- 17) 註4)に同じ
- 18) 註4)に同じ
- 19) 註4)に同じ
- 20) 註10)に同じ
- 21) 註12)に同じ
- 22) 後藤孝行、綿引英樹「ワサル下遺跡・反子遺跡・高田遺跡・前畑遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第211集 2004年3月
- 23) 河野辰男ほか「下小池城跡保存調査報告書」阿見町教育委員会 1981年11月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

栗師入遺跡は、阿見町の南部を流れる桂川左岸の、樹枝状に延びた小支谷と霞ヶ浦に流れ込む清明川の支流によって開析された小支谷間の標高24~25mの台地上に立地している。

平成14・15年度には、11,939㎡が調査され、石器集中地点2か所、竪穴住居跡34軒（縄文1・弥生4・古墳29）、陥し穴2基、炉穴1基、炉跡2基、土坑29基、火葬土坑1基、道路跡1条、溝跡2条が検出され、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であり、中でも古墳時代前期の集落跡が中心であることが判明した。遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、土師質土器のほか、石器（ナイフ形石器・石刀・石核・石鏃・磨製石斧・磨石・石皿・砥石）、石製品（白玉・双孔円板・有孔円板・剣形）、自然遺物（炭化米）が出土している。

今回の調査は平成14・15年度調査部分の西及び南側に位置する36,786㎡で、調査前の現況は平地林である。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点2か所、竪穴住居跡80軒（弥生15軒、古墳56軒、平安9軒）、掘立柱建物跡4棟（古墳1棟、中世3棟）、土坑236基（弥生3基、古墳2基、平安2基、中世5基、時期不明224基）、地下式坑10基、塚3基、炭焼遺構13基、火葬土坑2基、墓坑2基（中世、近世）、溝跡33条（中世4条、近世1条、時期不明28条）、道路跡8条（中世3条、時期不明5条）、ピット84、不明遺構1基が確認された。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に115箱出土している。主な遺物は、縄文土器片、弥生土器（広口壺・高坏）、土師器（坏・椀・小皿・埴・器台・高坏・壺・甕・台付甕・甌・手捏土器・ミニチュア土器）、須恵器（甕・把手付椀）、土師質土器（小皿・搦鉢・内耳鍋）、陶器（天目茶碗）、土製品（土玉・小玉・紡錘車・球状土錘・泥面子）、石器（楔形石器・石核・剥片・石鏃・磨製石斧・打製石斧・敲石・茶臼・石錘・砥石）、石製品（白玉・白玉未製品・紡錘車・双孔円板・有孔円板・剣型・石碑）、金属製品（手鐲カ・釘・鏝カ・煙管・古銭・不明鉄製品）などである。

第2節 基本層序

平成14・15年度調査では、調査区南部のD 4 f2・3区にテストピット1を設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った。テストピット1の地表面の標高は24.5mで、地表面から1.9mほど掘り下げて第3図左のような堆積状況を確認している。

今回の調査では、調査区東部のG 5 f2区にテストピット2を設定して、基本土層の堆積状況を観察した。テストピット2の地表面の標高は24.7mで、地表面から深さ2.6mほど掘り下げて第3図右のような堆積状況を確認した。

テストピット2の土層は10層に分層され、観察結果は以下の通りである。

第Ⅰ層は暗褐色を呈する表土で、ローム粒子中量、ロームブロックを少量含み、粘性は普通で締まりは弱く、層厚は20~25cmである。

第Ⅱ層は褐色を呈するソフトローム層で、黒色粒子を微量に含む。クラックが発達し、ガラス質粒子・炭化粒子を微量含み、層厚は20~30cmである。

第Ⅲ層は褐色を呈するハードローム層で、ガラス質粒子・赤色スコリア粒子・炭化粒子を微量含んで締まり

が強く、始良 Tn 火山灰 (AT) を含む層に対比され、層厚は30~40cmである。

第IV層は褐色を呈するハードローム層で、黒色粒子・橙色スコリアを微量に含む。始良 Tn 火山灰 (AT) を含む層に対比され、層厚は5~30cmである。

第V層は褐色を呈するハードローム層で、黒色粒子・橙色スコリアを微量含む。始良 Tn 火山灰 (AT) を含む層の下の黒色帯であることから第2黒色帯上部に対比され、層厚は45~50cmである。

第VI層は褐色を呈するハードローム層で、橙色スコリアを微量含む、第2黒色帯下部に対比され、層厚は30~35cmである。

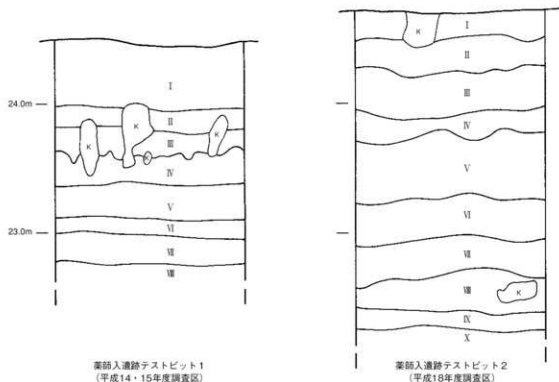
第VII層は褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりはともに強い。層厚は16~30cmである。

第VIII層は褐色を呈するハードローム層で、黒色粒子を微量、鉄分を少量、粘土粒子を多量含む、粘性・締まりはともに強い。層厚は16~30cmである。

第IX層は明褐色を呈する粘土層への漸移層で、粘性・締まりは極めて強い。層厚は16~30cmである。

第X層は灰白色で、常総粘土層にあたる。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は不明である。

なお、遺構の多くは、第II層上面で確認されている。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

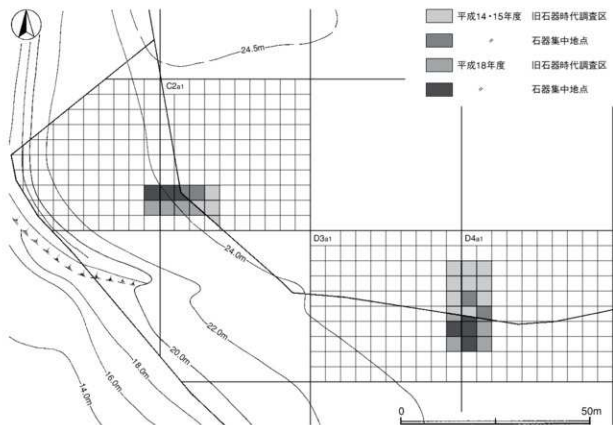
1 旧石器時代の遺構と遺物

(1) 調査の方法 (第4図)

業師入遺跡は、平成14・15年度に第一次調査(調査面積:11,939㎡)が行われ、2か所の石器集中地点が『茨城県教育財団文化財調査報告第239集』(2005年3月)で報告されている(以下『業師入遺跡1』)。

第1号石器集中地点の調査範囲は、C2h2・C2h3・C2h4・C2i3・C2i4・C2j4の6グリッド(調査面積約72㎡)で、石器はC2h3区から2次加工を有する剥片1点、剥片5点が出土しており、石材は黒曜石と珉瑯である。第2号石器集中地点の調査範囲は、D3c0・D3d0・D3e0・D3f0・D4c1・D4c2・D4d1・D4d2・D4e1・D4e2・D4f1・D4f2の12グリッド(調査面積:約160㎡)で、石器はD4e1区及びD4f2区から石核1点、2次加工を有する剥片3点、剥片5点が出土しており、石材は安山岩、珉瑯頁岩、頁岩である。

平成18年度の第二次調査区(調査面積36,786㎡)は、第一次調査区の南西及び南側に位置しており、調査当初から第1・2号石器集中地点の広がりが見込まれ、第1号石器集中地点は南西のC1h0・C1i0・C2h1・C2h2・C2i1・C2i2・C2i3の7グリッド(拡張面積約88㎡)、第2号石器集中地点は南のD3f0・D3g0・D3h0・D4f1・D4f2・D4g1・D4g2・D4h1・D4h2の9グリッド(拡張面積128㎡)をそれぞれ拡張して調査した。



第4図 旧石器時代調査区設定図

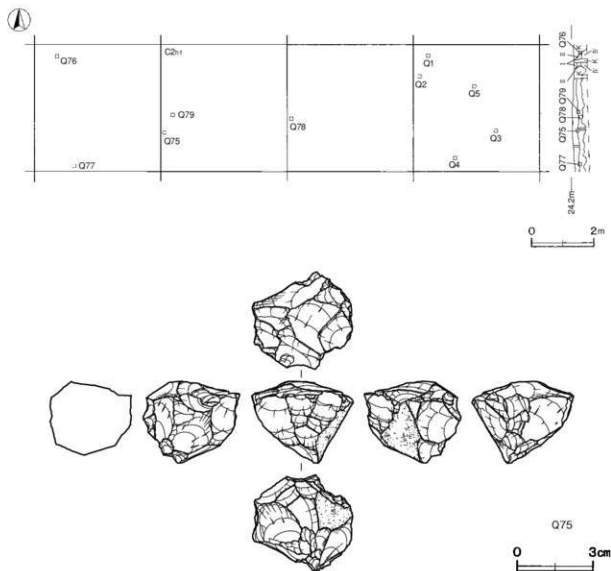
(2) 石器集中地点

今回の調査で、第1号石器集中地点は南西方向へ、第2号石器集中地点は南方向への広がり確認された。以下、それぞれの石器集中地点について記述する。なお、第1・2号石器集中地点ともに出土層位は「業師入道跡1」を参考にしている。

第1号石器集中地点（第5・6図）

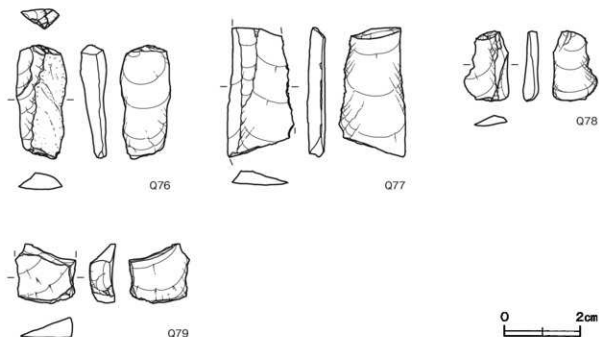
位置 調査区北西部のC1h0・C2h1・C2h2区で、台地縁部に位置している。

遺物出土状況 石核1点（安山岩）、二次加工を有する剥片1点（瑪瑙）、剥片3点（チャート、安山岩、頁岩）がまばらに出土している。垂直分布は標高23.749～24.083mで、「業師入道跡1」基本層序の第Ⅱ～Ⅳ層に相当する。Q75はC2h1区第Ⅱ層、Q79は同区第Ⅲ層、Q76はC1h0区第Ⅳ層、Q77はC1h0区第Ⅲ層、Q78はC2h2区第Ⅲ層からそれぞれ出土している。



第5図 第1号石器集中地点・出土遺物実測図

所見 『業師入道跡1』で、「当集中地点は、調査区域外の西側に分布が広がる可能性が高い。」と指摘されているとおり、調査の結果、疎ながらも石器が確認された。しかし、『業師入道跡1』の調査で確認された黒曜石は1点も検出されず、垂直分布はQ76を除いてやや高い位置からの出土である。出土した石器は、始良Tn火山灰(AT)を含む第IV層より上層から出土していることから、茨城県後期旧石器時代編年のⅡc期に位置づけられる。



第6図 第1号石器集中地点出土遺物実測図

第1号石器集中地点出土遺物観察表(第5・6図)

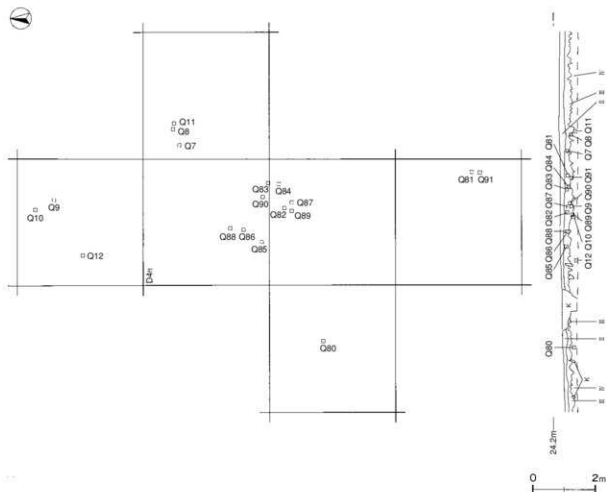
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	石杖	3.1	3.9	3.6	44.8	安山岩	行進を素材とした石杖。打面調整・頭部調整を伴う剥片剥離を不規則に転移	第Ⅲ層	PL50
Q76	二次加工剥片	2.8	1.2	0.6	2.6	黒曜	二次加工剥片。主要剥離面の剥離方向に対し同一方向からの剥離。単剥離面打面。末端部折損面に換面を二次加工	第Ⅴ層	PL49
Q77	剥片	(3.3)	1.7	0.4	(2.3)	頁岩	基部部及び末端部を折損した短長剥片。背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅲ層	PL49
Q78	剥片	1.7	1.1	0.4	0.2	チャート	短長剥片。単剥離面打面。背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向・逆方向・横方向からの剥離	第Ⅲ層	PL49
Q79	剥片	(1.4)	1.5	0.6	(1.4)	安山岩	打点部折損した剥片。背面は主要剥離面の剥離方向に対し同一方向の剥離	第Ⅲ層	PL49

第2号石器集中地点(第7～10図)

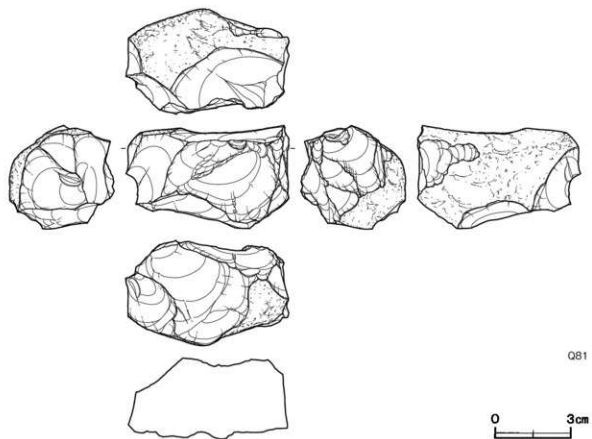
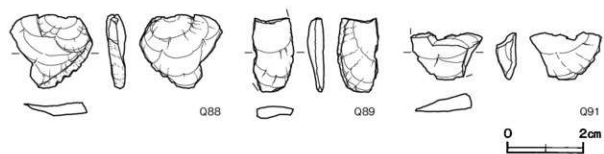
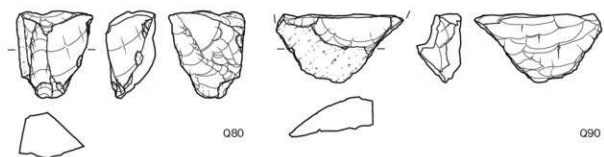
位置 調査区北部のD3g0・D4f1・D4g1・D4h1区で、台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 楔形石器1点(チャート)、石核1点(頁岩)、剥片10点(安山岩9、頁岩1)が出土している。垂直分布は23.568～23.831mで、『業師入道跡1』基本層序の第Ⅲ～Ⅳ層に相当する。Q80はD3g0区第Ⅳ層、Q83・Q85・Q86・Q88・Q90はD4f1区第Ⅲ層、Q82・Q84・Q87はD4g1区第Ⅲ層、Q89は同区第Ⅳ層、Q81・Q91はD4h1区第Ⅲ層からそれぞれ出土している。また、Q82はQ86(接合資料1)、Q84はQ85(接合資料2)と接合関係にあり、『業師入道跡1』で報告されている安山岩剥片Q81・Q82・Q86・Q89との接合も試みたが、接合はしていない。さらに、Q81・Q87と『業師入道跡1』で報告されている2次加工を有する頁岩剥片やその他の剥片との接合を試みたが、接合できなかった。

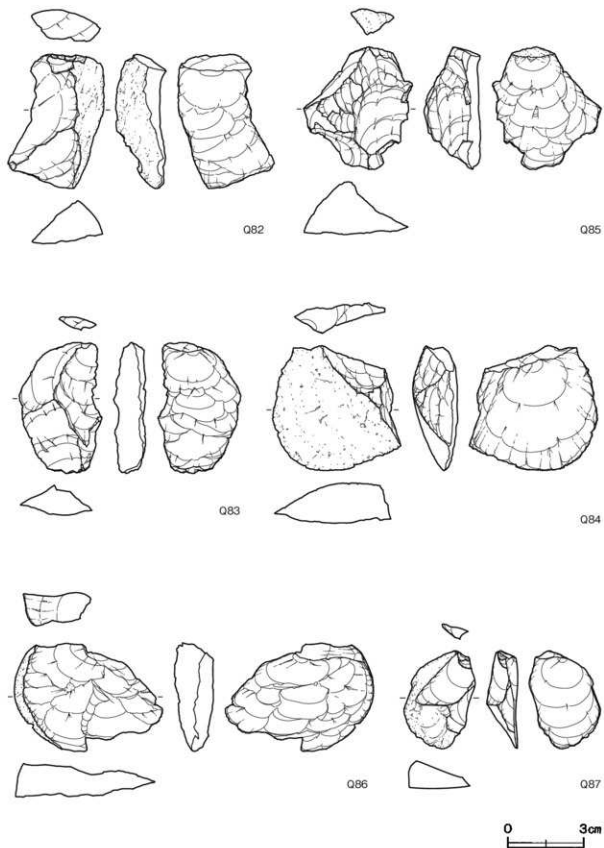
所見 『業師入道跡1』で「当集中地点は、調査区域外の南側に分布が広がる可能性が高い。」と指摘されているとおり、楔形石器や石核を含む12点の石器が出土し、接合関係も確認された。また、「石核が存在することから、小規模な剥片剥離が行われ、不要とされた剥片類が廃棄されたものと考えられる。」という指摘をさらに裏付ける結果となった。安山岩や頁岩は、出土位置や層位などから判断してそれぞれ同一母岩から割がされたと考えられる。出土層位の第Ⅲ層はソフトロームであり、第Ⅳ層は始良Tn火山灰(AT)を含む層と考えられることから、出土した石器群のほとんどはAT降灰後の時期と考えられ、茨城県後期旧石器時代編年のⅡc期に位置づけられる。



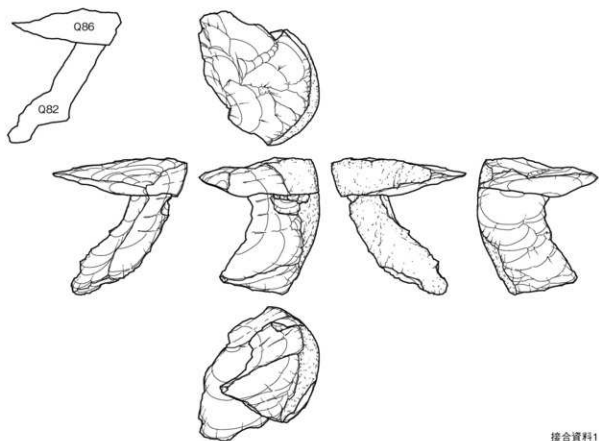
第7図 第2号石器集中地点実測図



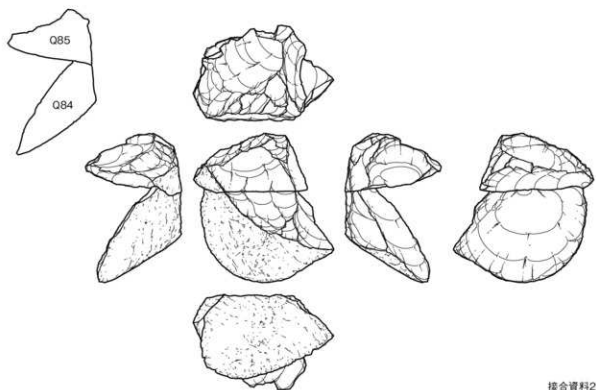
第8图 第2号石器集中地点出土遗物实测图(1)



第9图 第2号石器集中地点出土遗物实测图(2)



接合資料1



接合資料2

第10図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(3)

第2号石器集中地点出土遺物観察表(第8～10図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q80	磨石	2.2	1.9	1.2	5.9	チャート	両側割離痕をもつ磨石 上部は両端打法の加工による折痕	第3層	PL49
Q81	石核	3.8	6.3	4.1	112.3	頁岩	巻角礫を素材とした石核 割片割離毎に打面を不規則に転移	第3層	PL50
Q82	割片	5.2	3.1	1.7	29.5	安山岩	短長割片 Q87の割離によって作出された平坦面を打面とする単割離面打面 前部調整 主要割離面の加撃方向に対し横方向からの割離	第3層	接合資料1 PL50
Q83	割片	5.1	3.1	1.2	16.9	安山岩	短長割片 単割離面打面 背面は主要割離面の割離方向に対し同一方向・反対方向・横方向からの割離	第3層	PL50
Q84	割片	4.9	4.7	1.7	42.3	安山岩	Q88の割離によって作出された平坦面を打面とする単割離面打面 主要割離面の加撃方向に対し横方向からの割離	第3層	接合資料2 PL50
Q85	割片	4.8	4.1	2.1	33.1	安山岩	短長割片 打面は自然面打面 背面は主要割離面の割離方向に対し同一方向・横方向からの割離	第3層	接合資料2 PL50
Q86	割片	4.2	5.6	1.5	31.8	安山岩	短長割片 打面は単割離面打面 主要割離面の割離方向に対し同一方向からの割離	第3層	接合資料1 PL50
Q87	割片	3.6	2.4	1.1	9.4	頁岩	短長割片 単割離面打面 主要割離面の加撃方向に対し同一方向からの割離	第3層	PL49
Q88	割片	1.9	2.0	0.4	1.2	安山岩	割片 打面は線状打面 主要割離面の割離方向に対し同一方向からの割離	第3層	PL49
Q89	割片	(1.8)	(1.0)	0.4	(0.9)	安山岩	打点部折損した割片 主要割離面の割離方向に対し横方向からの割離	第3層	PL49
Q90	割片	(1.7)	(3.2)	1.1	(4.5)	安山岩	打点部折損した割片 背面は主要割離面の割離方向に対し同一方向からの割離	第3層	PL49
Q91	割片	(1.1)	(1.8)	0.5	(0.8)	安山岩	打点部折損した割片 背面は主要割離面の割離方向に対し同一方向からの割離	第3層	PL49

2 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査では、台地縁部から平坦部にかけて弥生時代後期後半の竪穴住居跡15軒、土坑3基が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第102号住居跡(第11図)

位置 調査区北部のF4g1区、標高24.9mの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.11mの隅丸方形で、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は44～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部のやや西寄りに位置している。長径64cm、短径58cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。如床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒 褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。深さは50cm・52cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。

覆土 13層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

8 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

9 褐色 ロームブロック少量

3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

10 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

11 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

5 暗 褐色 ローム粒子微量

12 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

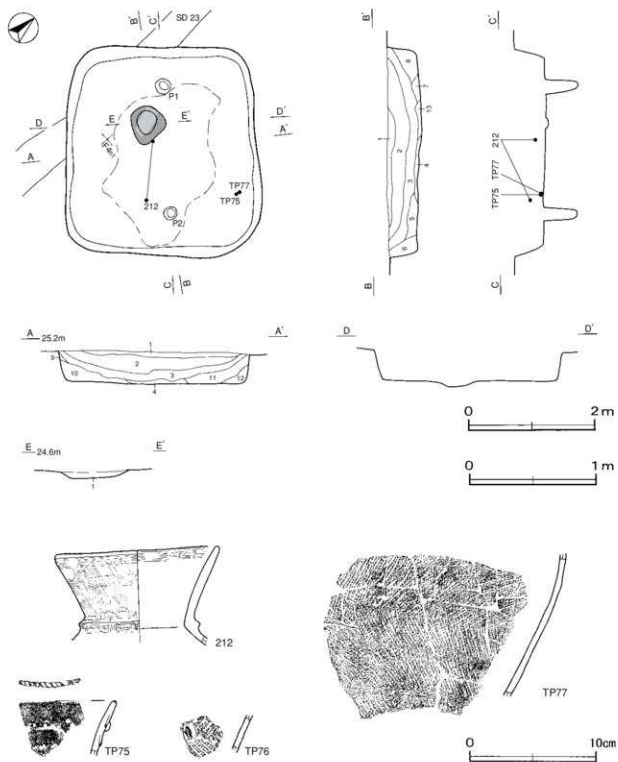
6 褐色 ロームブロック中量

13 黒 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

7 暗 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片19点（広口壺）のほかに、埋没の過程で流れ込んだ土師器片2点も出土している。TP75・TP77は東壁際の床面に近い覆土下層から出土している。212は中央部とP2のやや北西側の覆土下層から出土した土器片がそれぞれ接合したもので、廃絶後の埋没過程の早い段階で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



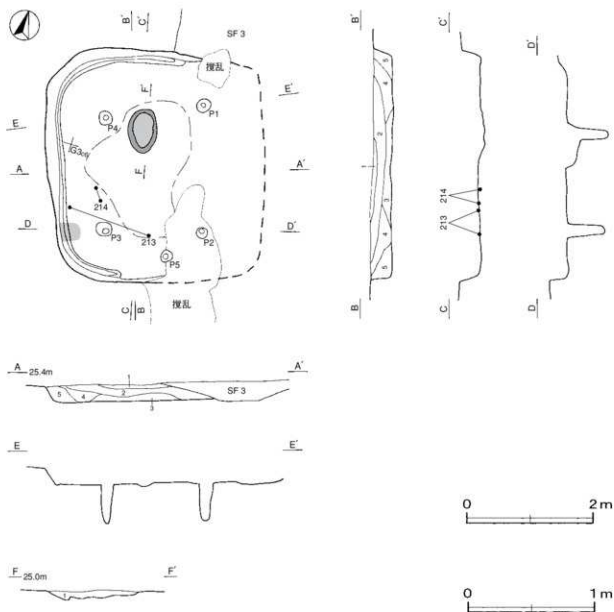
第11図 第102号住居跡・出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
212	土甕器	壺	12.7	(7.8)	-	長石・霞母・赤色 砂子	に高い焼	普通	口辺部外面ハケ目後横ナア 口辺部内面横ナア	覆土下層	5%
TP55	弥生土器	広口甕	-	(4.3)	-	長石・石灰	明黄陶	普通	口唇部に扉体押圧 2段の複合口縁 口辺部外面に棒状 工具による刺突列2列 口辺部中に貼輪 胴部に附加 条一種 (附加2条) の横文	覆土下層	5%
TP6	弥生土器	広口甕	-	(2.9)	-	長石・石灰	明黄陶	普通	胴部に附加条一種 (附加2条) の横文 扉体による刺突 列2条並らした後刺突列間に貼輪 羽状焼成	覆土中	5%
TP77	弥生土器	広口甕	-	(11.3)	-	長石・石灰・雲母	に高い赤焼	普通	胴部に附加条一種 (附加2条) の横文 羽状焼成	覆土下層	5%

第103号住居跡 (第12・13図)

位置 調査区西部のG 3 b 6区、標高25.2mの台地縁部に位置している。



第12図 第103号住居跡実測図

重複関係 第3号道路に掘り込まれている。

規模と形状 全体は確認できなかったが、主軸方向をN-17°-Wとする。長軸3.70m、短軸3.42mの隅丸方形と推定される。壁高は28-33cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が北・西壁側に確認されている。南西コーナー寄りの壁際で焼土塊が確認されている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径70cm、短径45cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 5カ所。P1-P4は深さ60-67cmで、主柱穴である。P5は深さ21cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

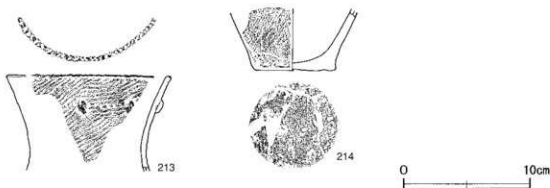
覆土 5層に分層される。第3層は堆積状況から住居廃絶後、人為的に埋め戻されたと考えられるが、その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
 4 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
 5 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片37点（広口壺）が出土している。213は西壁際と南西部の床面、214は西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は出土していないが、焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



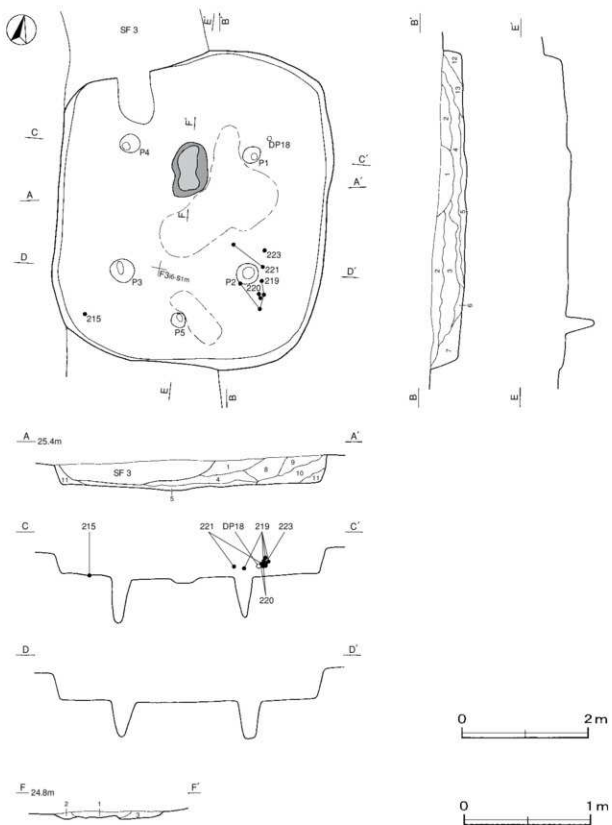
第13図 第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
213	弥生土器	広口壺	[12.6]	(7.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部に縦体押圧 口辺部に附加条一種（附加2条）の縄文縄文。器体による刺突列1列。刺突列上に點線。胴部上段に無文帯	床面	5%
214	弥生土器	広口壺	-	(4.9)	6.3	長石・石英・雲母	に赤・黄橙	普通	胴部に附加条一種（附加2条）の縄文。底部ナデ	床面	5%

第104号住居跡 (第14～17図)

位置 調査区西部のF 3h6区、標高25.1mの台地縁辺部に位置している。



第14図 第104住居跡実測図

重複関係 第3号道路に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.08m、短軸4.26mの隅丸長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は30～48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉の南東側及びP5の北東側が踏み固められている。

炉 中央部や北寄りに位置している。長径85cm、短径55cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 | 3 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5カ所。P1～P4は深さ58～74cmで、支柱穴である。P5は深さ44cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

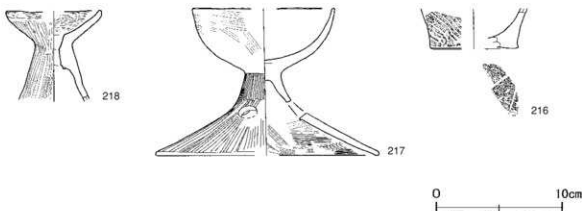
覆土 13層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

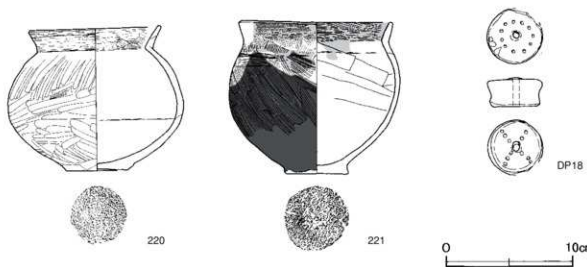
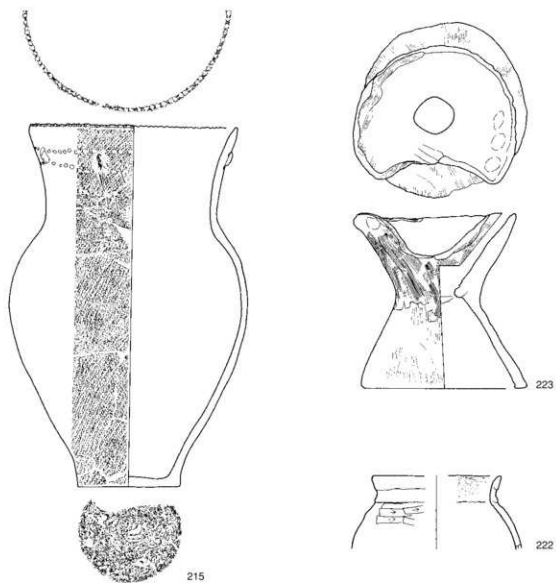
- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 にぶい褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片69点（広口壺）、土製品1点（紡錘車）、礫1点のほかに、埋没の過程で投棄された土師器片101点も出土している。215は南西コーナー部の床面から横位で出土している。また、219～221・223を含む土師器片の大部分は南東側の覆土中層からまとまって出土しており、住居廃絶後の窪地にまとまって投棄されたものである。

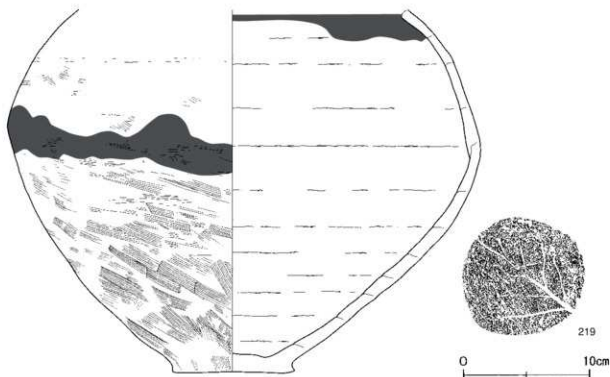
所見 土器の出土状況から、弥生土器と土師器との共存関係とは考えにくく、時間的な断絶が想定される。また、まとまって投棄された土師器の推定個体数は9点（器台1、炉器台1、高坏1、壺1、甕2、小形甕3）であり、出土状況から南東コーナー部から投棄されたと考えられる。時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第15図 第104号住居跡出土遺物実測図(1)



第16図 第104号住居跡出土遺物実測図(2)



第17図 第104号住居跡出土遺物実測図(3)

第104号住居跡出土遺物観察表 (第15～17図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考	
215	弥生土器	広口壺	16.3	25.8	8.0	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇部に草体押圧 口辺部及び腹部に附加糸一種(附加2条)の織文 口辺部に唇体による刺突列を2条並らした体刺突列間に粘着 腹部と胴部を分指す無文帯 胴部に附加糸一種(附加2条)の織文 底部調整痕	床面	90%	PL30
216	弥生土器	広口壺	-	13.2	[7.0]	石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	胴部外面に附加糸一種(附加2条)の織文 底部木葉痕	覆土中	5%	
217	土師器	高坏	[11.2]	11.7	[17.4]	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	普通	坏部外面ハケ目後ナテ 内面筆刷調整不明 胴部外面ハケ目後ヘラ磨き 内面ハケ目後ナテ 3型	覆土中	60%	
218	土師器	器台	[7.5]	7.2	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 器受部内・外面ハケ目 胴部外面ハケ目後ヘラ磨き 内面ナテ	覆土中	20%	
219	土師器	甕	-	(28.8)	9.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面ハケ目後ナテ 内面ナテ 輪轆痕 底部木葉痕	覆土中層	60% 2次配置	PL45
220	土師器	小形甕	10.2	11.5	4.9	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部外面横ナテ 内面ハケ目 体部外面ハケ目後ヘラ磨き 内面ナテ 輪轆痕	覆土中層	85%	PL42
221	土師器	小形甕	11.8	12.1	5.1	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後横ナテ 体部外面ハケ目内面ヘラナテ 輪轆痕	覆土中層	75%	PL42
222	土師器	小形甕	[10.1]	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口辺部外面輪轆痕 内面横ナテ 体部外面ヘラ磨き 内面ナテ	覆土中	5%	
223	土師器	甲殻台	12.2	14.0	13.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面上部ハケ目 下部ハケ目後ナテ 内面ヘラナテ 器底汗痕 輪轆痕	覆土中層	95%	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	粘土板	4.4	0.75	2.3	(83.1)	土(長石・石英・雲母)	ナテ 上面に棒状工具による円形痕の刺突 下面に同工具による放射状の刺突 一方向からの穿孔	覆土中層	

第105号住居跡 (第18・19図)

位置 調査区西部のF 3f6f区、標高24.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.58m、短軸2.90mの隅丸長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は42～58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。

炉 中央部のやや北寄りに位置している。長径100cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 濃い赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 2 暗赤灰色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
|-------------------------------|------------------------|

ピット 6カ所。P1～P4は深さ40～71cmで、支柱穴である。P5は深さ35cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

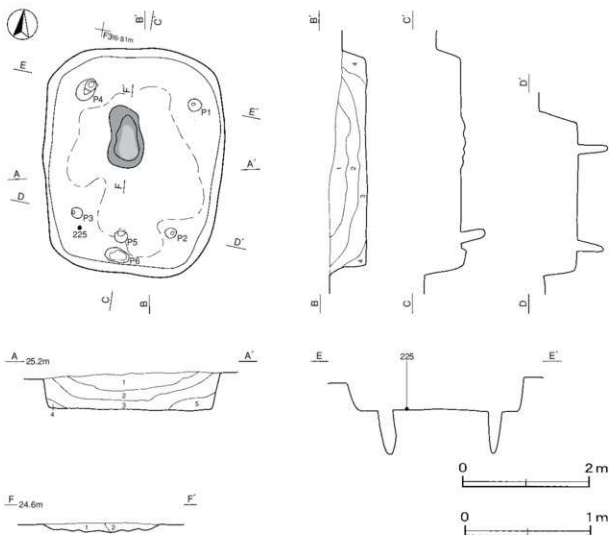
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

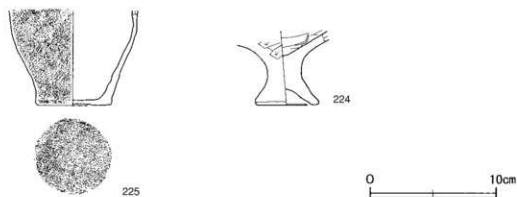
- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 弥生土器片18点（高坏1、広口壺17）のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点、混入した土師器片8点も出土している。224は炉の覆土中、225はP3付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第18図 第105号住居跡実測図



第19図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
224	弥生土器	高坏	-	(5.9)	4.7	長石・石英	明黄褐色	普通	坏部外面へう張り 内面ヘラナデ 脚部内・外面ナデ	9号内	40%
225	弥生土器	広口甕	-	(7.5)	5.8	長石・石英・雲母	黄	普通	胴部に附加染一種 (附加2条) の縄文 底部調整痕	床面	30%

第106号住居跡 (第20～23図)

位置 調査区北部のF3e3区、標高24.5mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.66m、短軸3.05mの隅丸長方形で、主軸方向はN-44°-Wである。壁高は32～54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部から南東壁際にわたって広く踏み固められている。

炉 中央部やや北西寄りに位置している。長径74cm、短径58cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット 5カ所。P1～P4は深さ51～60cmで、主柱穴である。P5は深さ9cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

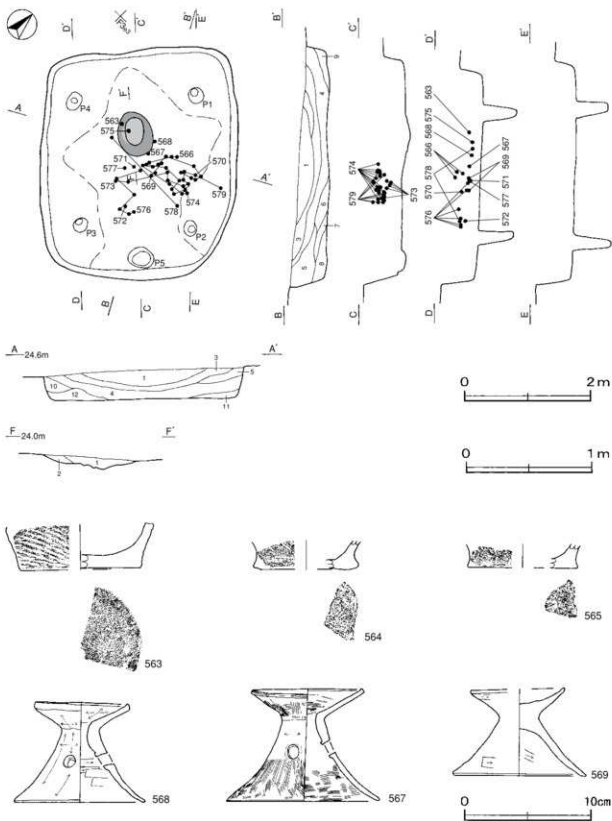
土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量 7 暗褐色 ロームブロック微量
 2 黒褐色 ロームブロック微量 8 褐色 ロームブロック微量
 3 極暗褐色 ロームブロック少量 9 褐色 ローム粒子中量
 4 暗褐色 ローム粒子少量 10 褐色 ロームブロック中量
 5 暗褐色 ロームブロック少量 11 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 12 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

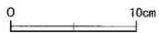
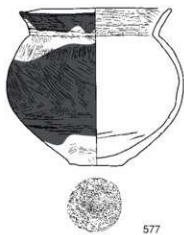
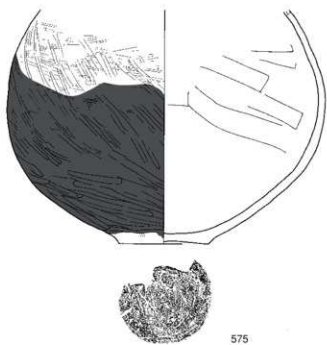
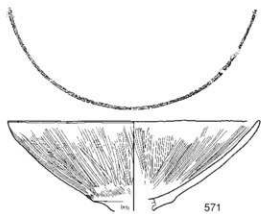
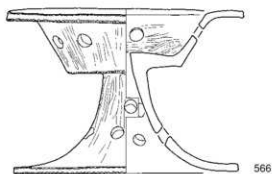
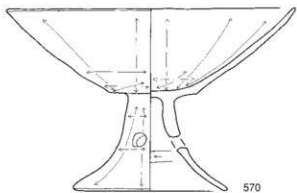
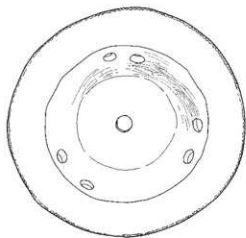
遺物出土状況 弥生土器片25点(壺)のほかに、投棄された土師器片16点も出土している。遺物の大部分が中央部の覆土中層から下層で出土しており、弥生土器の大部分は土師器の下から出土している。

所見 土師器は、覆土第4層が自然に堆積する中で廃棄されたと考えられ、平面的な出土位置とレベルから見ると東コーナー部側からの投棄が想定される。まとまって投棄された土師器の推定個体数は16点(装飾器台1、器台3、高坏5、甕4、小形甕1、台付甕2)である。当該時期を明確に判断できる遺物は少ないが、遺物の出土状況が浅い谷を挟んで北側に位置する第12号住居跡(弥生時代後期後半)と類似している。時期は、出土

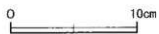
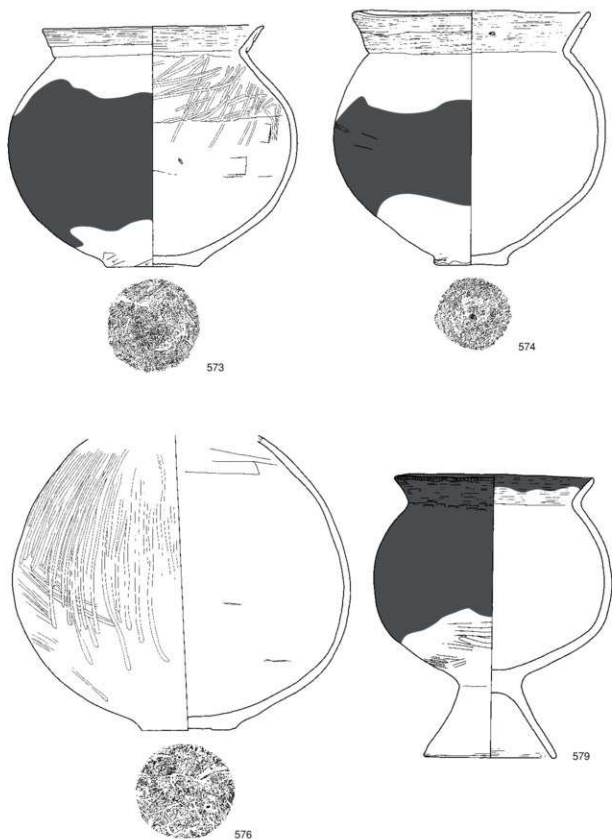
土器や遺構の形状や規模が付近の弥生時代後期後半の遺構と類似していることから弥生時代後期後半と考えられる。



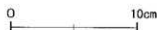
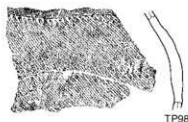
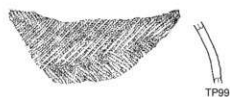
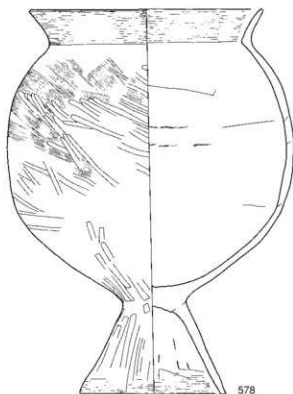
第20図 第106号住居跡・出土遺物実測図



第21図 第106号住居跡出土遺物実測図(1)



第22図 第106号住居跡出土遺物実測図(2)



第23図 第106号住居跡出土遺物実測図(3)

第106号住居跡出土遺物観察表 (第20~23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
563	弥生土器	壺	-	(3.5)	(9.3)	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文 底部調整痕	覆土下層	5%
564	弥生土器	壺	-	(2.3)	(8.4)	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文 底部調整痕	覆土中	5%
565	弥生土器	壺	-	(1.9)	(8.8)	長石・石英	にぶい黄緑	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文 底部調整痕	覆土中	5%
566	土師器	黄銅器台	18.5	13.1	17.8	雲母		普通	器受部及び脚部部に棒状工具による押圧 器受部内・外面及び脚部外面へう磨き 器受部に2対3か所の器脚 器脚上に3窓 下位に6窓	覆土中層	95% PL.39
567	土師器	器台	8.7	8.9	12.2	長石・石英	明赤褐	普通	器受部内・外面及び脚部外面ハケ目調整後へう磨き 脚部内面ハケ目調整後ナデ 3窓	覆土下層	95% PL.39
568	土師器	器台	7.3	8.0	10.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	器受部内・外面及び脚部外面丁寧なへう磨き 脚部内面へう磨り後へうナデ 3窓	覆土下層	90% PL.39
569	土師器	器台	[7.3]	7.0	10.3	長石・石英・赤色粒子		普通	器受部外面及び脚部内・外面へう磨り後ナデ	覆土中層 ～下層	70%
570	土師器	高坏	22.6	14.6	12.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部内・外面及び脚部外面丁寧なへう磨き 脚部内面へう磨り後ナデ 3窓	覆土下層	95% PL.41
571	土師器	高坏	19.8	(7.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部にハケ目 坏部外面ハケ目調整後へう磨き 内面へう磨き	覆土中層	60% PL.40
572	土師器	高坏	-	(5.8)	9.4	長石・石英	にぶい黄緑	普通	脚部外面厚減により一部のへう磨き以外調整不明 内面へう磨き 3窓	覆土中層	45%
573	土師器	甕	17.3	19.0	7.2	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面及び脚部ナデ 体部外面へう磨り後ナデ 内面へう磨き	覆土中層 ～下層	70% PL.43
574	土師器	甕	18.7	20.3	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口辺部内・外面及び脚部ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ 輪轆痕	覆土中層	75% PL.43
575	土師器	甕	-	(18.6)	7.1	長石・石英	にぶい黄緑	普通	体部外面ハケ目調整後へう磨き 内面ナデ 底部二次加工	覆土下層	60%
576	土師器	甕	-	(23.5)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面へう磨き 内面ナデ 輪轆痕	覆土中層 ～下層	45%
577	土師器	小型甕	11.7	12.5	4.3	長石・石英・雲母		普通	口辺部ハケ目調整後長横ナデ 体部外面上縁ハケ目調整 下位ハケ目調整後ナデ 輪轆痕	覆土下層	100% PL.42
578	土師器	台付甕	18.2	30.5	11.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面及び脚部ナデ 体部及び脚部外面ハケ目調整後へうナデ 体部及び脚部内面へうナデ 輪轆痕	覆土中層 ～下層	90% PL.46
579	土師器	台付甕	15.6	22.5	10.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部に棒状工具による押圧 口辺部内・外面及び脚部部ナデ 口辺部下層及び体部外面へうナデ 内面及び脚部内・外面ナデ	覆土中層	95% PL.46

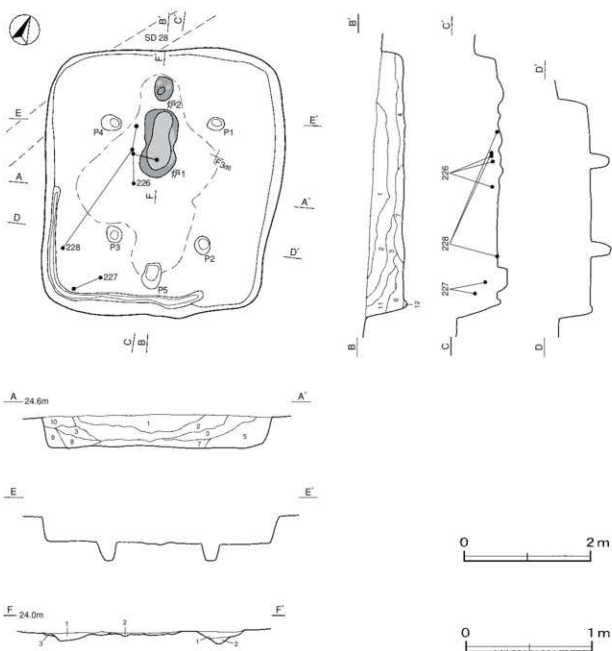
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP98	弥生土器	壺	-	(7.9)	-	長石・石英	にひ・橙	普通	胴部にRLの単筋縄文	覆土中層	5%
TP99	弥生土器	壺	-	(4.9)	-	長石・石英	にひ・黄橙	普通	胴部に附加糸一種(附加2条の縄文)羽状構成	覆土中層	5%

第107号住居跡 (第24・25図)

位置 調査区西部のF 3 d 5区、標高24.5mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第28号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.22m、短軸3.78mの隅丸長方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は34~67cmで、外



第24図 第107号住居跡実測図

傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は南西コーナー部に確認されている。

炉 2か所。炉1は、中央部のやや北寄りに位置している。長径108cm、短径46cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は、炉1のさらに北側に位置している。長径40cm、短径28cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化しているが部分的であり、規模も炉1の半分以下であることから、炉1が主に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説

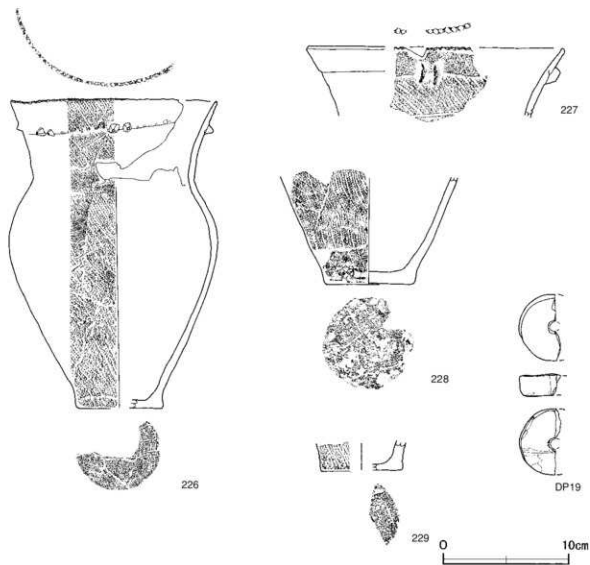
- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

炉2土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～31cmで、支柱穴である。P5は深さ18cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。



第25図 第107号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1	黒	色	ローム粒子・焼土粒子微量	7	褐	色	ロームブロック中量
2	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	8	褐色	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9	褐色	色	ロームブロック少量
4	暗	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	10	黒	褐色	ロームブロック少量
5	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子微量
6	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	12	暗	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片66点（広口壺）、土製品1点（紡錘車）のほかに、混入した土師器片18点も出土している。226は中央部の覆土最下層、227は南西コーナー付近の覆土中層、228は西壁際の床面及び炉の西側からそれぞれ出土している。DP19は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第107号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
226	弥生土器	広口壺	[16.3]	24.0	6.7	長石・石英・白色粒子	にぶ・黄褐色	普通	口唇部に厚体押圧 複合口縁 口辺部から底部に附加条一種（附加2条）の縄文（口辺部下部に厚体押圧対称の點綴 胴部附加条一種（附加2条）の縄文 底部調整痕	覆土最下層	70% P.L.30
227	弥生土器	広口壺	[20.1]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶ・黄褐色	普通	口唇部に棒状工具による押圧 複合口縁 口辺部無文 下部に點綴 底部上位に附加条一種（附加2条）の縄文 底部中央に2条の流線	覆土中層	5%
228	弥生土器	広口壺	-	(8.5)	7.0	長石・石英・雲母・白色粒子	明黄褐色	普通	胴部に附加条一種（附加2条）の縄文 底部調整痕	床面	15%
229	弥生土器	広口壺	-	(2.3)	(6.4)	長石・石英・雲母	にぶ・黄褐色	普通	胴部に附加条一種（附加2条）の縄文 底部木炭痕	覆土中	5%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP19	紡錘車	[5.3]	[0.8]	1.8	(83.1)	土（長石・石英・雲母）	ナゲ 一方からの穿孔	覆土中	

第108号住居跡（第26・27図）

位置 調査区北部のF3d8区、標高24.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.63m、短軸4.25mの隅丸方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は32~54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北壁寄りに焼土塊が確認されている。

炉 中央部のやや北寄りに位置している。長径98cm、短径46cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗	褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	極	赤褐色	色	焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
2	暗	赤褐色	色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量					

ピット 5カ所。P1~P4は深さ62~70cmで、主柱穴である。P5は深さ36cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層される。第4層は、堆積状況から住居廃絶後、人為的に投げ込まれたと考えられるが、その他の層は、レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

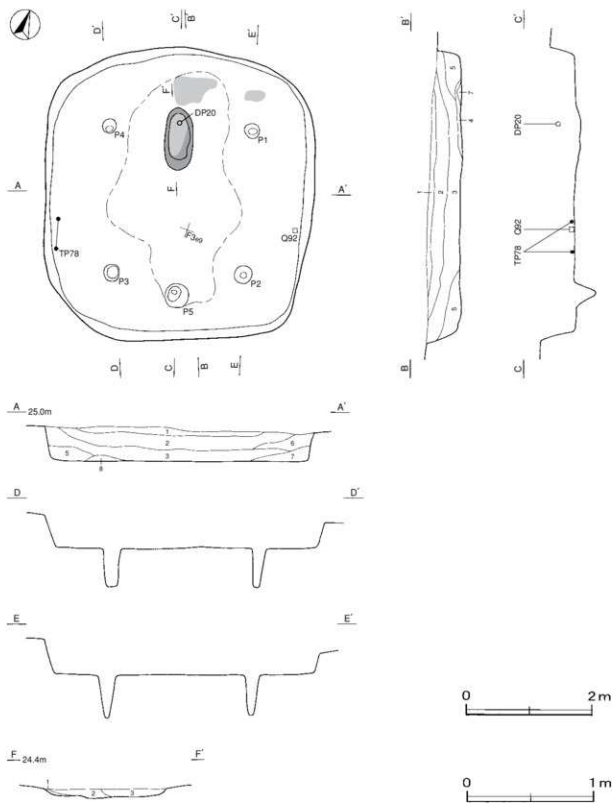
土層解説

1	黒	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗	褐色	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
3	褐色	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		
4	暗	褐色	色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量	8	暗	褐色	色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量

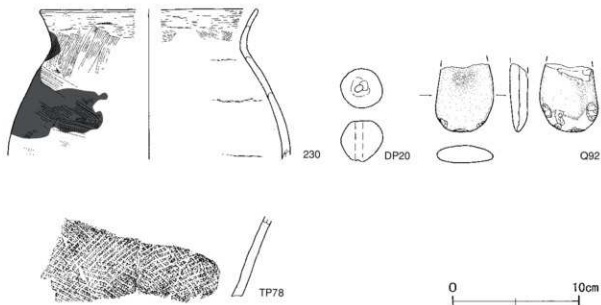
遺物出土状況 弥生土器片13点（広口壺）、土製品1点（球状土錘）、石器1点（磨製石斧）のほかに、混入し

た土師器片38点も出土している。TP78は西壁際の床面から、Q92は東壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は確認されていないが、焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第26図 第108号住居跡出土遺物実測図



第27図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表 (第27図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
230	土師器	甕	[17.2]	(11.9)	-	石灰・雲母・赤色 粒子	にみ調整	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後横ナデ・体部外面ハケ目 内面ナデ 輪痕痕	甕土中	5%
TP78	弥生土器	広口壺	-	(6.1)	-	長石・石英	澄	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の横文 羽状條成	底面	5%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	球状土師	3.4	0.6	3.2	(29.2)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向からの穿孔	甕土中層	

番号	器種	長さ	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q92	磨製石斧	(5.4)	4.6	(1.5)	(204.8)	砂岩	定角式 両刃 両面に調整面	底面	

第109号住居跡 (第28・29図)

位置 調査区北部のF 3a9区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号炭焼遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.89m、短軸3.46mの隅丸長方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は26~31cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径92cm、短径52cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子 少量
2 赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子 微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ53~58cmで、支柱穴である。P 5は深さ24cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

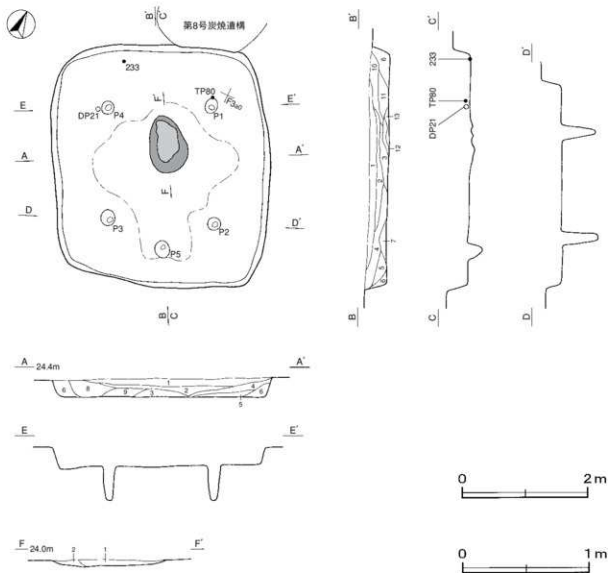
覆土 13層に分層される。第1・2層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが、他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

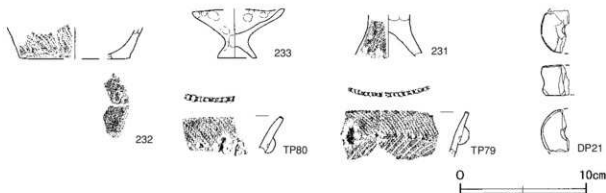
1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	10	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子微量	12	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
6	褐色	ロームブロック少量	13	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 弥生土器片57点（高坏1，広口壺56），ミニチュア土器1点（高坏），土製品2点（球状土鍾，紡錘車）のほかに、混入した土師器片29点も出土している。233は北壁際，TP80はP1付近の床面からそれぞれ出土し，DP21はP4付近の覆土下層から出土している。土師器片は第2層よりも上層から出土しており，住居廃絶後の窪地に流れ込んだものである。

所見 時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第28図 第109号住居跡実測図



第29図 第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
220	弥生土器	高坏	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加糸一種(附加2条)の縄文 内面ナデ	覆土中	10%
222	弥生土器	広口壺	-	(2.5)	[8.7]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	胴部に附加糸一種(附加2条)の縄文 底部調整痕	覆土中	5%
223	弥生土器	ミニチュア	[7.3]	3.9	3.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	全面ナデ 筋面圧痕	床面	60% 高坏
TP79	弥生土器	広口壺	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に棒状工具による押圧 複合口縁(口辺部に互しの単部縄文(口辺部下縁に棒状工具による刺突列1条部とした後捻巻 胴部に附加糸一種(附加2条)の縄文)	覆土中	5%
TP80	弥生土器	広口壺	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部棒状工具による押圧(口辺部に附加糸一種(附加2条)の縄文(口辺部下縁に棒状工具による刺突列1条を添らした後捻巻)	床面	5%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	粘弾率	-	-	2.4	18.9	土(長石・石英)	丁寧なナデ 一方からの穿孔	覆土下層	

第123号住居跡 (第30図)

位置 調査区北西部のD3h4区、標高23.5mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 一辺が3.65m前後の隅丸方形で、主軸方向はN-32°-Eである。壁高は25~42cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径81cm、短径60cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|------------------------|
| 1 灰 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ10~17cmで、主柱穴である。P5は深さ22cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

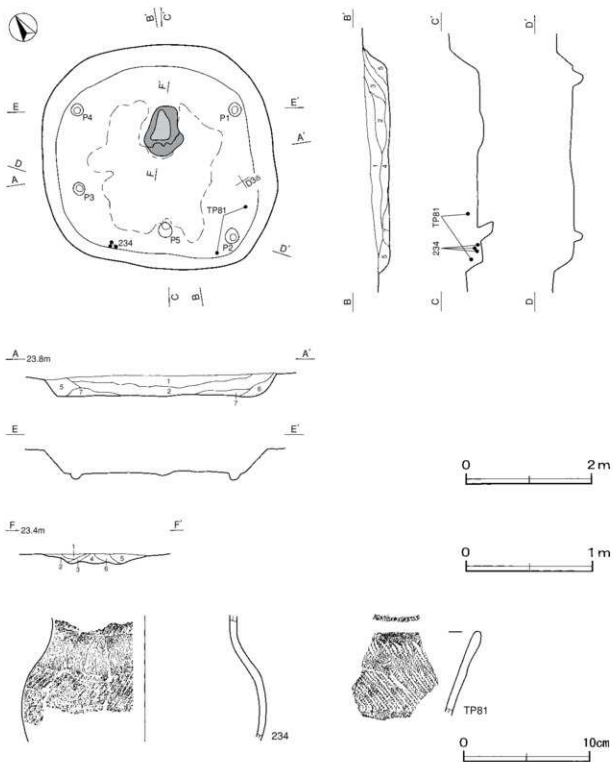
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|-------|------------------|
| 1 極 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片54点（広口壺53、甕形1）のほかに、流れ込んだ縄文土器片3点、混入した土師器片11点も出土している。234は南西コーナー付近の覆土下層、TP81は南東コーナー付近の中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第30図 第123号住居跡・出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表 (第30回)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
ZM	弥生土器	広口壺	-	10.0	-	長石・石英・雲母	にじみ黄褐色	普通	胴部に附加糸一種(附加2条)の縄文 胴部と腹部を分割する無文帯 胴部に附加糸一種(附加2条)の縄文	覆土下層	10%
TP8	弥生土器	広口壺	-	6.6	-	石英・赤色粒子・白色粒子	にじみ黄褐色	普通	口唇部に単体押圧 口辺部に輪繫ナデ 口辺部にR.Lの単筋縄文 胴部無文帯	覆土中層	5%

第124号住居跡 (第31・32回)

位置 調査区北西部のD3f2区、標高23.6mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.65mの隅丸方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は18~27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

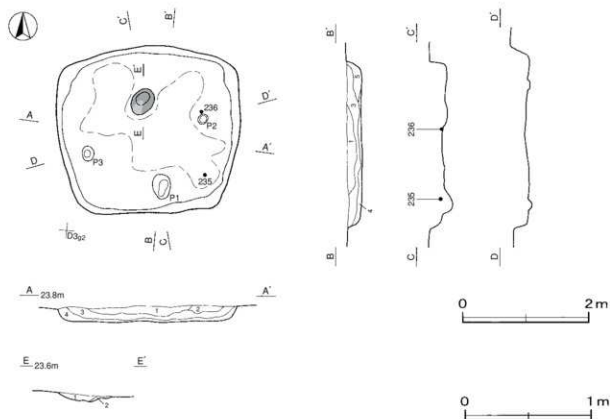
炉 中央部やや北寄りに位置している。長径46cm、短径33cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 3カ所。P1は深さ15cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ6cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



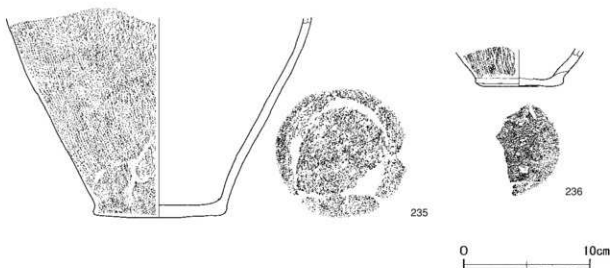
第31回 第124号住居跡実測図

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 弥生土器片11点（広口壺）が出土している。235は南東コーナー付近の覆土下層からまともに出て出土した土器片が接合したものであり、埋没過程の早い段階で投棄されたと考えられる。236は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第32図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
235	弥生土器	広口壺	-	(15.9)	10.5	長石・石英・雲母 にふい骨	普通	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の横文 底部砕目肌	覆土下層	30%
236	弥生土器	広口壺	-	(3.0)	(7.0)	長石・石英・雲母	普通	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の横文 底部調整肌	床面	5%

第125号住居跡（第33・34図）

位置 調査区北西部のD2f0区、標高23.4mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸4.84m、短軸4.15mの隅丸長方形で、主軸方向はN-50°-Wである。壁高は39～63cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が広く踏み固められている。北西側に焼土塊が2か所確認されている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径106cm、短径33cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

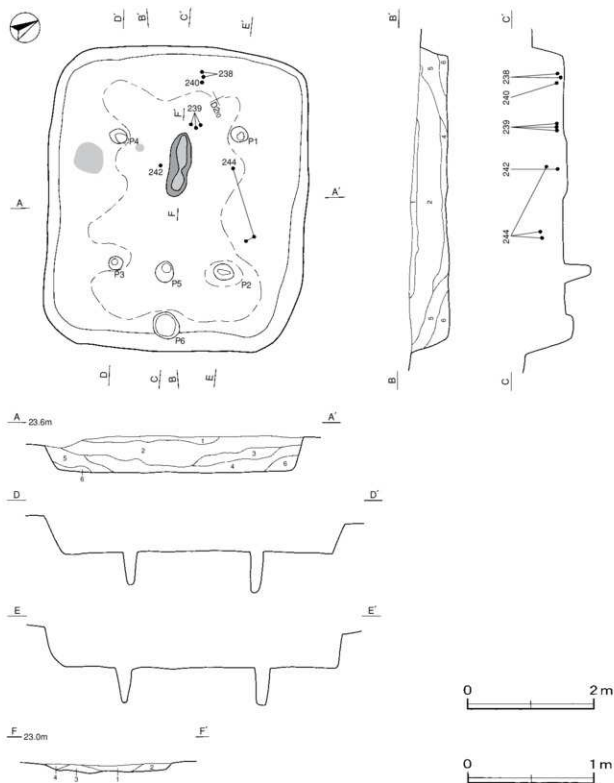
伊土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-------------------------|---|-------|--------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 3 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 | にふい褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ56～65cmで、主柱穴である。P5は深さ41cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

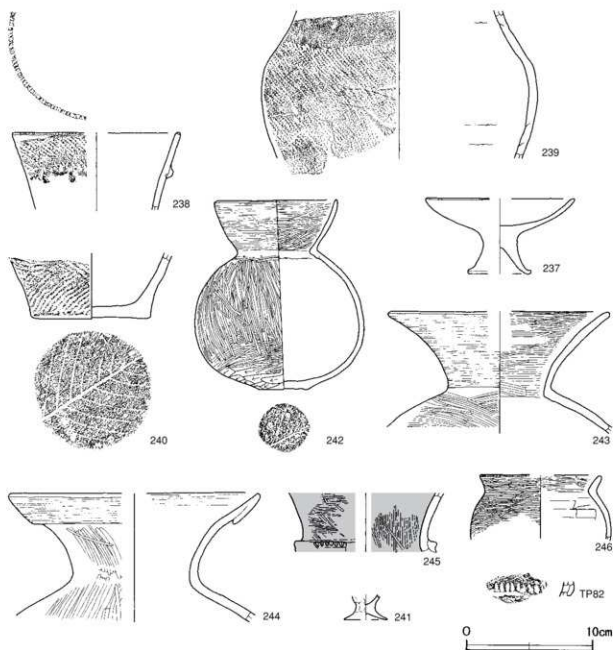
土層解説			
1 黒褐色	ローム粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量



第33図 第125号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片107点（高坏2，広口壺105），ミニチュア土器1点（高坏）のほかに，流れ込んだ縄文土器片11点，投棄された土師器片100点も出土している。238～240は北西壁際の覆土最下層から出土している。242は完形で，中央部の覆土中層下位から出土している。他の土師器片も覆土中層から上層にかけて出土しており，埋没過程で窪地に投棄されたものと考えられる。

所見 炭化材は出土していないが，焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。土器の出土状況から，弥生土器と土師器との共存関係とは考えにくく，時間的な断絶が想定されることは第104号住居跡と同様である。しかし，土師器の出土位置が低いことなどから時間的な断絶は第104号住居跡ほど開いていない。また，まとめて投棄された土師器の推定個体数は11点（埴1，壺5，甕1，小形甕4）で，出土状況から住居廃絶後の早い時期に投棄されたと考えられる。時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



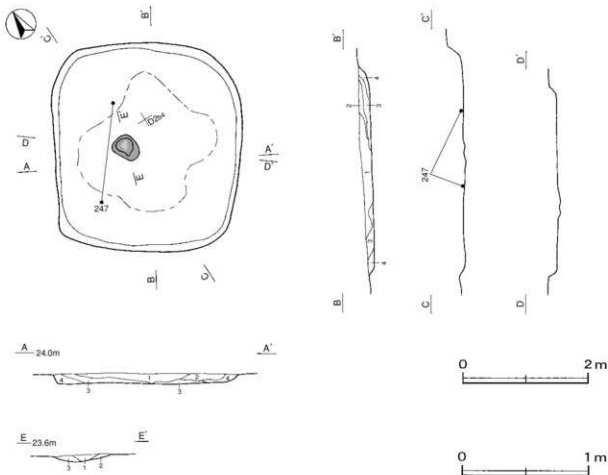
第34図 第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
237	弥生土器	高坏	[11.8]	6.0	[4.9]	長石・石英・赤色 粒子	灰白	普通	内・外面華威調整不明	覆土中	15%
238	弥生土器	広口甕	[13.3]	16.1	-	長石・石英・雲母	黒灰	普通	口唇部棒状工具による押圧 複合口縁 口辺部に附加条 一種(附加2条)の縄文 胴部上部に棒状工具による刺突 跡1条を呈した後封の胎痕 胴部無文帯	覆土 最下層	5%
239	弥生土器	広口甕	-	(11.7)	-	石英・白色粒子	黒陶	普通	胴部と胴部を分帯する無文帯 胴部に附加条一種(附加2 条)の縄文 輪模痕	覆土 最下層	10%
240	弥生土器	広口甕	-	(5.2)	9.4	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	胴部に附加条二種(附加1条)の縄文 羽状溝成 底部木 葉痕	覆土 最下層	10%
241	弥生土器	ミニチュア	-	(2.0)	[3.3]	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	全面ナデ 磨面圧痕	覆土中	45% 高坏σ
242	土師器	埴	9.6	15.1	3.8	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き痕横ナデ 体部外面ヘラ磨き 下層ヘラ磨り 輪模痕 底部木葉痕	覆土中層	100% PL37
243	土師器	甕	[17.2]	(9.6)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口辺部内面ヘラ磨き 外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	覆土中	15% PL42
244	土師器	甕	[19.6]	(10.2)	-	石英・赤色粒子	橙	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面横ナデ 胴部及び体部 外面ヘラ磨き	覆土中層	10%
245	土師器	甕	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子・黒色 粒子	にぶい赤黒	普通	胴部内・外面ヘラ磨き 胴部下端にキザミを有する粘土 粘貼付	覆土中	5%
246	土師器	小形甕	[9.4]	(5.1)	-	長石・雲母	明赤陶	普通	口唇部ヘラ状工具によるキザミ 口辺部内・外面ヘラ磨 き 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中	10%
TP92	土師器	甕	-	(1.2)	-	石英・白色粒子	橙	普通	折り返し口縁 複合口縁 口辺部縦目状の熱赤文 口辺 部下層変化押圧 内・外面赤彩	覆土中層	5%

第126号住居跡 (第35・36図)

位置 調査区北西部のD2b3区。標高23.7mの台地縁辺部に位置している。



第35図 第126号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.29m、短軸3.01mの隅丸方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が広く踏み固められている。

炉 中央部やや西寄りに位置している。長径44cm、短径36cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

3 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量、炭化粒子微量

2 にぶい赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

炉土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

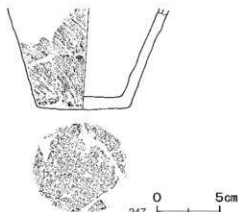
2 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片21点（広口壺）のほかに、流れ込んだ縄文土器片9点、混入した土師器片3点も出土している。247は西壁側と北側の土器片が接合したもので床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第36図 第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
247	弥生土器	広口壺	-	(8.0)	7.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部に附加条一種(附加1条)の縄文 底部調整痕	床面	10%

第127号住居跡（第37図）

位置 調査区北西部のC2h1区、標高24.2mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号石器集中地点を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.96m、短軸2.86mの隅丸方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は24~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや北西寄りに位置している。長径57cm、短径38cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 暗赤褐色 焼土ブロック中量

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

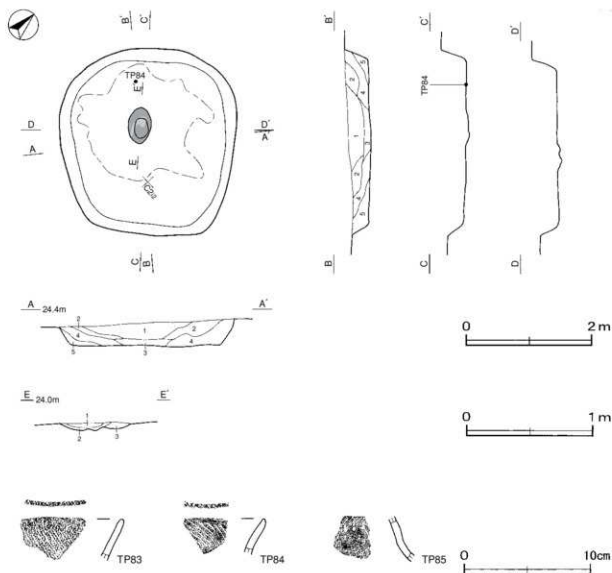
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片22点（広口壺）のほかに、流れ込んだ縄文土器片8点、混入した土師器片1点も出土している。TP84は北壁付近の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第37図 第127号住居跡・出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
TP83	弥生土器	広口壺	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部に厚体押圧 口辺部に附加条一種(附加2条)の縄文	覆土中	5%
TP84	弥生土器	広口壺	-	(2.9)	-	長石・雲母	にぶみ	普通	口唇部に厚体押圧 口辺部に附加条一種(附加2条)の縄文	床面	5%
TP85	弥生土器	広口壺	-	(3.5)	-	石英・長石・雲母	黄	普通	胴部に附加条一種(附加2条)の縄文 口辺部下端に棒状工具による斜列1条 胴部と胴部を分割する無文帯	覆土中	5%

第128号住居跡 (第38・39図)

位置 調査区北西部のC1h9区、標高23.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.23m、短軸3.07mの隅丸方形で、主軸方向はN-51°-Wである。壁高は30~52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径68cm、短径43cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

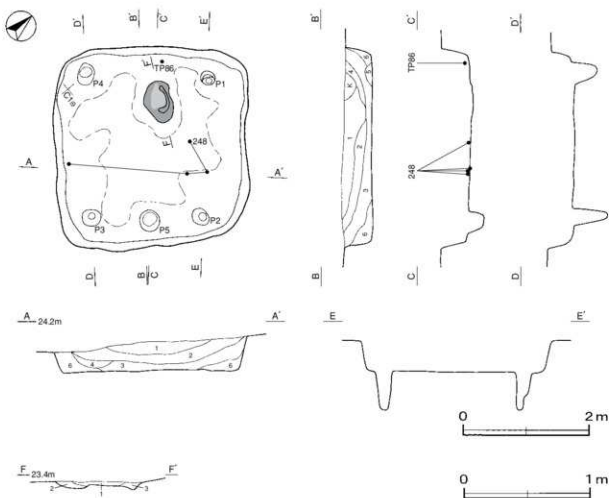
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ38~61cmで、主柱穴である。P5は深さ21cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

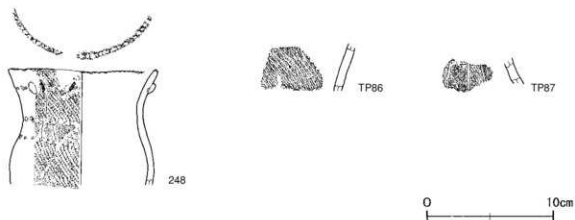
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |



第38図 第128号住居跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片19点（広口壺）のほかに、流れ込んだ縄文土器片18点も出土している。248は南西壁際の床面から横位で出土した頸部と、東側の床面から出土した土器片がそれぞれ接合したものである。TP86は北西壁付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から弥生時代後期後半と考えられる。



第39図 第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考	
248	弥生土器	広口壺	11.5	(9.1)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部に帯状埋込、口辺部及び肩部に附加条一種（附加2条）の縄文（口辺部中央に帯体による刺突列1条を巡らした後柱の粘着、無文部上縁に帯体による刺突列1条、肩部と頸部を分断する無文部）	床面	30%	PL30
TP86	弥生土器	広口壺	-	(3.8)	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	胴部に附加条二種（附加1条）の縄文	覆土下層	5%	
TP87	弥生土器	広口壺	-	(1.9)	-	石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	棒状工具による沈澱により区画 区画内に格子状文	覆土中	5%	

第131号住居跡（第40・41図）

位置 調査区北西部のD2e7区、標高23.4mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸4.11m、短軸3.61mの隅丸長方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は10~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が広く踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径85cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 3 極暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 4か所。P1~P3は深さ45~57cmで、配置と規模から主柱穴と考えられる。P4は深さ29cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

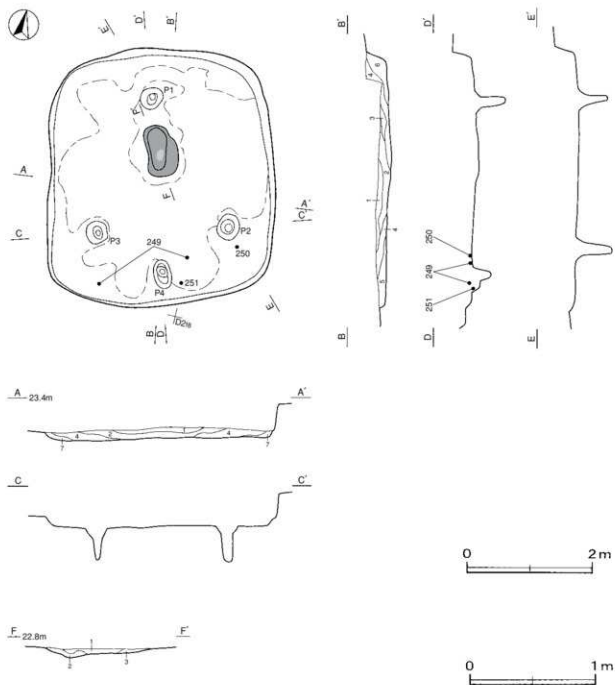
- 1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
 2 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
 4 黒暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 6 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 7 褐 色 ローム粒子少量

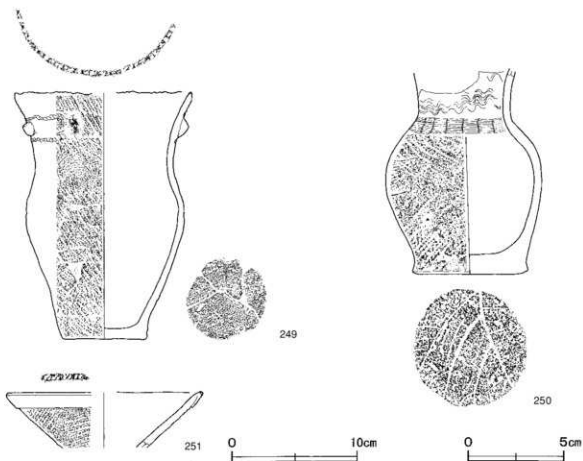
遺物出土状況 弥生土器片38点（広口壺36、片口壺1、甕形1）、ミニチュア土器1点（高坏）が出土している。

249・251は南壁付近、250は南東コーナー付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第40図 第131号住居跡実測図



第41図 第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴		出土位置	備考
									口唇部	器体		
249	弥生土器	広口壺	[14.0]	19.6	6.6	長石・石英・雲母 -赤色粒子	にぶい青	普通	口唇部に草体押花 口近部及び頸部に附加条一種 (附加2条) の縄文 (口近部に器体による新交角を2条並らした後新交角間に影響 頸部と胴部を分別する無文帯 胴部に附加条一種 (附加2条) の縄文 底部砂目痕	床面	50%	
250	弥生土器	広口壺	-	10.9	6.0	長石・石英・雲母 -赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部に櫛歯状工具 (9本) による流状文 同工具により胴部下端に流状文 胴部に附加条一種 (附加2条) の縄文 底部木葉痕	床面	70%	PL.30
251	弥生土器	高坏	[15.6]	(4.4)	-	長石・石英・雲母 -白色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部に草体押花 複合口縁 坏部外面附加条一種 (附加2条) の縄文 内面ナデ	床面	5%	

表2 弥生時代堅穴住居跡一覧表

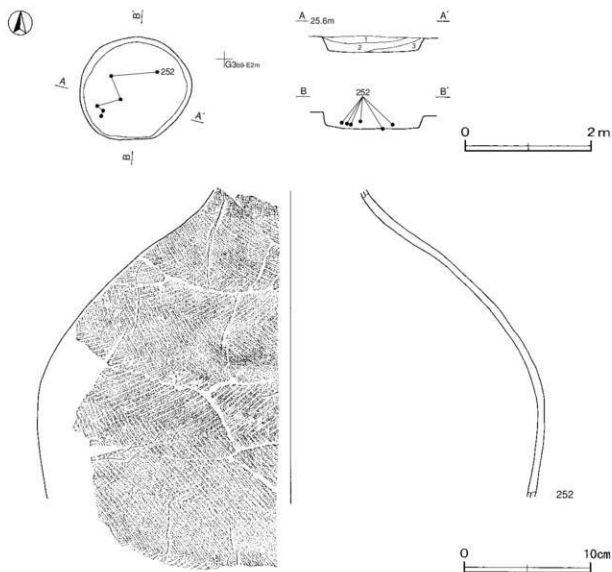
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
								柱穴	土口	ど+					
102	F 4a1	N-47°-W	隅丸方形	3.30×3.11	44-50	平坦	-	2	-	1	自然	弥生土器、土師器	後期後半	本跡→SD23	
103	G 3b6	N-17°-W	隅丸方形	3.70×3.42	28-33	平坦	半周	4	1	-	1	自然	弥生土器	後期後半	本跡→SF 3
104	F 3b6	N-10°-W	隅丸長方形	5.08×4.26	30-48	平坦	-	4	1	-	1	人為	弥生土器、土師器、土製品、礫	後期後半	本跡→SF 3
105	F 3f6	N-3°-W	隅丸長方形	3.58×2.90	42-58	平坦	-	4	1	1	1	自然	弥生土器	後期後半	
106	F 2e3	N-44°-W	隅丸長方形	3.66×3.05	32-54	平坦	-	4	1	-	1	自然	弥生土器、土師器	後期後半	
107	F 3d5	N-20°-W	隅丸長方形	4.22×3.78	34-67	平坦	一部	4	1	-	2	人為	弥生土器、土製品	後期後半	本跡→SD28
108	F 3d8	N-18°-W	隅丸方形	4.63×4.25	32-54	平坦	-	4	1	-	1	自然	弥生土器、土師器、土製品、石器	後期後半	
109	F 2a9	N-28°-W	隅丸長方形	3.89×3.46	26-31	平坦	-	4	1	-	1	人為 自然	弥生土器、ミニチュア土器、土製品	後期後半	本跡→第8号 穴遺構

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 (重複関係 古→新)
								柱穴	土間	土間				
123	D 3b4	N-32°-E	隅丸方形	3.66×3.64	25-42	平坦	—	4	1	—	1	自然 弥生土器	後期後半	
124	D 3f2	N-8°-W	隅丸方形	2.90×2.65	18-27	平坦	—	—	1	2	1	自然 弥生土器	後期後半	
125	D 2f0	N-50°-W	隅丸長方形	4.84×4.15	39-63	平坦	—	4	1	1	1	自然 弥生土器、ミニチュア 土器、土師器	後期後半	
126	D 2b3	N-30°-E	隅丸方形	3.29×3.01	10-20	平坦	—	—	—	—	1	自然 弥生土器	後期後半	
127	C 2b1	N-45°-W	隅丸方形	2.96×2.86	24-40	平坦	—	—	—	—	1	自然 弥生土器	後期後半	第1号石器集 中地点→本跡
128	C 2b9	N-51°-W	隅丸方形	3.23×3.07	30-52	平坦	—	4	1	—	1	自然 弥生土器	後期後半	
131	D 2e7	N-17°-W	隅丸長方形	4.11×3.61	10-37	平坦	—	3	1	—	1	自然 弥生土器、ミニチュア 土器	後期後半	

(2) 土坑

第704号土坑 (第42図)

位置 調査区北部のG 3b9区、標高25.4mの台地平坦部に位置している。



第42図 第704号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径1.77m、短径1.62mの円形で、長径方向はN-0°である。深さは23cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが、含有物や遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片27点（広口壺）が出土している。252は覆土中層から下層にかけて散在した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第704号土坑出土遺物観察表（第42図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
252	弥生土器	広口壺	-	(24.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄	普通	胴部と頸部を分割する無文帯 胴部に附加条一種（附加2条）の横文 三状構成	覆土中層～下層	10%

第712号土坑（第43図）

位置 調査区北部のF3f8区、標高25.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.85m、短径1.68mの楕円形で、長径方向はN-53°-Wである。深さは24cm、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

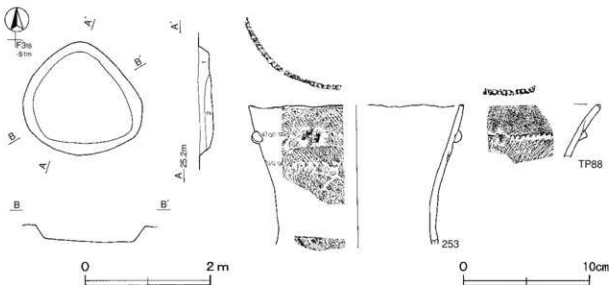
覆土 2層に分層される。遺物の出土状況と不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片4点（広口壺）が出土している。253は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第43図 第712号土坑・出土遺物実測図

第712号土坑出土遺物観察表 (第43図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
253	弥生土器	広口壺	[17.0]	[11.0]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部に草体押圧 2段の複合口縁 (口辺部に附加条一種(附加1条)の縄文 (口辺部中位と下部に唇体による刺突列各1条を巡らした後射の彫痕 肩部と胴部を分断する無文空 胴部に附加条一種(附加1条)の縄文	覆土中	10%
T78	弥生土器	広口壺	-	(4.8)	-	長石・石英	にじみ黄緑	普通	口唇部に草体押圧 複合口縁 (口辺部無文 (口辺部下部に棒状工具による刺突彫痕 肩部に附加条一種(附加2条)	覆土中	5%

第713号土坑 (第44図)

位置 調査区北部のF 3e7区、標高24.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.78m、短径1.16mの不整楕円形で、長径方向はN-44°-Eである。深さは35cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

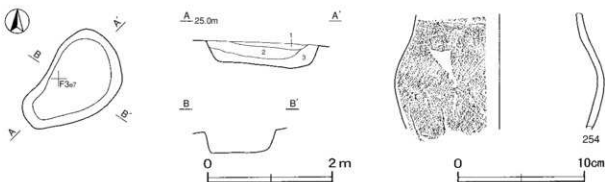
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが、含有物や遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片30点(広口壺)が出土している。254は覆土中から出土した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第44図 第713号土坑・出土遺物実測図

第713号土坑出土遺物観察表 (第44図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様及び手法の特徴	出土位置	備考
254	弥生土器	広口壺	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	肩部に附加条一種(附加2条)の縄文 胴部と胴部を分断する無文空 胴部に附加条一種(附加2条)の縄文	覆土中	10% 胴部外面に刺突

表3 弥生時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
704	G 3b9	N-0°	円形	1.77×1.62	23	外傾	平坦	人為	弥生土器	
712	F 3f8	N-53°-W	楕円形	1.85×1.68	24	緩斜	平坦	人為	弥生土器	
713	F 3e7	N-44°-E	不整楕円形	1.78×1.16	35	外傾	平坦	人為	弥生土器	

3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では、台地縁辺部から平坦部にかけて古墳時代の竪穴住居跡56軒、掘立柱建物跡1棟、土坑2基が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第38号住居跡（第45図）

位置 調査区南部のJ3f0区、標高24.0mほどの台地縁辺部の南緩斜面に位置している。

重複関係 第78号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平を受けているため全体は確認できなかったが、主軸方向をN-8°-Eとする長軸2.96m、短軸2.66mの長方形と推定される。壁高は8~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

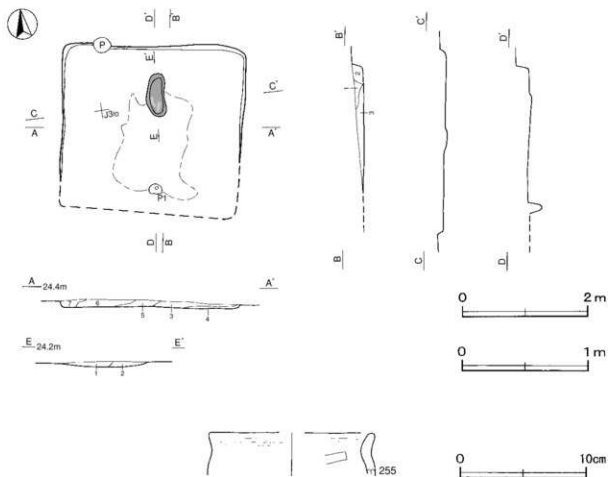
炉 中央部やや北寄りに位置している。長径69cm、短径38cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けてわずかに赤変している。

伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

ピット 1か所。深さは21cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第45図 第38号住居跡・出土遺物実測図

覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	6	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土師器片2点(甕, 小形甕)が出土している。255は覆土中からの出土である。

所見 一辺3mに満たない小形の住居である。規模や台地縁辺部の限られた平坦部に構築されている点などが第39号住居と類似している。時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
255	土師器	甕	[13.0]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 外面掌風調整不明 内面ヘラナデ	覆土中	5%

第39号住居跡 (第46・47図)

位置 調査区南部のJ4d1区、標高25.0mほどの台地縁辺部の南緩斜面に位置している。

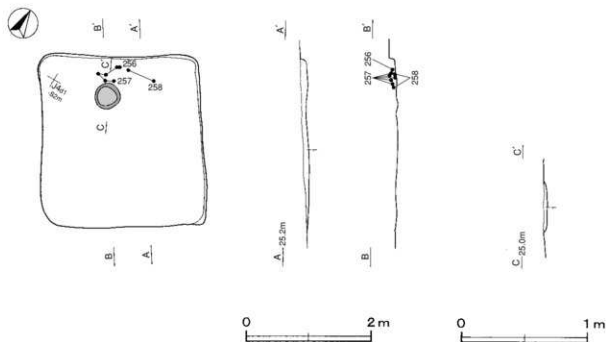
規模と形状 耕作による削平を受けているため、床面が露出した状態で検出された。長軸2.74m、短軸2.54mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、特に踏み固められたところは確認されていない。

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径42cm、短径40cmの円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。如床は火を受けてわずかに赤変している。

炉土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
---	-----	------------------



第46図 第39号住居跡実測図

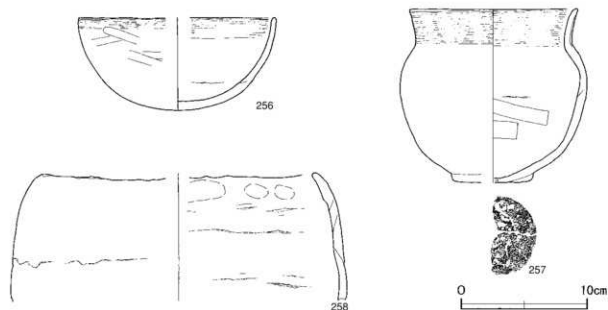
覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片237点(杯1、椀2、壺1、甕218、小形甕14、瓶1)、滑石剥片1点が出土している。256～258は北壁際の覆土下層から出土した土器片がそれぞれ接合したものである。

所見 一辺3mに満たない小形の住居である。規模や台地縁辺部の限られた平坦部に構築されている点などが第38号住居と類似している。時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第47図 第39号出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
256	土師器	椀	[15.5]	7.3	-	長石・石英・雲母 に多い	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ 内面ナデ 輪縁痕	覆土下層	75%
257	土師器	小形甕	13.2	13.8	[6.2]	長石・石英 に多い	褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面穿洞調整不明 内面へ ラナデ 輪縁痕	覆土下層	40%
258	土師器	瓶	[21.4]	[10.1]	-	長石・石英・雲母	黒	普通	内・外面ナデ 器頸正装 輪縁痕	覆土下層	15%

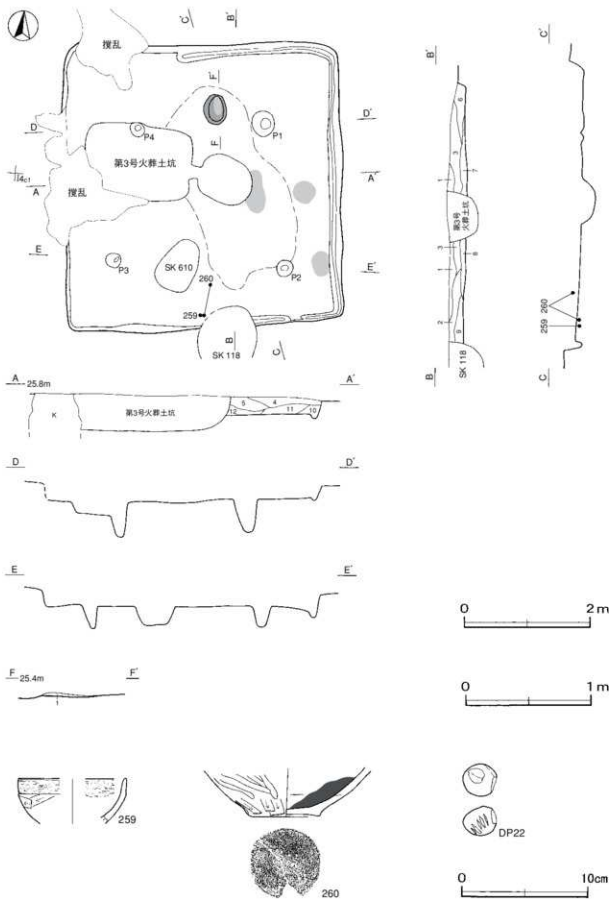
第42号住居跡 (第48図)

位置 調査区南部の14b1区、標高25.6mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第3号火葬土坑、第118・610号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.46m、短軸4.42mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は18～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部から東側にかけて踏み固められている。壁溝は南・東・北壁側に確認されている。円形及び楕円形に広がった焼土塊が確認されている。



第48图 第42号住居跡・出土遺物実測図

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径48cm、短径37cmの楕円形で、床面を2cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット 4か所。P1～P4は深さ30～53cmで、支柱穴である。

覆土 12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 極 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 極 暗 褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 暗 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | | |
| 7 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片33点(環20、椀1、甕11、小形甕1)、不明土製品1点のほかに、混入した陶器片1点も出土している。259は南壁際の床面から出土している。260は南壁際の床面及び覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見 炭化材は出土していないが、焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表(第48図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
259	土師器	環	[8.4]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にみ黄緑	普通	口辺部内・外縁横ナデ	体部外縁へう張り内面ナデ	床面	20%
260	土師器	甕	-	(3.9)	5.5	長石・石英	橙	普通	体部外縁へう張り長へうナデ	輪縁部	覆土下層～床面	10%

番号	器種	最大径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP22	不明	2.5	2.6	2.3	12.9	土(長石・石英)	ナデ	覆土中	

第45号住居跡(第49～51図)

位置 調査区南部のH3j0区、標高25.7mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第459・608・609号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.67m、短軸4.66mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は16～33cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径61cm、短径41cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗 赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径51cm、短径47cmの円形で、深さは43cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 極 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

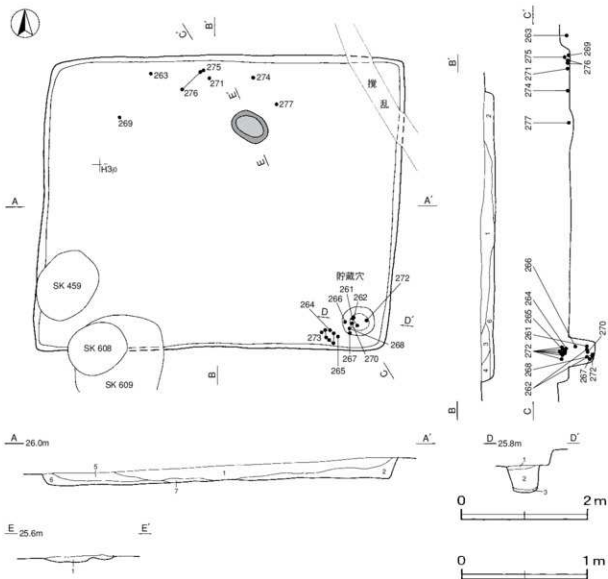
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

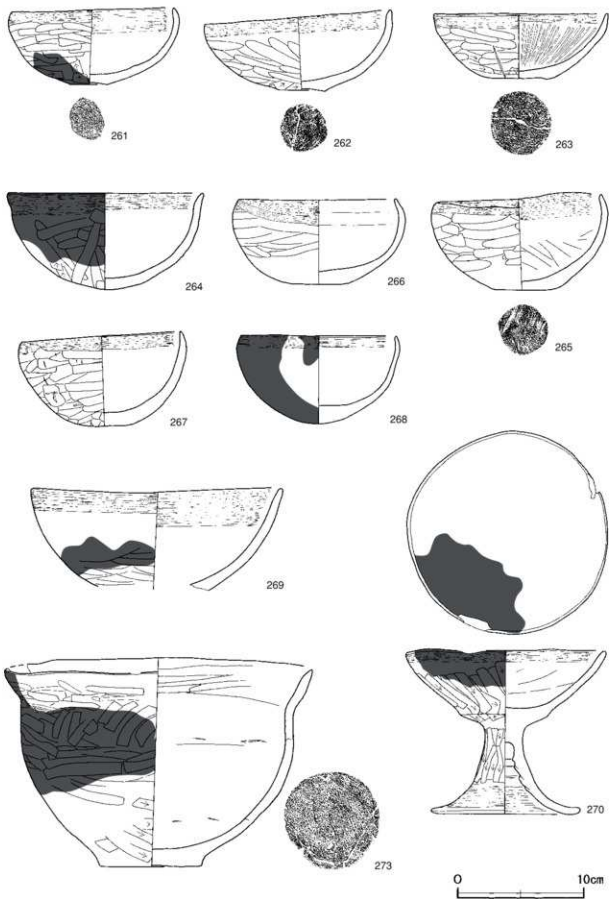
1 黒 色	ローム粒子微量	5 黒 褐色	ローム粒子微量
2 黒 褐色	ロームブロック微量	6 暗 褐色	ロームブロック少量
3 暗 褐色	ローム粒子微量	7 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片97点(坏4, 埴5, 高坏1, 甕1, 甕85, 小形甕1)が出土している。261・262・268・270・272はほぼ完形の状態ですべて貯蔵穴の覆土下層, 266は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。273は貯蔵穴近くの覆土下層から出土した土器片6点が接合したものである。263・269・271・274~277は北壁際の床面に近い覆土最下層からそれぞれ出土している。

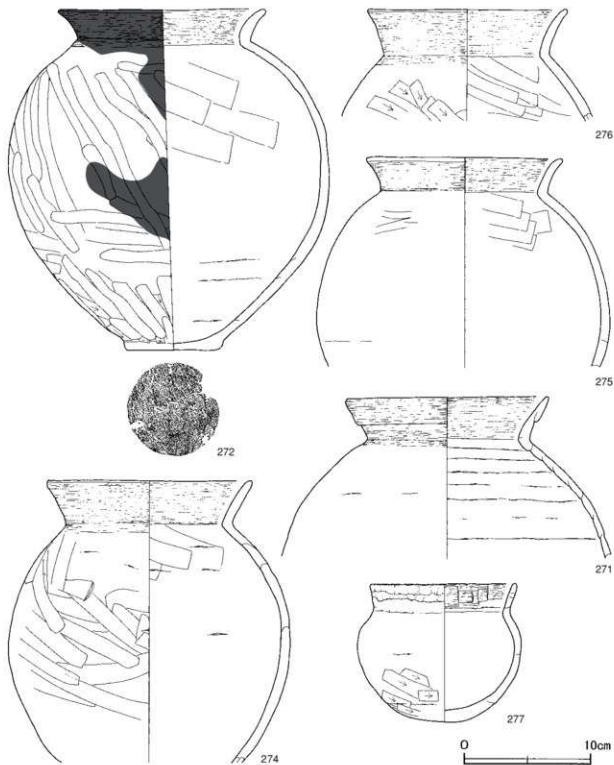
所見 土器は, 南東側貯蔵穴付近及び北側壁の2方向からの投棄が想定され, いずれの土器も壁際の覆土下層や貯蔵穴下層からの出土である。特に, 貯蔵穴からは埴が5個体, 高坏, 甕がそれぞれ1個体ずつ出土しており, 廃絶後間もない時期に投棄されたと考えられる。時期は, 出土土器から古墳時代中期中葉(5世紀中葉)と考えられる。



第49図 第45号住居跡実測図



第50图 第45号住居跡出土遺物実測図(1)



第51図 第45号住居跡出土遺物実測図(2)

第45号住居跡出土遺物観察表 (第50・51図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
262	土器類	椀	12.8	6.0	3.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ張り後へラナデ 内面ナデ	貯蔵穴下層	100%	PL.31
262	土器類	椀	14.6	6.5	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ張り後へラナデ 内面ナデ	貯蔵穴下層	100%	PL.31
262	土器類	椀	13.7	5.2	4.5	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ張り後へラナデ 内面へラ磨き	覆土層下層	80%	PL.31

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
264	土師器	椀	15.3	7.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へう張り後へうラナテ 内面ナテ	床面	95%	PL36
265	土師器	椀	13.1	7.7	4.0	長石・石英	褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へう張り後へうラナテ 内面へうラナテ	覆土下層	100%	PL31
266	土師器	椀	12.4	6.9	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へうラナテ 内面ナテ	行蔵穴上層	100%	PL31
267	土師器	椀	12.6	7.5	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へう張り後へうラナテ 内面ナテ	行蔵穴下層	95%	PL31
268	土師器	椀	12.4	7.0	-	長石・石英	褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部内・外面調整不明	行蔵穴下層	100%	PL31
269	土師器	椀	19.7	8.11	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へう張り後へうラナテ 内面ナテ	覆土最下層	80%	PL31
270	土師器	高坏	15.5	13.0	11.7	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	坏部外面へう張り 内面へうラナテ 外部外面へう張り	覆土最下層	100%	PL40
271	土師器	壺	15.8	(12.8)	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面横ナテ 外部外面調整不明 内面ナテ 輪轡痕	覆土下層	30%	
272	土師器	壺	15.8	27.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へう張り後へうラナテ 内面へうラナテ 輪轡痕	行蔵穴下層	100%	PL44
273	土師器	壺	24.2	16.7	8.0	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口辺部外面へう張り 内面へうラナテ 外部外面へう張り後へうラナテ 内面ナテ 輪轡痕	覆土下層	95%	PL41
274	土師器	壺	16.1	(22.3)	-	長石・石英	褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部内・外面へうラナテ 輪轡痕	覆土最下層	80%	
275	土師器	壺	15.5	(16.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部内・外面へうラナテ 輪轡痕	覆土最下層	40%	
276	土師器	壺	15.7	(8.8)	-	長石・石英	にぶい・褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 外部外面へう張り 内面へうラナテ	覆土最下層	20%	
277	土師器	小型壺	11.5	11.0	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐色	普通	口辺部外面ナテ 内面へうラナテ 外部外面ナテ 下層へう張り 内面ナテ 輪轡痕	覆土最下層	100%	PL43

第46号住居跡 (第52～54図)

位置 調査区南部のH3b0区、標高25.7mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸4.70m、短軸4.58mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は40～60cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が、東壁から2条、西壁から2条、それぞれ主柱穴につながる形状で確認されている。P5を取り囲むようにわずかな高まりが確認されている。また、焼土塊が4か所確認され、炭化材も床一面から確認されている。

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径103cm、短径66cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ68～87cmで、主柱穴である。P5は深さ25cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径78cm、短径59cmの楕円形で、深さは58cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | | |

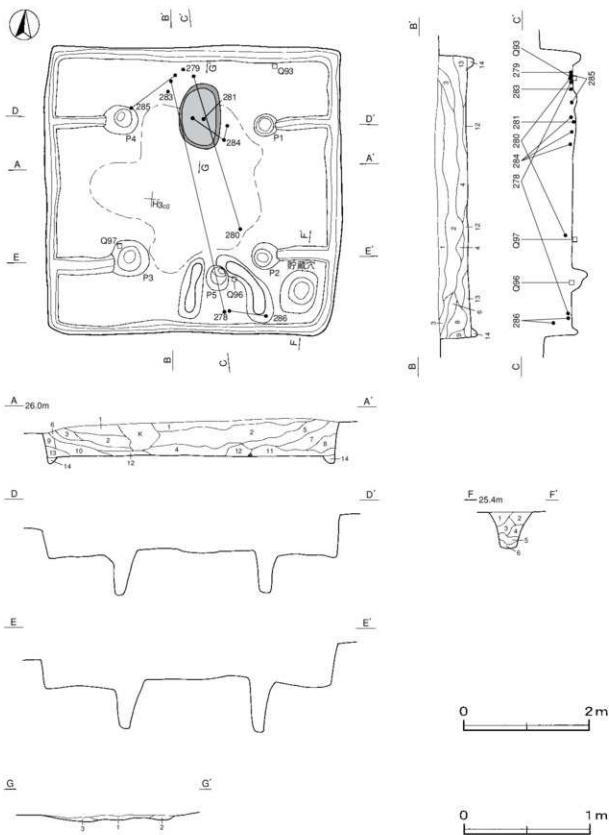
覆土 14層に分層される。第1～3層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが、その他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

- 9 掘 色 ロームブロック少量
 10 掘 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
 11 掘 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

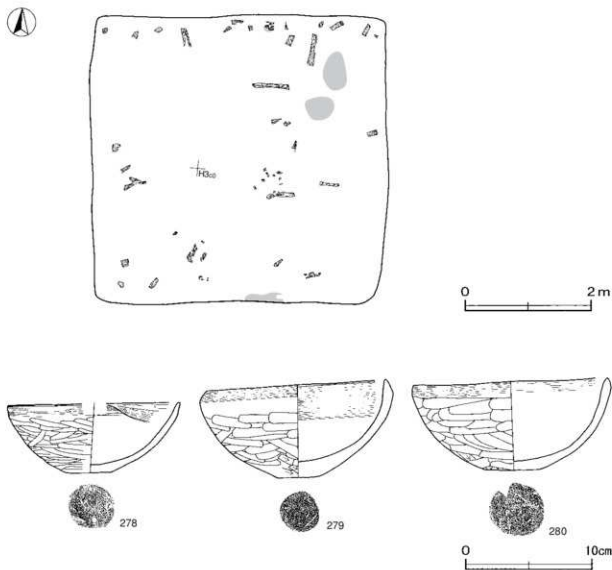
- 12 掘 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
 13 掘 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 14 掘 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量



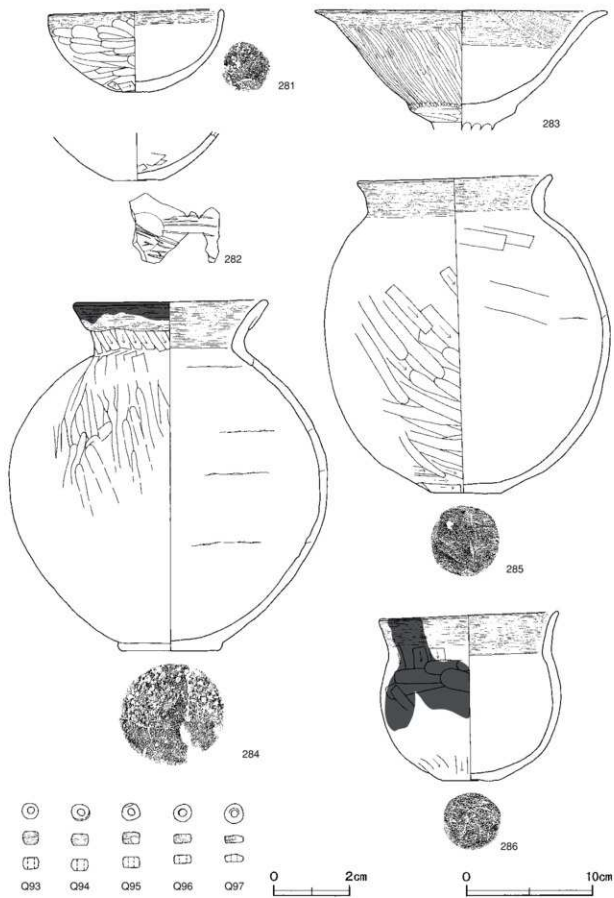
第52図 第46号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片237点（坏95、坏4、高坏2、壺1、甕134、小形甕1）、石製模造品5点（白玉）、滑石剥片15点、鉄製品2点（不明）のほかに、混入した縄文土器片2点も出土している。278は南壁際と北壁際の床面から出土した土器片が接合したものである。279・283・285は北壁際の床面から覆土中、281・284は郊の覆土中及び床面から覆土最下層にかけて出土した土器片がそれぞれ接合したものである。Q93は北壁際、Q96・Q97は南側の床面、Q94・Q95はP3の覆土中からそれぞれ出土している。滑石の剥片も覆土最下層から床面にかけて出土している。

所見 焼土塊や炭化材の多くは壁際の床面から出土しており、一部は中央部からも出土している。また、床面も焼けて赤変していることから焼失住居であると考えられる。炭化材4点の樹種同定の結果、樹種はクスギの丸材であることが判明しており、住居構架材の可能性が指摘されている。床面などから滑石白玉5点や滑石剥片15点（荒割品11、破片4）、が出土しており、住居内で滑石模造品を製作していたことが想定されるが、製作に関わる道具類が確認されず、明確ではない。時期は、出土土器から古墳時代中期中葉（5世紀中葉）と考えられる。



第53図 第46号住居跡・出土遺物実測図



第54图 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第53・54図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考		
278	土器	椀	13.6	5.5	3.5	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ	体部外面へう張り後へうナデ	床面	80%	
279	土器	椀	14.1	7.7	3.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ	体部外面へう張り後へうナデ	床面	95%	PL32
280	土器	椀	15.3	7.3	4.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ	体部外面へう張り後へうナデ	覆土下層	100%	PL32
281	土器	椀	13.7	6.5	3.8	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ	体部外面へう張り後ナデ	切羽面	95%	PL32
282	土器	椀	-	13.8	[4.0]	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部外面常規調整不明	内面へうナデ	覆土中	15% 研肌	PL55
283	土器	高坏	23.1	9.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ ナデ	外面へう張り後へう巻き 内面	床面	60%	
284	土器	壺	15.2	27.8	7.9	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面横ナデ	体部外面へう張り 後へうナデ	床面～ 伊覆土中	60%	PL45
285	土器	壺	15.4	25.3	5.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面へうナデ	体部外面へう張り後へうナデ	床面	90%	
286	土器	小型壺	14.0	13.5	4.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面常規調整不明	体部外面へう張り後へうナデ	覆土中層 ～下層	95%	PL43

番号	器種	最大径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q98	白玉	0.40	0.14	0.33	0.09	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	PL52
Q94	白玉	0.43	0.14	0.31	0.11	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q95	白玉	0.40	0.13	0.25	0.08	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q96	白玉	0.45	0.18	0.29	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	PL52
Q97	白玉	0.49	0.15	0.18	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	P.3上層	PL52

第47号住居跡（第55～58図）

位置 調査区南部のH4b3区、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.53m、短軸4.48mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は17～40cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。壁溝が全周している。南東壁際からP1にかけてわずかな高まりが確認されている。

炉 2か所。炉1は中央部のやや北寄り位置している。長径75cm、短径63cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2はほぼ中央部の北壁寄りに位置している。長径71cm、短径56cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。それぞれの炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

炉2土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

ピット 27か所。P1は深さ17cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。また、P2～P27は配置と規模から壁柱穴と考えられるが明確ではない。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、長径51cm、短径48cmの円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

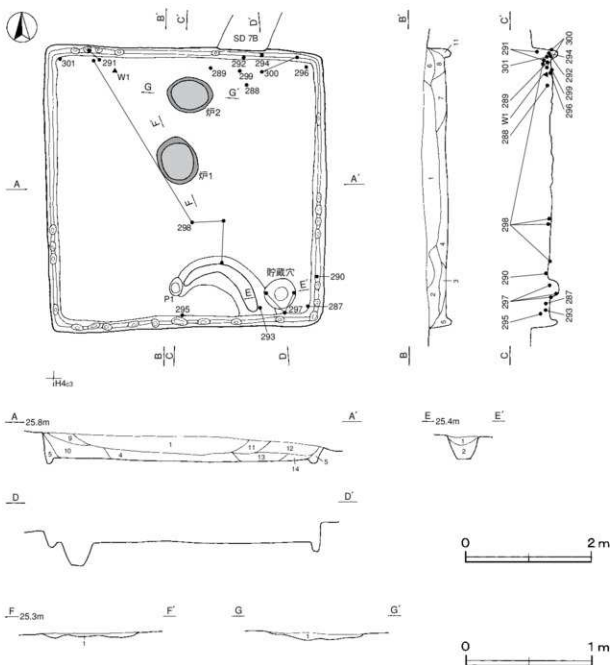
覆土 14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

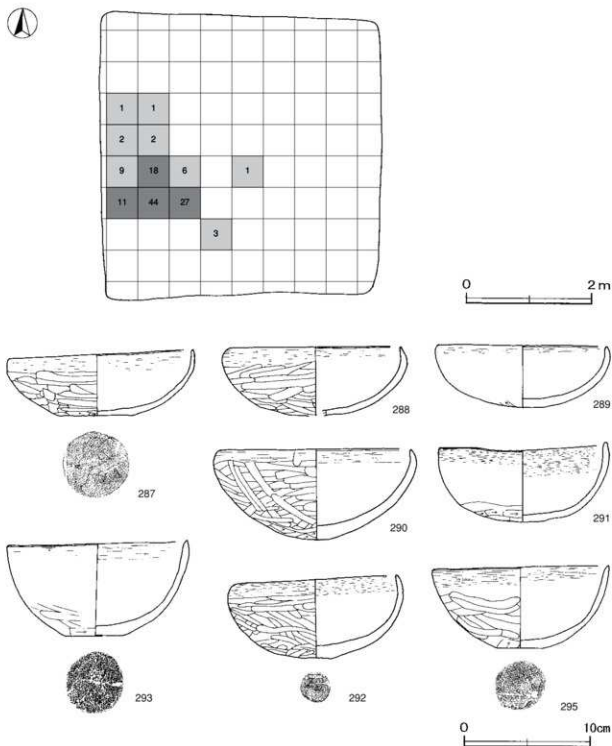
- 7 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 11 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 14 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片373点(坏12, 碗16, 埴1, 高坏3, 壺2, 甕339), 石器1点(砥石), 木製品1点(鹿カ)のほかに, 混入した縄文土器片2点も出土している。287・290・293は南東コーナー部分付近の床面から覆土最下層, 288・289・292・294・296・299・300・301は北壁際の床面から覆土下層にかけてそれぞれまとまって出土している。また, 南西寄り床面から粒状滓125点が出土している。

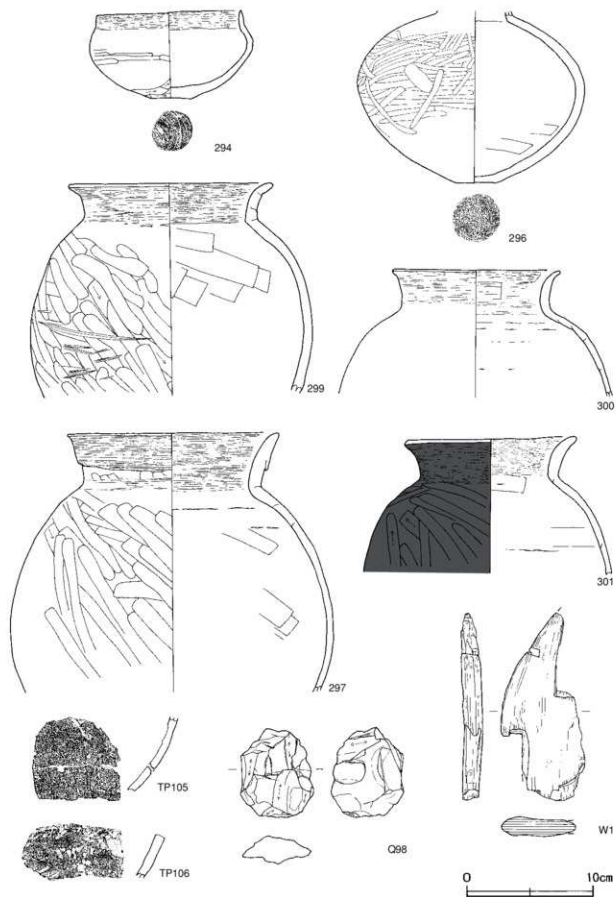


第55図 第47号住居跡実測図

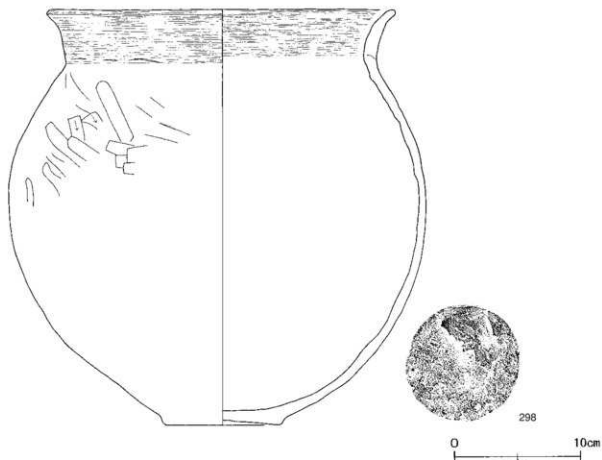
所見 遺物の多くは壁際の覆土下層からの出土で、廃絶後まもなく投棄されたと考えられる。出土状況から南及び北側の2方向からの投棄が想定される。南西寄り床面から粒状滓が出土していることや炉跡が2か所確認されたことなどから鍛冶工房的な性格を有した建物と考えられ、簡易な鍛冶作業が想定される。羽口や金床石などの鍛冶関連の道具類は廃絶に伴い持ち出された可能性が高い。時期は、出土土器から古墳時代中期中葉（5世紀中葉）と考えられる。



第56図 第47号住居跡出土粒状滓分布図・出土遺物実測図



第57图 第47号住居跡出土遺物実測図(1)



第58図 第47号住居跡出土遺物実測図(2)

第47号住居跡出土遺物観察表 (第56~58図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考		
287	土師器	坏	14.7	5.2	5.6	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	覆土最下層 ~床面	100%	
288	土師器	坏	13.7	5.4	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	覆土最下層 ~床面	80% PL.32	
289	土師器	坏	[13.3]	4.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面塗減調整不明	覆土下層 ~床面	50%	
290	土師器	椀	15.3	7.1	-	長石・石英	明黄緑	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後ナデ	覆土最下層 ~床面	100% PL.32	
291	土師器	椀	13.2	6.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後ナデ	覆土上層 ~下層	100%	
292	土師器	椀	13.0	6.7	2.2	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	床面	95% PL.32	
293	土師器	椀	14.1	7.5	4.6	長石・石英・雲母	にぶい・赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へラナデ	覆土最下層 ~床面	95%	
294	土師器	椀	11.4	6.9	3.2	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	床面	95% PL.32	
295	土師器	椀	13.8	6.6	3.9	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	覆土最下層 ~床面	85% PL.32	
296	土師器	埴	-	[13.5]	3.3	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面へう張り後へう置き	内部へラナデ	床面	80% PL.38	
297	土師器	壺	16.5	[20.5]	-	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	折り返し口縁	口辺部内・外面横ナデ 内部へラナデ	体部外面へう張り後へラナデ	岩段上層	40%
298	土師器	甕	27.3	33.0	9.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	覆土上層 ~床面	80% PL.45	
299	土師器	甕	15.9	[16.9]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	床面	40% 研杭	
300	土師器	甕	13.0	[10.1]	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい・黄橙	普通	口辺部外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後ナデ	覆土最下層 ~床面	25%	
301	土師器	甕	13.0	[11.0]	-	長石・石英・赤色 粒子	明黄緑	普通	口辺部内・外面横ナデ 内部ナデ	体部外面へう張り後へラナデ	覆土下層	25%	
TP15	土師器	甕	-	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へラナデ	穿孔有 特徴孔*	覆土中	5%	
TP18	土師器	甕	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	体部外面へラナデ		覆土中	5%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q98	砥石	7.0	5.7	2.2	80.0	滑石	両面に磨痕	覆土中	PL53
番号	器種	長さ	幅	厚さ	手法の特徴		出土位置	備考	
W1	甕	(14.8)	(6.7)	1.8	局部に調整痕		覆土下層		

第49号住居跡 (第59・60図)

位置 調査区南部のG4j1区、標高25.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6・8号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第6・8号溝に掘り込まれているため全体は確認できなかったが、長軸3.15m、短軸1.97mが確認できた。確認できた壁や炉の位置などから、N-3°-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は13~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉の南及び西側が踏み固められている。

炉 北壁際の中央部やや東寄りに位置している。長径29cm、短径26cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

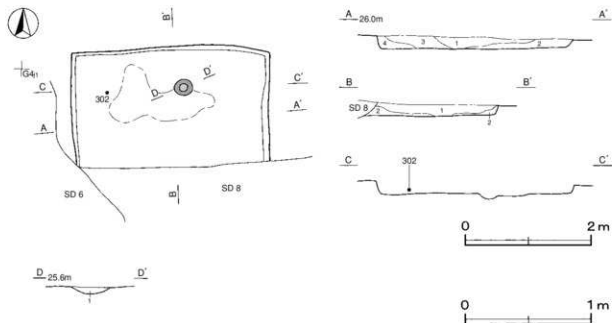
- 1 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

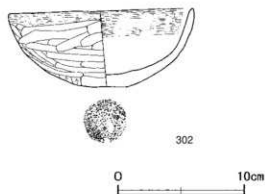
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片97点(坏1, 碗1, 埴1, 甕94)の他、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。



第59図 第49号住居跡実測図



302は北西コーナー部寄りの覆土下層から完形で出土しており、埋没過程の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第60図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表 (第60図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	土器器	椀	14.5	6.4	3.3	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へう張り後へうナテ	覆土下層 100% PL.33

第50号住居跡 (第61～64図)

位置 調査区南部のG 3h9区、標高25.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.79m、短軸5.24mの長方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は25～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、炉の南西側が踏み固められている。南壁際やや東寄りにわずかな高まりが確認されている。また、焼土塊が西壁際に確認されている。

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径84cm、短径81cmの円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径57cm、短径55cmの円形で、深さは65cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
 2 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
 3 赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 5 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

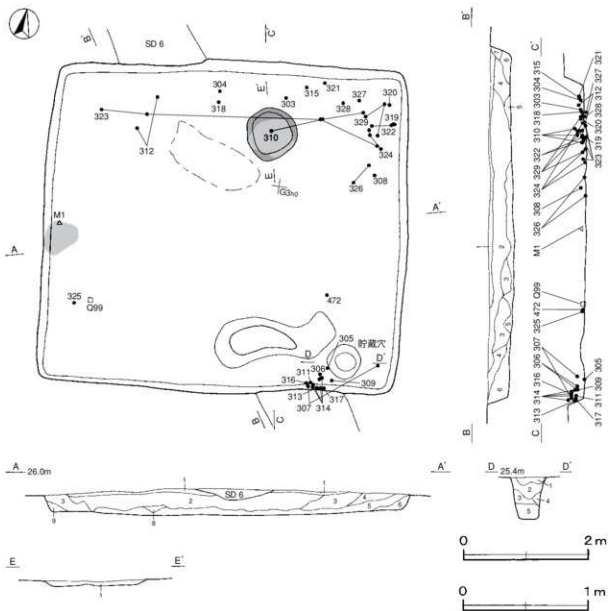
覆土 9層に分層される。上部の1・2層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが、その他の層はブロック状で不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

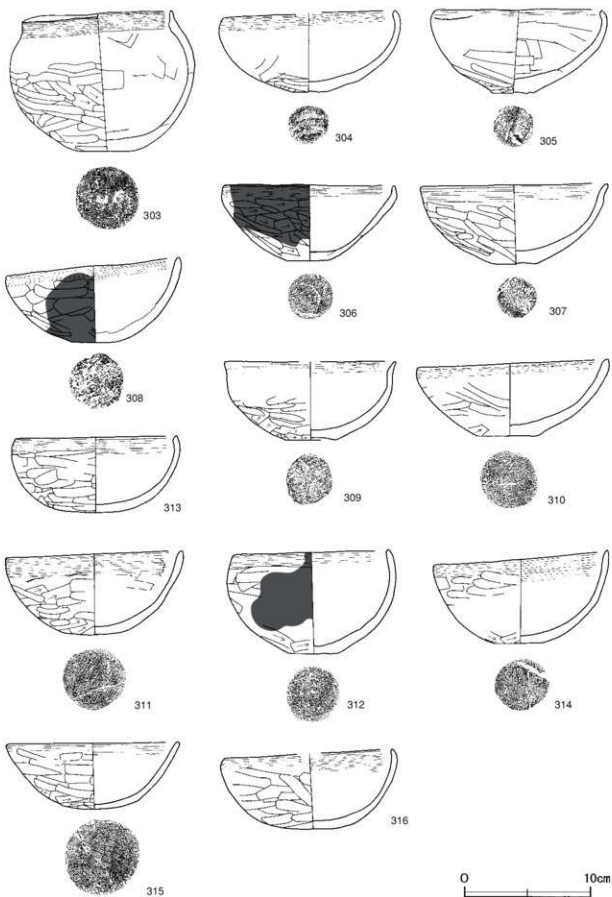
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 6 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 7 明褐色 ローム粒子少量
 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 9 赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片632点(碗69, 高坏3, 壺1, 甕559), 須恵器片2点(甕), 石器1点(砥石), 鉄製品1点(手鎌カ)のほか、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。303・304・315・318・321は北壁際の覆土下層から出土している。305は貯蔵穴付近の床面, 306・307・309・311・313は南壁際の覆土中層から出土している。323は北東コーナー及び北西コーナー付近の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。327は逆位で, 328はつぶれた状態で北東コーナー近くの床面から隣接して出土している。

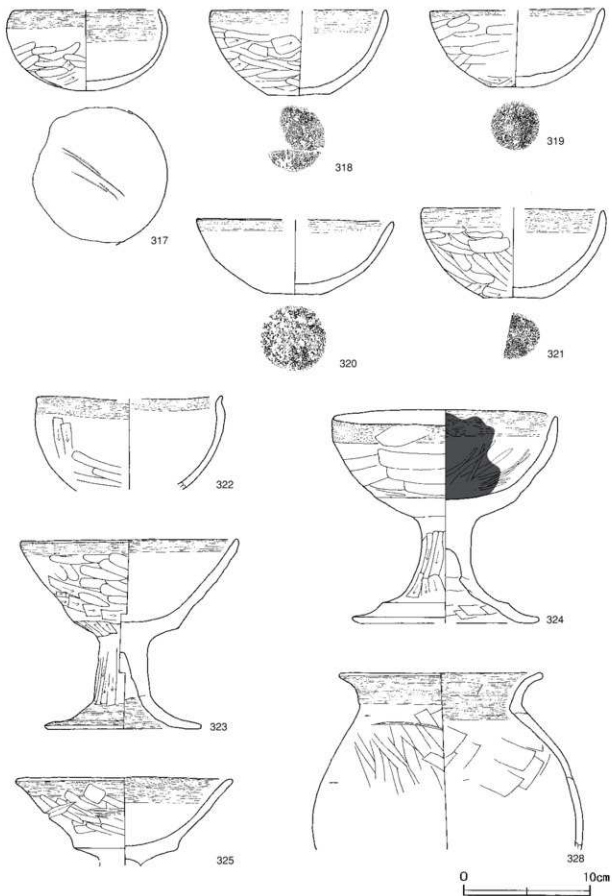
所見 炭化材は出土していないが, 焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。床面から出土した遺物もあるが, 多くの遺物は北東コーナー部の覆土下層からの出土で, 南東コーナー部, 南西コーナー部からも出土している。北東コーナー部と南西コーナー部からの投棄は廃絶後の早い時期から始められたと想定され, ある程度の期間続いたと考えられる。時期は, 出土土器から古墳時代中期中葉(5世紀中葉)と考えられる。



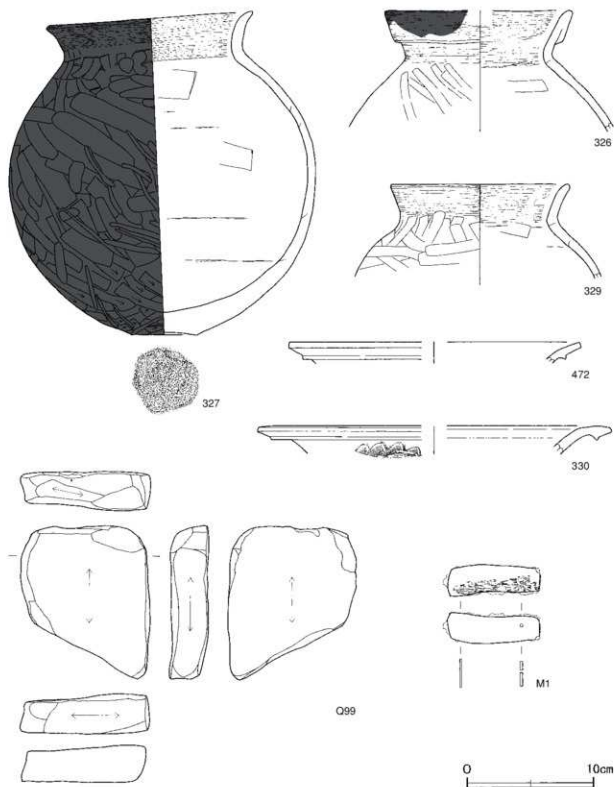
第61図 第50号住居跡実測図



第62图 第50号住居跡出土遺物実測図(1)



第63图 第50号住居跡出土物実測図(2)



第64図 第50号住居跡出土遺物実測(図3)

第50号住居跡出土遺物観察表 (第62～64図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
30B	土師器	甕	11.9	11.2	4.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面縞ナテ 胴部外面へウ張り後へラナテ 内面へラナテ 輪縁底	覆土下層	100% PL.38
30A	土師器	甕	[13.6]	6.5	2.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面縞ナテ 胴部外面へウ張り後へラナテ 内面ナテ	覆土下層	95%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
305	土師器	椀	13.2	6.5	3.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ナデ 内面ナデ 輪襷痕	床面	95%
306	土師器	椀	13.4	6.1	3.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ 輪襷痕	覆土中層	100% PL33
307	土師器	椀	14.7	6.4	3.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張りナデ 内面ナデ	覆土上層～中層	95% PL33
308	土師器	椀	16.8	6.8	3.9	長石・石英・赤色砂子・礫	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	95%
309	土師器	椀	[13.5]	6.2	3.9	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土中層	90%
310	土師器	椀	14.8	6.1	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	90% PL33
311	土師器	椀	13.9	6.5	4.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ 輪襷痕	覆土中層	90% PL33
312	土師器	椀	12.2	8.3	3.8	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	80% PL36
313	土師器	椀	12.8	6.1	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土中層	80% PL33
314	土師器	椀	13.7	7.3	4.1	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土上層	73%
315	土師器	椀	13.4	5.3	6.0	長石・石英・赤色砂子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	70%
316	土師器	椀	[13.3]	6.4	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土中層	60%
317	土師器	椀	11.5	6.4	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	60% 研痕
318	土師器	椀	[13.8]	7.1	4.9	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	49%
319	土師器	椀	[13.7]	6.1	4.0	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	60%
320	土師器	椀	[15.4]	5.9	4.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面横調整不明	覆土上層	50%
321	土師器	椀	[14.2]	7.0	[4.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	30%
322	土師器	椀	[14.5]	7.4	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	35%
323	土師器	高坏	17.0	15.0	12.2	長石・石英・赤色砂子・礫	にぶい褐	普通	坏部外面へう張り後ヘラナデ 脚部へう張り 坏部口辺及び脚部内・外面横ナデ 輪襷痕	覆土下層	90% PL41
324	土師器	高坏	17.6	16.4	[13.4]	長石・石英・礫	橙	普通	坏部口辺内・外面横ナデ 外面へう張り 内面へう張り 脚部へう張り 坏部外面横ナデ 内面へう張り後ナデ	覆土下層	90% PL41
325	土師器	高坏	16.8	16.9	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	坏部口辺内・外面横ナデ 外面へう張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	50% 研痕 PL40
326	土師器	壺	[14.6]	9.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸り蓋し口縁 口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層	20%
327	土師器	甕	16.1	25.6	5.2	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面へう張り 輪襷痕	床面	100% PL44
328	土師器	甕	15.6	14.0	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪襷痕	床面	30%
329	土師器	甕	13.8	7.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層	15%
330	用意器	甕	[28.0]	(2.2)	-	長石	緑黒	良好	ロクロナデ 口辺部に径1条 磨面状工具(8本以上)による痕状文	覆土中	5% 自然釉
472	用意器	甕	[23.2]	(1.6)	-	長石	オリーブ黒	良好	ロクロナデ	覆土下層	5% 自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q99	砥石	12.1	10.2	3.1	547.0	砂岩	砥面5面	床面	PL54
M1	手鏡	7.3	2.6	2.0	(14.1)	鉄	木質通存 穿孔有	覆土下層	PL55

第51号住居跡 (第65・66図)

位置 調査区南部のF4j6区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

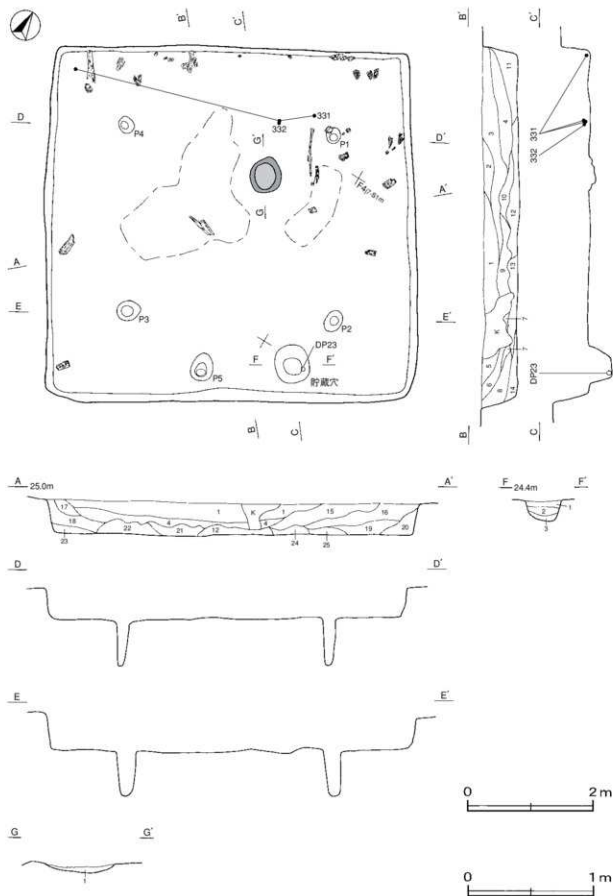
規模と形状 長軸5.90m、短軸5.65mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は47～60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、炉の西及び東側が踏み固められている。また、炭化材が北側に多く確認されている。

炉 中央部のやや北東寄りに位置している。長径59cm、短径52cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量



第65图 第51号住居跡実測图

ピット 5か所。P1～P4は深さ68～75cmで、主柱穴である。P5は深さ8cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁際のやや東寄りに位置している。長径59cm、短径55cmの円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

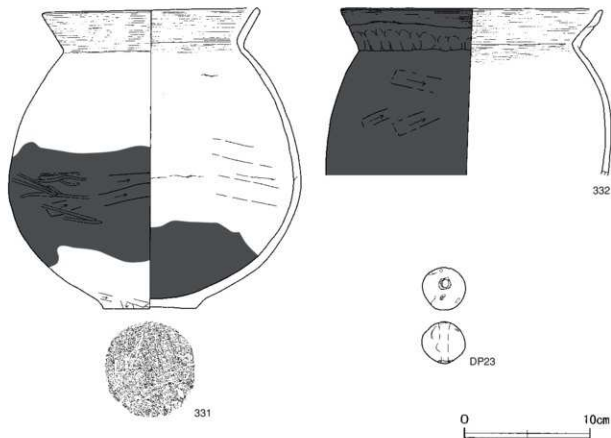
- | | | | |
|-------|-------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 25層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 14 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 17 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 18 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 20 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量 | 21 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 22 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 10 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 23 極暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 24 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 12 極暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 25 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 13 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片51点（高坏9、甕42）、土製品1点（小玉）の他、混入した縄文土器片1点も出土している。331・332は北壁寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものであり、埋め戻しの過程で投棄さ



第66図 第51号住居跡出土遺物実測図

れたものと考えられる。DP23は貯蔵穴の底面から出土している。

所見 壁際の炭化材の下には焼土ブロックを多量に含む覆土が確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期後葉（4世紀中葉～4世紀末葉）と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
33I	土師器	甕	16.8	23.9	7.4	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘウナデ	体部外面ヘウ張り後ヘウナデ	覆土下層	70%
33II	土師器	甕	20.5	(13.2)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ ナデ	体部外面ヘウ張り後ナデ 内面 ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	珠状土師	3.9	0.9	3.3	33.9	土（長石・石英）	ナデ 一方からの穿孔	貯蔵穴底面	

第52号住居跡（第67図）

位置 調査区南部のG 5a1区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.97m、短軸2.96mの方形で、主軸方向はN-35°-Eである。壁高は36～45cmで、直立している。

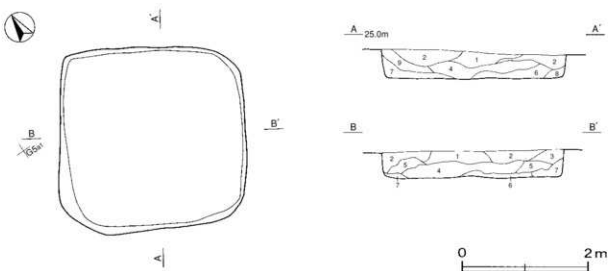
床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子
微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片53点（坏5、高坏7、甕41）の他、混入した縄文土器片3点も出土している。遺物は細片のため図示できない。



第67図 第52号住居跡実測図

所見 内部施設については、施設の配列や位置を想定して床面を精査したが確認できなかった。時期は、図示できた遺物がないが、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第55号住居跡 (第68・69図)

位置 調査区南部のG 4g9区、標高25.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第498号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.51m、短軸4.62mの長方形で、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は17~22cmで、外傾して立ち上がっている。

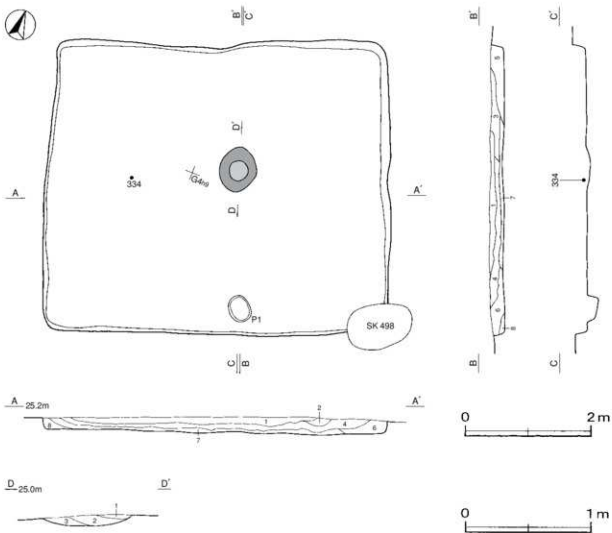
床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 中央部のやや北東寄りに位置している。長径71cm、短径59cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

- 3 濃い赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量



第68図 第55号住居跡実測図

ピット 1か所。深さ16cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	明褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片34点(埴2、器台1、高坏14、甕17)のほか、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。334は、西壁寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第69図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表(第69図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
333	土師器	器台	-	(2.7)	-	長石・石英	にふい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ	覆土中	30%
334	土師器	甕	[14.5]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい黄橙	普通	口唇部内・外唇ハケ目調整後染ナデ	覆土下層	5%

第57号住居跡(第70~73図)

位置 調査区南部のH5b2区、標高24.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.65m、短軸4.35mの長方形で、主軸方向はN-77°-Eである。壁高は10~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

炉 2か所。炉1は東壁際のやや北寄りに位置している。長径62cm、短径48cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2はほぼ中央部に位置している。長径31cm、短径29cmの円形で、床面を2cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉1と炉2の規模に差はあるが、使用痕跡や床の硬化面の広がりから、同時期に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説

1	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2	にふい赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量

炉2土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径69cm、短径62cmの楕円形で、深さは81cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量			

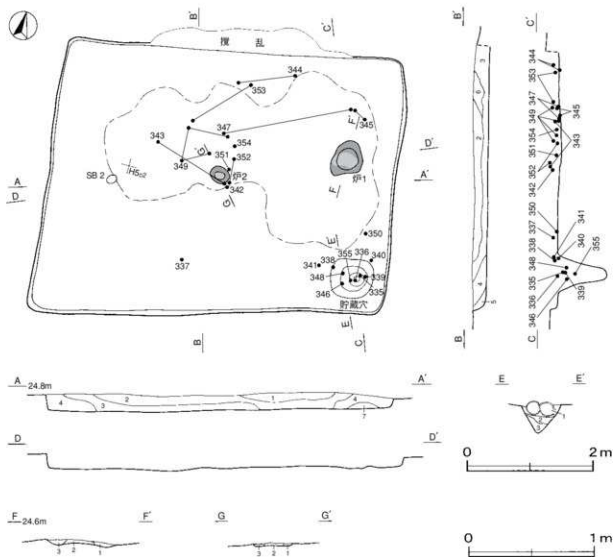
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

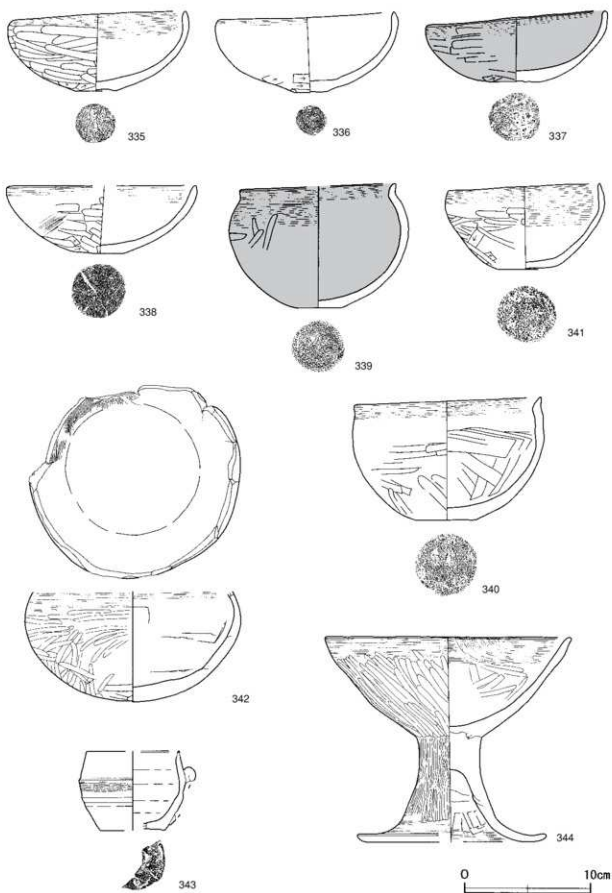
1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片605点(坏79, 椀9, 高坏1, 甕514, 小形甕1, 飯1), 須恵器片1点(把手付椀), 石製模造品1点(双孔円板)が出土している。335・336・339・346・348・355は貯藏穴の覆土上層, 338・340・350は南東コーナー部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土しており, 埋没過程の早い段階に一括投棄されたものと考えられる。343・344・347・349・352・353は, 炉周辺と北側の床面から覆土上層にかけて出土した土器片がそれぞれ接合したものである。

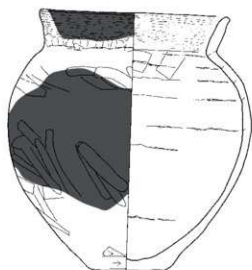
所見 中央部に小さい炉, 東壁寄りに大きな炉を有し, 南東コーナー部に貯藏穴を配置しており, 本跡北東に位置する第59号住居跡と類似している。出入り口施設に伴うピットは確認できなかったが, 規模や主軸方向, 屋内施設などの類似性から第59号住居跡との同時性も考えられる。時期は, 出土土器から古墳時代中期後葉(5世紀後葉)と考えられる。



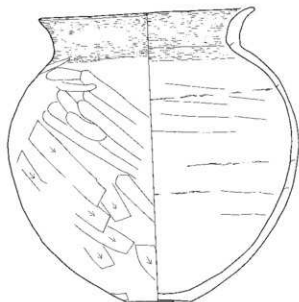
第70図 第57号住居跡実測図



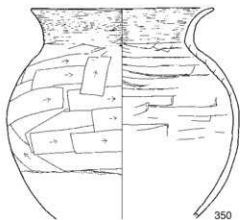
第71图 第57号住居跡出土遺物実測図(1)



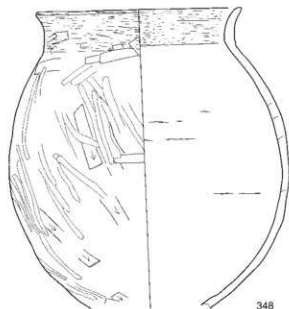
347



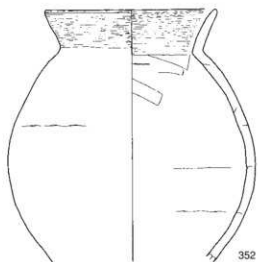
346



350



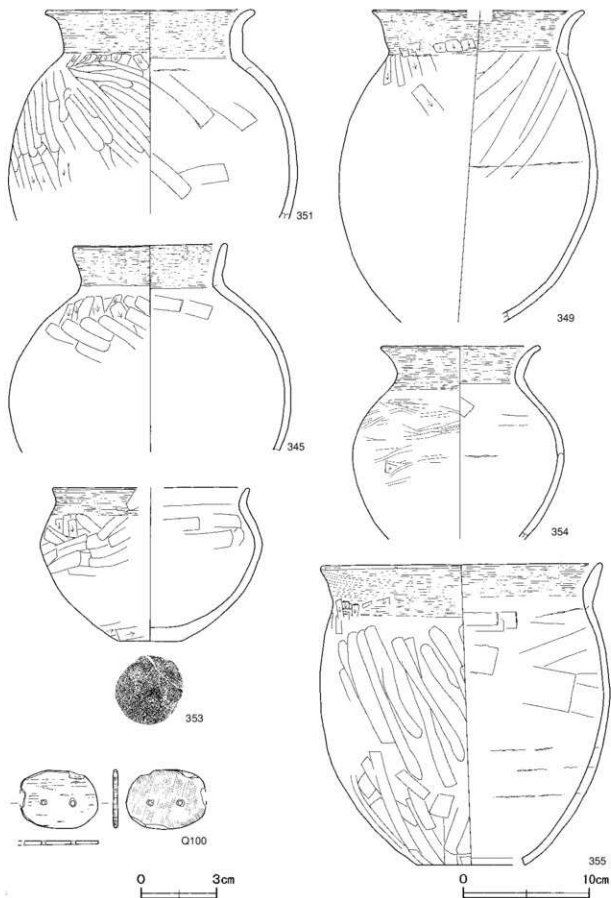
348



352



第72图 第57号住居跡出土遺物実測図(2)



第73图 第57号住居跡出土遺物実測図(3)

第57号住居跡出土遺物観察表 (第71～73図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
335	土器	椀	13.9	6.4	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ナテ	行蔵穴上層	90%	PL33
336	土器	椀	13.8	6.4	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口辺部外面横ナテ 体部外面へう張り 内面準調整不明	行蔵穴上層	90%	PL33
337	土器	椀	14.2	5.7	4.1	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ 内面ナテ	覆土下層	60%	
338	土器	椀	[14.8]	5.4	3.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ナテ	覆土下層	45%	
339	土器	椀	[12.2]	9.9	4.0	長石・石英・雲母	赤橙	普通	口辺部及び体部外面上位置ナテ 口辺部内面横ナテ 体部外面ヘラナテ 内面ナテ	行蔵穴上層	95%	PL38
340	土器	椀	14.7	9.8	4.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ヘラナテ	床面	95%	PL36
341	土器	椀	12.0	6.8	4.4	長石・石英・赤色粒子・糠	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ナテ	覆土下層	80%	PL34
342	土器	椀	-	(8.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ナテ 底断面に粘土粒取り付け調整痕 輪轆痕	覆土下層	70%	
343	須恵器	把手付椀	[7.8]	6.3	[5.1]	長石	灰	良好	外面口ワナナテ 体部外面中位に鑿面状工具(7本)による浅状文 体部下層把手取り付け痕ナテ 口辺部外面及び内面面に自然輪	覆土中層	45%	PL48
344	土器	高杯	19.4	16.3	[15.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	杯部口辺内・外面横ナテ 杯部内・外面へう張り 杯部外面へう張り 杯部外面横ナテ 内面ヘラナテ後横ナテ輪轆痕	覆土下層～床面	60%	PL41
345	土器	壺	11.8	[16.5]	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ヘラナテ 輪轆痕	床面	45%	
346	土器	甕	16.6	23.4	5.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ヘラナテ 輪轆痕	行蔵穴上層	90%	PL44
347	土器	甕	14.8	20.8	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 口辺部下層指痕 体部外面へう張り後ヘラナテ 内面ヘラナテ 輪轆痕	床面	75%	
348	土器	甕	16.1	23.9	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ナテ 輪轆痕	行蔵穴上層	80%	
349	土器	甕	[16.6]	(24.6)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り 内面ヘラナテ 輪轆痕	覆土下層	50%	
350	土器	甕	14.3	[16.8]	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ナテ 輪轆痕	床面	60%	
351	土器	甕	16.4	(16.6)	-	長石・石英・糠	にぶい赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ヘラナテ 輪轆痕	覆土下層	30%	
352	土器	甕	13.4	(20.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面準調整不明 内面ヘラナテ 輪轆痕	覆土上層～下層	30%	
353	土器	小形甕	[15.4]	12.2	5.7	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ヘラナテ	覆土中層～下層	50%	
354	土器	小形甕	12.3	(15.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へう張り後ヘラナテ内面ヘラナテ 輪轆痕	覆土下層	30%	
355	土器	瓶	22.0	24.0	8.5	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ後一部へう張り 体部外面へう張り後ヘラナテ 内面ヘラナテ 輪轆痕	行蔵穴上層	90%	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q109	瓦片四板	2.3	(3.1)	0.17	(2.5)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.18cm	覆土中	PL53

第59号住居跡 (第74・75図)

位置 調査区南部のH 5a3区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.24m、短軸4.28mの長方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は16～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 2か所。炉1は東壁寄りの中央部に位置している。長径71cm、短径57cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は中央部のやや南東寄りに位置している。長径28cm、短径24cmの楕円形で、床面を1cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉1と炉2の規模に差はあるが、使用痕跡や床の硬化面の広がりから、同時期に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説

- 1 陶 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 陶 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

炉2土層解説

- 1 陶 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 深さ18cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁際のやや東寄りに位置している。長径58cm、短径52cmの楕円形で、深さは48cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|-------------------------|-----------------------|

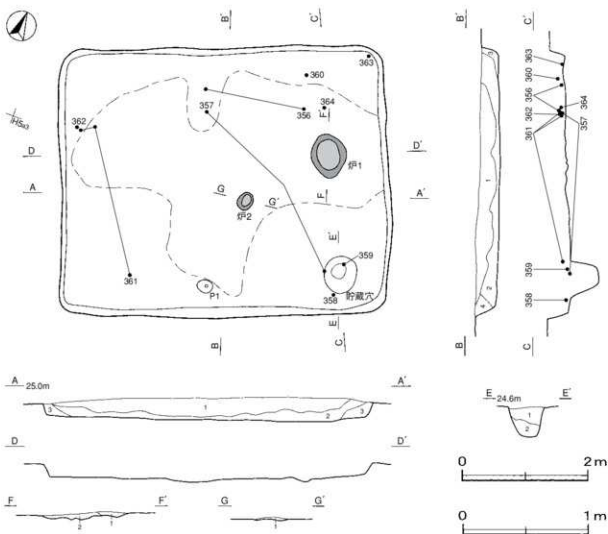
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

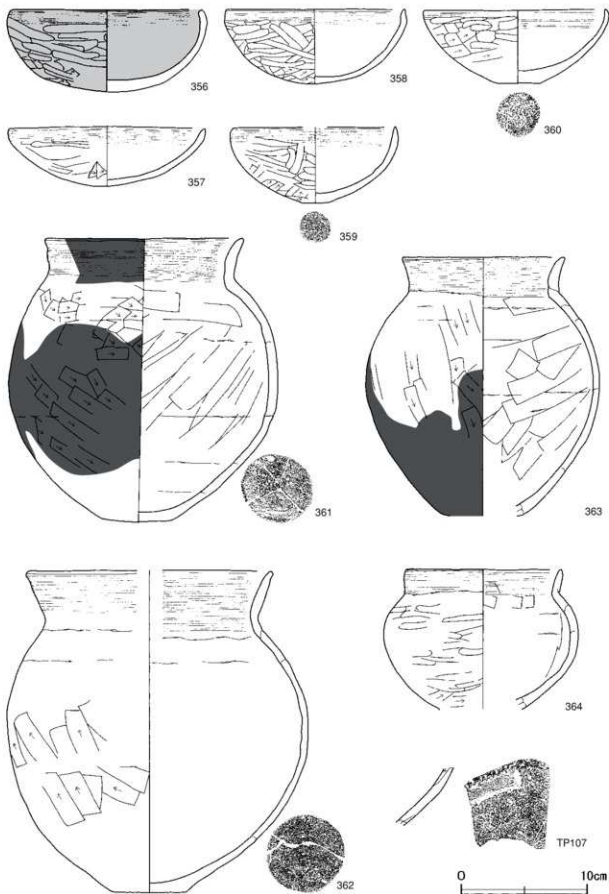
- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片732点(坏14, 椀60, 器台8, 甕649, 小形甕1)が出土している。358・359は南東コーナー部、360・362・363は北コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。356・357・361は覆土下層から出土した土器片がそれぞれ接合したもので、接合資料は離れた位置から出土しているものがある。

所見 中央部に小さい炉、東壁寄りに大きな炉を有し、南東コーナー部に貯蔵穴を配置しており、本跡の南西に位置する第57号住居跡と類似している。規模や主軸方向、屋内施設などの類似性から第57号住居跡との同時性も考えられる。時期は、出土土器から古墳時代中期後葉(5世紀後葉)と考えられる。



第74図 第59号住居跡実測図



第75图 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
336	土師器	椀	15.2	6.6	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へう張り後ヘラナテ	覆土下層	90%
337	土師器	椀	15.6	4.7	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へう張り後ヘラナテ	覆土下層	95%
338	土師器	椀	14.1	5.9	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面調整不明	体部外面へう張り後ヘラナテ	覆土下層	90% PL34
339	土師器	椀	[12.7]	6.0	2.2	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面調整不明	体部外面へう張り後ヘラナテ	覆土下層	85%
340	土師器	椀	14.4	5.9	3.2	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へう張り後ヘラナテ	覆土下層	80%
361	土師器	甕	15.5	22.4	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 輪轡痕	体部外面へう張り 内面ヘラナテ	覆土下層	70%
362	土師器	甕	[19.0]	25.6	6.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 調整不明 輪轡痕	体部外面へう張り 内面調整不明	覆土下層	50%
363	土師器	甕	12.7	(20.5)	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 輪轡痕	体部外面へう張り 内面ヘラナテ	覆土下層	60%
364	土師器	小形甕	12.2	(11.1)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ヘラナテ 輪轡痕	体部外面へう張り後ヘラナテ	覆土下層	80%
373	土師器	甕	-	(4.5)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラナテ	輪轡痕	覆土中	5%

第60号住居跡（第76・77図）

位置 調査区南部のG 5h3区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.65m、短軸6.61mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は40~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、床質は軟質であり、特に踏み固められている部分は確認されていない。西壁側にベッド状の高まりが確認されている。ベッド状の部分は床面よりも10cmほど高く、住居構築の際にローム土を掘り残して構築している。また、中央部北寄りの床面からは焼土塊や炭化材が確認され、床面も火を受けて赤変している。

炉 中央部のやや北東寄りに位置している。長径89cm、短径61cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ53~70cmで、主柱穴である。P 5は深さ16cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

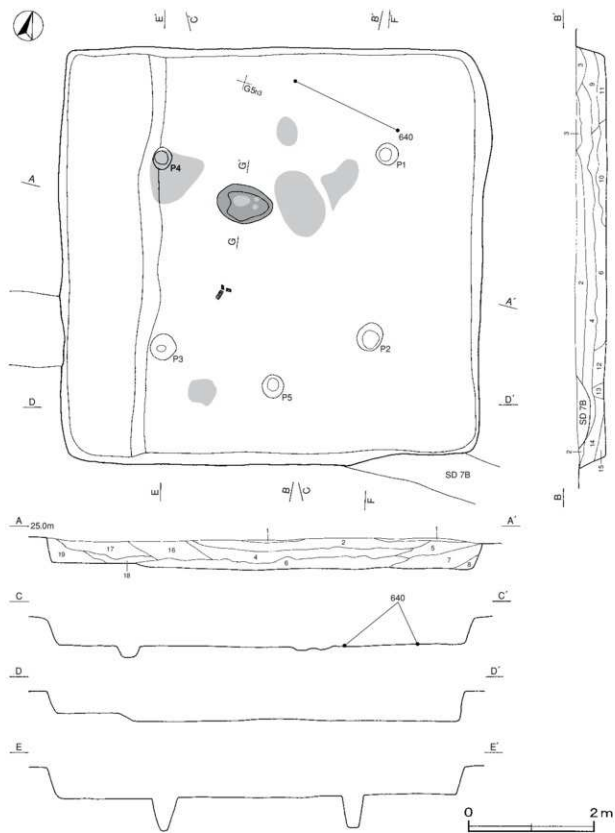
覆土 19層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

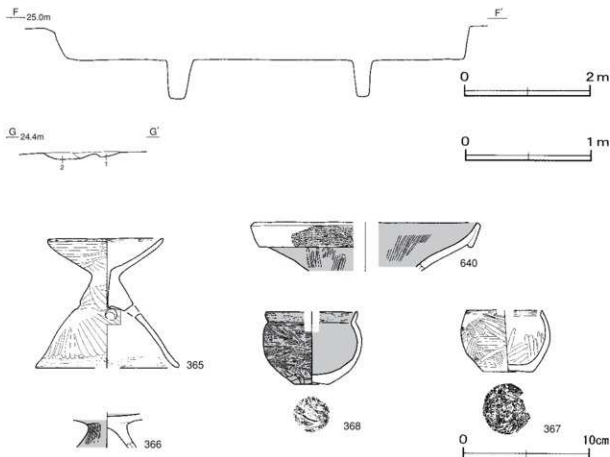
- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 10 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化物微量
- 11 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 13 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 14 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 15 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 17 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 18 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片76点（坏8、椀4、器台1、高坏1、壺1、甕60、飯1）、ミニチュア土器2点（椀型、壺型）、鏝1点のほかに、混入した縄文土器片1点が出土している。640は北壁寄りの床面から出土した2点が接合したものである。365~368はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 焼土塊や炭化材が確認されており、床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期後半と考えられる。



第76図 第60号住居跡実測図



第77図 第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
365	土器器	器台	9.0	10.2	[11.3]	長石・石英・雲母 にふい橙	普通	普通	器受部口辺部及び器底部内・外面横ナデ 外面ヘラ磨き 器部内面ナデ 4磨き	覆土中	60%
366	土器器	高坏	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母 にふい橙	普通	普通	外面ヘラ磨き 輪轆痕	覆土中	10%
640	土器器	壺	[17.7]	(3.9)	-	長石・石英	橙	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面に瀬田状の捺糸文 口辺部内面及び器部内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%
367	土器器	1-フチャフ	[6.0]	5.9	3.9	長石・石英・赤色 砂子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 器部外面ヘラ目調整後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	覆土中	50% 碗型
368	土器器	1-フチャフ	[7.2]	5.8	2.7	長石・石英・赤色 砂子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 器部外面ヘラ磨き後ヘラ磨き	覆土中	60% 壺型

第61号住居跡 (第78・79図)

位置 調査区南部のG 5e9区、標高24.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.38m、短軸4.05mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は25~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、特に踏み固められている部分は確認されていない。また、炉の北西側に板材と思われる炭化材が確認されている。

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径61cm、短径42cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 2 | 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | | 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さ16cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

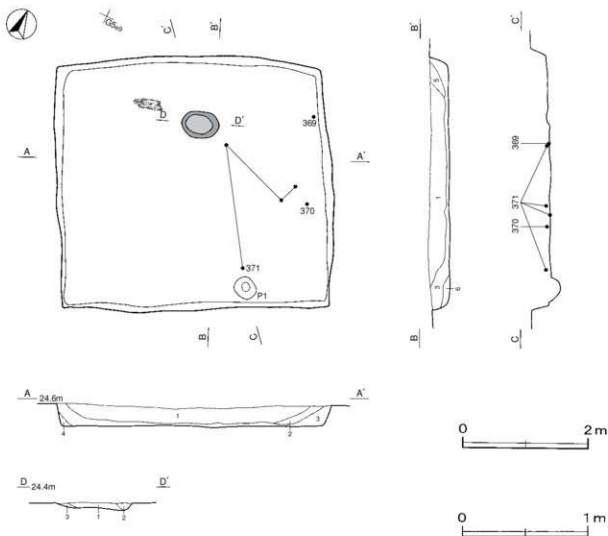
土層解説

- | | | | | | |
|---|------|------------------|---|-----|-----------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 | 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |

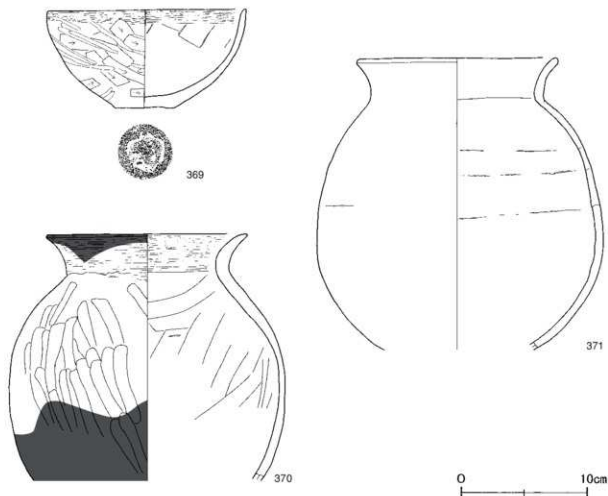
遺物出土状況 土師器片153点(碗2、甕151)が出土している。369は東壁際の床面から斜位で出土している。

370・371は東側の床面から覆土最下層にかけて出土した土器片が接合したものである。

所見 炭化材が確認されており、焼失住居である可能性が高い。時期は、出土土器から古墳時代中期中葉(5世紀中葉)と考えられる。



第78図 第61号住居跡実測図



第79図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
369	土器器	椀	15.7	7.9	4.7	長石・石英・燧石	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう張り後へう巻き内面ヘラナデ	床面	90%	PL34
370	土器器	甕	15.7	(19.5)	-	長石・石英・赤色燧石	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	甕土蔵下層	60%	
371	土器器	甕	15.5	(23.1)	-	長石・石英・燧石	明赤褐	普通	体部外面焼成調整不明 輪轆痕	甕土蔵下層 ～灰田	50%	

第62号住居跡（第80～83図）

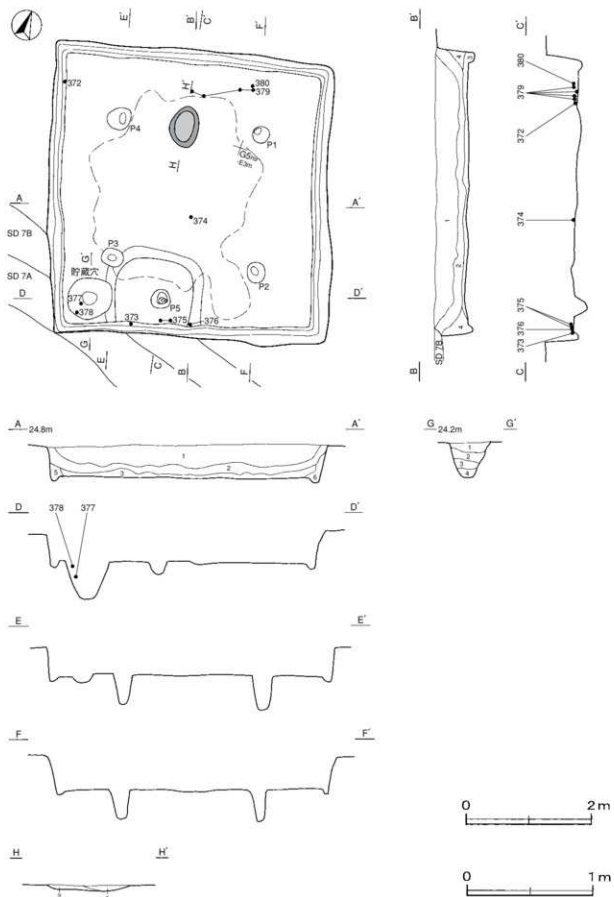
位置 調査区南部のG 5h9区、標高24.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7 A・7 B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m、短軸4.43mの方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は40～60cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められ、壁溝が全周している。また、P 5の周囲に6cmほどのわずかな高まりが確認されている。

炉 中央部の北寄りに位置している。長径68cm、短径47cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。



第80图 第62号住居跡夹测图(1)

炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
|-------|-----------------------|--------|---------------------------|

ピット 5カ所。P1～P4は深さ45～56cmで、主柱穴である。P5は深さ24cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径70cm、短径65cmの円形で、深さは58cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

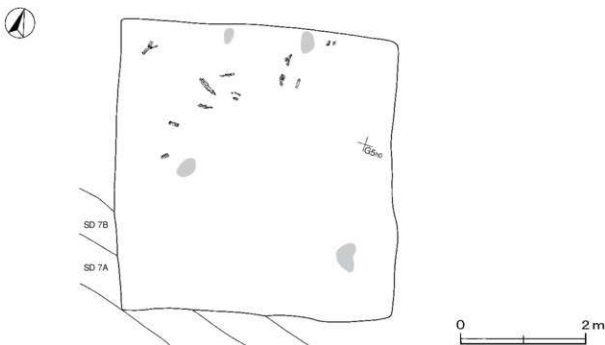
覆土 6層に分層される。第3～6層は、遺物や炭化材の出土状況から埋め戻しされたものと考えられる。その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

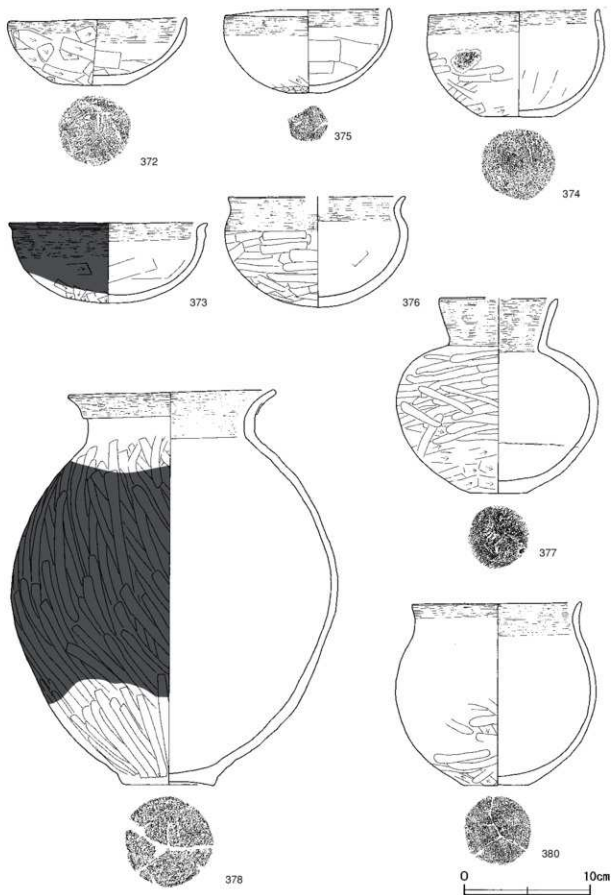
- | | | | |
|-------|------------------------------|------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片158点(坏50、碗21、埴1、壺1、甕84、小形甕1)のほかに、混入した鉄製品1点(釘)も出土している。377は貯蔵穴の覆土中層から斜位で出土している。373・375・376・378は南壁際の床面、372・380は北側の覆土下層からそれぞれ出土している。379は北側の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

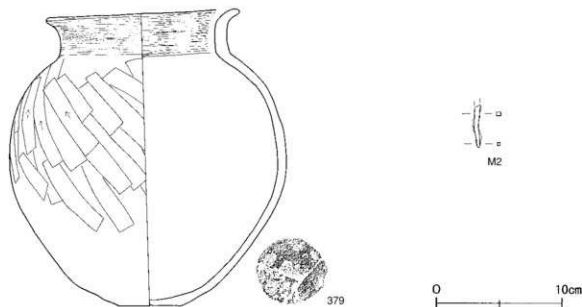
所見 炭化材が床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居である。また、遺物はほぼ完形に近いものがまとまって出土しており、遺棄された可能性が高い。時期は、出土土器から古墳時代中期中葉(5世紀中葉)と考えられる。



第81図 第62号住居跡実測図(2)



第82图 第62号住居跡出土遺物実測図(1)



第83図 第62号住居跡出土遺物実測図2)

第62号住居跡出土遺物観察表 (第82・83図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
372	土器部	椀	14.0	5.3	5.5	長石・石英・白色 粒子	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	100% PL35
373	土器部	椀	15.5	6.4	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部から体部外面中位及び内面上位横ナデ 体部外面 ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	100% PL34
374	土器部	椀	13.2	3.6	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ後ナデ 輪横板	床面	95% 研瓦
375	土器部	椀	12.9	6.7	3.1	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナ デ	床面	95% PL34
376	土器部	椀	13.9	8.8	-	長石・石英・赤色 粒子	におい橙	普通	口辺部から体部外面中位及び内面上位横ナデ 体部外面 ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪横板	床面	60%
377	土器部	壺	[9.2]	15.4	4.5	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面中位ヘラ削り後ヘラ ナデ 平塗への削り長ナデ 輪横板	貯蔵穴中層	100% PL37
378	土器部	壺	16.1	31.4	7.1	長石・石英・雲母	におい橙	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削 り後ヘラナデ 内面壁減測数不明	床面	90% PL45
379	土器部	甕	14.8	23.7	5.0	長石・石英・礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	80% PL44
380	土器部	小形甕	13.2	14.6	5.1	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	90%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	釘*	(3.4)	0.5	0.3	(1.2)	鉄	頭部欠損 断面方形 棒状 角釘*	覆土中	

第63号住居跡 (第84～88図)

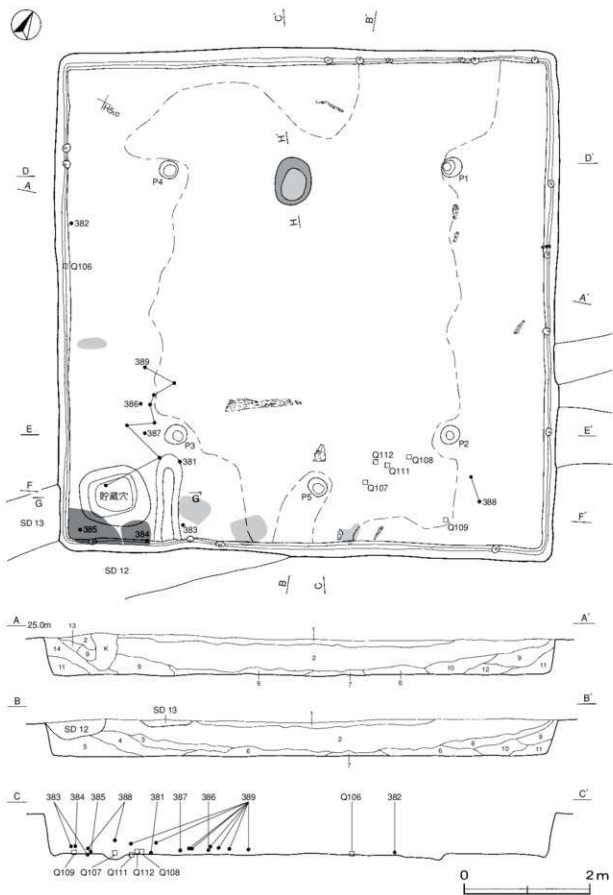
位置 調査区南部のH5c0区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12・13号溝に掘り込まれている。

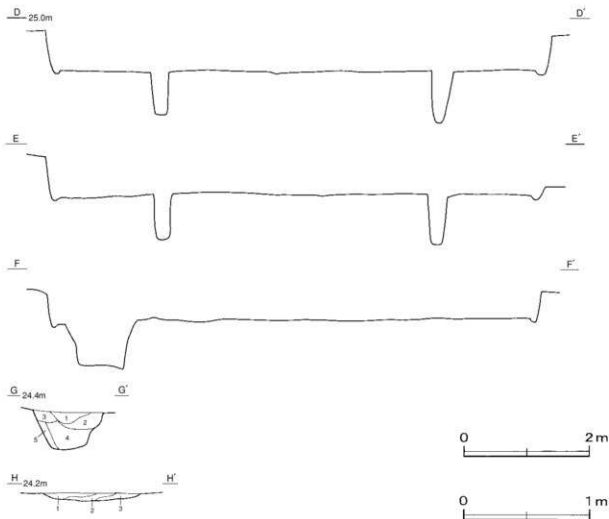
規模と形状 長軸8.06m、短軸8.00mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は42～64cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められており、壁溝が全周している。貯蔵穴の東側に南壁から延びる4cmほどのわずかな高まりが確認されている。また、壁際を中心に焼土塊や炭化材が確認されている。

炉 中央部の北寄りに位置している。長径76cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。



第84图 第63号住居跡実测图(1)



第85図 第63号住居跡実測図(2)

炉土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------|---------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 3 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 濃い赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | | |

ピット 21か所。P 1～P 4は深さ66～83cmで、支柱穴である。P 5は深さ8cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また、P 6～P 21は不規則な配置ではあるが、規模などから壁柱穴と考えられるが明確ではない。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径120cm、短径98cmの楕円形で、深さは71cmである。底面はやや凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 4 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 14層に分層される。上部の第1・2層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であるが、その他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

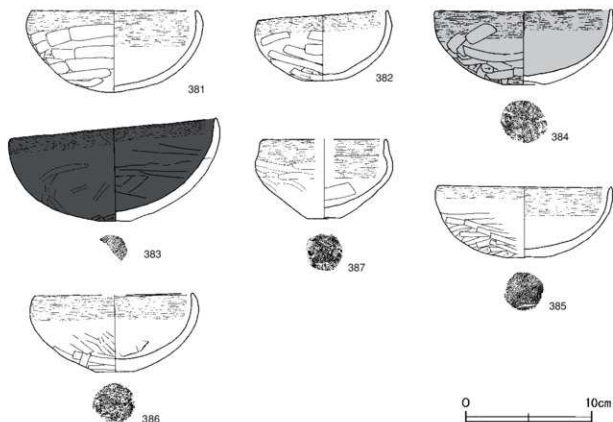
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|--------------------|
| 1 黒 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒 色 | ロームブロック微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |

5	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
9	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

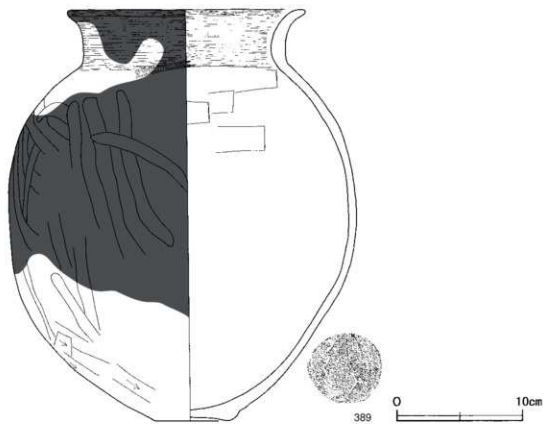
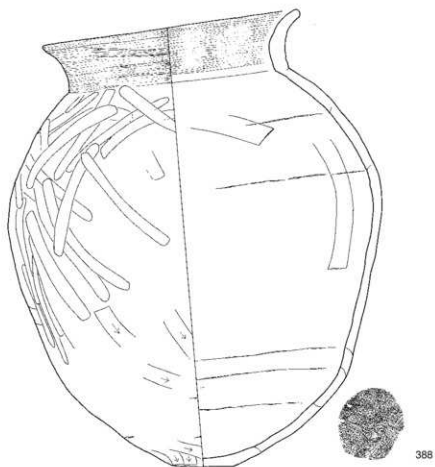
10	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
11	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
12	暗褐色	炭化物、ローム粒子・焼土粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片249点(坏20, 碗86, 高坏1, 甕140, 手握土器2), 須恵器片1点(甕), 石製品1点(紡錘車), 石製模造品7点(勾玉1, 白玉5, 双孔円板1), 滑石石核1点, 滑石剥片19点が出土している。382は西壁際, 381・387は南西コーナー部近くの床面からそれぞれ出土している。383~386・388・389は床面から覆土中層にかけて出土した土器片がそれぞれ接合したものである。Q106は西壁際床面, Q107~Q109・Q111・Q112は南東コーナー部寄りの床面からそれぞれ出土している。また, 南西コーナー部覆土最下層からは粘土塊が確認されている。

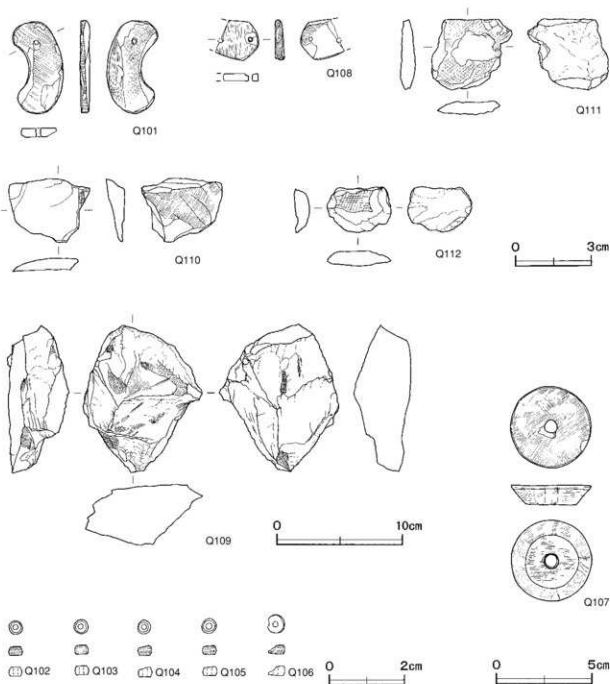
所見 焼土塊や炭化材が確認されていることから焼失住居と考えられる。また, 南西コーナー部で確認された粘土塊は, 出土の状況から壁溝や貯蔵穴が埋まった後に投棄されたと考えられる。石製模造品は白玉5点, 双孔円板1点, 勾玉1点が出土しており, 石製模造品を用いた住居廃絶に伴う祭祀的な行為が執り行われていたことを想起させる。そのほか, 滑石石核1点, 滑石剥片19点(荒削片13点, 形削片2点, 砕片4), さらには滑石製の紡錘車1点も出土しており, 石核には削痕も認められることから滑石製の模造品や製品を製作していた可能性も想定される。製作に関わる道具類が出土していないのは, 廃絶に伴い道具類を持ち出したものと考えられる。時期は, 出土土器から古墳時代中期中葉(5世紀中葉)と考えられる。



第86図 第63号住居跡出土遺物実測図1)



第87图 第63号住居跡出土遺物実測図(2)



第88図 第63号住居跡出土遺物実測図(3)

第63号住居跡出土遺物観察表 (第86~88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
381	土師器	椀	13.1	6.5	—	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へラ削り後へラナテ	床面	100% PL34
382	土師器	椀	10.2	5.5	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へラ削り後へラナテ	床面	100% PL34
383	土師器	椀	16.3	8.1	2.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へラ削り後へラ削き内面へラナテ	輪縁部	覆土中層~底面 70%
384	土師器	椀	13.9	6.0	3.8	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へラ削り後へラナテ	覆土中層~底面	70%
385	土師器	椀	13.7	5.6	3.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面へラ削り後へラナテ	覆土中層~底面	70%
386	土師器	椀	12.4	6.4	3.1	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内面ナテ	体部外面下端へラ削り	覆土中層~底面	60%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
287	土師器	椀	[9.8]	6.3	2.7	長石・石英	黄	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部ヘラナテ	床面	40%
288	土師器	甕	20.0	36.0	4.9	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部ヘラナテ 輪帯	甕土中層 ～床面	85% PL45
289	土師器	甕	18.7	32.7	5.6	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部ヘラナテ	甕土中層 ～床面	60%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q102	白玉	0.35	0.16	0.25	0.66	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	甕土中	PL52
Q103	白玉	0.38	0.13	0.23	0.06	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	甕土中	PL52
Q104	白玉	0.35	0.15	0.26	0.05	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	甕土中	PL52
Q105	白玉	0.38	0.16	0.23	0.06	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	甕土中	PL52
Q106	白玉	0.48	0.15	(0.20)	(0.06)	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	床面	PL52
Q107	砂輝石	4.20	0.60	1.00	29.60	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	床面	PL54

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q108	勾玉	3.6	2.0	0.4	4.5	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径16cm	甕土中	PL52
Q109	双孔円板	(1.6)	(1.7)	0.34	(1.4)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径15cm	床面	PL53
Q110	石核	11.7	9.5	4.9	525.0	滑石	両面に複数の擦痕	床面	PL53
Q111	薄片	2.5	3.2	0.7	4.9	滑石	両面に擦痕	甕土中	PL53
Q112	薄片	2.7	3.2	0.5	6.7	滑石	両面に擦痕	床面	PL53
Q113	薄片	1.7	2.5	0.5	3.2	滑石	両面に擦痕	床面	PL53

第66号住居跡（第89～92図）

位置 調査区南部のH 6j6区、標高24.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.80m、短軸6.76mの方形で、主軸方向はN-82°-Eである。壁高は46～70cmで、外傾して立ち上がっている。

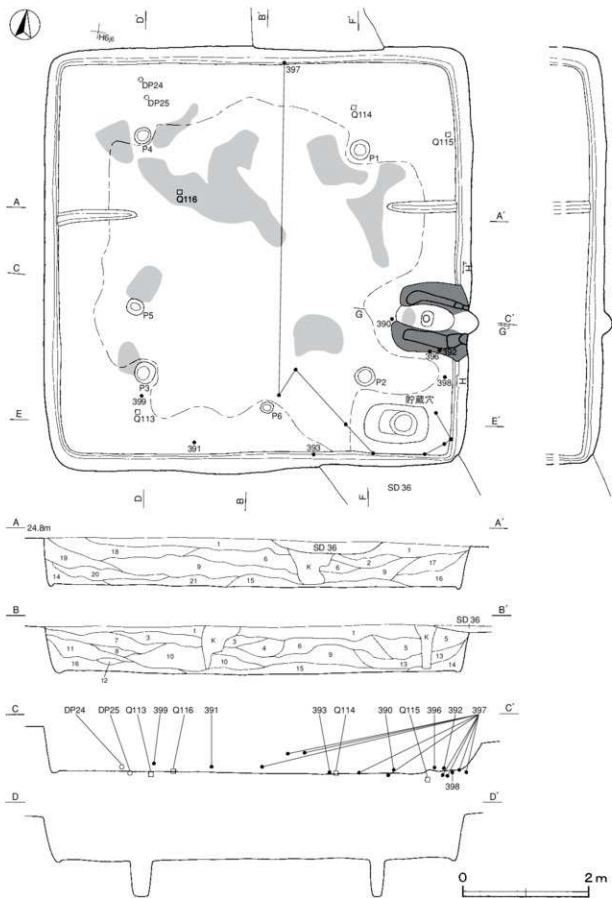
床 はほぼ平坦で、中央部と竈の周辺が踏み固められており、壁溝が全周している。間仕切り溝が、東西壁から各1条確認されている。また、中央部を除く床全体から焼土塊や炭化材が確認されており、床面の焼けた範囲も確認されている。

竈 東壁の南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで132cmである。袖部幅は111cmで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は、床面に薄く客土して使用しており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ16cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。第7・8・10層は袖部の土層であり、土器片や小石を含んでいることから、混和材として混ぜ込まれたと考えられる。第9層は支脚の基部として床上に貼り付けられた層である。煙道と北壁の間には第11・12層が表込めされている。

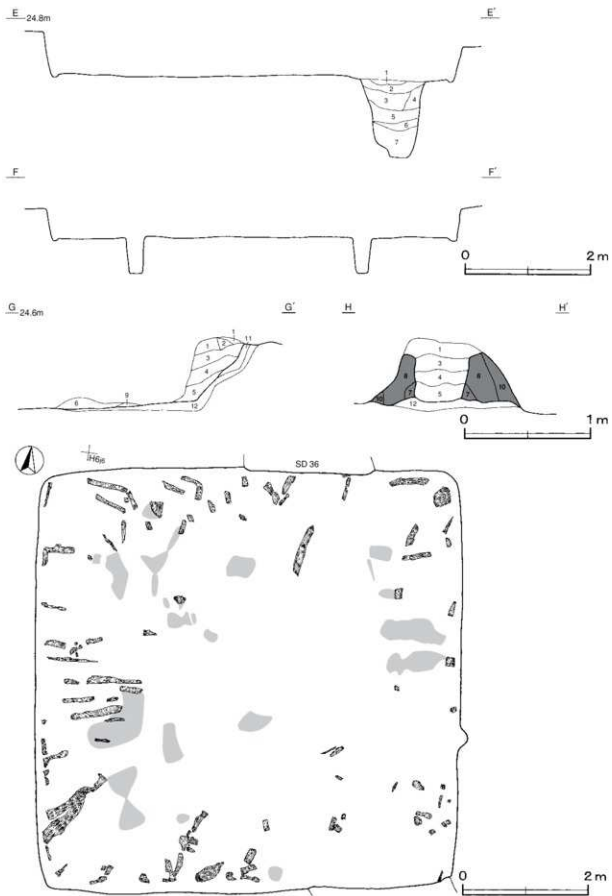
竈土層解説

1	灰黄褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	7	赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子中量、ローム・粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	8	灰黄色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子少量
3	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	9	赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
4	暗赤褐色	砂質粘土粒子微量、ロームブロック少量、炭化物・砂質粘土粒子微量	10	極暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
5	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック少量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ56～58cmで、主柱穴である。P 5は深さ9cmで、配置から出入り口施設に



第89图 第66号住居跡実測图(1)



第90图 第66号住居跡実測图(2)

伴うピットと考えられる。P 6は深さ7cmで、P 5同様、配置から竈の付設以前の出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸103cm、短軸61cmの隅丸長方形で、深さは121cmである。底面は平坦であるが段差が確認されている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部で緩やかに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量		
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量

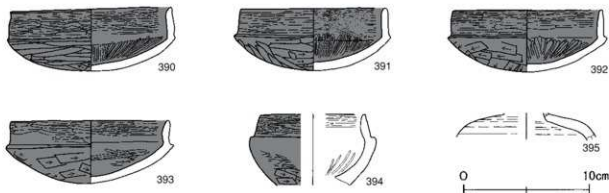
覆土 21層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

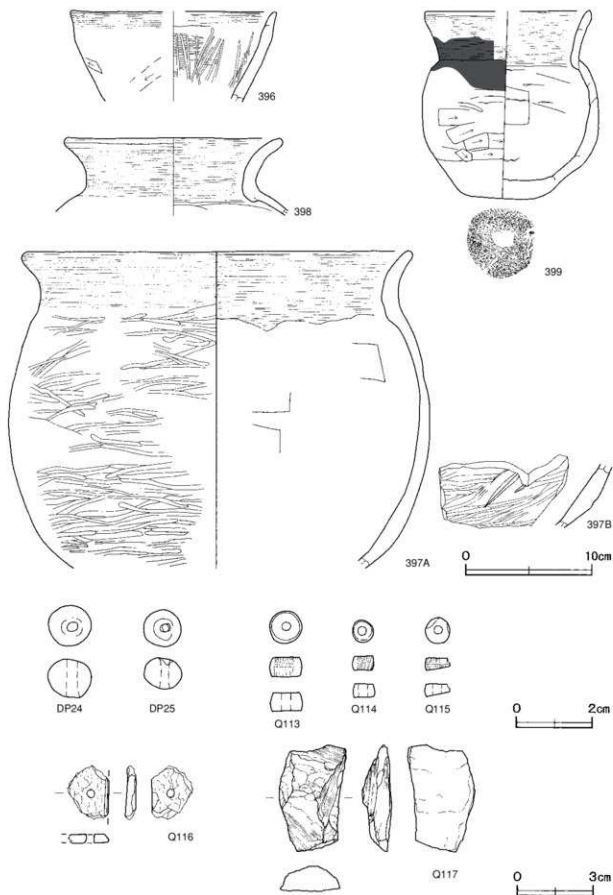
1 黒褐色	ローム粒子微量	13 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	14 暗褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量	15 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	19 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	20 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
9 褐色	ロームブロック少量	21 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
10 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		
11 黒褐色	ロームブロック微量		
12 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片336点（坏136、高坏6、鉢1、壺5、甕187、小形甕1）、須恵器片3点（甕1、甌2）、土製品2点（小玉）、石製模造品4点（白玉3、有孔円板1）、滑石剥片3点が出土している。390は竈前、392は竈石袖部内、391・393は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。Q113は南西コーナー部寄り、Q114・Q115は北東コーナー部寄り、Q116は中央部のP4寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 焼土塊や炭化材が確認されており、床面中央部も火を受けて焼けていることから焼失住居と考えられ、壁際の炭化材は、出土状況から壁材などの垂木が倒れたと想定される。炭化材4点の樹種同定の結果、樹種はクスギの丸材であることが判明しており、住居構架材の可能性が指摘されている。出入り口施設に伴うピットが2か所確認されており、P5は竈と正対していることから竈の構架に伴い作り替えられた可能性がある。竈の下に壁溝が巡っており、竈構築以前の炉の仕様を想定して床面を精査したが炉跡は確認することはできなかった。遺物は炭化材が出土している層位の上から出土しており、部材の焼却後に投棄されたと考えられる。白玉や双孔円板、小玉は床面から出土しており、石製模造品や土製品を用いた廃絶に伴う祭祀的な行為が執り行われていたことも想起させる。時期は、出土土器から古墳時代後期前葉（6世紀前葉）と考えられる。



第91図 第66号住居跡出土遺物実測図(1)



第92图 第66号住居跡出土遺物実測図(2)

第66号住居跡出土遺物観察表(第91・92図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
300	土器	坏	12.5	5.0	-	長石・石英・雲母	にひい焼	普通	口辺部外面横ナデ後へう磨き 体部外面へう磨り後へうナデ 内面へう磨き	覆土下層	100% PL36
301	土器	坏	11.4	4.9	-	長石・石英・雲母	にひい焼	普通	口辺部外面へう磨き 内面横ナデ 体部外面へう磨り後へうナデ 内面へう磨き	覆土下層	100% PL36
302	土器	坏	11.7	4.9	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	口辺部内・外面へう磨き 体部外面へう磨り後ナデ 内面へう磨き	覆土下層	90% PL36
303	土器	坏	12.4	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄黒	普通	口辺部内・外面へう磨き 体部外面へう磨り後ナデ 内面へう磨き	覆土下層	90% PL36
304	土器	坏	[8.4]	[5.6]	-	長石・石英	にひい焼	普通	口辺部内・外面へう磨き 体部外面へう磨り後へう磨き 内面へう磨き	覆土中	40%
305	印巻器	匙	-	[2.1]	-	長石	陶灰	良好	ロクロナデ 体部に北線	覆土中	5%
306	土器	鉢	[16.4]	[7.1]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう磨り後ナデ 内面へう磨き 輪縁直	覆土下層	10%
307	土器	甕	30.7	[25.2]	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう磨り後へう磨き 内面へうナデ 輪縁直	覆土中層 ～下層	60% 研査
308	土器	甕	16.8	[6.1]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	15%
309	土器	小形甕	12.9	15.0	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう磨り 内面へうナデ 輪縁直	覆土下層	60%

番号	器種	最大径	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	小玉	1.2	0.3	1.0	1.1	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL52
DP25	小玉	1.0	0.2	0.8	0.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL52
Q113	白玉	0.82	0.22	0.52	0.61	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	PL52
Q114	白玉	0.56	0.25	0.40	0.17	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	PL52
Q115	白玉	0.66	0.21	0.34	0.17	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	PL52

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q116	有孔円板	[2.2]	[1.6]	0.4	[1.6]	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径0.3cm	床面	PL53
Q117	薄片	4.2	2.5	1.2	13.2	滑石	複数の擦痕	覆土中	PL53

第67号住居跡(第93～96図)

位置 調査区南部のI 6h1区、標高25.0mの台地平坦部に位置している。

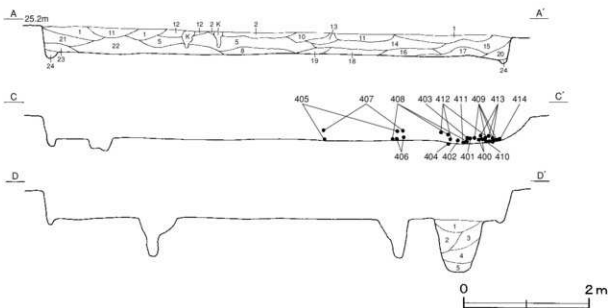
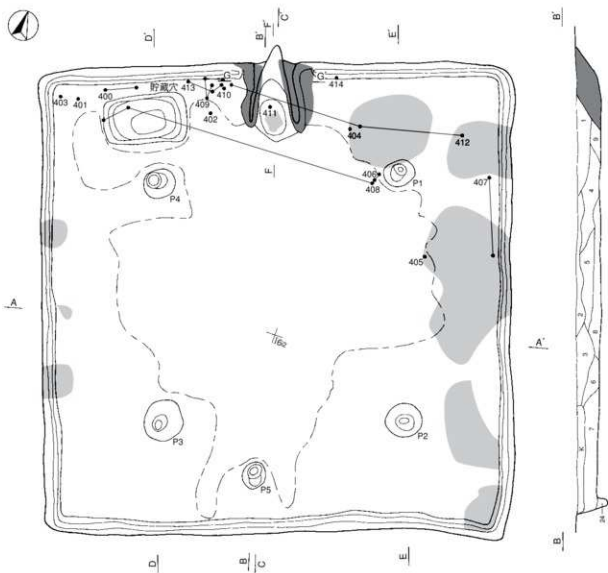
規模と形状 長軸7.46m、短軸7.44mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は34～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、南壁から中央部に向かって踏み固められている。壁溝は壁部分を除いて全周している。また、南壁を除く全ての壁際から焼土塊が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで156cm、袖部幅は110cmで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は、地山面を10cmほど掘りくぼめた後に褐色土を埋め戻して火床面として使用しており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ26cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第4・5層が天井部の崩落土層であり、第9～11層が袖部の土層である。第12～16層は竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7	暗褐色	炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量、炭化粒子微量	9	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	10	褐色	砂質粘土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
5	暗褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	11	褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
6	赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	12	褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量



第93图 第67号住居跡実測图(1)

13	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	15	褐	色	ロームブロック少量
14	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	16	褐	色	ロームブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ53～62cmで、主柱穴である。P5は深さ21cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸134cm、短軸78cmの長方形で、深さは84cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量	5	黒	褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐	色	ロームブロック・炭化物微量				

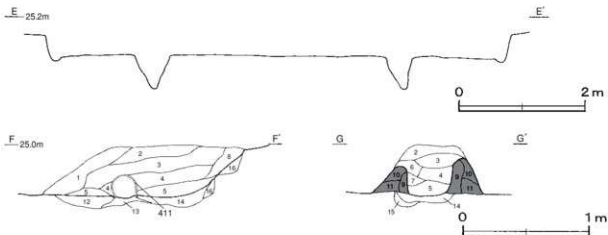
覆土 24層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

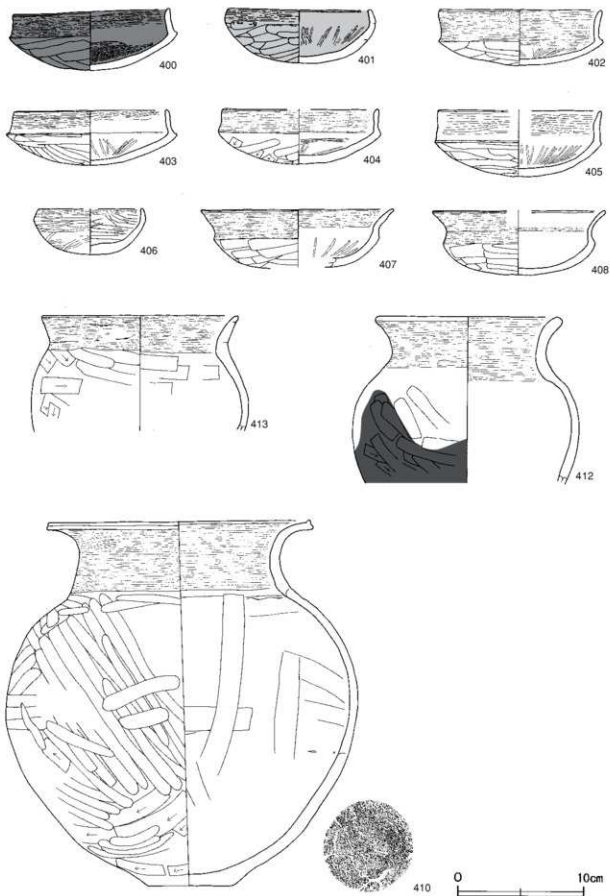
1	極	暗	褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗	褐色	ローム粒子微量
2	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗	褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	
3	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗	褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	
4	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	
5	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	暗	褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量	
6	暗	褐色	ロームブロック微量	18	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	
7	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	19	暗	褐色	ロームブロック少量	
8	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	20	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	
9	暗	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	21	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	
10	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	22	暗	褐色	ロームブロック中量	
11	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	23	黒	褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	
12	暗	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	24	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片647点(坏109, 椀7, 高坏14, 鉢1, 壺7, 甕507, 小形甕2), 土製品1点(土鈴カ), 石製模造品3点(双孔円板, 有孔円板未製品, 剣形未製品カ), 滑石剥片3点が出土している。400～403は竈左側の北壁際の覆土最下層から、404～407は北東コーナー部よりの覆土下層及び最下層からそれぞれ出土している。410は竈左袖脇の覆土最下層から409や413と折り重なるようにして出土している。411は竈内から逆位で出土しており、二次焼成を受けていることから支脚に転用されたものである。

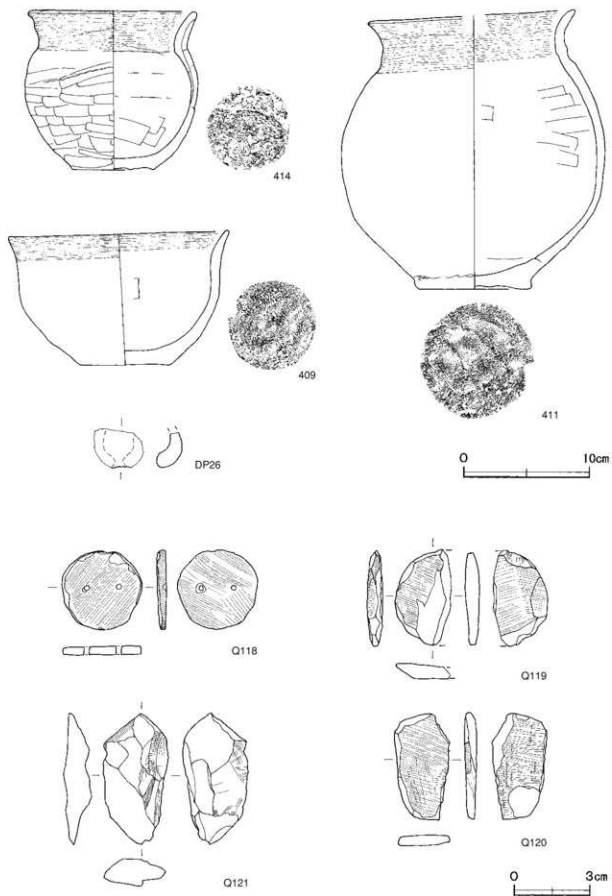
所見 炭化材は出土していないが、焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。出土遺物のほとんどが焼土塊の上から出土しており、焼失後の窪地に投棄されたと考えられる。石製模造品3点や剥片3点はいずれも遺構確認面や覆土最上層からの出土で、埋め戻しの過程で混入したと考えられる。時期は、出土土器から古墳時代後期前葉(5世紀末葉～6世紀初頭)と考えられる。



第94図 第67号住居跡実測図(2)



第95图 第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第96图 第67号住居跡出土遺物実測図(2)

第67号住居跡出土遺物観察表 (第95・96図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
400	土器	坏	12.2	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面へう磨き 内部へう磨き	覆土層下層	95% PL36
401	土器	坏	11.3	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面へう磨き 内部へう磨き 輪縁部	覆土層下層	95% PL35
402	土器	坏	12.7	4.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	60%
403	土器	坏	12.0	4.4	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	口辺部内・外面へう磨き 内部へう磨き	覆土層下層	60% PL36
404	土器	坏	[12.2]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	灰層	80%
405	土器	坏	12.7	5.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面へう磨き 内部へう磨き	覆土層下層	55%
406	土器	坏	[8.3]	3.6	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	60%
407	土器	坏	15.1	[4.6]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	60%
408	土器	坏	[13.5]	5.1	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	50%
409	土器	鉢	17.1	10.7	7.2	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	80% PL41
410	土器	甕	20.6	29.0	6.7	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	70% PL45
411	土器	甕	[16.2]	22.2	8.9	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	堀内	75% PL44
412	土器	甕	14.1	[13.2]	-	長石・石英・雲母・赤	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	40%
413	土器	甕	15.4	9.1	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	30%
414	土器	小形甕	12.8	12.6	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 内部へう磨き	覆土層下層	80%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	土器	(3.8)	4.4	1.3	(9.1)	土(長石・石英)	外面ナテ 内面磨面	覆土中	
Q118	瓦孔瓦版	3.2	3.2	0.4	5.9	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.2m	覆土中	PL53
Q119	右孔瓦版 未製品	3.9	(2.2)	0.6	(6.7)	滑石	両面平滑 研削調整	覆土中	PL52
Q120	傾斜 未製品	4.2	2.2	0.5	6.0	滑石	両面平滑 研削調整	覆土中	PL52
Q121	割片	5.2	2.6	1.1	14.5	滑石	複数の傾面	覆土中	PL53

第68号住居跡 (第97~100図)

位置 調査区南部のJ5a4区、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側は大きく攪乱を受けているため全体の確認はできなかったが、長軸8.02m、短軸は3.27mが確認できた。確認できた壁や柱穴からN-10°-Wを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は9~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部及び炉の周辺が踏み固められている。壁溝が北・西壁及び東壁の一部確認されている。

炉 2か所。炉1は中央部の北壁寄りに位置している。長径102cm、短径72cmの楕円形で、床面を2cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は全体を確認することはできなかったが、遺存する炉床部は59cmほどの円形状と考えられ、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1 黒 褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

炉2土層解説

1 暗 褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

ピット 3か所。P1・P2は深さ54cm・66cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ22cmで、性格は不明である。

覆土 4層に分層される。覆土はわずかではあるが、遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

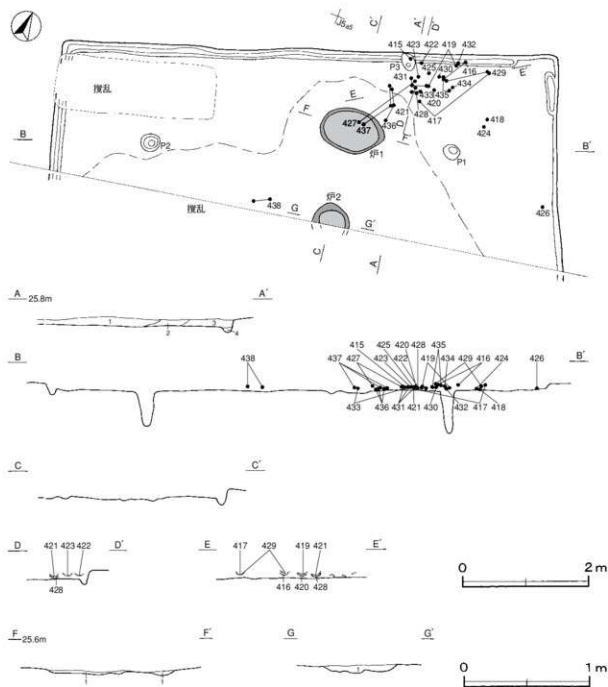
土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

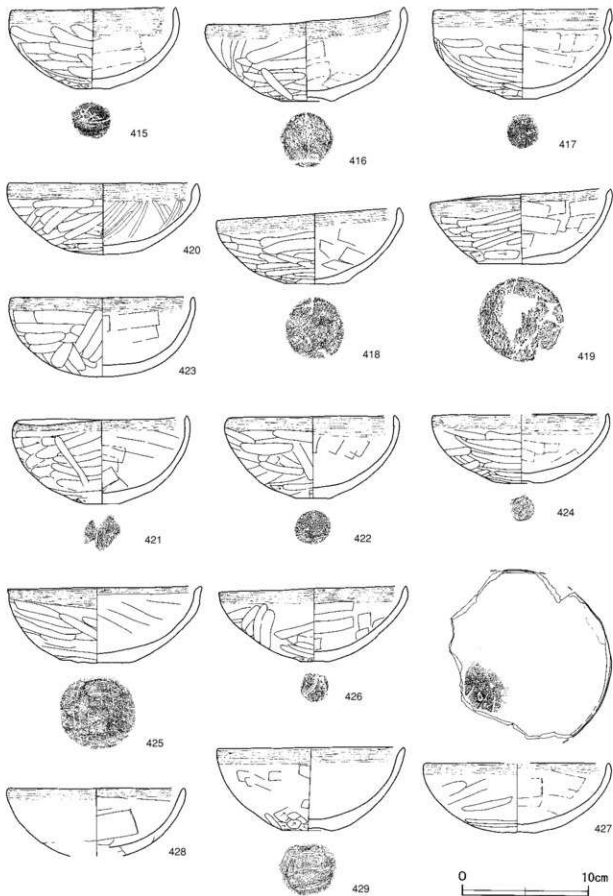
- 3 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 4 暗 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片597点（坏10、椀96、埴1、高坏2、甕488）、石製模造品1点（剣形未製品カ）、滑石剥片4点が出土している。415～425・427～437は北壁際から中央部北側にかけてまとまって出土している。438は炉2西側から出土した土器片が接合したものである。

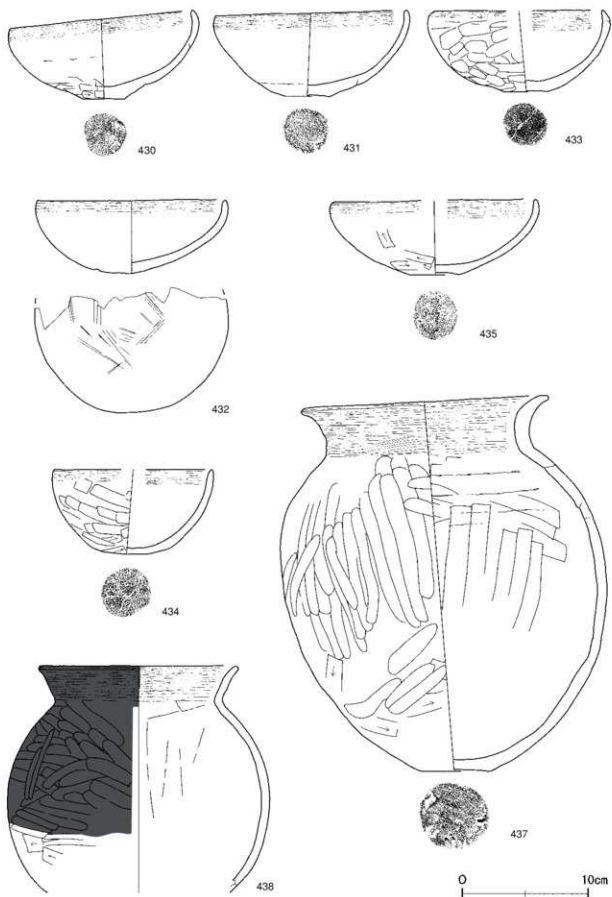
所見 遺物の大部分は北壁際から中央部北側にかけての覆土最下層から折り重なるようにして出土しており、住居廃絶後もまなく一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から古墳時代中期中葉（5世紀中葉）と考えられる。



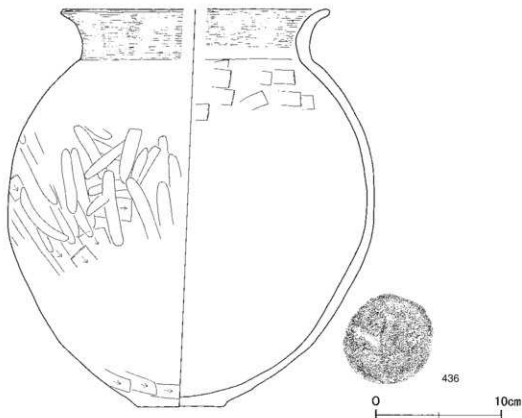
第97図 第68号住居跡実測図



第98图 第68号住居跡出土物实测图(1)



第99图 第68号住居跡出土遺物実測図2)



第100図 第68号住居跡出土遺物実測図(3)

第68号住居跡出土遺物観察表 (第98～100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考		
415	土器	椀	13.0	6.4	3.1	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	95%	PL.35
416	土器	椀	15.5	7.5	3.9	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	90%	PL.35
417	土器	椀	13.9	7.2	2.1	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	95%	
418	土器	椀	14.3	6.1	4.7	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	90%	PL.34
419	土器	椀	14.2	6.0	6.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	95%	
420	土器	椀	14.9	5.7	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	90%	
421	土器	椀	13.5	7.0	2.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	95%	PL.35
422	土器	椀	13.1	6.6	2.6	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	90%	PL.35
423	土器	椀	14.4	6.3	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	85%	PL.35
424	土器	椀	[13.8]	5.5	2.0	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ後ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	80%	PL.35
425	土器	椀	15.2	6.1	5.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	70%	
426	土器	椀	14.7	6.0	2.2	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	75%	
427	土器	椀	[14.6]	5.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	50%	特異
428	土器	椀	13.9	5.4	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ナデ 内面ヘラナデ 輪縁部	覆土下層	70%	
429	土器	椀	14.8	6.6	4.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	80%	
430	土器	椀	14.4	7.0	3.2	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 輪縁部	体部外面ヘラ張り後ヘラナデ	覆土下層	60%	
431	土器	椀	15.1	6.8	3.4	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面部調整不明 内面ナデ 輪縁部	覆土下層	60%	

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	椀	14.9	5.8	-	長石・石英・赤色 粒子	黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面稜減調整不明	覆土下層	60% 研削
433	土師器	椀	[13.3]	6.5	3.3	長石・石英・赤色 粒子	黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪縁直	覆土下層	60%
434	土師器	椀	[12.4]	6.8	3.4	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	60%
435	土師器	椀	[16.1]	6.0	4.0	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	40%
436	土師器	甕	[21.0]	31.5	6.8	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪縁直	覆土下層	50%
437	土師器	甕	19.4	29.8	5.5	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪縁直	覆土下層	35%
438	土師器	甕	15.4	[18.0]	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ後ナデ	覆土下層	30%

第73号住居跡（第101・102図）

位置 調査区東部のE 6e5区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.27m、短軸5.14mの方形で、主軸方向はN-50°-Eである。壁高は56～68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、貯蔵穴を取り囲むように4～8cmほどのわずかな高まりが確認されており、貯蔵穴周辺や炉の周辺、中央部の西壁寄りがやや踏み固められている。また、北コーナー寄りから焼土塊や炭化材が確認されている。

炉 中央部の北寄りに位置している。長径73cm、短径49cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黄 色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量

ピット 5カ所。P1～P4は深さ45～62cmで、支柱穴である。P5は深さ21cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径123cm、短径102cmの楕円形で、深さは64cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

6 暗褐色 砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

6 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

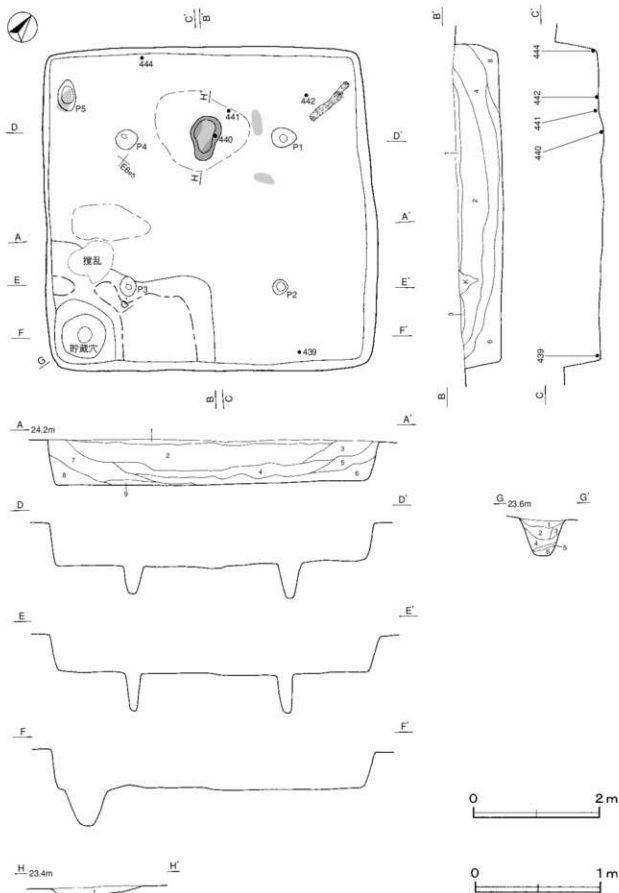
7 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

8 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

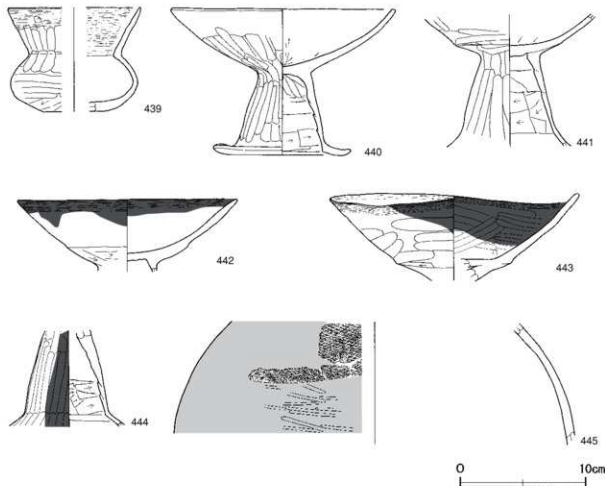
9 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片92点（増6、器台4、高環8、壺3、甕71）のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。439は東コーナー部、444は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。440は炉の火床面、442は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材はわずかであるが、焼土塊も確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代中期中葉（5世紀中葉）と考えられる。



第101图 第73号住居跡实测图



第102図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

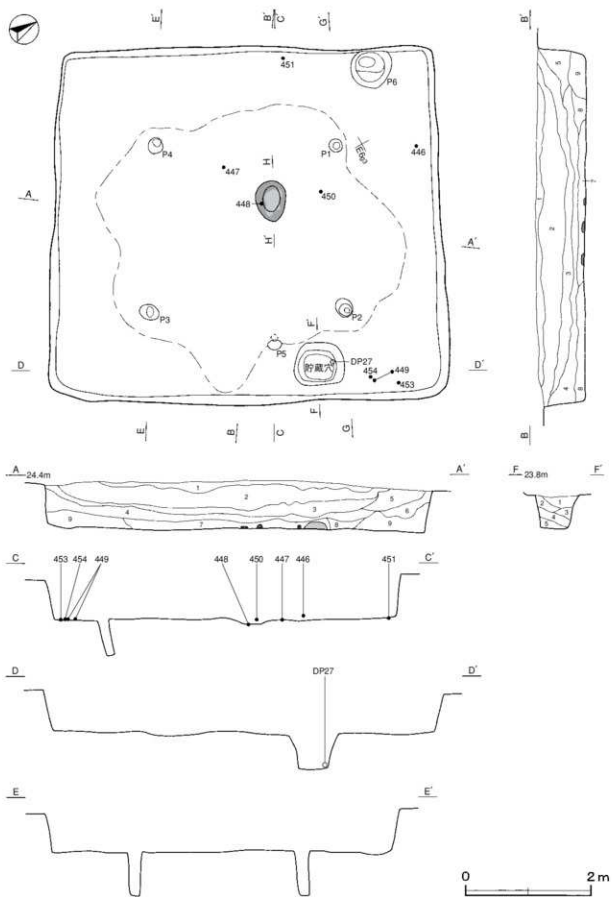
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
439	土器	埴	[10.4]	8.3	[4.8]	長石・石英	にひ・黄緑	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	60% PL.37
440	土器	高坏	17.4	11.6	10.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にひ・橙	普通	坏部・脚部外面ヘラナデ 坏部内面準域によりヘラナデ後の調整不明 脚部内面ヘラ削り後ナデ 輪轆痕	99内	75% PL.40
441	土器	高坏	-	[10.5]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部・脚部外面ヘラナデ 坏部内面準域によりヘラナデ後の調整不明 脚部内面ヘラ削り 輪轆痕	覆土下層	50%
442	土器	高坏	17.2	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	50% PL.40
443	土器	高坏	19.5	(7.0)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラ削き	覆土中	40%
444	土器	高坏	-	(7.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にひ・黄	普通	脚部外面ヘラ削き 内面ヘラ削り 輪轆痕	覆土下層	20%
445	土器	盃	-	(9.7)	-	長石・石英	にひ・黄緑	普通	体部外面上部に網目状の熟赤文 ヘラ削き	覆土中	5%

第74号住居跡 (第103~106図)

位置 調査区東部のE 6g3区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.26m、短軸5.70mの方形で、主軸方向はN-61°-Wである。壁高は63~70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、床面全体に焼土塊や炭化材が確認されており、床の一部は変色している。



第103图 第74号住居跡实测图(1)

炉 中央部やや北東寄りに位置している。長径67cm、短径49cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ56～71cmで、支柱穴である。P 5は深さ59cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ15cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部やや南寄りに位置している。長径81cm、短径69cmの楕円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土ブロック微量

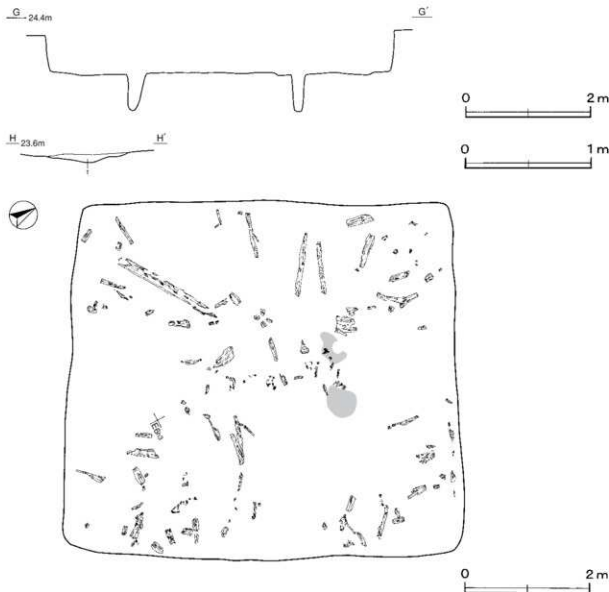
4 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

5 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 9層に分層される。第1～6層はレンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。第7～9層は焼土や炭化材を多く含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。



第104図 第74号住居跡実測図(2)

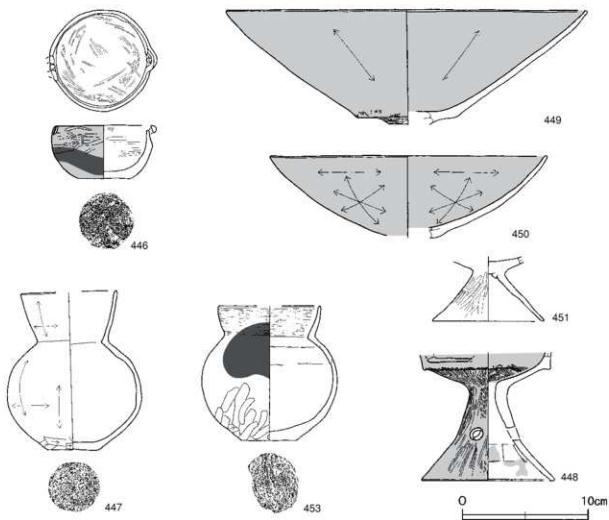
土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量
 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

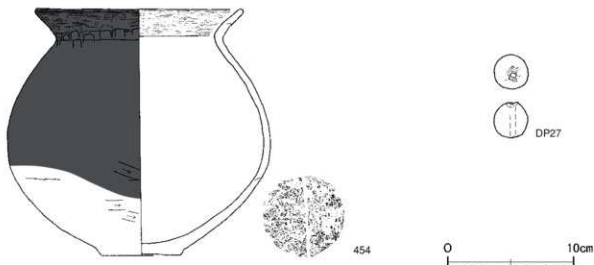
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 6 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 7 暗褐色 炭化物少量、焼土ブロック微量
 8 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
 9 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化材微量

遺物出土状況 土師器片94点（把手付碗1、埴4、器台1、高坏11、甕76、小形甕1）、土製品1点（球状土鍾）、礫1点のほかに、細かく破砕された土器片（367g）が出土している。447・450は炉の周りの床面、448は炉の火床面、453・454は東コーナー部床面からそれぞれ出土している。449も東コーナー部床面から出土しており、第73・78号住居跡から出土した坏部片と接合している。破砕された土器片は北東壁際の床面、DP27は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材が床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居である。また、炭化材4点の樹種同定の結果、樹種はクスギの丸材であることが判明しており、住居構築材の可能性が指摘されている。449は、本跡では床面、第73号住居跡では覆土下層、第78号住居跡では覆土中からそれぞれ出土しており、出土状況と遺存率から本跡の遺物として掲載した。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第105図 第74号住居跡出土遺物実測図(1)



第106図 第74号住居跡出土遺物実測図②

第74号住居跡出土遺物観察表 (第105・106図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
446	土師器	把手付鍋	7.8	4.2	4.1	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土下層	95% PL.47
447	土師器	埴	[7.5]	12.7	4.0	長石・石英	明鉄焼	普通	口辺部・体部外面丁寧なヘラ磨き 体部外面下層ヘラ磨き 内面ナデ	床面	90% PL.37
448	土師器	黄銅器台	-	10.3	10.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	器受部内・外面及び脚部外面ヘラ磨き 脚部内面ヘラナデ 器受部4意 脚部3意	室内	70% PL.39
449	土師器	高坏	28.2	9.2	-	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面ハナ目調整後丁寧なヘラ磨き	床面	40% PL.40 整合関係SI73・28
450	土師器	高坏	21.8	6.6	-	長石・石英	にぶい褐	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	床面	40%
451	土師器	高坏	-	5.1	8.9	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ磨き 脚部内面ナデ	床面	40%
452	土師器	壺	[8.0]	10.7	4.4	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き後ヘラナデ 内面ナデ 輪磨直	床面	35%
454	土師器	甕	16.1	19.6	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き後ヘラナデ 内面ナデ 輪磨直	床面	95% PL.44

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP27	球状土師	2.7	0.6	2.7	20.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	約6cm深部	

第75号住居跡 (第107・108図)

位置 調査区東部のF 5b0区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.62m、短軸3.34mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は65~73cmで、ほぼ垂直に立ち上がり、上部で外傾している。

床 はほぼ平坦であるが、特に踏み固められている部分は確認されていない。

覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

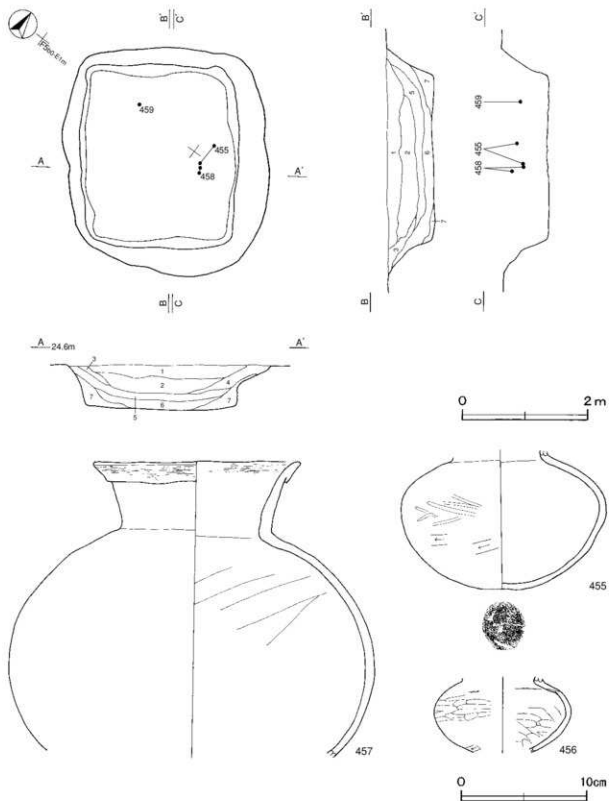
土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック微量	5 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 色	ローム粒子微量	6 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐色	ローム粒子少量	7 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

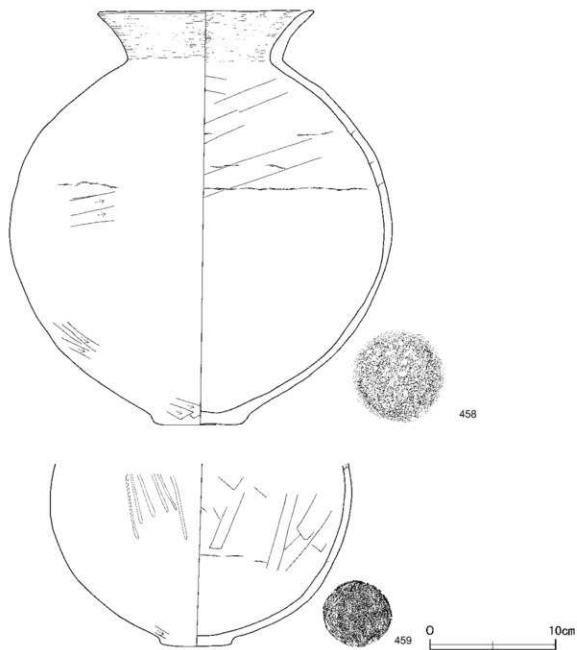
遺物出土状況 土師器片33点(埴3, 器台1, 壺1, 甕28)の他、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

455・458は北東壁寄り、459は北西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 遺物は、出土状況や覆土の堆積状況などから、埋没していく段階で廃棄されたと考えられる。本跡と同様の形状を示すのは第77号住居跡で、炉跡などの屋内施設は検出されていないが住居跡として掲載した。時期は、出土土器から古墳時代前期末葉～中期初頭（4世紀末葉～5世紀初頭）と考えられる。



第107図 第75号住居跡・出土遺物実測図



第108図 第75号住居跡出土遺物実測図

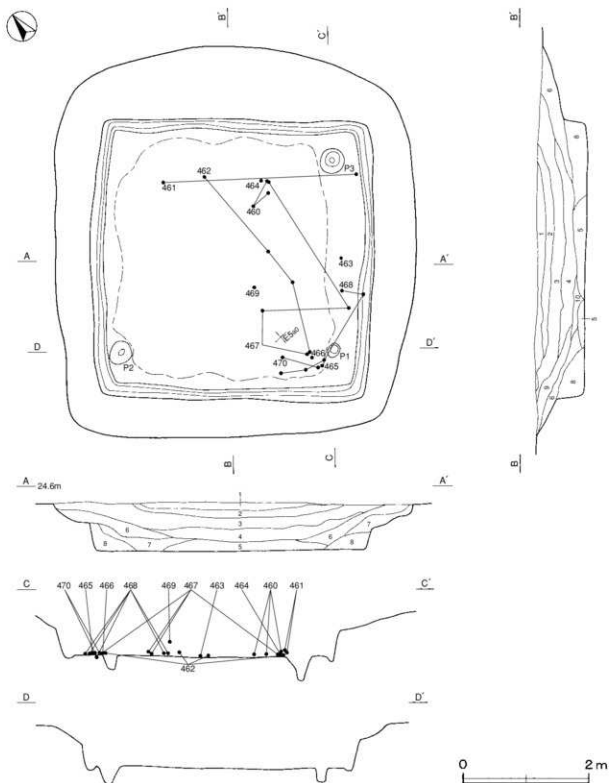
第75号住居跡出土遺物観察表 (第107・108図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	土師器	埴	-	(11.1)	3.4	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へう割り後へう磨き	覆土中層	75%
456	土師器	埴	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部外面へう割り後へう磨き 内面指頭によるナデ 輪轆痕	覆土中	30%
457	土師器	甕	16.2	(23.5)	-	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい橙	普通	割り出し口縁 口辺部内・外面横ナデ 体部外面厚減 整不明 内面へうナデ	覆土中	30%
458	土師器	甕	16.7	32.9	7.3	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面厚減調整不明 体部外面厚減のためへう 割り後の調整不明 内面へうナデ 輪轆痕	覆土中層	60%
459	土師器	甕	-	(14.5)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう割り後丁寧なナデ 一部へう磨き 内面へ うナデ 輪轆痕	覆土中層	30%

第77号住居跡 (第109・110図)

位置 調査区東部のD 5j0区、標高24.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.10m、短軸5.70mの方形で、主軸方向はN-46°-Eである。壁高は68~90cmで、外傾して立ち上がっており、上部でさらに外傾している。



第109図 第77号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁近くを除いて全体に踏み固められている。壁溝が全周している。

ピット 3か所。P1～P3は深さ22～38cmで、配置から主柱穴と考えられる。

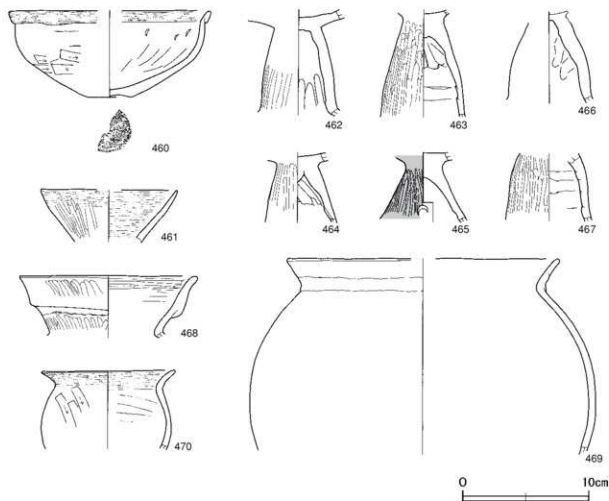
覆土 10層に分層される。第5・8層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積で、その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子微量	9 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片38点(椀1, 埴3, 器台1, 高坏8, 壺3, 甕20, 小形甕2)のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。463は南東壁側の床面, 464は北東壁寄りの覆土下層, 465は南コーナー部の床面, 469は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。460～462・466～468は接合資料で, 467は南東部の広範囲から出土した土器片が接合し, さらに, 468は南コーナー付近から出土した土器片が接合したものである。

所見 本跡と同様の形状を示すのは第75号住居跡で, 炉跡などの屋内施設は検出されていないが住居跡として掲載した。時期は, 出土土器から古墳時代前期末葉～中期初頭(4世紀末葉～5世紀初頭)と考えられる。



第110図 第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表(第110図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土師器	椀	15.5	6.9	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう磨り長ナデ 内面へうナデ 工具痕	覆土下層	40%
461	土師器	埴	[10.6]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 外面へう磨き	覆土下層	30%
462	土師器	高坏	-	(8.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面へう磨き 内面指痕によるナデ	覆土下層 -床面	30%
463	土師器	高坏	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	脚部外面へう磨き 内面指痕によるナデ 輪積痕	床面	15%
464	土師器	高坏	-	(5.5)	-	長石・石英	橙	普通	脚部外面へう磨き 内面指痕によるナデ 輪積痕	覆土下層	20%
465	土師器	高坏	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面へう磨き 内面ナデ 3意々	床面	25%
466	土師器	高坏	-	(7.3)	-	長石・石英	橙	普通	脚部外面横調整不明 内面指痕によるナデ脚部	床面	25%
467	土師器	高坏	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面へう磨き 内面ナデ 輪積痕	床面	30%
468	土師器	壺	13.8	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面へう磨き 体部外面へう磨き 内面ナデ	床面	30%
469	土師器	甕	[21.4]	(15.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	厚減調整不明 輪積痕	覆土中層	30%
470	土師器	小形甕	[10.4]	(6.3)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう磨り 内面へうナデ	床面	30%

第78号住居跡(第111・112図)

位置 調査区東部のE5c0区、標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第33号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.00m、短軸4.64mの方形で、主軸方向はN-57°-Wである。壁高は45~53cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。P2とP3の間に3cmほどのわずかな高まりが確認されている。

炉 2か所。炉1は中央部の北寄りに位置している。長径94cm、短径59cmの不整形楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は中央部の南西寄りに位置している。長径43cm、短径37cmの不定形で、床面をそのまま利用した地床炉である。炉床は火を受けて赤変している。

炉1土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------|---|------|-------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | | | |

ピット 5か所。P1は深さ7cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2~P5は深さ6~26cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部付近に位置している。長径62cm、短径54cmの楕円形で、深さは40cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

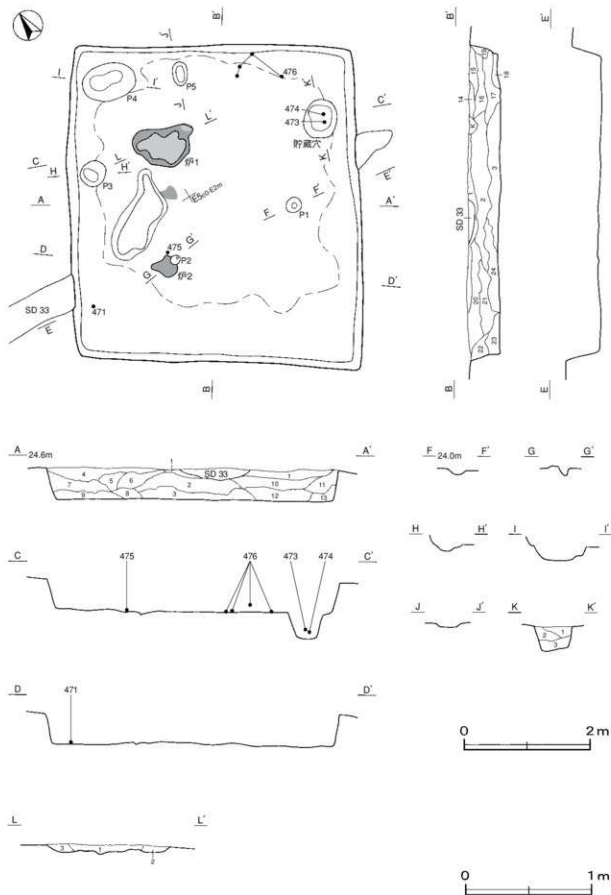
貯蔵穴土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|---------------------|---|----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | | |

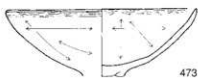
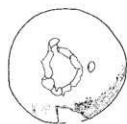
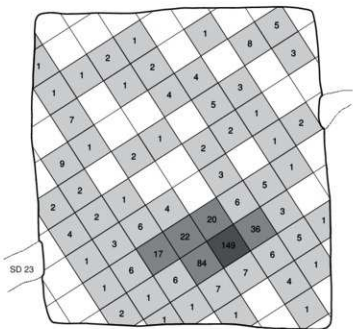
覆土 24層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

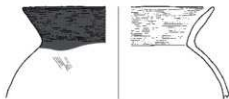
- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|----|-----|------------------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 | 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 12 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 14 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子微量 | 15 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 16 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 17 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 9 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |



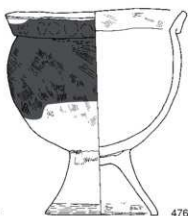
第111图 第78号住居跡実測图



473



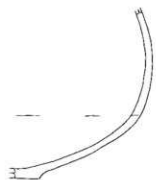
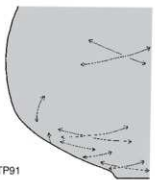
475



476



471



474



TP90



TP91



第112图 第78号住居跡出土粒状滓分布図・出土遺物実測図

19	褐色	ロームブロック中量
20	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
21	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

22	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
23	暗褐色	ローム粒子少量
24	暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片34点（器台1、高坏1、壺4、甕27、台付甕1）、粒状滓489点のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。471は西壁際のコーナー寄り、475は炉2脇の床面からそれぞれ出土している。473・474は貯蔵穴下層から重なるようにして出土している。476は北東壁寄りの床面及び覆土下層から出土した土器片が接合したものである。粒状滓はほぼ床全域から出土しているが、特に南側床面に集中している。また、高坏の坏部片が第73・74号住居跡から出土した坏部片と接合している。

所見 471の内・外面には羽口に転用された痕跡が確認されており、南西寄り床面から粒状滓が出土していることや炉跡が2か所確認されたことなどから鍛冶工房的な性格を有した遺構と考えられる。また、貯蔵穴北東側の床面に鉄が窩植したような錆色の覆土が確認されたことから、貯蔵穴脇の壁の土と共に自然科学分析を行った。分析の結果、貯蔵穴北東側の覆土には壁の土よりも赤鉄鉱の含有量が多く、鍛冶作業で生じた鉄分に由来することが指摘されている。炉1の周辺部の粒状滓の出土は50cmの方形内からは数点であり、炉2の周辺も炉1周辺より若干増えるものの多くは出土していない。粒状滓が多く検出されている区域は炉2の南東側で、350点近くが集中して出土している。出土状況から判断して作業は南コーナーで行われていたことが想定できる。また、炉1・2の間には床の高まりが確認されており、作業に伴い炉間の頻繁な移動も想定される。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。

第78号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	土師器	器台	-	(4.7)	9.1	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面へう磨き 内面ナデ 3意	床面	40% 引口転用 PL.39
473	土師器	高坏	15.0	(5.3)	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面丁寧なへう磨き	貯蔵穴下層	30%
474	土師器	壺	-	(13.6)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面丁寧なへう磨き 内面ナデ 輪轆痕	貯蔵穴下層	40%
475	土師器	甕	[15.0]	(7.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整整ナデ 内面ナデ	床面	10%
476	土師器	台付甕	13.9	16.2	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面唇頭取 口辺部内面・体部・頸部外面ハケ目調整整ナデ 体部・頸部内面ナデ 脚端磨ナデ	覆土下層 ～床面	90% PL.46
TP90	土師器	壺	-	(3.1)	-	長石・石英	橙	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面に網目状の熟赤文 口辺部内面へう磨き 内面赤彩	覆土中	5%
TP91	土師器	壺	-	(1.8)	-	長石・石英	橙	普通	頸部にボタン状瘤貼付 外面赤彩	覆土中	5%

第79号住居跡（第113～116図）

位置 調査区東部のE 5f0区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

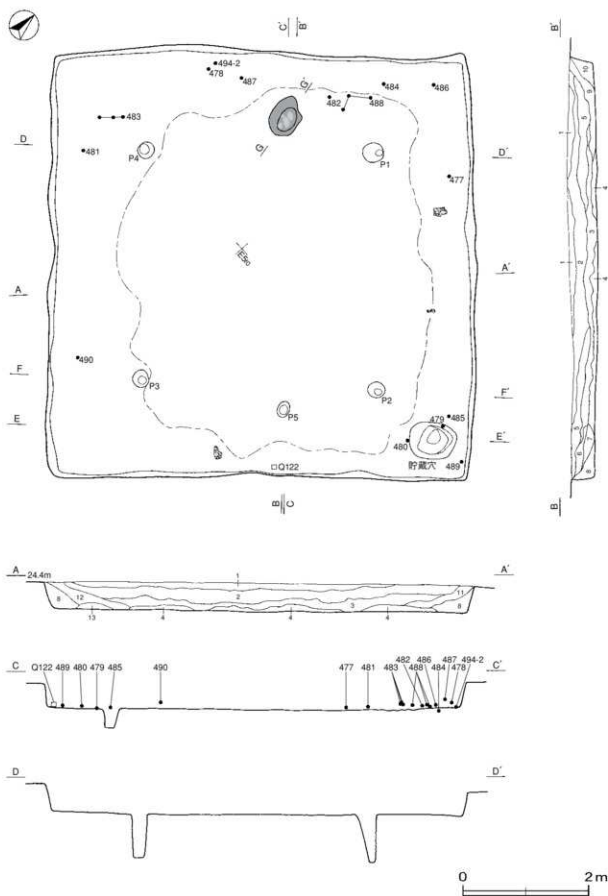
規模と形状 長軸6.78m、短軸6.73mの方形で、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は40～45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。また、北東壁と北西壁近くに焼土塊や炭化材が確認されている。

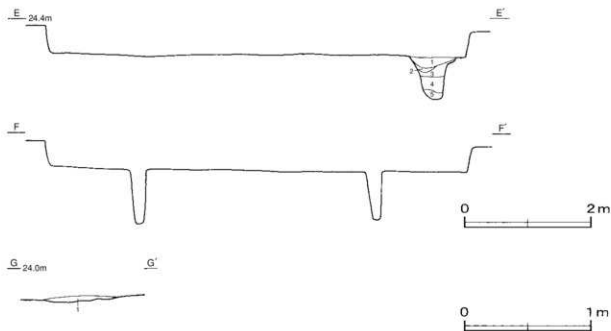
炉 北壁寄りに位置している。長径76cm、短径49cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量



第113图 第79号住居跡实测图(1)



第114図 第79号住居跡実測図2)

ピット 5カ所。P1～P4は深さ68～84cmで、主柱穴である。P5は深さ29cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径76cm、短径58cmの楕円形で、深さは69cmである。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

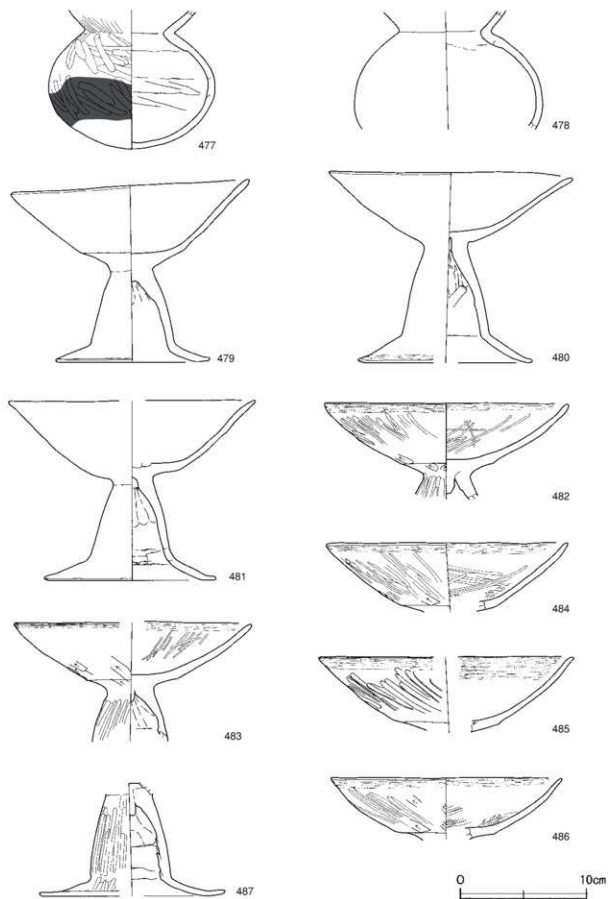
覆土 13層に分層される。第4・13層は、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積で、その他の層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

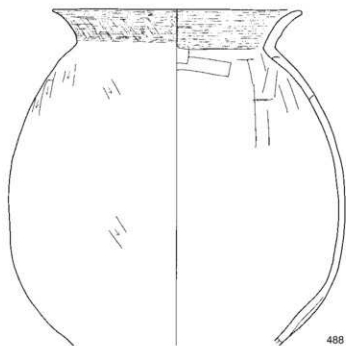
- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒 褐色 | 焼土ブロック、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片282点(埴2, 高坏74, 甕203, 小形甕3)、石器1点(砥石)、石製模造品1点(剣形)が出土している。477は北東壁際、478・487は北西壁際、482・484・486・488は北コーナー寄り、479・480・485・489は東コーナー部、481・483は西コーナー寄り、490は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。西コーナー寄りの床面から出土した高坏の脚部が第80号住居跡から出土した高坏の坏部と接合している。

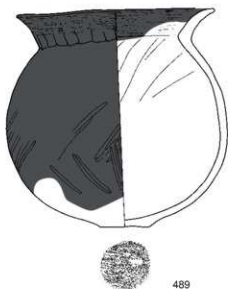
所見 焼土塊や炭化材が確認されたことから焼失住居であると考えられ、遺物も焼失の際に火を受けている。時期は、出土土器から古墳時代中期前葉(5世紀前葉)と考えられ、遺物の接合関係や主軸方向、規模などから第80号住居跡と同時期と想定される。



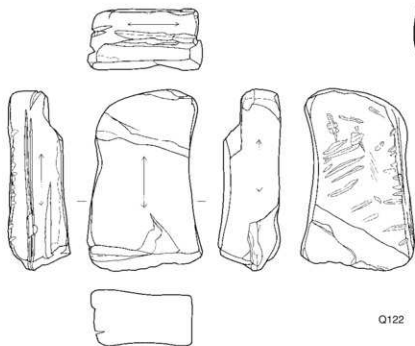
第115図 第79号住居跡出土遺物実測図(1)



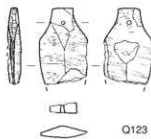
488



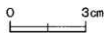
489



Q122



Q123



第116図 第79号住居跡出土遺物実測図2)

第79号住居跡出土遺物観察表 (第115・116図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
477	土器器	埴	-	[11.0]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部、外部外面へう磨き 口辺部、内部内面ナデ	覆土下層	80% PL38
478	土器器	埴	-	[9.4]	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	外面摩滅調整不明 内面ナデ 輪襷痕	覆土下層	50%
479	土器器	高坏	18.7	14.5	12.2	長石・石英・雲母	橙	普通	摩滅調整不明 脚部内面ナデ	覆土下層	90% PL41
480	土器器	高坏	19.0	15.2	[13.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	摩滅調整不明 脚部横ナデ 脚部内面ナデ	覆土下層	55%
481	土器器	高坏	[19.3]	14.2	13.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	摩滅調整不明 脚部内面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層	50%
482	土器器	高坏	19.1	17.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内、外面横ナデ 内部、脚部外面へう磨り後へう 磨き 内面へう磨き 脚部内面ナデ	覆土下層	50% PL40
483	土器器	高坏	[18.7]	9.5	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内、外面横ナデ 外部外面摩滅のためへう磨り後の 調整不明 内部内面、外部内面へう磨き 脚部内面ナデ	覆土下層	40%
484	土器器	高坏	18.9	5.5	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内、外面横ナデ 外部外面へう磨り後へう磨き 内面へう磨き	覆土下層	50%
485	土器器	高坏	[20.0]	6.0	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内、外面横ナデ 外部外面へう磨り後ナデ 内面 摩滅調整不明	覆土下層	30%
486	土器器	高坏	18.2	4.9	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黄	普通	口辺部内、外面横ナデ 外部外面へう磨り後へう磨き 内面へう磨き	覆土下層	25%
487	土器器	高坏	-	[9.0]	[14.7]	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面へう磨き 内面ナデ 輪襷痕	覆土下層	25%
488	土器器	甕	19.5	28.8	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤黄	普通	口辺部外面ヘラナデ後横ナデ 内面横ナデ 外部外面へ う磨り後へうナデ 内面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層	60%
489	土器器	小形甕	15.1	17.3	4.0	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤黄	普通	口辺部内、外面横ナデ 外部外面へう磨き後ナデ 内面 ヘラナデ	覆土下層	95% PL44
490	土器器	小形甕	[11.4]	[12.6]	-	長石・石英	明赤黄	普通	口辺部内、外面横ナデ 外部外面へう磨り後へうナデ 内面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層	75%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q122	砥石	14.3	9.1	4.8	778.0	砂岩	砥面5面の内1面は玉砥ぎ	床面	PL54
Q123	有形模造品	(3.1)	1.9	0.5	(4.0)	滑石	両面両刃状 中央部隆 全面研削調整 上部穿孔 孔径 0.15cm	覆土中	PL52

第80号住居跡 (第117～120図)

位置 調査区東部のE 5d5区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.72m、短軸6.66mの方形で、主軸方向はN-41°-Wである。壁高は56～73cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、北コーナー部から中央部にかけて広く踏み固められている。P 3の中央部側と貯蔵穴の周りに高まりが確認されている。また、床面から焼土塊や炭化材が確認されている。

炉 はほぼ中央部の北壁寄りに位置している。長径75cm、短径57cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

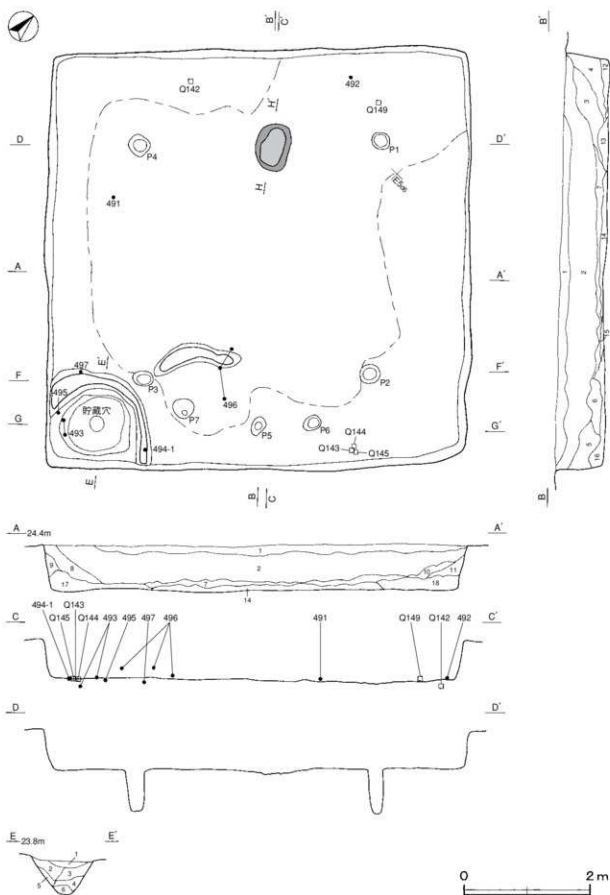
- 1 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ58～70cmで、支柱穴である。P 5は深さ59cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また、P 6・P 7は深さ21cm・29cmで、出入り口施設に伴うピットの補助的な役割を有していた可能性が推測されるが明確ではない。

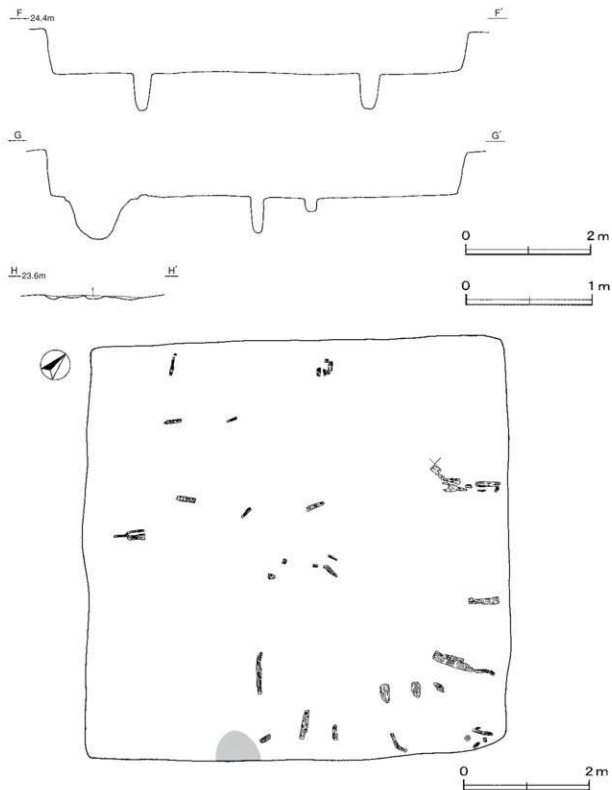
貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径114cm、短径112cmの不整形円形で、深さは71cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
5 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量



第117图 第80号住居跡实测图(1)



第118図 第80号住居跡実測図(2)

覆土 18層に分層される。第1・2層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積で、その他の層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

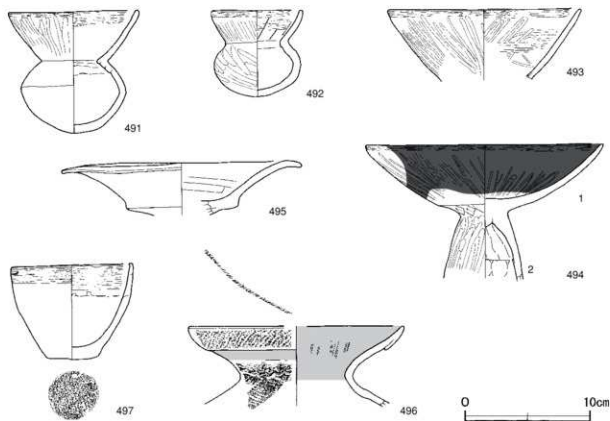
1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒 色 ローム粒子・焼土粒子微量

3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
 4 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量

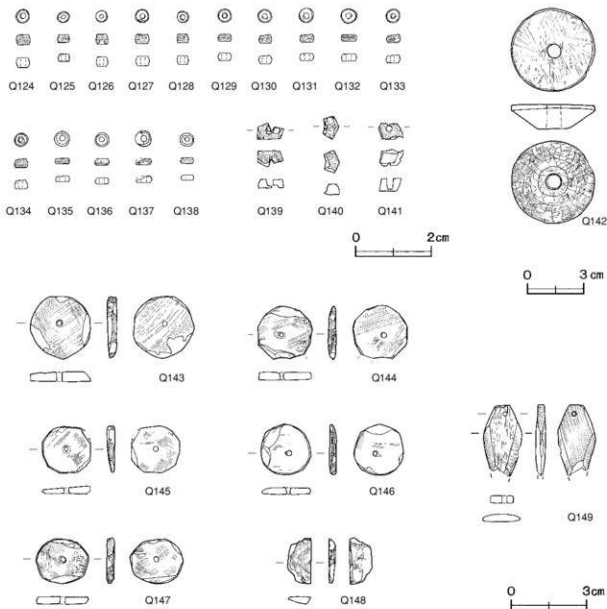
5	褐	色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13	黒	褐色	焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子微量
6	暗	褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	14	暗	褐色	炭化材・ロームブロック・焼土粒子微量
7	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量	15	黒	褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
8	黒	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐	色	炭化材中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
9	褐	色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	17	暗	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
10	暗	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	18	褐	色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化材微量
11	褐	色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量				
12	褐	色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量				

遺物出土状況 土師器片197点(埴土5, 器台8, 高坏25, 壺3, 甕145), ミニチュア土器1点(輪型カ), 石製品1点(紡錘車), 石製模造品25点(白玉15, 白玉未製品3, 剣形1, 有孔円板5, 有孔円板未製品1), 滑石剥片25点が出土している。494・497は貯蔵穴脇の床面, 493・495は貯蔵穴上層, 491は南西壁寄りの床面, 492は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は床のほぼ全域で確認されていることから焼失住居と考えられる。また, 炭化材4点(南西壁際1点, 南東壁際3点)の樹種同定の結果, 南西壁際の1点及び南東壁際の2点の樹種はクスギの丸材, 残りの1点はハンノキの丸材であることが判明しており, 住居構築材の可能性が指摘されている。石製模造品のほかに, 白玉未製品3点, 有孔円板未製品1点, 滑石剥片25点(荒削品9, 形削品12, 碎片4), さらに滑石製の紡錘車1点も出土しており, 滑石製の模造品や製品を製作していた可能性も想定される。製作に関わる道具類が出土していないのは, 廃絶に伴い道具類を持ち出したものと考えられる。貯蔵穴脇の床面から出土した494(高坏坏部)は第79号住居跡から出土した脚部(北西壁際の床面)と接合関係にあり, 出土状況と遺存率などから本跡の遺物として掲載した。時期は, 出土土器から古墳時代中期前葉(5世紀前葉)と考えられ, 遺構間の接合関係遺物の出土状況と主軸方向や規模などから第79号住居跡と同時期に廃絶されたことが想定される。



第119図 第80号住居跡出土遺物実測図(1)



第120図 第80号住居跡出土遺物実測図(2)

第80号住居跡出土遺物観察表 (第119・120図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
491	土器	埴	10.1	9.7	-	長石・石英・雲母 粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナ字後へラ磨き 内面横ナ字後ナ字 体部内・外面ナ字 輪襷痕	床面	100% PL.37
492	土器	埴	7.2	6.8	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面横ナ字後へラ磨き 内面ヘラナ字長横ナ字 体部外面へラ磨き 内面ナ字	床面	100% PL.37
493	土器	埴	15.0	(5.5)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナ字後へラ磨き	貯蔵穴上層	45%
494	土器	高坏	18.6	(10.8)	-	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナ字 环部内・外面及び脚部外面へラ磨き 脚部内面ナ字 指痕 輪襷痕	床面	75% PL.40 接合関係 S.79
495	土器	高坏	19.0	(4.2)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	环部外面磨減調整不明 内面ヘラナ字	貯蔵穴上層	50%
496	土器	甕	[17.0]	(6.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面・体部上段に瓦の半 部焼文 口辺部内面及び脚部外面へラ磨き	覆土下層	40%
497	土器	ミナチヤア	9.5	7.6	4.0	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナ字 体部内・外面ナ字 輪襷痕	床面	100% P.L.石 鏡型

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q124	白玉	0.39	0.16	0.29	0.08	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q125	白玉	0.33	0.12	0.22	0.05	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q126	白玉	0.31	0.12	0.28	0.05	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q127	白玉	0.37	0.15	0.24	(0.05)	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q128	白玉	0.32	0.14	0.24	(0.05)	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q129	白玉	0.37	0.13	0.22	0.05	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q130	白玉	0.37	0.14	0.26	0.08	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q131	白玉	0.41	0.15	0.22	0.08	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q132	白玉	0.39	0.12	0.20	0.07	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q133	白玉	0.37	0.14	0.22	0.05	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q134	白玉	0.38	0.17	0.23	0.06	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q135	白玉	0.38	0.15	0.16	0.03	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q136	白玉	0.37	0.14	0.16	0.04	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q137	白玉	0.42	0.17	0.18	0.04	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q138	白玉	0.36	0.14	0.11	0.03	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL52
Q139	白玉 未製品	(0.68)	(0.19)	0.23	(0.10)	滑石	両面平滑 全面研削調整 穿孔	覆土中	PL52
Q140	白玉 未製品	(0.57)	(0.12)	0.24	(0.08)	滑石	両面平滑 全面研削調整 穿孔	覆土中	PL52
Q141	白玉 未製品	(0.61)	(0.17)	0.30	(0.11)	滑石	両面平滑 全面研削調整 未穿孔	覆土中	PL52
Q142	粘縛草	4.50	0.83	1.30	20.90	滑石	両面平滑 全面研削調整 中央部穿孔	床面	PL54

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q143	有孔円板	2.4	2.4	0.4	(3.4)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.2cm	床面	PL53
Q144	有孔円板	2.1	2.1	0.3	(2.6)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.17cm	床面	PL53
Q145	有孔円板	1.8	1.9	0.3	(1.4)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.17cm	床面	PL53
Q146	有孔円板	2.0	1.9	0.3	(1.7)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.21cm	覆土中	PL53
Q147	有孔円板	1.7	2.0	0.3	(2.0)	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.19cm	覆土中	PL53
Q148	有孔円板 未製品	1.8	(0.9)	0.2	(0.6)	滑石	両面平滑 全面研削調整	覆土中	PL53
Q149	矩形	(2.8)	1.5	0.4	(2.2)	滑石	両面両方状 全面研削調整 上部穿孔 孔径0.15cm	床面	PL52

第81号住居跡 (第121・122図)

位置 調査区東部のE 5g8区、標高24.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.82m、短軸4.80mの方形で、主軸方向はN-52°-Wである。壁高は30~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が広く踏み固められている。焼土塊は炉周辺で、炭化材は床面のほほ全域で確認されている。

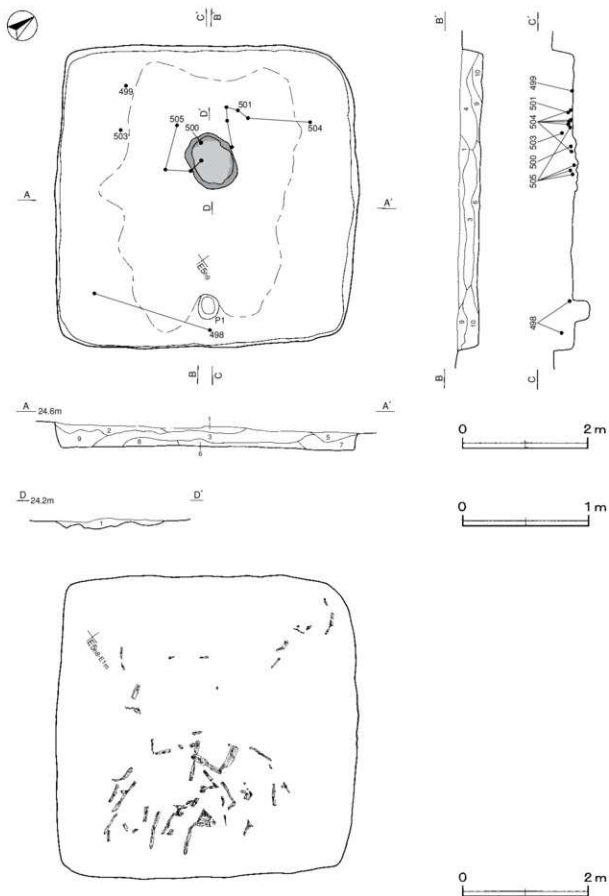
炉 中央部やや北西寄りに位置している。長径92cm、短径72cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量

ピット 深さは29cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。



第121图 第81号住居跡实测图

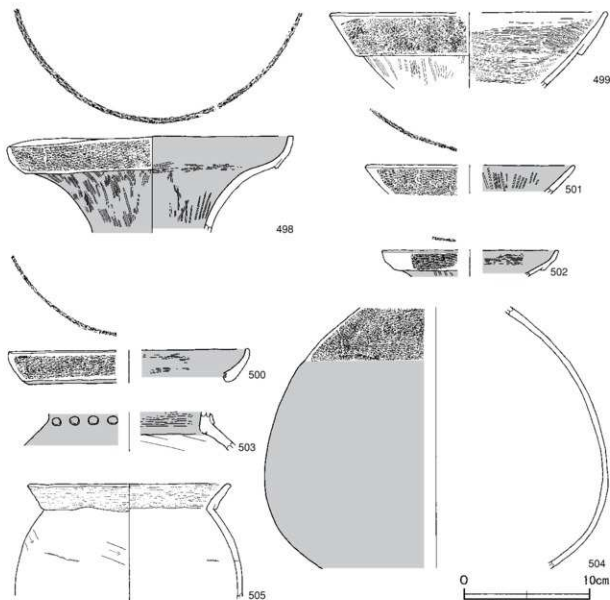
土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 6 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
 7 黒褐色 ロームブロック・炭化材微量
 8 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量
 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
 10 極暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片42点（埴3、器台3、高坏6、壺7、甕23）、石器1点（磨石）、礫1点が出土している。498は南コーナー寄りの覆土下層、南東壁の覆土中層から出土した土器片が接合したものであり、第74・82号住居跡から出土した土器片とも接合している。499は西コーナー寄りの床面、500・501・505は炉周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は住居の構築材と考えられ、床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。498は、第74号住居跡から出土した土器片2点と第82号住居跡から出土した土器片2点が接合関係にあり、出土状況と遺存率などから本跡の遺物として掲載した。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第122図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
498	土師器	壺	22.7	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面に網目状の熱糸文 口辺部内面及び頸部外面にへう磨き	覆土中層～下層	20% PL42 複合壺型 SI74-82
499	土師器	壺	[21.8]	(6.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	複合口縁 口辺部外面に網目状の熱糸文 口辺部内面及び頸部外面にへう磨き	床面	5%
500	土師器	壺	[18.9]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面に網目状の熱糸文 口辺部内面へう磨き	覆土下層	5%
501	土師器	壺	[16.3]	(2.3)	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	口唇部及び口辺部外面に網目状の熱糸文 口辺部内面へう磨き	覆土下層	5%
502	土師器	壺	[13.6]	(2.1)	-	長石・石英	灰褐色	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面に網目状の熱糸文 口辺部内面及び頸部外面にへう磨き	覆土中	5%
503	土師器	壺	-	(3.2)	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	頸部にボタン状突起付 内面へう磨き 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	5%
504	土師器	壺	-	(20.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラナデ 下丁家ナデ 内面ナデ	覆土下層～床面	20%
505	土師器	甕	15.6	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨り後ヘラナデ 内面ナデ 輪状痕	覆土下層～伊土上層	10%

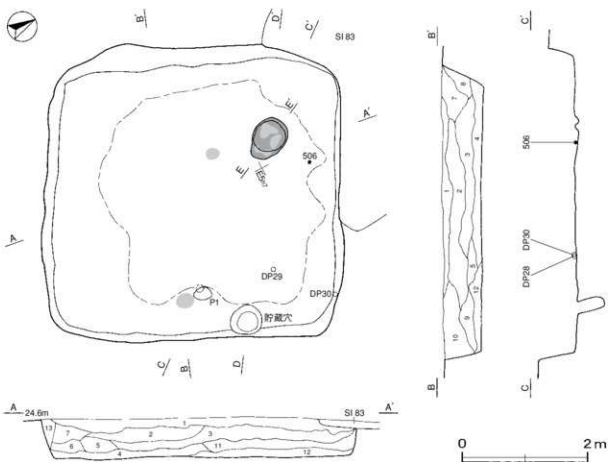
第82号住居跡 (第123～125図)

位置 調査区東部のE 5h6区、標高24.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第83号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.68m、短軸4.63mの方形で、主軸方向はN-60°-Wである。壁高は40～58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。また、南東壁際及び中央部付近に焼けた範囲が2か所確認されており、焼土が6～8cmの層をなしている。炭化材は床面のほぼ全域で確認されている。



第123図 第82号住居跡実測図(1)

炉 北コーナー部寄りに位置している。長径73cm、短径54cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 3 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、ロームブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | | |

ピット 深さは43cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東壁際に位置している。長径51cm、短径47cmの円形で、深さは27cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
|-------|------------------------|-------|------------------------|

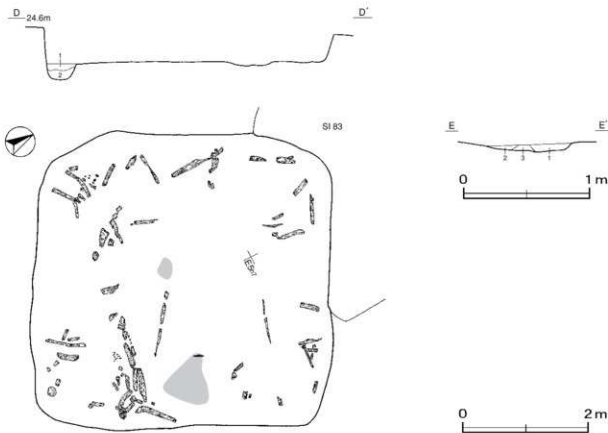
覆土 13層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

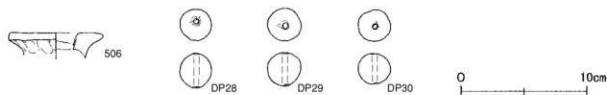
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片34点（器台1、高坏2、甕30、炉器台1）、土製品3点（球状土錘）が出土している。506は北東壁寄り、DP29・DP30は東コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は住居の構築材と考えられ、床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第124図 第82号住居跡実測図(2)



第125図 第82号住居跡出土遺物実測図

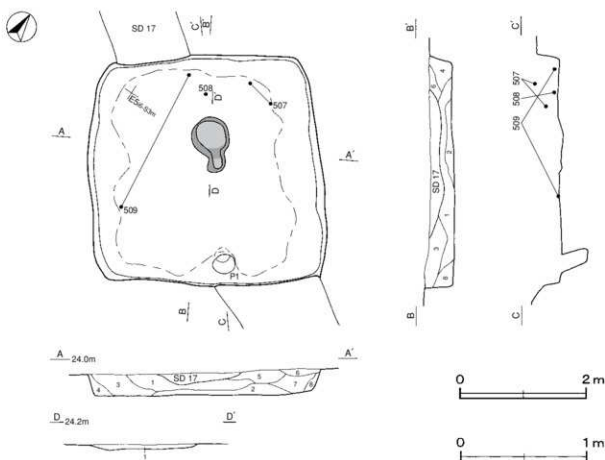
第82号住居跡出土遺物観察表 (第125図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
506	土器器	中腹台	7.4	(2.0)	-	長石・石英	にがい骨	普通	外面に衝頭痕 輪轆痕	床面	15%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	球状土罫	2.5	0.4	2.7	17.3	土 (長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP29	球状土罫	2.6	0.4	2.6	17.8	土 (長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	
DP30	球状土罫	2.6	0.4	2.4	16.4	土 (長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	

第84号住居跡 (第126・127図)

位置 調査区東部のE 5i6区、標高23.8mの台地平坦部に位置している。



第126図 第84号住居跡実測図

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.68mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は35~45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。

炉 中央部や北西寄りに位置している。長径90cm、短径61cmの不定形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

ピット 深さは43cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

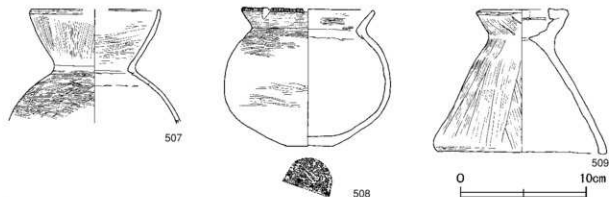
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片71点（坏3、埴1、器台3、高坏15、壺3、甕43、小形甕1、炉器台2）、不明鉄製品1点が出土している。507は北コーナー寄りの覆土上層から中層、508は北西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。509は北西壁寄りや南西壁寄りの床面から出土した土師器片が接合している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第127図 第84号住居跡出土遺物実測図

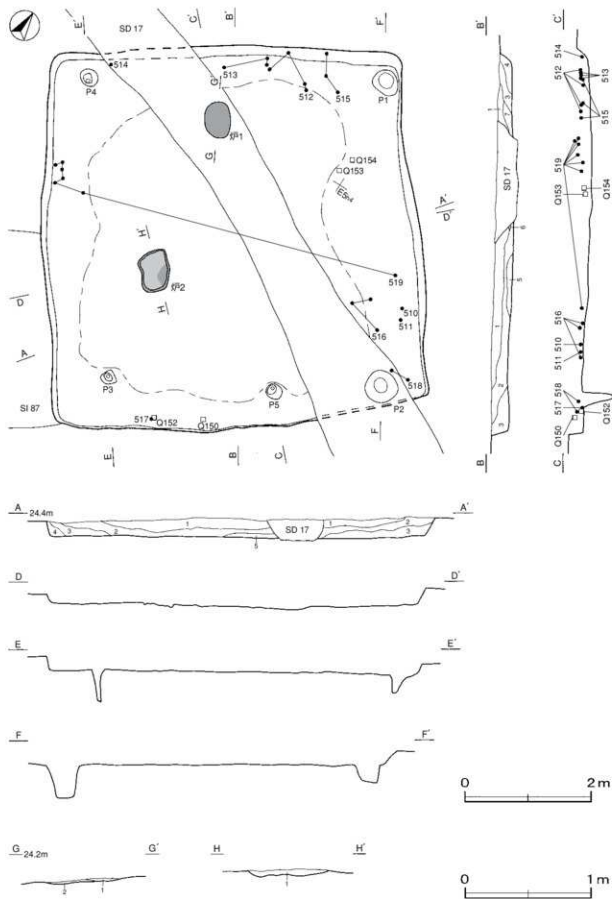
第84号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手造の特徴	出土位置	備考	
507	土師器	埴	[10.1]	9.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 輪縁直	体部外面へウ巻き 内面ナデ	覆土上層 ~中層	20%
508	土師器	小形甕	10.3	11.0	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部に胸み 口辺部内・外面及び体部外面へウ巻き 内面ナデ 輪縁直		覆土下層	85% FL42
509	土師器	中器台	7.1	11.5	13.3	長石・石英・雲母 -赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 輪縁直	体部外面へウ前り後へウ巻き	床面	80%

第86号住居跡（第128~131図）

位置 調査区東部のE5h3区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第87号住居跡を掘り込み、第17号溝に掘り込まれている。



第128图 第86号住居跡实测图

規模と形状 長軸6.06m、短軸6.04mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は24~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 2か所。炉1はほぼ中央部の北西壁寄りに位置している。第17号溝に掘り込まれており、長径58cm、短径42cmほどが確認された。形状は楕円形で、床面を掘りくぼめた地床炉と推定される。炉床は火を受けてやや赤変している。炉2は中央部の南西寄りに位置している。長径72cm、短径53cmの不整楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- | | |
|---------|----------------|
| 1 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 濃い赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

炉2土層解説

- | | |
|--------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
|--------|----------------|

ピット 5か所。P1~P4は深さ29~54cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ45cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

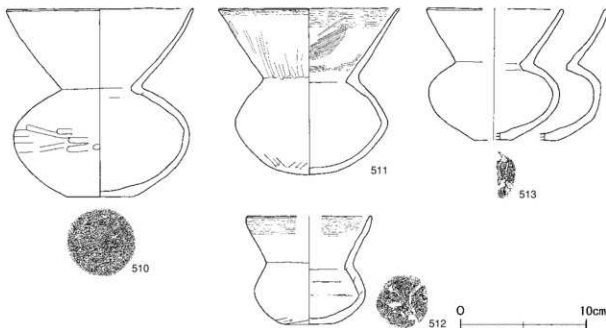
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

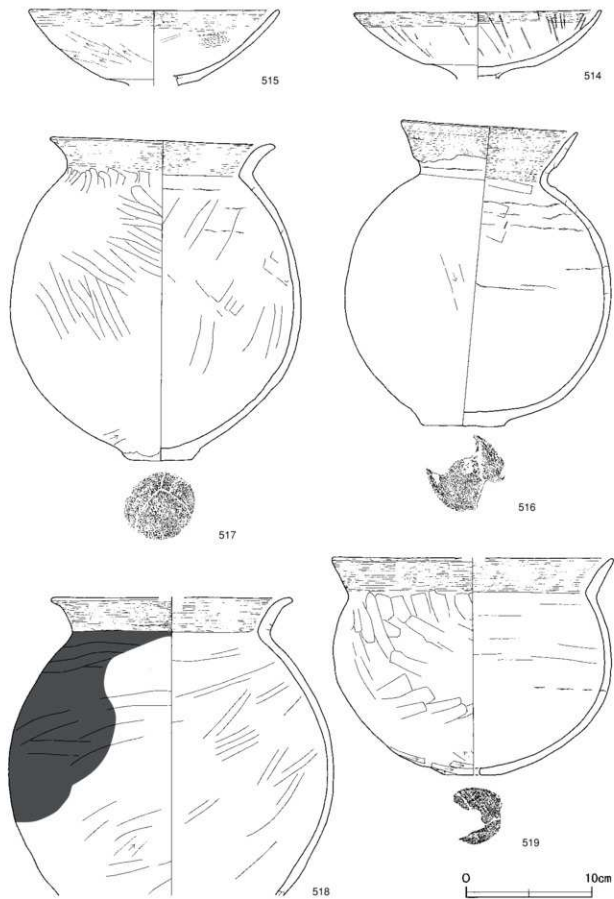
- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片279点（増45、器台4、高杯18、壺1、甕208、甌1、炉器台2）、土製品1点（球状土錘）、石器1点（砥石）、石製模造品3点（白玉、剣形、有孔円板）、滑石の原石1点、ガラス製品1点（小玉）、鉄製品1点（不明）のほかに、流れ込んだ弥生土器片1点、混入した陶器片1点も出土している。510・511は北東壁際の床面から正位で出土している。512~515は北西壁際の覆土中層、517は南東壁際の床面、516・518は東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。519は南西壁際と北東壁際の覆土上層から中層にかけて出土した土器片が接合したものである。

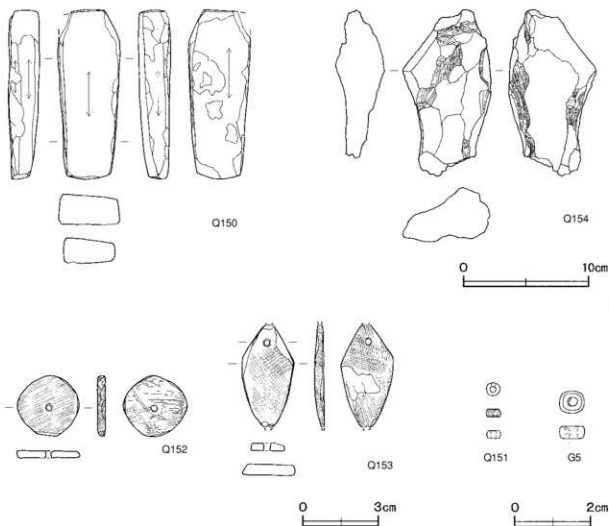
所見 時期は、出土土器から古墳時代中期前葉（5世紀前葉）と考えられる。



第129図 第86号住居跡出土遺物実測図(1)



第130図 第86号住居跡出土遺物実測図(2)



第131図 第86号住居跡出土遺物実測図(3)

第86号住居跡出土遺物観察表 (第129～131図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S00	土師器	埴	14.7	14.9	5.1	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口辺部内・外面丁寧なナデ 体部外面摩滅の島ヘラナデ 以外の調整不明 内面ナデ 輪轆痕	床面	100% PL.38
S11	土師器	埴	14.2	13.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラナデ 体部外面摩滅により ヘラ磨り後の調整不明 内面ナデ	床面	80% PL.38
S12	土師器	埴	[9.7]	8.6	4.0	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面摩滅によりヘラ磨り後 の調整不明 内面ヘラナデ 輪轆痕	覆土中層	70% PL.37
S13	土師器	埴	[10.6]	10.4	[3.0]	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	摩滅により調整不明 内面ナデ	覆土中層	40%
S14	土師器	高坏	19.4	(5.5)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘラナデ後ナデ	覆土中層	55%
S15	土師器	高坏	19.5	(6.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面摩滅によりヘラ磨り後 の調整不明 内面ヘラナデ	覆土中層	50%
S16	土師器	甕	14.0	24.1	6.5	長石・石英	橙	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨 り後ナデ 内面ヘラナデ 輪轆痕	覆土下層	45%
S17	土師器	甕	17.4	25.6	5.2	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨り後ナデ 内 面ヘラナデ 輪轆痕	床面	80% 接合関係 S179
S18	土師器	甕	[18.7]	[23.6]	-	長石・石英・雲母 ・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨り後ナデ 内 面ヘラナデ 輪轆痕	覆土下層	35%
S19	土師器	瓶	[22.0]	17.2	4.4	長石・石英・糠 ・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨り後ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪轆痕	覆土上層 ～中層	65% PL.46
番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q153	白玉	0.37	0.13	0.22	0.05	滑石	両面平滑	全面研削調整 中央部穿孔	覆土中	PL.52	
G5	小玉	0.64	0.27	0.31	0.17	青色ガラス	両面研削調整	顔面磨板 中央部穿孔	覆土中	PL.52	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	番号
Q150	砥石	13.4	4.8	2.5	(245.0)	砂岩	砥面4面	覆土中層	
Q152	有孔円板	2.4	2.5	0.3	3.3	滑石	両面平滑 全面研削調整 孔径0.18cm	床面	PL53
Q153	網型	(4.1)	2.1	0.38	(4.9)	滑石	両面平滑 全面研削調整 上部穿孔 孔径0.27cm 網形製造品	覆土下層	PL52
Q154	石核	13.2	7.0	4.3	324.0	滑石	両面に複数の擦痕	覆土下層	PL53

第87号住居跡 (第132・133図)

位置 調査区東部のE 5i3区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第86号住居、第23号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 第86号住居に掘り込まれているため全体は確認できなかったが、長軸3.18m、短軸2.20mが確認できた。確認できた壁や炉の位置からN-43°-Wを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は4～8cmで、緩やかに立ち上がっている。

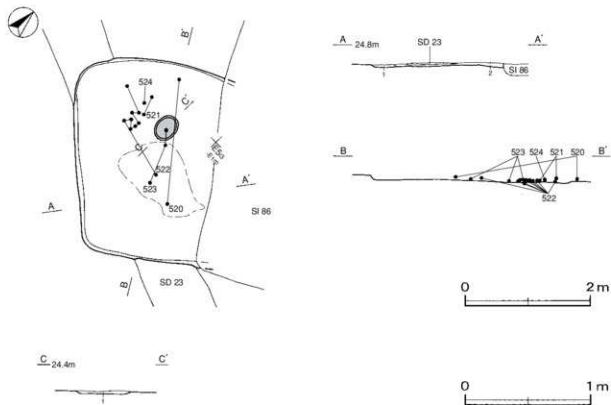
床 はほぼ平坦で、炉の南側が踏み固められている。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径45cm、短径36cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 に近い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



第132図 第87号住居跡実測図

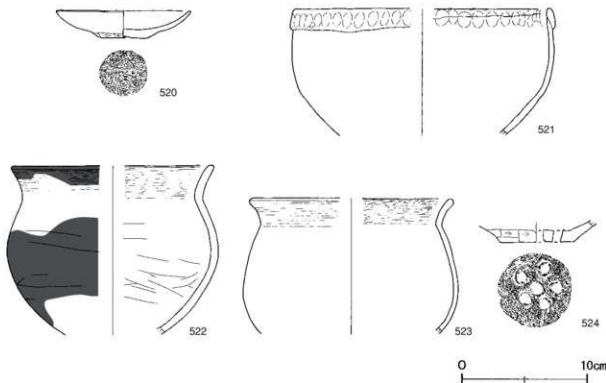
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 極暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片27点（坏1、高坏1、鉢1、甕23、瓶1）が出土している。520は北西縁際と中央部やや南東寄りの覆土下層から出土した土器片が接合している。521～524は炉の周囲の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第133図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
520	土師器	坏	10.5	2.2	3.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下層へう削り 全面丁寧ナデ	覆土下層	90% PL-47
521	土師器	鉢	[20.4]	[10.1]	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	折り返し口縁 口辺部内・外面指掘による押圧 体部内・外面ナデ 輪縁直	覆土下層	40%
522	土師器	甕	[15.8]	[13.4]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	40%
523	土師器	甕	[15.7]	[10.8]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土下層	15%
524	土師器	瓶	-	(1.7)	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下層へう削り 内面ナデ	覆土下層	5%

第90号住居跡（第134・135図）

位置 調査区東部のD5g3区、標高24.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.61m、短軸4.04mの長方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁高は15～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 北西壁寄りに位置している。長径71cm、短径49cmの楕円形である。床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 2 赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径56cm、短径45cmの楕円形で、深さは49cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量（締まり弱い） 3 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

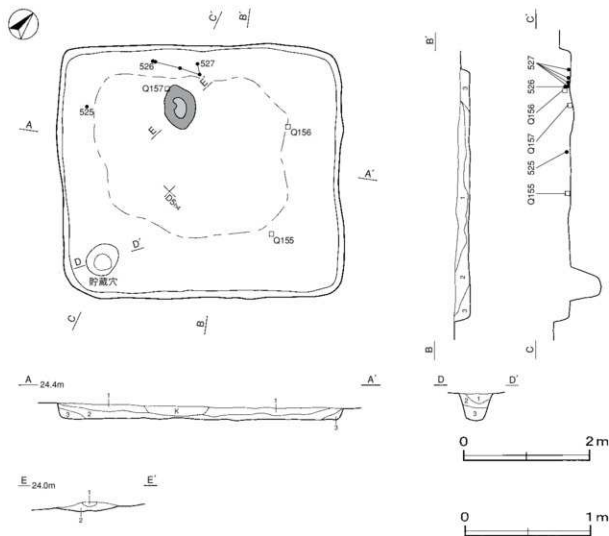
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

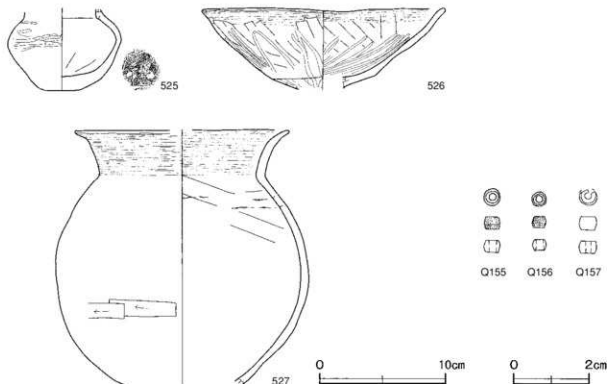
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片226点（埴2、器台2、高坏13、甕209）、石製模造品3点（白玉）、軽石1点が出土している。525は西コーナー寄り、526・527は炉と北西壁の間の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代中期前葉（5世紀前葉）と考えられる。



第134図 第90号住居跡実測図



第135図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表 (第135図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
525	土師器	埴	-	(6.5)	2.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄	普通	体部外面一部へう焼き残存 内面へうナデ	覆土下層	80%
526	土師器	高坏	19.0	(6.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部内・外面へうナデ後へう焼き	覆土下層	50%
527	土師器	甕	[16.6]	(20.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう前り後ナデ 内面へうナデ 輪轆直	覆土下層	60%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q155	白玉	0.44	0.20	0.30	0.09	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	PL52
Q156	白玉	0.37	0.18	0.30	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層	PL52
Q157	白玉	(0.4)	0.14	0.35	(0.07)	碧玉	全面研磨調整 中央部穿孔	床面	

第92号住居跡 (第136図)

位置 調査区東部のD5j3区、標高24.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 削平を受けて床面が露出した状態で確認された。検出された炉の位置や柱穴と考えられるピットの位置などから判断して長軸4.50m、短軸3.90mほどの長方形と推定され、主軸方向はN-48°-Eである。

床 はほぼ平坦である。特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 中央部の南西寄りに位置している。長径97cm、短径41cmの不定形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

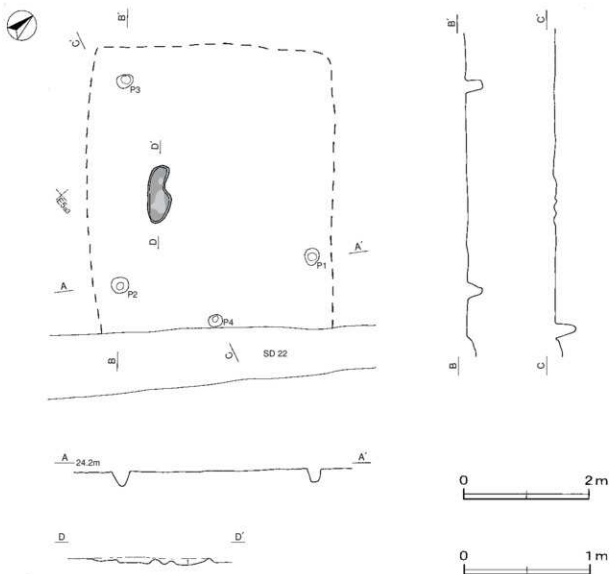
伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 4か所。P1～P3は深さ24～29cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ37cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 床面が露出した状況で検出されたため、堆積状況は確認できなかった。

所見 床面の遺存状態などから主柱穴がコーナー部に寄っていると想定され、同様の形態を示す住居跡は古墳時代前期では8軒（第77・112・113・117～121号住居跡）、古墳時代中期前葉では1軒（第86号住居跡）検出している。遺物が出土していないため明確な時期判断するのは難しいが、時期は、内部施設やその配置などから古墳時代前期～中期前葉と考えられる。



第136図 第92号住居跡実測図

第94号住居跡（第137・138図）

位置 調査区北部のD5j1区、標高23.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1・1A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.97m、短軸4.80mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は15-35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 2か所。炉1は中央部の北東寄りに位置し、長径76cm、短径46cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。炉2は炉1の南側に位置し、長径53cm、短径45cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

炉2土層解説

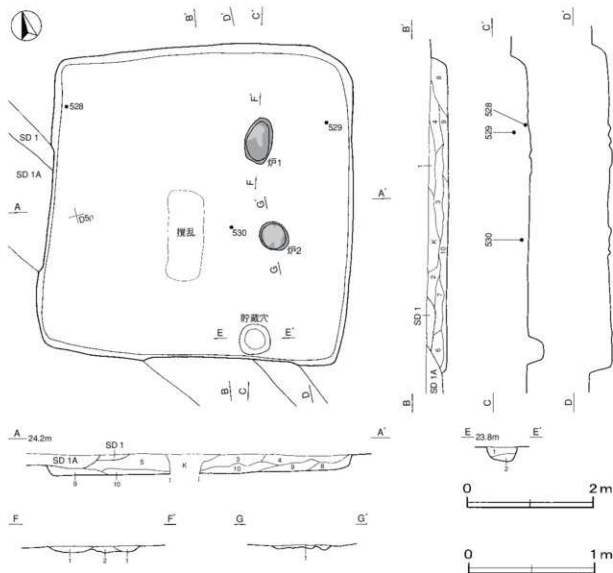
- 1 に近い赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴 南壁際の東寄りに位置している。長径53cm、短径51cmの円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量



第137図 第94号住居跡実測図

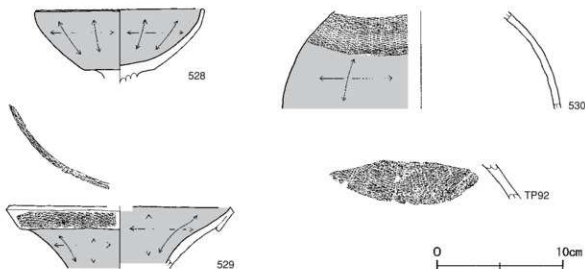
覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---|----|---------------------|----|---|----|------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 | 暗 | 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子微量 | 7 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 | 暗 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 | 黒 | 褐色 | ロームブロック微量 | 10 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片88点（器台1、高坏4、壺3、甕80）が出土している。528は北西コーナー部、530は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。529は北東コーナー寄りの覆土中層から出土しており、第80号住居跡から出土した土器片と接合している。

所見 529は、出土状況と遺存率などから本跡の遺物として掲載した。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第138図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
528	土師器	高坏	13.2	(5.9)	-	長石・石英	にひ・黄褐色	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	覆土下層	50%
529	土師器	壺	[17.4]	(4.9)	-	長石・石英	にひ・黄褐色	普通	腹合口縁・口唇部及び口辺部に網目状の熟赤文・口辺部内面及び腹部外面丁寧なヘラ磨き	覆土上層	10% 接合関係 S280
530	土師器	壺	-	(7.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にひ・黄褐色	普通	体部外面上に網目状の熟赤文・体部外面丁寧なヘラ磨き	覆土下層	5%
TP92	土師器	壺	-	(2.7)	-	長石・石英	黄褐色	普通	体部外面上に網目状の熟赤文	覆土中	5%

第95号住居跡（第139・140図）

位置 調査区北部のE 4c0区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第130号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.15m、短軸3.00mの長方形で、主軸方向はN-63°-Wである。壁高は22~61cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。焼土塊が1か所、炭化材が床全体に確認されている。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径62cm、短径57cmの不整形円で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

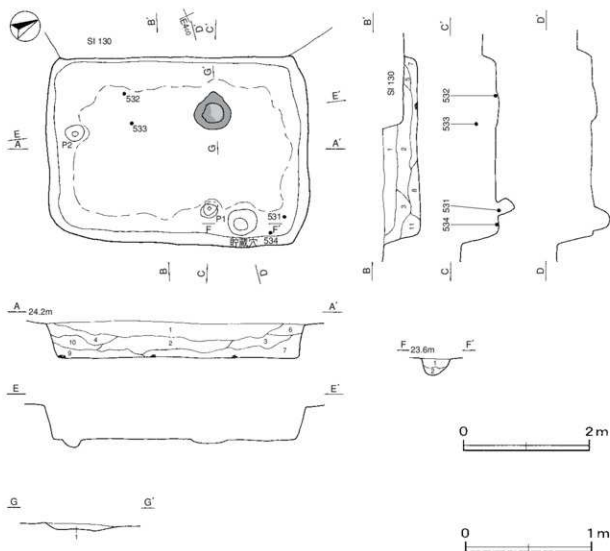
ピット 2か所。P1は深さ28cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ11cmで、立て替えによる出入り口施設のピットであると想定されるが、P1とP2との新旧関係については不明である。

貯蔵穴 南東壁際の東コーナー部寄りに位置している。径48cmの円形で、深さは28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層に分層され、第1層に直径23cmほどの炭化材が斜位で確認されている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 炭化材中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 2 褐色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量

覆土 11層に分層される。第1層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で、第2～11層はブロック状の堆積状況を示すことから、人為堆積と考えられる。



第139図 第95号住居跡実測図

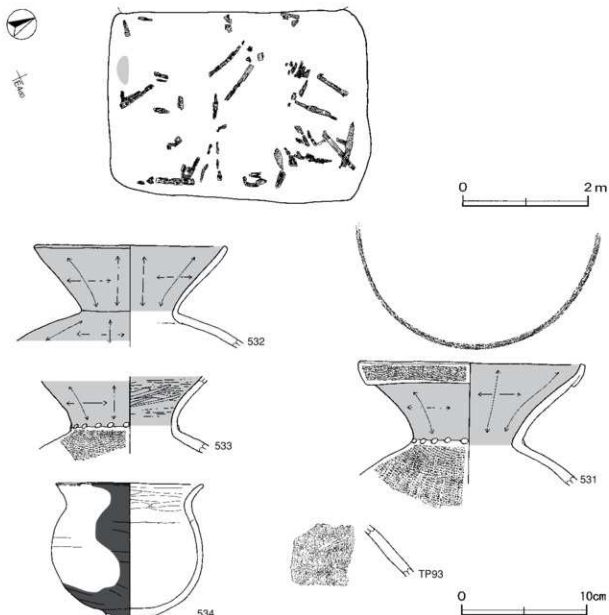
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量・焼土粒子微量
6	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

7	極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量
8	暗褐色	炭化粒子少量・ロームブロック・焼土ブロック微量
9	極暗褐色	ロームブロック少量・炭化物・焼土粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
11	褐色	ロームブロック中量・炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片30点（高坏6、壺6、甕17、台付甕1）が出土している。531・534は東コーナー部、532は西コーナー寄りの床面から出土しており、第94号住居跡から出土した土器片と接合している。533は中央部やや西寄りの覆土中層から出土している。

所見 炭化材は床面の全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。また、炭化材4点の樹種同定の結果、樹種はクスギの丸材であることが判明しており、住居構築材の可能性が指摘されている。532は第94号住居跡の土器片と接合関係にあり、遺構の時期や出土状況などから本跡の遺物として掲載した。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第140図 第95号住居跡・出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表(第140図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
530	土師器	壺	17.3	(9.6)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	複合口縁・口頸部・口辺部外面及び体部外面上位に縦目状の黒赤文・口辺部内面及び頸部・体部外面丁寧なヘラ磨き・裏面にボタン状磨き付・体部内面ナデ	床面	30%	PL42
532	土師器	壺	14.9	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	全面丁寧なヘラ磨き・輪磨痕	床面	30%	総合観察 594
533	土師器	壺	-	(6.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部外面丁寧なヘラ磨き・頸部内面ヘラ磨き・裏面にボタン状磨き付・体部外面上位に縦目状の黒赤文	覆土中層	25%	PL42
534	土師器	台付甕	11.5	(10.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面ハゲ目調整後ナデ・口辺部内面及び体部外面ヘラナデ後ナデ・内面ナデ・輪磨痕	床面	85%	
TP93	土師器	壺	-	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面上位に縦目状の黒赤文・赤彩	覆土中	5%	PL55

第96号住居跡(第141・142図)

位置 調査区北部のE4d8区、標高24.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.56m、短軸5.46mの方形で、主軸方向はN-55°-Wである。壁高は59~68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。また、中央部から西側にかけて焼けている範囲が4か所、南コーナー部では焼土塊が、南コーナーを除く全面では炭化材が確認されている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径92cm、短径53cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	赤褐色	焼土粒子中量・ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量・焼土粒子少量・炭化粒子微量
3	明褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量			

ピット 5か所。P1~P4は深さ62~69cmで、支柱穴である。P5は深さ38cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部寄りに位置している。長径76cm、短径49cmの楕円形で、深さは26cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量・炭化物・焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	5	灰褐色	焼土粒子中量・ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	炭化粒子少量・焼土ブロック・ローム粒子微量			

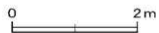
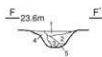
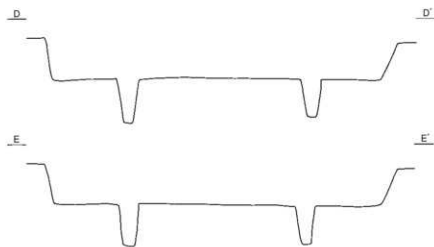
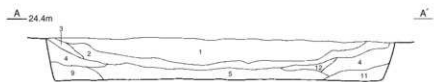
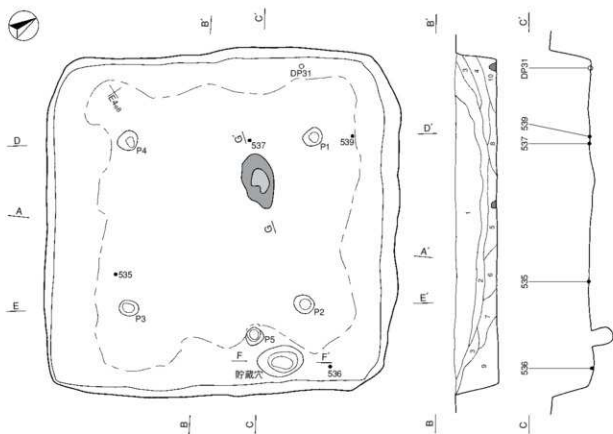
覆土 12層に分層される。第1~3層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で、その他の層は、遺物の出土状況と不規則な堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

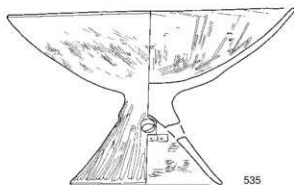
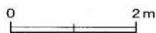
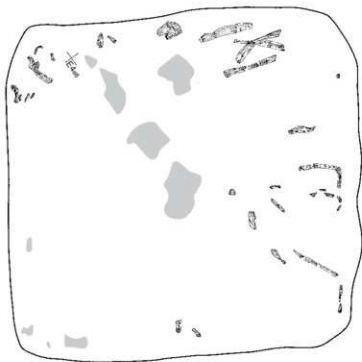
1	黒褐色	ローム粒子微量	8	黒褐色	焼土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量			
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物微量
4	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5	極暗褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物微量	11	褐色	焼土粒子少量・ロームブロック・炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片8点(高坏3、壺4、甕1)、土製品2点(球状土錘)が出土している。535は南西壁寄り、536は東コーナー部、537・539は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は住居の構築材と考えられ、床のほぼ全域から焼土塊と共に出土していることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期前葉(3世紀中葉~末葉)と考えられる。



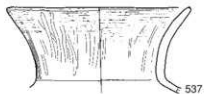
第141图 第96号住居跡实测图



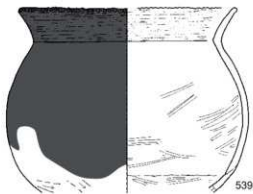
535



536



537



539



538



DP31



第142图 第96号住居跡・出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表（第142図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
S35	土器器	高坏	22.4	14.0	11.9	長石・石英	明褐色	普通	坏部外周ハケ目調整ナシ。内面及び脚部外周ハケ目調整後ヘラ磨き。器部内面ヘラ磨り。ハケ目調整後ナシ。	床面	95%	PL41
S36	土器器	高坏	16.3	16.2	-	長石・石英	にぶい青	普通	坏部内・外面摩滅によりヘラ磨き以外の調整不明。	床面	55%	
S37	土器器	壺	14.1	16.8	-	長石・石英	にぶい青	普通	口辺部内・外面横ナシ後ヘラ磨き。	床面	20%	
S38	土器器	壺	[18.2]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	口唇部にLRの華蓋織文。複合口縁。口辺部に網目状の磨き文。口辺部内面及び脚部外周に丁寧なヘラ磨き。	甌土中	10%	
S39	土器器	壺	[17.0]	(14.7)	-	長石・石英	にぶい青	普通	口唇部に網目。口辺部内・外面横ナシ。外周外周ヘラ磨り後ナシ。内面ヘラ磨き。磨き痕。	床面	30%	PL43

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	球状土師	2.5	0.6	3.1	17.8	土（長石・石英）	ナゲ 一方からの穿孔	床面	

第98号住居跡（第143～145図）

位置 調査区北部のE 4j6区、標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.64m、短軸5.52mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は50～68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。また、多量の焼土と炭化材が確認され、中央部は火を受けて赤変している。

炉 中央部やや北東寄りに位置している。長径57cm、短径41cmの不整楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 2 褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 8カ所。P 1～P 4は深さ35～62cmで、主柱穴である。P 5は深さ21cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。また、P 6～P 8は深さ43～45cmで、壁柱穴の可能性も考えられるが明確ではない。

貯蔵穴 南壁際やや東寄りに位置している。長軸93cm、短軸81cmの長方形で、深さは59cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

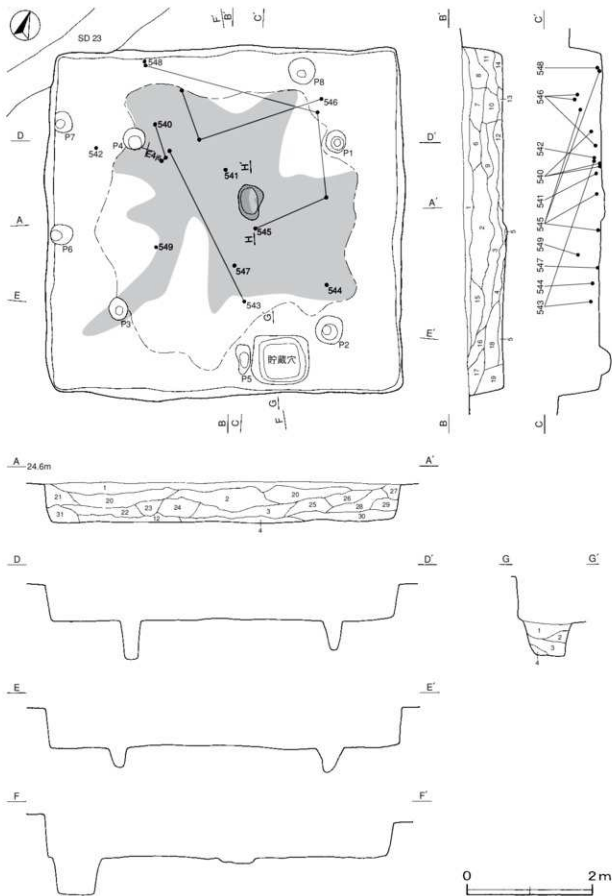
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 4 褐色 ロームブロック中量

覆土 31層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 14 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 15 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 16 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 17 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
5 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 18 灰褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 19 灰褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 20 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色 ロームブロック少量（しまりが弱い） 21 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
9 暗褐色 ロームブロック少量 22 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 23 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
11 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 24 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12 暗褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子微量 25 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
13 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 26 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量



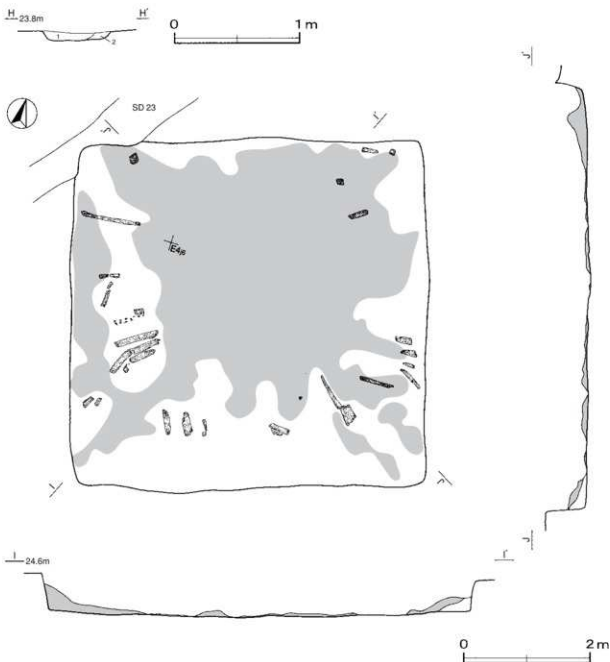
第143图 第98号住居跡实测图(1)

27 明 褐色 ローム粒子中量
 28 暗 褐色 ロームブロック微量
 29 灰 褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量

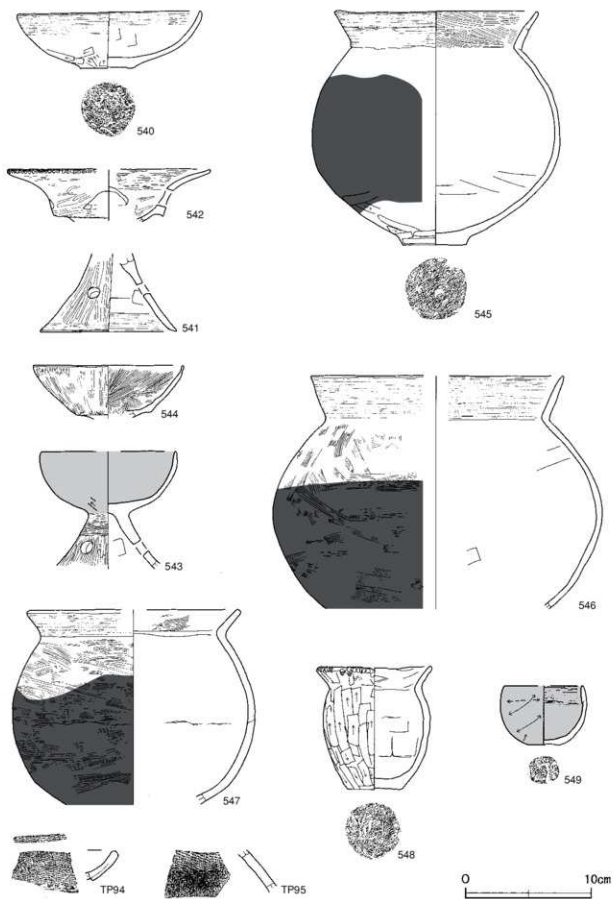
30 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
 31 赤 褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片556点（坏1、椀3、埴8、器台9、高坏30、壺1、甕503、小形甕1）、ミニチュア土器5点（椀型4、壺型1）のほかに、混入した弥生土器片6点も出土している。544はP 2付近、540・542はP 4付近、541・547・549は中央部、548は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。543は出入り口施設付近とP 4付近の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。545は中央部や北壁際の覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見 炭化材は住居の構架材と考えられ、南側に多く確認された。また、多量の焼土も確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第144図 第98号住居跡実測図(2)



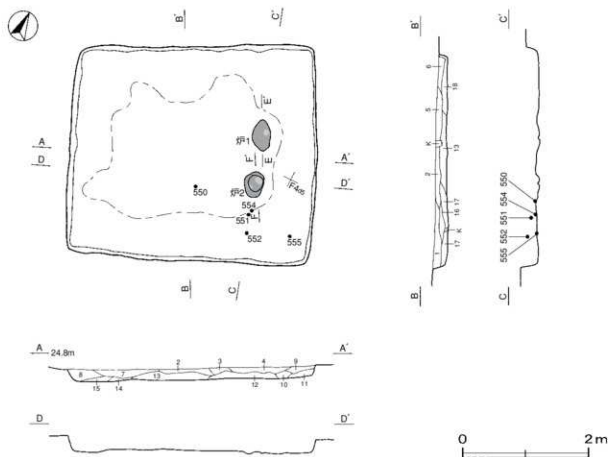
第145图 第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土土物観察表 (第145図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
540	土師器	坏	14.4	4.5	4.2	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう割り後ナデ 内面へうナデ後ナデ	覆土下層	95%
541	土師器	器台	-	16.2	10.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面へう割り 内面へうナデ後ナデ 脚端部内・外面横ナデ 3窓	覆土下層	40%
542	土師器	器台	[16.0]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部及び下部部に草体押圧 内・外面へう割り 透かし4窓	覆土下層	5%
543	土師器	高坏	[10.7]	(9.3)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	坏部外面等減によりへう割りの調整不明 内面等減調整不明 脚部外面へう割り 内面へうナデ後ナデ 3窓	覆土下層	60%
544	土師器	高坏	11.7	(4.2)	-	長石・石英	橙	普通	坏部内・外面丁寧なへう割り	覆土下層	45%
545	土師器	甕	15.8	18.6	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面ハケ目調整 体部外面へう割り後へうナデ 内面へうナデ 輪縁直	覆土中層 ～下層	45%
546	土師器	甕	[19.8]	(18.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面へうナデ	覆土上層 ～下層	20%
547	土師器	甕	[16.4]	(15.4)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部外面横ナデ 内面ハケ目調整 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ 輪縁直	覆土下層	40%
548	土師器	小形甕	8.6	9.8	4.2	長石・石英	橙	普通	口唇部に棒状工具による押圧 口辺部外面ハケ目調整後へうナデ 内面へうナデ 体部外面へう割り 内面へうナデ	覆土上層	95% PL48
549	土師器	ミニチュア	[6.2]	4.8	2.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面丁寧なへう割り 口辺部内面へう割り 体部内面へうナデ 輪縁直	覆土中層	45% 輪型 PL47
TP94	土師器	壺	-	(2.4)	-	長石・石英	橙	普通	複合口縁 口唇部及び口辺部外面に網目状の熟赤文 口辺部内面へう割り 内面赤彩	覆土中	5% PL55
TP95	土師器	壺	-	(3.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面上部に網目状の熟赤文 外面赤彩	覆土中	5% PL55

第99号住居跡 (第146～148図)

位置 調査区北部のF 4 d4区、標高24.6mの台地平坦部に位置している。



第146図 第99号住居跡実測図(1)

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.48mの長方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁高は20~27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、東コーナー部から炭化材が確認されている。

炉 2か所。炉1は東壁寄りに位置している。長径51cm、短径32cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は炉1の南側に位置している。長径43cm、短径33cmの不整楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

炉2土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

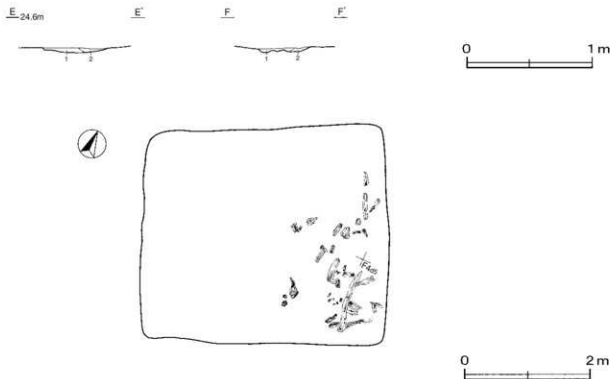
覆土 18層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

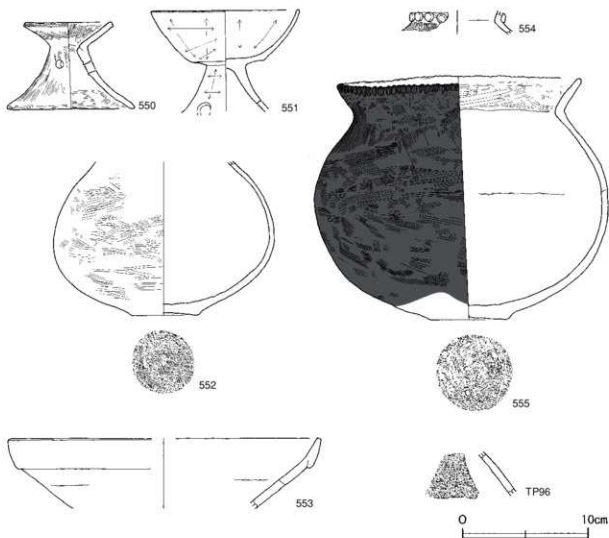
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | 炭化物多量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量 | 17 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 18 褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片63点(器台1、高坏12、壺2、甕48)が出土している。550は中央部床面、551・552は東コーナー部の覆土中層、554・555は床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材が出土していることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期前葉(3世紀中葉~末葉)と考えられる。



第147図 第99号住居跡実測図(2)



第148図 第99号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
550	土器器	器台	6.7	6.9	10.0	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部横ナデ 器底部内ヘラ磨き 器底部・脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	床面	100%	PL39
551	土器器	高坏	11.6	(8.1)	-	長石・石英	橙	普通	杯部内・外面及び脚部外周丁寧なヘラ磨き 脚部内面ナデ3意	覆土中層	80%	
552	土器器	器	-	(12.2)	5.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 内面半減調整不明	覆土中層	70%	
553	土器器	器	[22.4]	(5.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁 全面ナデ 輪縁痕	覆土中	10%	
554	土器器	器	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面丁寧なヘラ磨き 器部にボタン状痕跡付	床面	5%	
555	土器器	甕	19.1	19.4	6.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に彫み 口辺部内・外面横ナデ 口辺部内面ハケ目調整後ヘラ磨き 外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ輪縁痕	床面	96%	PL43
TP96	土器器	器	-	(3.5)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面上に網目状の熟赤文 外面赤影	覆土中	5%	PL55

第100号住居跡 (第149・150図)

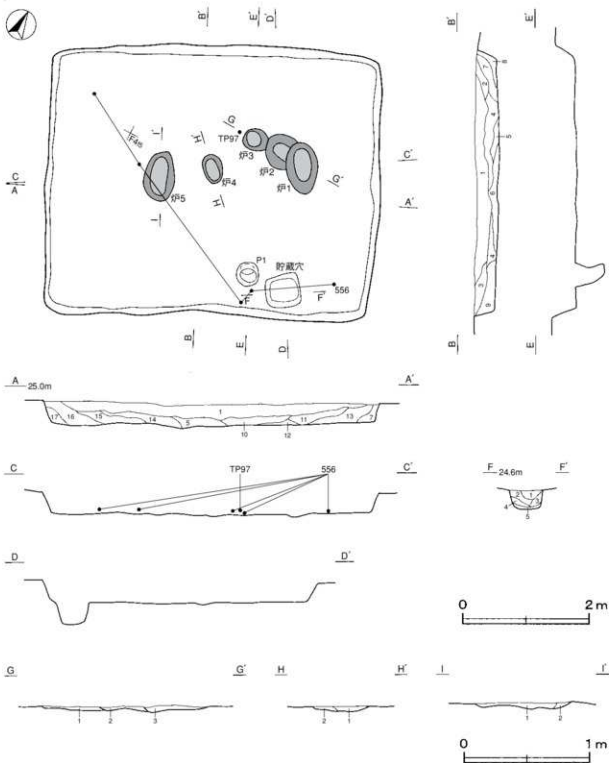
位置 調査区北部のF 4 e5区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.28m、短軸4.30mの長方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は30~38cmで、外傾し

で立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 5か所。炉1～炉3は重複しており、中央部やや北東寄りに位置している。炉1は長径84cm、短径51cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は長径58cm、短径55cmの円形、炉3は長径46cm、短径36cmの楕円形と推定され、それぞれ床面を2～3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉1～炉3とも炉床



第149図 第100号住居跡実測図

は火を受けて赤変硬化している。覆土の堆積状況と完掘状況から、炉3・炉2・炉1の順で作り替え使用したと考えられる。炉4は中央部に位置しており、長径47cm、短径32cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉5は炉4の西側に位置しており、長径79cm、短径51cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉4・炉5ともに炉床は火を受けて赤変硬化している。炉1～炉3と炉4・炉5の使用時期の差については判然としない。

炉1～3土層解説

1 濃い赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 濃い赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子微量

炉4土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

炉5土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

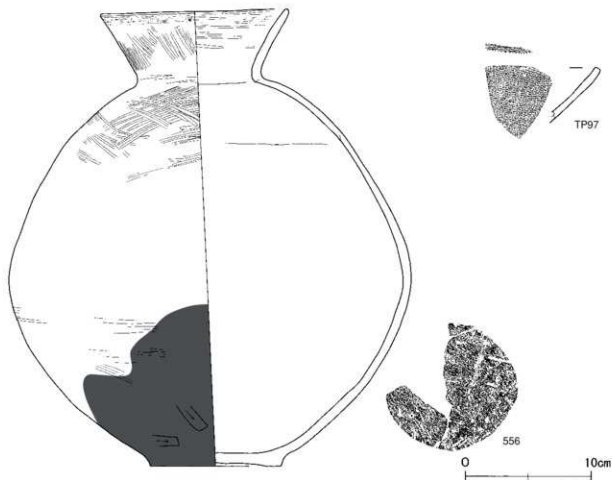
ピット 深さは49cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部寄りに位置し、長軸56cm、短軸53cmの方形で、深さは35cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子少量

4 暗褐色 ローム粒子微量
5 褐色 ロームブロック少量



第150図 第100号住居跡出土遺物実測図

覆土 17層に分層される。第1～3層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で、第4～17層はブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子微量	12	褐色	褐色	ロームブロック少量
4	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	13	褐色	褐色	ロームブロック中量
5	暗	褐色	ローム粒子少量	14	黒	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗	褐色	ローム粒子微量	16	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
8	褐色	褐色	ロームブロック中量	17	褐色	褐色	ロームブロック中量
9	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片101点(碗3, 埴1, 器台2, 高坏6, 壺3, 甕86)の他、混入した弥生土器片2点が出土している。566は散在していた土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期前葉(3世紀中葉～末葉)と考えられる。

第100号住居跡出土遺物観察表(第150図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師器	壺	147	362	104	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横十字状へう磨き 体部外面へう磨り後へう磨き 内面ナデ 輪磨き	覆土下層～床面	50%
T95	土師器	壺	-	(44)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部及び口辺部外面に網目状の磨き文 口辺部内面へう磨き 内面赤彩	覆土下層	5% PL55

第101号住居跡(第151・152図)

位置 調査区南部のF4el区、標高24.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.22m、短軸5.05mの長方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は27～44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、炉の南西側から北東側にわたって踏み固められている。壁際の床面に焼土塊が多く確認されており、炭化材も確認されている。

炉 中央部やや北東寄りに位置している。長径102cm、短径74cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

土層解説

1	極	暗褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ローム粒子微量	2	極	暗赤褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
---	---	-----	------------------------	---	---	------	-------------------------

ピット 5カ所。P1～P4は深さ54～68cmで、主柱穴である。P5は深さ20cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

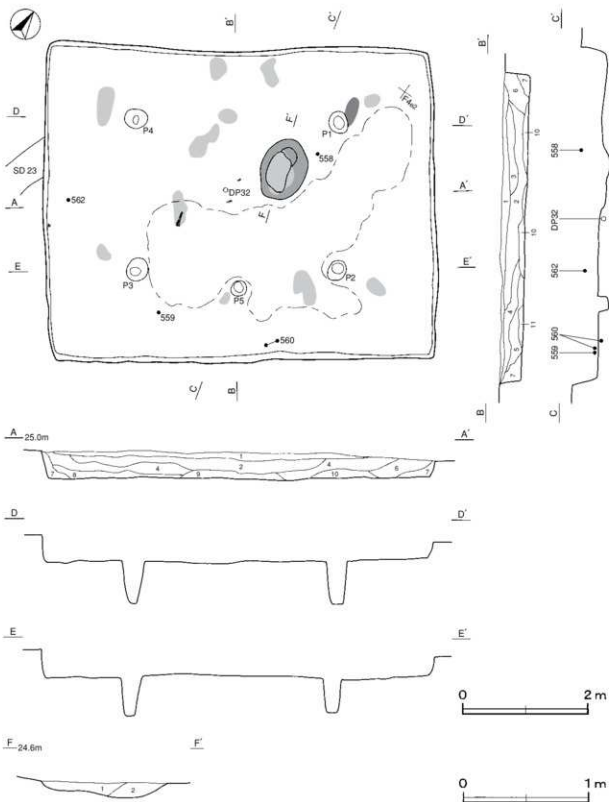
土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	褐色	ロームブロック少量
2	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8	極	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	暗	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10	暗	褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗	赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
6	暗	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量				

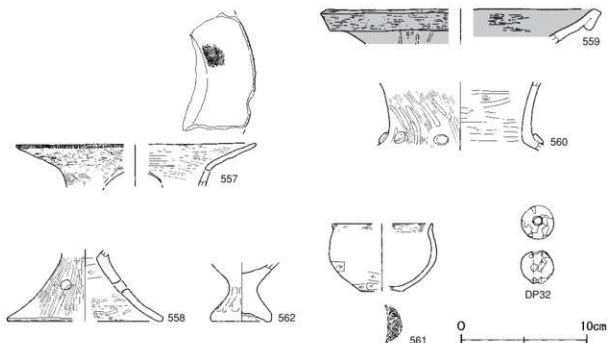
遺物出土状況 土師器片302点(埴1, 器台5, 高坏18, 壺16, 甕261)、ミニチュア土器2点(碗型・台付甕型カ)、土製品1点(球状土錘)のほかに、混入した縄文土器片1点、弥生土器片9点も出土している。559はP3付近、

560は南東壁際の覆土下層及び床面から出土している。

所見 床面から焼土塊や炭化材が確認されたことから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第151図 第101号住居跡実測図



第152図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
557	土器器	黄釉器台	[190]	(3.3)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後ナデナデ 内面ハケ目調整後ヘラ焼き 器受部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラ焼き	覆土中層	10% 柄底
558	土器器	器台	-	(5.7)	[124]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ハケ目調整後ヘラ焼き 内面ヘラ削り ハケ目調整後ヘラ焼き 3意	覆土中層	15%
559	土器器	壺	[21.2]	(2.7)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	接合口跡 口部外面横ナデナデ 内面及び脚部外面ヘラ焼き	覆土下層	10%
560	土器器	壺	-	(5.4)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	内・外面ハケ目調整後ヘラ焼き 脚部にボタン状凹凸付	覆土下層～床面	10%
561	土器器	ミニチュア	[7.8]	5.4	[3.2]	長石・石英	明赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナデナデ 器部外面等減によりヘラ削り後の調整不明 内面ナデ	覆土中	30% 碗型
562	土器器	ミニチュア	-	(4.7)	4.6	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	杯部内・外面ナデ 脚部内・外面横調整	覆土中層	40% 台付壺型

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	球状土師	2.7	0.7	2.6	(15.2)	土 (長石・石英)	ナデ 一方向からの奇孔 外面調整	床面	

第110号住居跡 (第153図)

位置 調査区北部のE 4j2区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

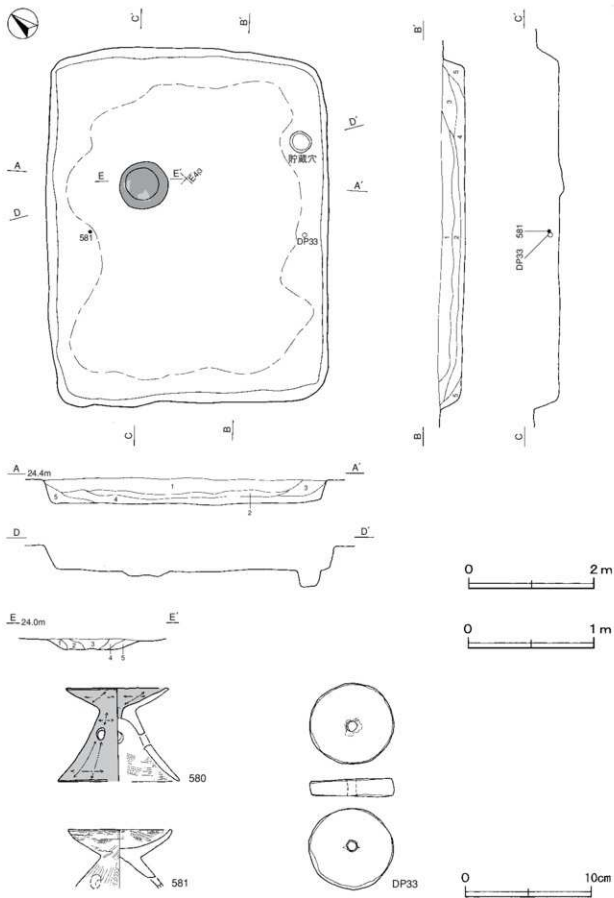
規模と形状 長軸5.60m、短軸4.48mの長方形で、主軸方向はN-47°-Eである。壁高は35～39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて広く踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径80cm、短径78cmの円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 明赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |



第153图 第110号住居跡・出土遺物实测图

貯蔵穴 東コーナー寄りに位置している。長径37cm、短径35cmの円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	黒色	ローム粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片54点（器台7、高坏6、壺2、甕39）、ミニチュア土器1点（碗型）、土製品1点（紡錘車）、碟1点が出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。581は北西壁寄り、DP33は南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。

第110号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
580	土師器	器台	7.9	7.4	[9.4]	長石・石英	におい橙	普通	器受部内・外面及び脚部外面ハケ目裏整挽丁寧なヘラ磨き、器部内面ハケ目裏整挽ナデ 3意	覆土中	75% PL39
581	土師器	器台	[8.0]	(4.7)	-	長石・石英	橙	普通	器受部内・外面輪ナデ後ヘラ磨き、器部外面ヘラ磨き内面ナデ 3意	覆土下層	60%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP33	紡錘車	6.6	0.9	1.5	76.5	土（長石・石英）	丁寧なナデ	覆土下層	

第111号住居跡（第154図）

位置 調査区北部のF4b4区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.93m、短軸3.87mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は10～17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。中央部の床面から炭化材が確認されている。

炉 2か所。炉1は中央部やや北西寄りに位置しており、炉2を掘り込んでいる。長径65cm、短径60cmの円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は炉1の南東側に位置している。炉1に掘り込まれており、確認できた規模は長径32cm、短径30cmほどで、楕円形と考えられる。床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火を受けて赤変硬化している。覆土の堆積状況から、炉2から炉1へ作り替えたと考えられる。

炉1土層解説

1 極暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

炉2土層解説

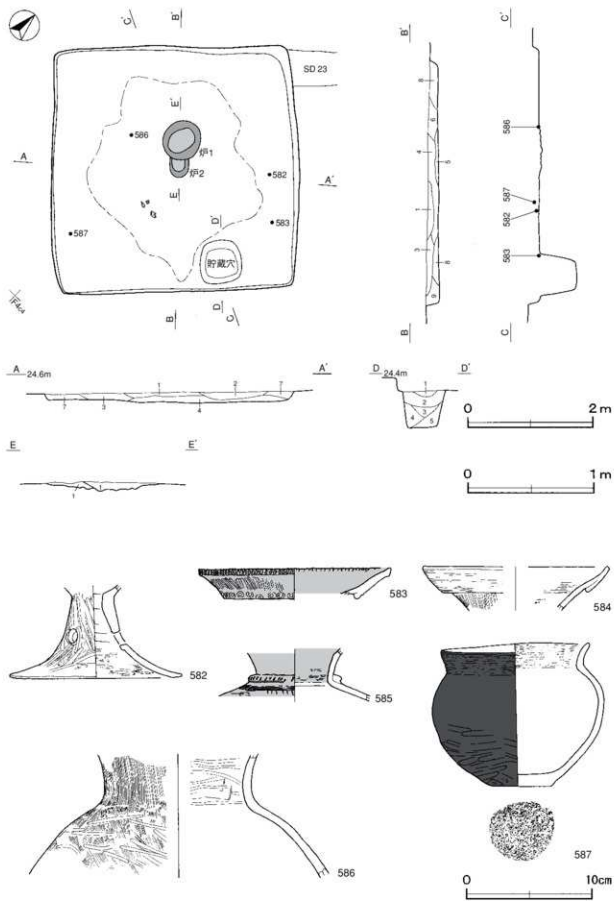
1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

貯蔵穴 南東コーナー部寄りに位置している。長軸70cm、短軸68cmの隅丸方形で、深さは61cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量
3 極暗褐色 ロームブロック少量

4 暗褐色 ローム粒子少量
5 暗褐色 ロームブロック微量



第154图 第111号住居跡・出土遺物实测图

覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片133点（器台4、高坏6、壺5、甕116、小形甕2）が出土している。582・583は北東壁寄り、586は中央部、587は南コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 床面から炭化材が確認されたことから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。

第111号住居跡出土遺物観察表（第154図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
582	土師器	器台	-	(7.4)	13.6	長石・石英・雲母 に多い霞	灰色	普通	脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 内面ハケ目調整後ナデ	覆土下層	40%
583	土師器	壺	15.1	(2.5)	-	長石・石英・雲母 に多い霞	灰色	普通	腹合口縁 口唇部及び口辺部上位にヘラ条工具による磨み 口辺部外面ヘラ磨き 口辺部下層に竹管による刺突内面滑潤調整不明	覆土下層	10%
584	土師器	壺	[14.5]	(3.5)	-	長石・石英	霞	普通	腹合口縁 口辺部外面横ナデ 内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%
585	土師器	壺	-	(4.1)	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐色	普通	口辺部内・外面ヘラ磨き 腹面に袋帯取り付け後ヘラ条工具（9本）による磨み 外部上位に御簾条工具による直注文、外部外面ヘラ磨き	覆土中	5%
586	土師器	甕	-	(9.8)	-	長石・石英・赤色 粒子	に多い霞	普通	口辺部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ後ヘラ磨き 外部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	覆土下層	10%
587	土師器	小形甕	11.6	11.4	5.2	長石・石英・赤色 粒子	に多い霞	普通	口辺部内・外面横ナデ 外部外面ヘラ磨き後ヘラナデ内面ナデ	覆土下層	60% PL43

第112号住居跡（第155・156図）

位置 調査区北部のE 4g4区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.45m、短軸5.18mの方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は60～70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、北東壁寄りから焼土塊が2か所確認された。

炉 中央部の北寄りに位置している。長径79cm、短径58cmの不整楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

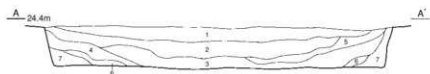
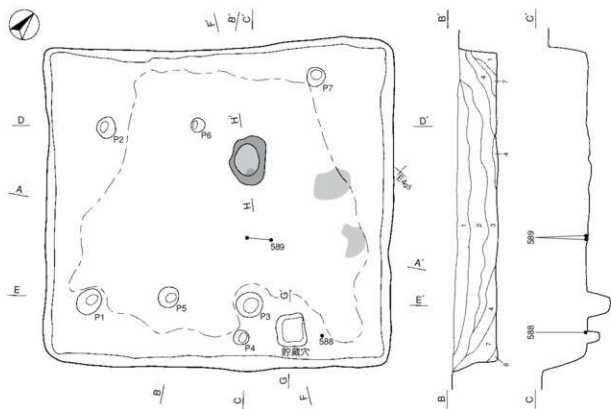
1	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量	2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
---	------	------------------------	---	-----	---------------------

ピット 7か所。P 1・P 2は深さ34cm・24cmで、主柱穴である。P 3は深さ40cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4は深さ29cmで、出入り口施設に伴うピットの補助的役割を想定できるが明確ではない。P 5・P 6は深さ21cm・29cm、P 7は深さ16cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部寄りに位置している。長軸52cm、短軸44cmの隅丸長方形で、深さは35cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土の締まりは全体的に弱い。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量



第155図 第112号住居跡実測図

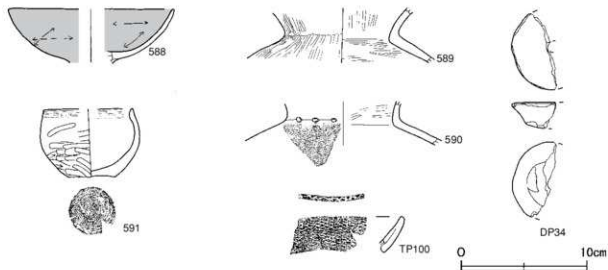
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	6	黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片139点（坏2、輪1、高台付坏13、高坏2、壺3、甕118）、ミニチュア土器1点（輪型）、土製品1点（紡錘車）のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。588は貯蔵穴脇、589は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 炭化材は出土していないが、焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第156図 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第156図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
588	土師器	高坏	[130]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	坏部内・外面丁寧なヘラ磨き	床面	15%
589	土師器	壺	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面ヘラ磨き	床面	15%
590	土師器	壺	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部にボタコ状瘤貼付 体部外面上に網目状の捺余文 内面ヘラ磨き	覆土中	5%
591	土師器	ミニチュア	[6.9]	5.4	3.6	長石・石英・赤色粒子	明鉄褐色	普通	口辺部内・外面磨ナデ 体部外面ヘラ磨り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土中	60% 輪型
TP100	土師器	壺	-	(4.5)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部及び口辺部外面に網目状の捺余文 複合口縁	覆土中	5% PL55

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	紡錘車	(6.0)	(0.7)	2.1	(29.0)	土（長石・石英）	丁寧なナデ	覆土中	

第113号住居跡（第157～159図）

位置 調査区北部のE46区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号溝、第626号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.74m、短軸4.60mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は28～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

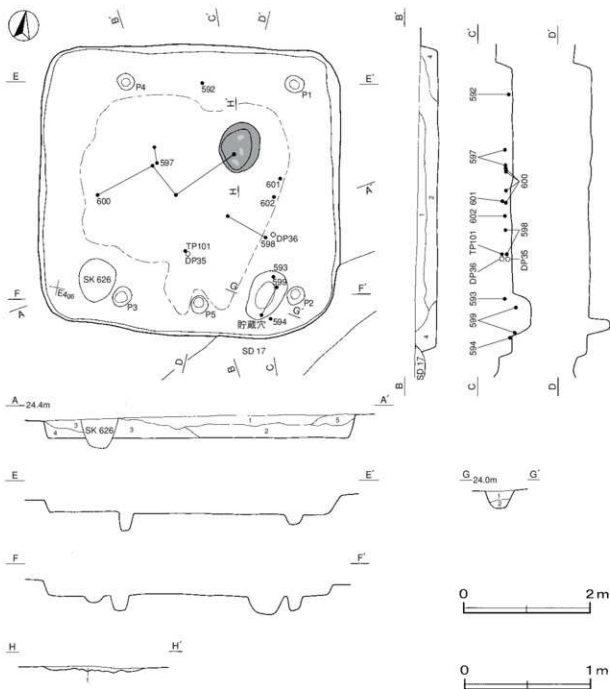
炉 中央部の北東寄りに位置している。長径81cm、短径66cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。如床は火を受けて部分的に赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

ピット 5カ所。P1～P4は深さ18～29cmで、支柱穴である。P5は深さ38cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部寄りに位置している。長径83cm、短径54cmの楕円形で、深さは30cmである。底面はほ



第157図 第113号住居跡実測図

ほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

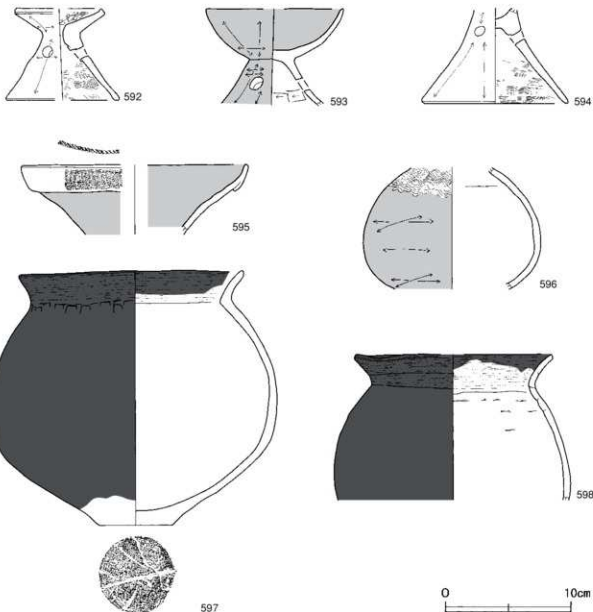
4 褐色 ロームブロック少量

2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

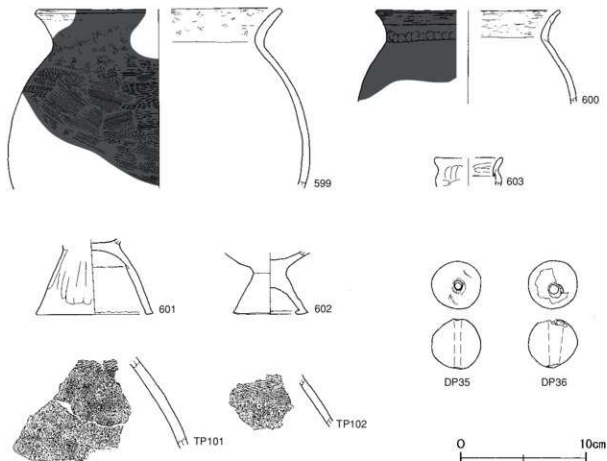
5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片208点（器台3、高坏38、壺5、甕157、台付甕4、手柄土器1）、土製品2点（球状土錘）、礫1点、軽石1点が出土している。592は北壁寄り、597・600は中央部、598・601・602は中央部東寄り、593・594は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。599は貯蔵穴の覆土上層からの出土である。所見 時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第158図 第113号住居跡出土遺物実測図(1)



第159図 第113号住居跡出土遺物実測図(2)

第113号住居跡出土遺物観察表(第158・159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
592	土器器	器台	[6.7]	7.2	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	器底部・器部外面ハケ目調整後丁寧なヘラ置き 器底部内面ヘラ置き 器部内面ハケ目調整後ヘラ置き 3巻	覆土下層	30%
593	土器器	高坏	[10.8]	(7.7)	-	長石・石英	にぶい・褐	普通	坏部・器部外面丁寧なヘラ置き 坏部内面半減調整不明 器部内面ヘラ削り 3巻	覆土下層	50%
594	土器器	高坏	-	(7.6)	11.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面ハケ目調整後丁寧なヘラ置き 内面ハケ目調整後ナデ 3巻	覆土下層	45%
595	土器器	壺	[17.5]	(5.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口特別に丸の扉筋織文 複合口縁 口辺部に網目状の燃糸文 内・外面半減調整不明	覆土中	5%
596	土器器	壺	-	(9.7)	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	胴部上位に櫛歯状工具による波状文 器部外面丁寧なヘラ置き 内面ナデ 輪轆痕	覆土中	30%
597	土器器	甕	17.4	20.2	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 器部外面ヘラナデ後ナデ 内面ナデ 底部本葉痕	覆土下層	85% PL44
598	土器器	甕	[15.5]	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 器部内・外面ナデ 輪轆痕	覆土下層	25%
599	土器器	甕	[19.0]	(14.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後ナデ 器部外面ハケ目調整内面ナデ	貯蔵穴上層	15%
600	土器器	甕	14.4	(7.4)	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 口辺部外面下層に微細痕 内面ナデ 輪轆痕	覆土下層	25%
601	土器器	台付甕	-	(6.0)	9.3	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	外面ヘラナデ 内面ナデ 輪轆痕	覆土下層	20%
602	土器器	台付甕	-	(4.9)	5.9	長石・石英	橙	普通	内・外面ナデ	覆土下層	10%
603	土器器	手捏土器	[5.2]	(2.2)	-	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	内・外面ナデ 輪轆痕	覆土中	20%
TP101	土器器	壺	-	(7.2)	-	長石・石英	橙	普通	器部外面外面上位に網目状の燃糸文 外面赤彩	覆土中層	5%
TP102	土器器	壺	-	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	器部外面外面上位に網目状の燃糸文 外面赤彩	覆土中	5% PL55

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	球状土師	3.8	0.6	4.0	53.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP36	球状土師	3.8	(1.1)	3.7	(49.7)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	

第115号住居跡 (第160図)

位置 調査区北部のE 4a4区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.64mの方形で、主軸方向はN-50°-Eである。壁高は20~35cmで、外傾して立ち上がっている。

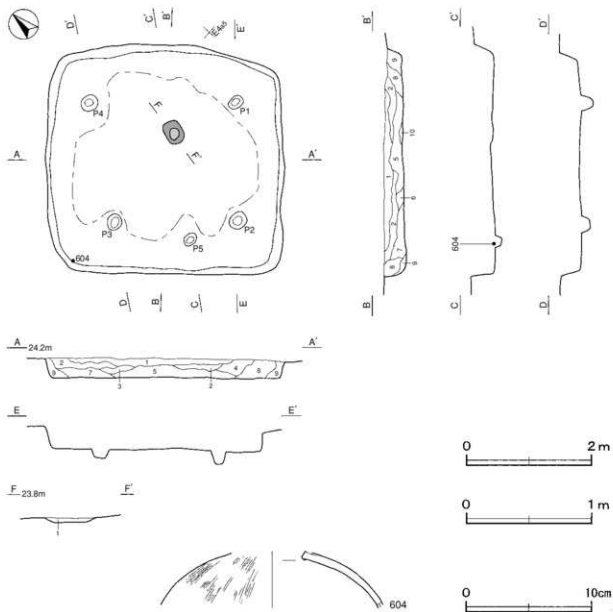
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや東寄りに位置している。長径40cm、短径29cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。如床は火を受けてやや赤変している。

伊土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 5カ所。P1~P4は深さ11~22cmで、支柱穴である。P5は深さ13cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第160図 第115号住居跡・出土遺物実測図

覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第10層は炉の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | 9 褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 に近い赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片58点（高坏9、壺7、甕42）のほか、混入した縄文土器片5点も出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。604は西コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。

第115号住居跡出土遺物観察表（第160図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
604	土師器	壺	-	(45)	-	長石・石英	橙	普通	外部外面へラ磨き 内面ナデ	床面	5%

第116号住居跡（第161・162図）

位置 調査区北部のD4区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.34m、短軸5.27mの長方形で、主軸方向はN-48°-Wである。壁高は52～54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、中央部と壁際には焼土塊や炭化材が確認されており、中央部分の床面も焼けている。

炉 中央部やや北西寄りに位置している。長径82cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 に近い赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・小石微量 | | |

ピット 5カ所。P1～P4は深さ59～79cmで、主柱穴である。P5は深さ19cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東壁側の東コーナー部寄りに位置している。長径72cm、短径61cmの楕円形で、深さは41cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

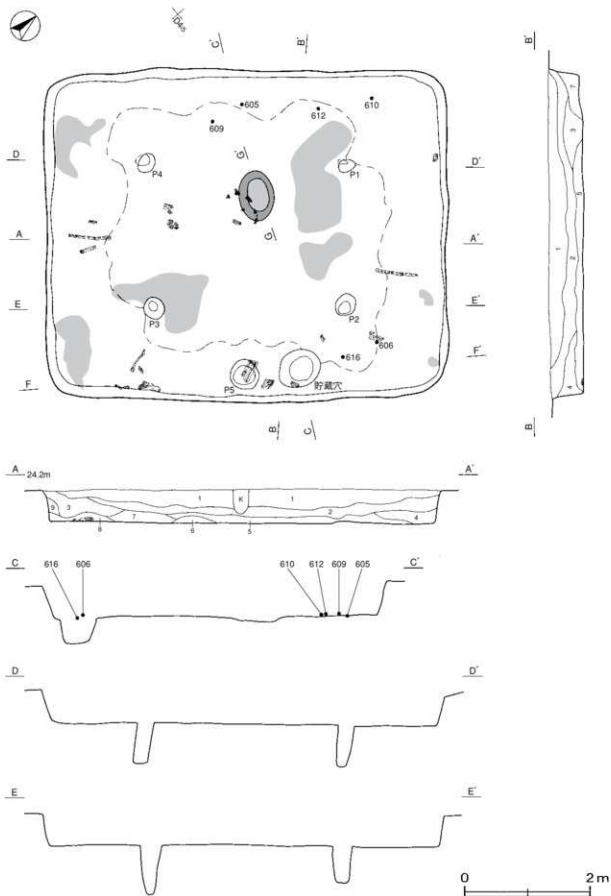
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

覆土 9層に分層される。上部の第1・2層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積であり、その他の層はブロック状の堆積状況を示すことから、埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

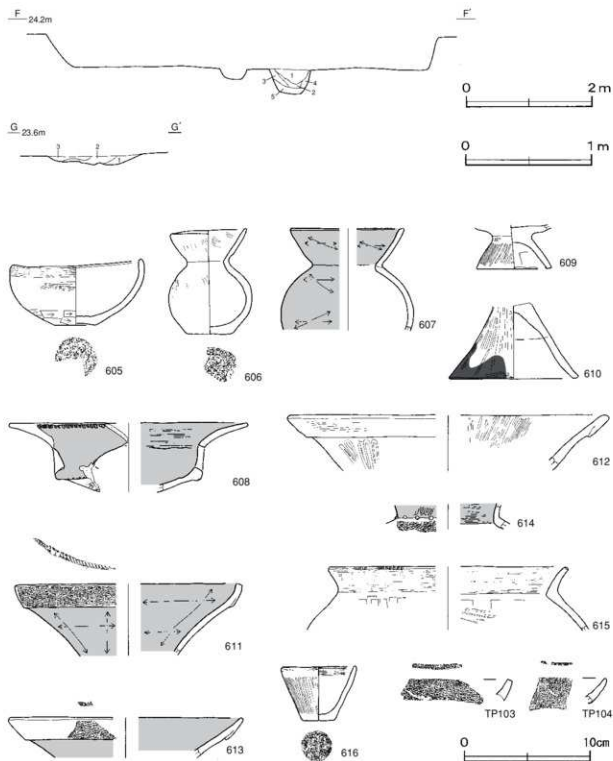
- | | | | |
|--------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 黒 褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | | |



第161图 第116号住居跡実測图

遺物出土状況 土師器片88点（椀1，埴8，器台3，高坏29，壺45，甕2），ミニチュア土器1点（椀型カ），滑石原石2点が出土している。605・609・612は北西壁寄り，606・616は東コーナー寄り，610は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 焼土塊や炭化材が確認されており，床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第162図 第116号住居跡・出土遺物実測図

第116号住居跡出土遺物観察表 (第162図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
605	土器器	椀	102	52	33	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐色	普通	口辺部外面横ナデ 内面準成の高調整不明 外部外面ヘラ 刮り後ヘラ磨き	床面	80%	PL47
606	土器器	埴	59	84	38	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面及び外部外面ハケ目調整後ナデ ミニ チュアオ	床面	95%	PL37
607	土器器	埴	[89]	(81)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面及び外部外面丁寧なヘラ磨き	覆土中	15%	
608	土器器	黄褐色台	187	(55)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部及び器受部下端にヘラ状工具による研み 器受部 内・外面ヘラ磨き 4箇所	覆土中	10%	
609	土器器	高坏	-	(35)	60	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい褐色	普通	胴部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	40%	
610	土器器	高坏	-	(60)	102	長石・石英	橙	普通	胴部外面ヘラ磨き 内面ナデ 輪磨供	床面	45%	
611	土器器	壺	[171]	(57)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	腹合口縁 口唇部にRLの準成縄文 口辺部外面に網目 状の準成文 口辺部内・外面丁寧なヘラ磨き	覆土中	5%	
612	土器器	壺	[250]	(44)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	腹合口縁 内・外面ヘラ磨き	床面	5%	
613	土器器	壺	[183]	(32)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	腹合口縁 口辺部に網目状の準成文 内・外面準成調整 不明	覆土中	5%	
614	土器器	壺	-	(20)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	胴部にボタン状痕跡付 内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%	
615	土器器	壺	[186]	(50)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に棒状工具による押圧 口辺部内・外面横ナデ 外部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ後ヘラ磨き	覆土中	5%	
616	土器器	ミニチュア	57	43	25	長石・石英	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 外部外面ヘラ磨き 内面ナデ	床面	95% 焼裂き	PL47
TP10	土器器	壺	-	(16)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部及び口辺部外面に網目状の準成文	覆土中	5%	
TP18	土器器	壺	-	(20)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後研り消し	覆土中	5%	

第117号住居跡 (第163・164図)

位置 調査区北部のD4h3区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.12m、短軸5.02mの方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は48~56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。また、焼土塊や炭化材が確認されており、中央部分の床面は赤変している。

炉 中央部の北寄りに位置している。長径73cm、短径44cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
2 にぶい暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ16~34cmで、主柱穴である。P5は深さ39cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ24cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東南壁際やや東コーナー部寄りに位置している。長径89cm、短径61cmの楕円形で、深さは39cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

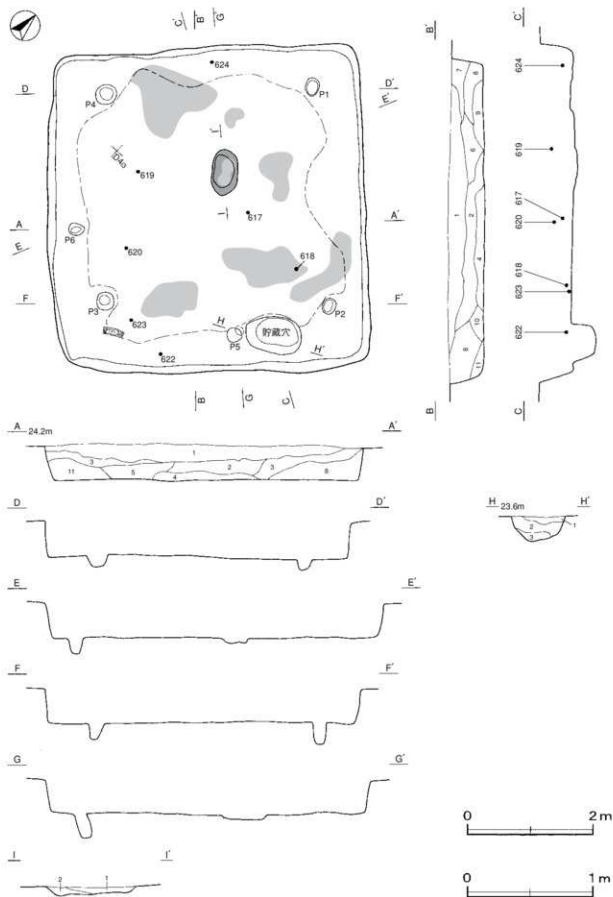
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック中量

覆土 11層に分層される。第1層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積で、第2~11層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

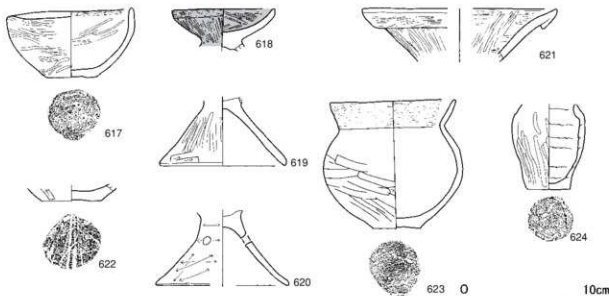
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
9 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量
10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
11 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量



第163图 第117号住居跡实测图

遺物出土状況 土師器片172点(椀1, 器台1, 高坏7, 壺1, 甕162), ミニチュア土器1点(壺型)が出土している。617・618は中央部, 622・623は南コーナー寄り, 624は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。619・620は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 焼土塊や炭化材が確認されており, 床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器から古墳時代前期中葉(4世紀初頭~前葉)と考えられる。



第164図 第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
617	土師器	椀	9.8	5.5	4.0	長石・石英・雲母 にふい焼	にふい焼	普通	口辺部内面横ナデ 体部内・外面へう磨き	覆土下層	100% PL47
618	土師器	器台	8.0	3.3	-	長石・石英・雲母 にふい焼	にふい焼	普通	口辺部外面横ナデ 体部内・外面へう磨き	覆土下層	45%
619	土師器	器台*	-	(5.5)	9.8	長石・石英・雲母	にふい焼	普通	脚部外面へう磨り後へう磨き 内面ナデ	覆土中層	50%
620	土師器	器台*	-	16.0	[10.6]	長石・石英・雲母 にふい焼	にふい焼	普通	脚部外面丁寧なへう磨き 内面ナデ 3窓	覆土中層	45%
621	土師器	壺	[15.3]	(4.2)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤焼	普通	腹合口縁 口辺部内面横ナデ 体部内・外面ハケ目調整 後へう磨き	覆土中	5%
622	土師器	甕	-	(1.3)	4.6	長石・石英・雲母 にふい焼	にふい焼	普通	外面へう磨り	覆土下層	5% 研直
623	土師器	小形壺	9.7	10.3	3.8	長石・石英・雲母 にふい焼	にふい焼	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう磨り後へうナデ 内面ナデ	覆土下層	80% PL43
624	土師器	ミニチュア	-	(6.8)	3.4	長石・石英・雲母	明焼	普通	体部外面へう磨き 内面ナデ 輪縁直	覆土下層	80% PL48 壺型

第118号住居跡(第165・166図)

位置 調査区北部のE4b2区, 標高24.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.06m, 短軸4.20mの長方形で, 主軸方向はN-32°-Wである。壁高は24~37cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, 中央部が広く踏み固められている。

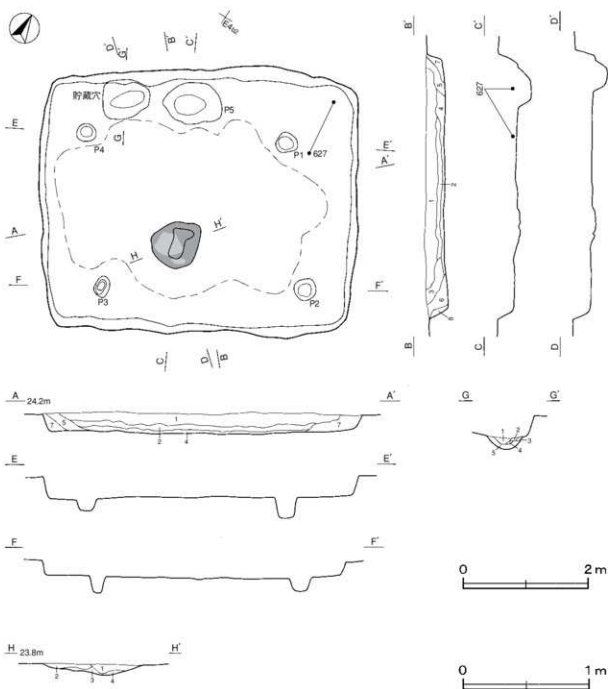
炉 中央部の南寄りに位置している。長径81cm、短径72cmの不整楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 3 濃い赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 濃い赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5カ所。P1～P4は深さ19～38cmで、支柱穴である。P5は深さ24cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北壁際の北西コーナー部寄りに位置している。長径82cm、短径70cmの不整楕円形で、深さは22cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。



第165図 第118号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 に近い赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

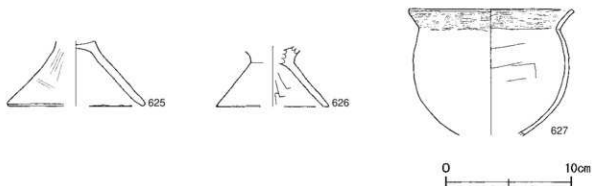
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片135点（高坏15、壺3、甕116、小形甕1）が出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。627は北コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期中葉（4世紀初頭～前葉）と考えられる。



第166図 第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
625	土師器	器台*	-	(5.1)	[10.6]	長石・石英・雲母 にふい橙	普通	普通	胴部外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土中	40%
626	土師器	器台*	-	(4.8)	[8.9]	長石・石英・雲母 にふい橙	普通	普通	胴部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	30%
627	土師器	小形甕	12.8	[10.0]	-	長石・石英 にふい橙	普通	普通	口辺部内・外面横ナデ 胴部外面ナデ 内面ヘラナデ 軸線直	覆土下層	55%

第119号住居跡（第167・168図）

位置 調査区北部のD3j0区、標高23.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.54m、短軸4.55mの長方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は22～39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が広く踏み固められている。壁溝が全周している。

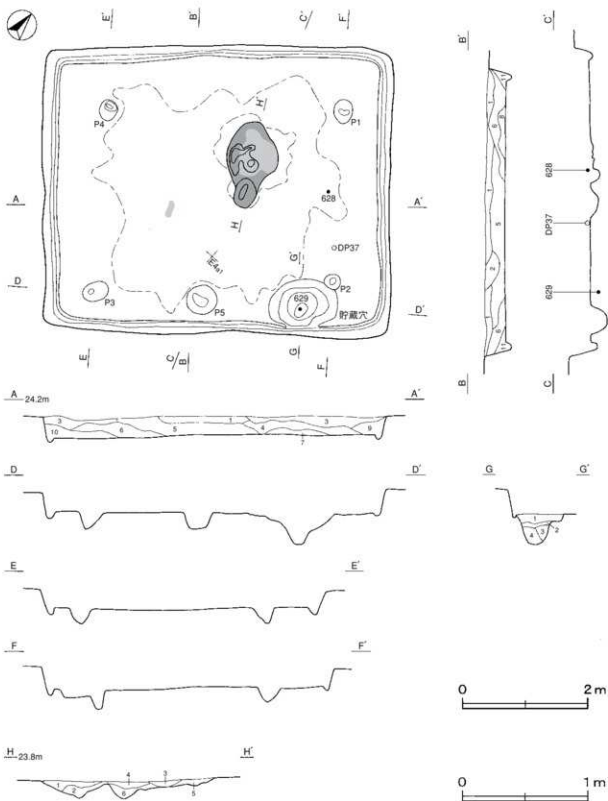
炉 中央部やや北寄りに位置している。長径138cm、短径84cmの不定形で、床面を13cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------|---------|--------------------|
| 1 暗 赤褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 暗 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 赤 褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 6 暗 赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ23～29cmで、支柱穴である。P5は深さ26cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部寄りに位置している。長径108cm、短径79cmの楕円形で、深さは51cmである。底面は皿状で、



第167図 第119号住居跡実測図

壁は外傾して立ち上がり、上位で段を有している。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ローム粒子少量

覆土 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

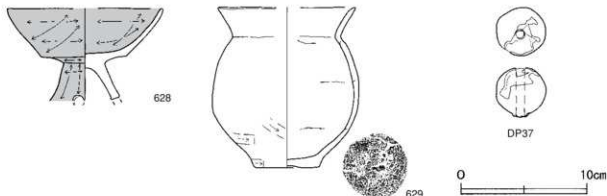
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9	極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片127点(器台2、高坏3、壺1、甕119、小形甕1、手捏土器1)、土製品1点(球状土鍾)

が出土している。628・DP37は北東壁寄りの床面、629は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期中葉(4世紀初頭～前葉)と考えられる。



第168図 第119号住居跡出土遺物実測図

第119号住居跡出土遺物観察表(第168図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
628	土師器	高坏	[12.2]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にみ・水輪	普通	坏部内・外面及び脚部外面丁寧なへう磨き	脚部内面ナデ・3意	床面 55% PL40
629	土師器	小形甕	[10.0]	12.8	5.0	長石・石英・雲母	灰陶	普通	口部内・外面ナデ 体部外面へう磨り後ナデ	内面ナデ 輪縁肌	貯蔵穴上層 40%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP37	球状土鍾	3.9	(0.7)	3.9	(50.0)	土(長石・石英)	ナデ 一方からの母孔	床面	

第120号住居跡(第169図)

位置 調査区北部のD 3g0区、標高23.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号石器集中地点を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.66mの長方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がっている。

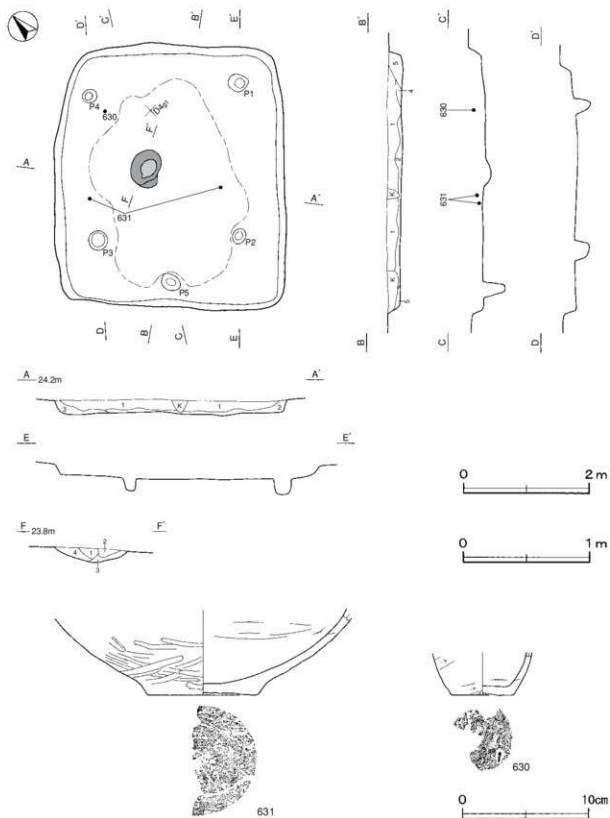
床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径61cm、短径48cmの不整楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
 2 赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
 4 に近い赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量



第169図 第120号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ21～29cmで、主柱穴である。P5は深さ38cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック中量
3	褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片6点(器台1、高坏2、壺2、甕1)が出土している。遺物は細片のため図示できるものが少ない。630は北コーナー寄りの覆土中層から出土している。631は南東壁と北西壁寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。

第120号住居跡出土遺物観察表(第169図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
630	土師器	壺	-	(3.4)	4.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面ナデ	輪轆痕	覆土中層	15%
631	土師器	甕	-	(6.8)	8.7	長石・石英・雲母	におい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	輪轆痕	覆土下層	15%

第121号住居跡(第170図)

位置 調査区北部のD3h9区、標高23.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.73m、短軸4.68mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は25～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径102cm、短径79cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	3	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
2	赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック微量	4	極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ11～29cmで、主柱穴である。P5は深さ44cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ27cmで、配置から出入り口施設に伴う補助的なピットと考えられるが明確ではない。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径58cm、短径56cmの円形で、深さは19cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量
---	-----	-----------

覆土 14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

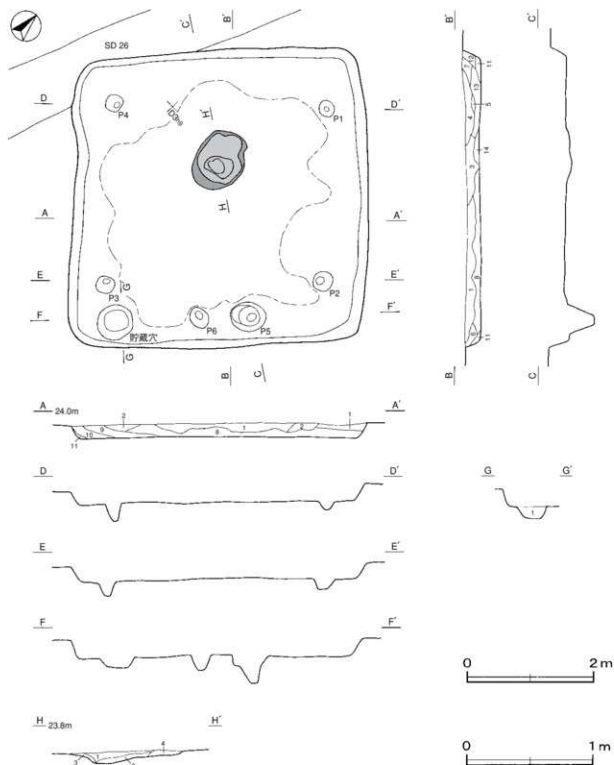
1	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量

- 9 暗褐色 ロームブロック少量
 10 暗褐色 ロームブロック微量
 11 黒褐色 ロームブロック微量

- 12 褐色 ローム粒子中量
 13 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 14 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片32点(高坏4, 壺3, 甕25)のほかに、混入した縄文土器片1点も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第170図 第121号住居跡実測図

第122号住居跡 (第171・172図)

位置 調査区北西部のD3g6区、標高23.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸4.29m、短軸3.74mの長方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁高は32~42cmで、外傾して立ち上がっている。

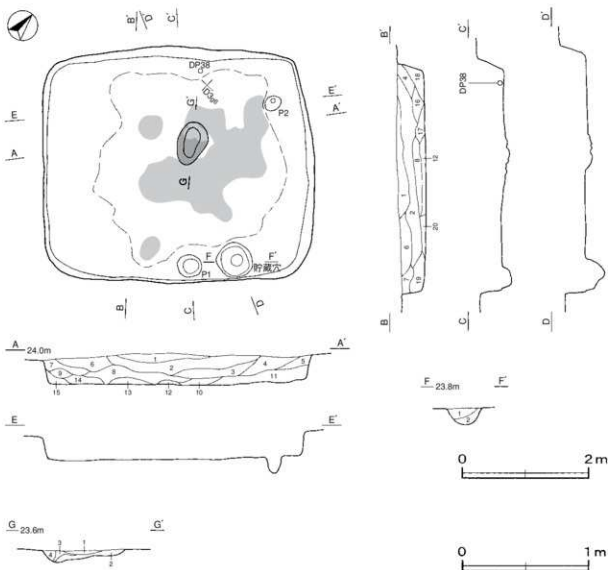
床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、焼土塊や炭化材が床面から確認されており、中央部は火を受けて赤変している。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径69cm、短径48cmの楕円形で、床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 濃い赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ16cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ25cmで、性格は不明である。



第171図 第122号住居跡実測図

貯蔵穴 東コーナー部寄りに位置している。長径60cm、短径56cmの不整形形で、深さは34cmである。底面はほぼ皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|

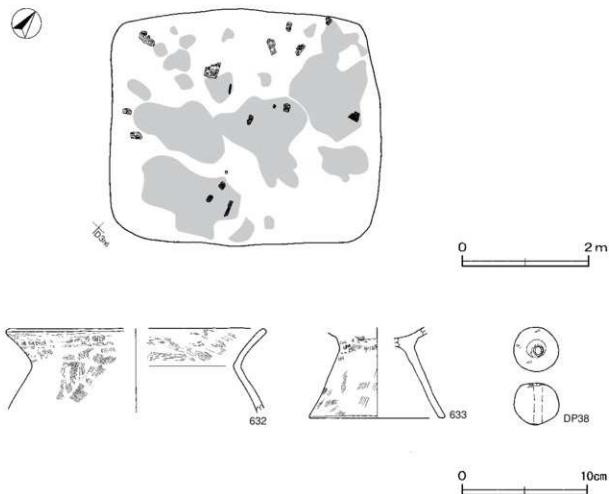
覆土 20層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-----------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 に近い赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 18 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 9 極暗褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 19 赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 20 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片118点（高坏3、甕113、台付甕2）、土製品1点（球状土錘）のほかに、混入した弥生土器片3点も出土している。632・633は覆土中、DP38は北西壁際の覆土下層から出土している。

所見 焼土塊や炭化材が確認されており、床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期は、図示できた遺物が少ないが、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第172図 第122号住居跡・出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表 (第172図)

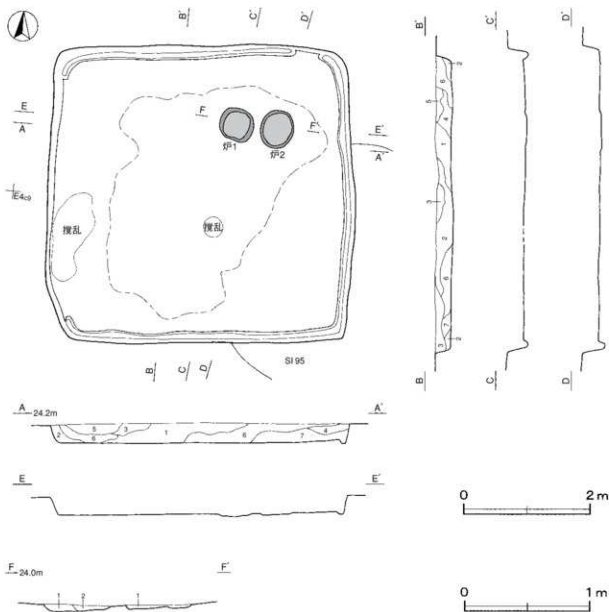
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
632	土師器	甕	[20.2]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口辺部外面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整 内面ナデ	覆土中	5%
633	土師器	台付甕	-	(7.2)	10.6	長石・石英・雲母	にんべい色	普通	胴部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	覆土中	33%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP38	球状土師	3.5	0.7	3.3	39.0	土 (長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	

第130号住居跡 (第173図)

位置 調査区北部のE 4b9区、標高24.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第95号住居跡を掘り込んでいる。



第173図 第130号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.80m、短軸4.72mの隅丸方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は25~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。西側壁を除いて壁溝が確認されている。

炉 2か所。炉1は中央部の北東寄りに位置している。長径56cm、短径50cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は炉1の東側に位置している。長径64cm、短径53cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。それぞれの炉床は火を受けて赤変硬化している。炉1・炉2とも規模や形状が類似しているが使用時期については明確ではない。

炉1土層解説

- | | | |
|---|--------|------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |

炉2土層解説

- | | | |
|---|------|------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック微量 |
|---|------|------------------|

覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

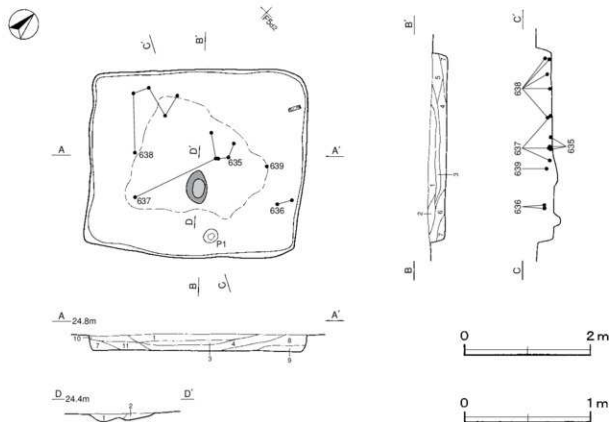
- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 | 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 土師器片15点（高坏5、壺2、甕8）が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、図示できた遺物がないが、出土土器から古墳時代前期と考えられる。

第132号住居跡（第174~176図）

位置 調査区東部のF5d2区、標高24.6mの台地平坦部に位置している。



第174図 第132号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.40m、短軸2.99mの長方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は23~27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北コーナー部で炭化材が確認されている。

炉 中央部やや南東寄りに位置している。長径53cm、短径33cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 2 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|-------|----------------|------|-----------------------|

ピット 深さは14cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

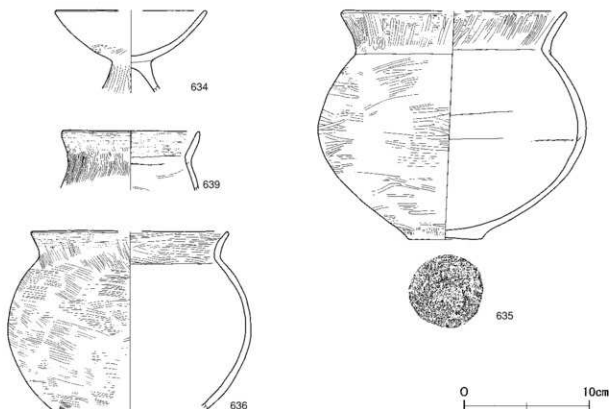
覆土 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

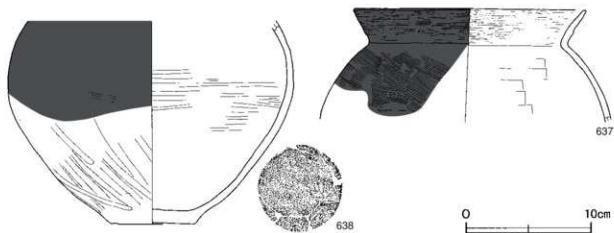
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片157点(器台1、甕155、小形甕1)のほかに、混入した縄文土器片1点、弥生土器片1点も出土している。635・637は中央部の覆土下層から床面にかけて出土した土器片が接合したものであり、638も西コーナー寄りの覆土下層から出土した土器片が接合したものである。636・639は北東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 炭化材が出土していることから焼失住居の可能性が高い。時期は、出土土器から古墳時代前期中葉(4世紀初頭~前葉)と考えられる。



第175図 第132号住居跡出土遺物実測図(1)



第176図 第132号住居跡出土遺物実測図(2)

第132号住居跡出土遺物観察表 (第175・176図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
634	土師器	高坏	[11.8]	6.5	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	坏部外面及び脚部外面へラ磨き 内面準減調整不明 脚部内面ナデ	覆土中	30%
635	土師器	甕	[17.5]	18.1	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後へラ磨き 体部外面ハケ目調整後へラ磨き 内面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層 ～灰田	50%
636	土師器	甕	[15.4]	14.2	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ後ハケ目調整 体部外面ハケ目調整 内面ナデ	覆土下層	25%
637	土師器	甕	18.1	9.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ	覆土下層 ～灰田	10%
638	土師器	甕	-	16.1	6.7	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	50%
639	土師器	小形甕	10.9	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後横ナデ 輪襷痕	覆土下層	10%

第133号住居跡 (第177図)

位置 調査区南部のJ4d3区、標高25.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側は大きく攪乱を受けているため全体の確認はできなかったが、長軸2.23m、短軸は1.00mほどが確認できた。壁などからN-48°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推定される。壁高は23~25cmで、外傾して立ち上がっている。

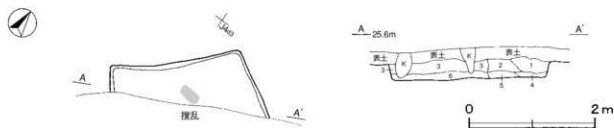
床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。焼土塊が確認されている。

覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量



第177図 第133号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片3点(莞)のほかに、混入した土師質土器片1点も出土している。遺物は細片のため
 図示できない。

所見 炭化材は出土していないが、焼土塊が確認されていることから焼失住居の可能性が高い。時期を特定で
 きる遺物は少ないが、時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

表4 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	断面形状	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 遺構関係 (古→新)
							土間	土間	土間	土間				
38	J 310	N-8°E	[長方形]	2.96×2.66	8-20	平坦	-	-	1	-	伊1	人為 土師器	中期	本跡→第78号P
39	J 441	N-33°W	[方形]	[2.74]×2.54	8	平坦	-	-	-	-	伊1	不明 土師器、滑石割片	中期	
42	I 431	N-8°W	方形	4.46×4.42	18-28	平坦	半周	4	-	-	伊1	人為 土師器、不明土製品	中期	本跡→第3号 火葬土坑 SK128-610
45	H 310	N-2°E	長方形	5.67×4.66	16-23	平坦	-	-	-	-	伊1	自然 土師器	中期中葉 (5世紀中葉)	本跡→SK459- 608-609
46	H 330	N-10°W	方形	4.70×4.58	40-60	平坦	全周	4	1	-	伊1	人為 土師器、石製模造品、滑 石割片、鉄製品	中期中葉 (5世紀中葉)	
47	H 433	N-0°	長方形	4.53×4.48	17-40	平坦	全周	4	1	26	伊2	人為 土師器、石器、粒状滓、 木製品	中期中葉 (5世紀中葉)	本跡→SD7B
49	G 411	N-3°W	[長方形]	3.15×(1.97)	13-20	平坦	-	-	-	-	伊1	自然 土師器	中期	本跡→SD6-8
50	G 339	N-11°W	長方形	5.79×5.24	25-32	平坦	-	-	-	-	伊1	人為 土師器、須恵器、石器、 自然鉄製品	中期中葉 (5世紀中葉)	本跡→SD6
51	F 146	N-30°W	方形	5.90×5.65	47-60	平坦	-	4	1	-	伊1	人為 土師器、土製品	前期後葉 (4世紀中葉~末葉)	
52	G 5a1	N-35°E	方形	2.97×2.96	36-45	平坦	-	-	-	-	-	人為 土師器	中期	
55	G 4g9	N-31°W	長方形	5.51×4.62	17-22	平坦	-	1	-	-	伊1	自然 土師器	前期	本跡→SK498
57	H 532	N-77°E	長方形	5.65×3.35	10-22	平坦	-	-	-	-	伊2	自然 土師器、須恵器、石製模 造品	中期後葉 (5世紀後葉)	本跡→SB2
59	H 5a3	N-20°W	長方形	5.24×4.28	16-30	平坦	-	-	1	-	伊2	自然 土師器	中期後葉 (5世紀後葉)	
60	G 533	N-16°W	方形	6.65×6.61	40-44	平坦	-	4	1	-	伊1	人為 土師器、礫	前期後半	本跡→SD7B
61	G 5e9	N-28°W	方形	4.38×4.05	25-38	平坦	-	-	1	-	伊1	自然 土師器	中期中葉 (5世紀中葉)	
62	G 539	N-25°W	方形	4.58×4.43	40-60	平坦	全周	4	1	-	伊1	人為 土師器、鉄製品	中期中葉 (5世紀中葉)	本跡→SD7A・ 7B
63	H 5c0	N-30°W	方形	8.06×8.00	42-64	平坦	全周	4	1	16	伊1	人為 土師器、須恵器、石製模 造品、滑石核・割片	中期中葉 (5世紀中葉)	本跡→SD12- 13
66	H 1616	N-82°E	方形	6.80×6.76	46-70	平坦	全周	4	1	1	覆1	人為 土師器、須恵器、土製 品、石製模造品、割片	後期前葉 (6世紀初葉)	本跡→SD36
67	I 631	N-16°W	方形	7.46×7.44	34-50	平坦	全周	4	1	-	覆1	人為 土師器、土製品、石製模 造品、滑石割片	後期前葉 (4世紀初葉~前葉)	
68	J 5a4	N-10°W	方形 長方形	8.02×(3.27)	9-16	平坦	一部	2	-	1	伊2	人為 土師器、石製模造品、滑 石割片	中期中葉 (5世紀中葉)	
73	E 6e5	N-50°E	方形	5.27×5.14	56-68	平坦	-	4	-	1	伊1	自然 土師器	中期中葉 (5世紀中葉)	
74	E 6a3	N-61°W	方形	6.26×5.70	63-70	平坦	-	4	1	1	伊1	人為 土師器、土製品、礫	前期中葉 (4世紀初葉~前葉)	
75	F 530	N-35°W	方形	3.62×3.34	65-73	平坦	-	-	-	-	-	自然 44	前期末葉~中期初葉 (4世紀末葉~ 5世紀初葉)	
77	D 510	N-46°E	方形	6.10×5.70	68-90	平坦	全周	3	-	-	-	人為 土師器	前期末葉~中期初葉 (4世紀末葉~ 5世紀初葉)	
78	E 5c0	N-57°W	方形	5.00×4.64	45-53	平坦	-	-	1	4	伊2	人為 土師器、粒状滓	前期中葉 (4世紀初葉~前葉)	本跡→SD33
79	E 510	N-47°W	方形	6.78×6.73	40-45	平坦	-	4	1	-	伊1	人為 土師器、石器、石製模造 品	中期前葉 (5世紀初葉)	
80	E 545	N-41°W	方形	6.72×6.66	56-73	平坦	-	4	1	2	伊1	人為 土師器、ミニチュア土 師器、石製品、石製模造 品	中期前葉 (5世紀前葉)	
81	E 5g8	N-52°W	方形	4.82×4.80	30-34	平坦	-	-	1	-	伊1	人為 土師器、石器、礫	前期中葉 (4世紀初葉~前葉)	
82	E 536	N-60°W	方形	4.68×4.63	40-58	平坦	-	-	1	-	伊1	人為 土師器、土製品	前期	本跡→SI83
84	E 516	N-33°W	方形	3.70×3.68	35-45	平坦	-	-	1	-	伊1	人為 土師器、不明鉄製品	前期	本跡→SD17
86	E 533	N-35°W	方形	6.06×6.04	24-28	平坦	-	4	1	-	伊2	自然 土師器、土製品、石器、石製 模造品、ガラス製品、厚石	中期前葉 (5世紀前葉)	SI87-4跡→ SD17
87	E 513	N-43°W	方形 長方形	3.18×(2.20)	4-8	平坦	-	-	-	-	伊1	自然 土師器	前期中葉 (4世紀初葉~前葉)	本跡→SI86、 SD23

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
							土間	土間	土間	土間	土間	土間				
90	D5g3	N-42°-W	長方形	4.61×4.04	15-25	平坦	-	-	-	-	伊1	1	自然 土器	土器、石製模造品、隸石	中期前葉 (5世紀前期)	
92	D5j3	N-48°-E	[長方形]	[4.50×3.90]	-	平坦	-	3	1	-	伊1	-	不明		前期～中期前葉	本跡→SD22
94	D5j1	N-16°-E	方形	4.97×4.80	15-35	平坦	-	-	-	伊2	1	人為	土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)	本跡→SD1-1A	
95	E4c0	N-63°-W	長方形	4.15×(3.00)	22-61	平坦	-	1	1	伊1	1	人為 自然	土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)	本跡→SI130	
96	E4d8	N-55°-W	方形	5.56×5.46	59-68	平坦	-	4	1	伊1	1	人為 自然	土器、土製品	前期前葉 (3世紀中葉～末葉)		
98	E4j6	N-15°-W	方形	5.64×5.52	50-68	平坦	-	4	1	伊1	3	人為	土器、ミニチュア土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)	本跡→SD23	
99	F4d4	N-60°-E	長方形	3.95×3.48	20-27	平坦	-	-	-	伊2	-	人為	土器	前期前葉 (3世紀中葉～末葉)		
100	F4e5	N-25°-W	長方形	5.28×4.30	30-38	平坦	-	1	-	伊5	1	人為 自然	土器	前期前葉 (3世紀中葉～末葉)		
101	F4e1	N-35°-W	長方形	6.22×5.05	27-44	平坦	-	4	1	伊1	-	人為	土器、ミニチュア土器、土製品	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)	本跡→SD23	
110	E4j2	N-47°-E	長方形	5.60×4.48	35-39	平坦	-	-	-	伊1	1	自然	土器、ミニチュア土器、土製品、隸	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
111	F4b4	N-45°-W	方形	3.93×3.87	10-17	平坦	-	-	-	伊2	1	人為	土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)	本跡→SD23	
112	E4g4	N-40°-W	方形	5.45×5.18	60-70	平坦	-	2	1	伊1	4	人為	土器、ミニチュア土器、土製品	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
113	E4f6	N-12°-W	方形	4.74×4.60	28-40	平坦	-	4	1	伊1	1	自然	土器、土製品、隸、隸石	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)	本跡→SD17、SK626	
115	E4a4	N-50°-E	方形	3.80×3.64	20-35	平坦	-	4	1	伊1	-	人為	土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
116	D4i5	N-48°-W	長方形	6.34×5.27	52-54	平坦	-	4	1	伊1	1	人為 自然	土器、ミニチュア土器、土製品、隸石、隸	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
117	D4b3	N-40°-W	方形	5.12×5.02	48-56	平坦	-	4	1	伊1	1	人為	土器、ミニチュア土器、土製品	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
118	E4h2	N-32°-E	長方形	5.06×4.20	24-37	平坦	-	4	1	伊1	1	自然	土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
119	D3j0	N-40°-W	長方形	5.54×4.55	22-39	平坦	全周	4	1	伊1	1	人為	土器、土製品	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
120	D3g0	N-42°-W	長方形	4.18×3.66	18-20	平坦	-	4	1	伊1	-	自然	土器	前期	第2号石彫集 中地点→本跡	
121	D3b9	N-45°-W	方形	4.73×4.68	25-32	平坦	-	4	1	伊1	1	人為	土器	前期	本跡→SD26	
122	D3g6	N-42°-W	長方形	4.29×3.74	32-42	平坦	-	1	1	伊1	1	人為	土器、土製品	前期		
130	E4b9	N-4°-W	方形	4.80×4.72	25-28	平坦	全周	-	-	伊2	-	人為	土器	前期	SI95→本跡	
132	F5d2	N-40°-E	長方形	3.40×2.99	23-27	平坦	-	1	-	伊1	-	人為	土器	前期中葉 (4世紀初葉～前葉)		
133	J4d3	N-48°-E	方形・ 長方形	2.23×(1.00)	23-25	平坦	-	-	-	-	-	人為	土器	中期		

(2) 掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡 (第178図)

位置 調査区南西部のH4i4区、標高25.0mほどの台地縁辺部に位置している。

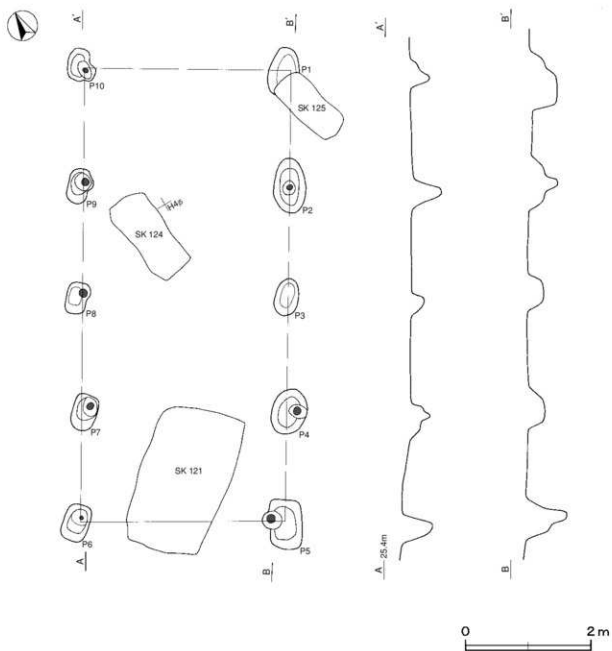
重複関係 第121・124・125号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向はN-31°-Eである。規模は、桁行7.2m (24尺)、梁行3.3m (11尺)で、面積は23.76㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m (6尺)である。

柱穴 10か所。平面形は楕円形を基調とし、深さは22～64cmである。各柱穴の覆土はおおむね2層から3層に分層でき、ロームブロックやローム粒子・炭化粒子を含んでおり、色調は暗褐色と極暗褐色、黒褐色である。土層断面の観察から柱抜き取り後の自然堆積と考えられる。底面は皿状で、P1・P3を除く柱穴から柱のあたりが確認できた。

所見 東・西妻側の柱穴の位置を想定して確認面を精査したが柱穴は確認できなかった。柱穴の規模と建物跡の形状から倉庫と考えられるが明確ではない。当遺跡の南に位置するナギ山遺跡に、本跡と同様の規模と構造の第2号掘立柱建物跡があり、重複関係と出土土器から6世紀前半に比定されている。遺物が出土しておらず

時期を特定することは難しいが、ナギ山遺跡第2号掘立柱建物跡と同様の規模と構造を示すことから古墳時代後期と考えられる。



第178図 第4号掘立柱建物跡実測図

(3) 土坑

第458号土坑 (第179図)

位置 調査区中央部西寄り H 3 j 8区、標高25.4mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸2.35m、短軸1.73mの隅丸長方形で、長軸方向はN-4°-Wである。深さは49cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

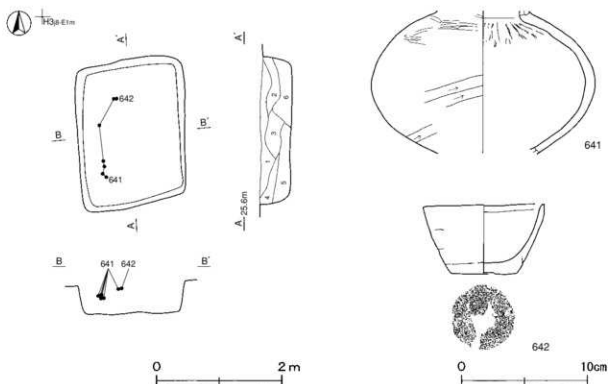
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片12点(坏1、碗1、埴1、甕9)、ミニチュア土器1点(鉢型カ)が出土している。

641は西壁寄りの覆土中層から出土した土器片が接合したもので、642は北西コーナー寄りの覆土上層から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第179図 第458号土坑・出土遺物実測図

第458号土坑遺物観察表 (第179図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
641	土師器	埴	-	(11.3)	-	長石・石英	にじみ質	普通	体部外面へう削り後へう磨き 内面ナデ	覆土中層	40%
642	土師器	ミニチュア	9.5	5.6	4.9	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ 輪轆痕	覆土上層	60% 跡型

第661号土坑 (第180図)

位置 調査区中央部東寄りのE 6 b 7区、標高23.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.25m、短軸1.76mの隅丸長方形で、長軸方向はN-52°-Eである。深さは28cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

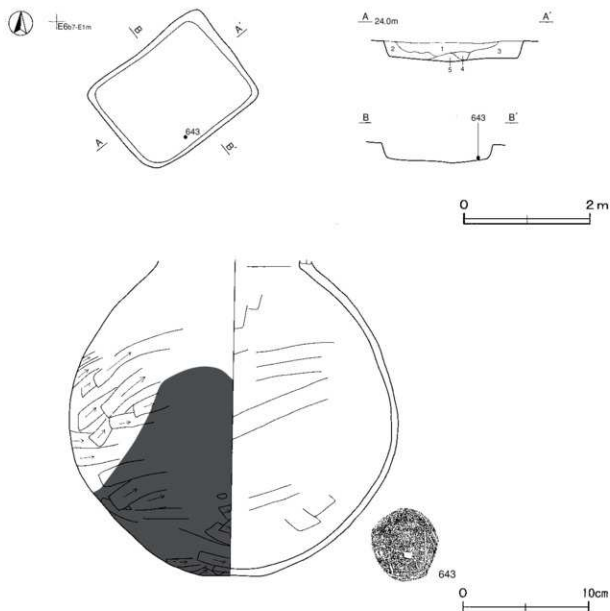
覆土 5層に分層される。第1層は堆積状況から自然堆積と考えられ、第2～5層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片2点(甕)が出土している。643は覆土第3層の下部からまとまって出土した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第180図 第661号土坑・出土遺物実測図

第661号土坑遺物観察表(第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
643	土師器	甕	-	25.0	5.2	長石・石英・雲母に富む	橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナゲ	覆土中層	80%

表5 古墳時代土坑一覧表

№	位置	長軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
458	E 3 j 8	N-4°-W	隅丸長方形	2.35×1.73	49	外傾	平坦	人為	土師器、ミニチュア土師	
661	E 6 b 7	N-52°-E	隅丸長方形	2.25×1.76	28	外傾	平坦	自然・人為	土師器	

4 平安時代の遺構と遺物

今回の調査では、台地平坦部に平安時代の竪穴住居跡9軒、土坑2基が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第40号住居跡 (第181・182図)

位置 調査区南部のI 4i6区、標高25.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第612号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.24m、短軸3.21mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は4~10cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 はほぼ中央部に位置している。長径73cm、短径51cmの不整形舟形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	にがい赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	4	にがい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	5	赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

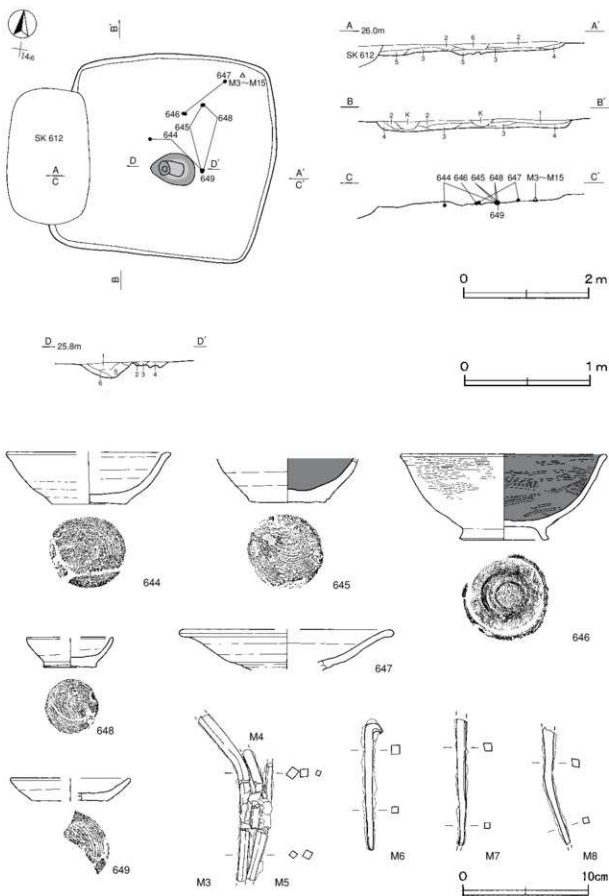
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

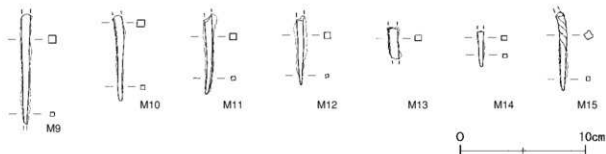
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片116点(杯31、高台付皿3、高台付皿1、小皿10、蓋5、壺1、甕6)、鉄製品13点(釘12、不明1)が出土している。644~649は中央部から北東壁にかけての床面から出土している。M3~M15は北東コーナー部の床面からまとまって出土している。

所見 土器はいずれも床面からの出土であり、遺構に伴うものと考えられる。竈は無く炉跡だけが検出された。北東コーナー部からは鉄製品がまとまって出土しており、竈も検出されないことから鍛冶関連の作業場を想定し、床面精査後の覆土を篩にかけ水洗選別を試みたが粒状滓や鍛造剥片などの鍛冶関連遺物は確認されず、他の工房的な住居とも想定されるが明確ではない。時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第181图 第40号住居跡・出土遺物実測図



第182図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表 (第181・183図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
64H	土師器	坏	[12.6]	4.1	5.8	長石・石英・雲母・赤鉄鉱	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	床面	50%
65	土師器	坏	-	(3.5)	6.0	長石・石英・雲母・赤鉄鉱	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	床面	30%
66	土師器	高台付椀	16.1	6.8	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け 体部内・外面へタ磨き	床面	50% PL.68
67	土師器	高台付皿	[17.1]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロ成形	床面	45%
68	土師器	小皿	[6.8]	2.4	4.2	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	床面	60%
69	土師器	小皿	[9.4]	1.8	[6.0]	長石・石英・雲母	明赤黄	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	床面	35%

番号	器種	長さ	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	釘	(13.3)	0.7	0.7	(54.0)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M4	釘	(6.4)	0.7	0.7		鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M5	釘	(9.3)	0.6	0.6	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55	
M6	釘	10.1	1.4	0.7	23.7	鉄	断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M7	釘	(10.1)	0.7	0.6	(16.5)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M8	釘	(9.3)	1.0	0.7	(18.7)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M9	釘	(8.8)	0.7	0.6	(15.4)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M10	釘	(6.8)	0.6	0.5	(7.3)	鉄	頭部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M11	釘	(6.4)	0.6	0.5	(5.8)	鉄	頭部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M12	釘	(5.5)	0.6	0.5	(6.7)	鉄	頭部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	PL.55
M13	釘	(2.7)	0.8	0.5	(3.5)	鉄	頭部・先端部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	
M14	釘	(2.9)	0.5	0.4	(1.6)	鉄	頭部欠損 断面方形 棒状 角釘	床面	
M15	不明	(6.2)	0.8	0.7	(6.7)	鉄	右回りのねじり 先端部断面方形	床面	龍

第44号住居跡 (第183図)

位置 調査区南部のH4j2区、標高25.7mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.40m、短軸2.40mの長方形で、主軸方向はN-90°である。壁高は12~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部に位置しており、長径41cm、短径23cmの楕円形で、床面とはほぼ同じ高さの地床炉である。炉2は炉1の南東側に位置しており、長径23cm、短径18cmの楕円形で、炉床は床面と同じ高さである。それぞれの炉床は火を受けて赤変している。使用された時期差については明確ではない。

炉1 土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

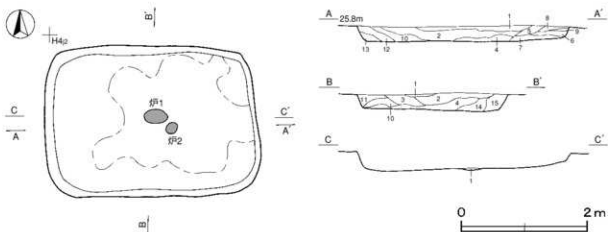
覆土 15層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	9	褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	12	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック少量、砂質年度粒子微量	14	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子少量
8	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片4点(坏)のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点と古墳時代の土師器片3点も出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 意は無くか跡だけが検出された。時期を判定する遺物は少ないが、出土土器や遺構の形状などから平安時代の遺構と判断した。また、形状は第40号住居跡と類似している。



第183図 第44号住居跡実測図

第48号住居跡 (第184図)

位置 調査区南部のH 4a3区、標高25.6mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.89m、短軸2.54mの長方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁高は38~55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 ほぼ中央部に位置している。長径37cm、短径26cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 濃い赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量

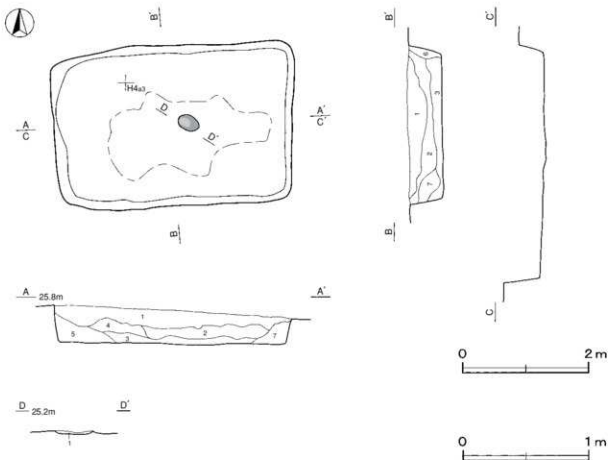
覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 古墳時代の土師器片62点が出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 第40・44号住居跡と同様に、竈は無く炉跡だけが検出された。古墳時代の土師器片については本跡の埋め戻しの際に混入したと考えられる。時期を特定できる遺物は出土していないが、遺構の形状や規模、主軸方向などが第40号住居跡と類似していることから平安時代と判断した。



第184図 第48号住居跡実測図

第53号住居跡 (第185図)

位置 調査区南部のG 5a4区、標高24.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.25m、短軸2.81mの長方形で、主軸方向はN-89°-Eである。壁高は15~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや南西寄りに位置している。長径38cm、短径31cmの楕円形で、床面を2cmほど掘りくほめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗 褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量

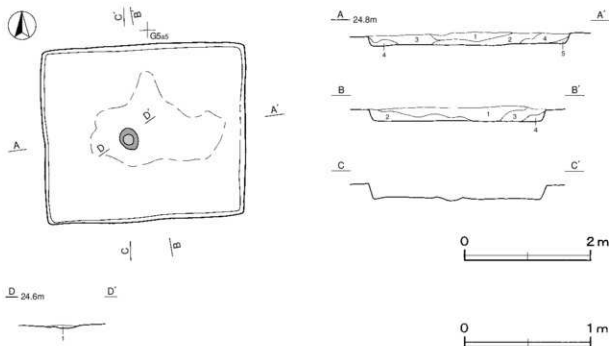
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック微量
2 黒 褐色 ロームブロック微量
3 暗 褐色 ローム粒子微量

4 暗 褐色 ロームブロック少量
5 暗 褐色 ロームブロック中量

所見 第40・44・48号住居跡と同様に、竈は無く炉跡だけが検出された。遺物が出土していないため時期の判断は難しいが、遺構の形状や規模、主軸方向などが第40号住居跡と類似していることから平安時代と判断した。



第185図 第53号住居跡実測図

第83号住居跡 (第186図)

位置 調査区東部のE 5g6区, 標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第82号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.95m, 短軸2.66mの長方形で、主軸方向はN-84°-Wである。壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 中央部やや西寄りに位置している。長径63cm, 短径43cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
2 赤 褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量

3 明 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量

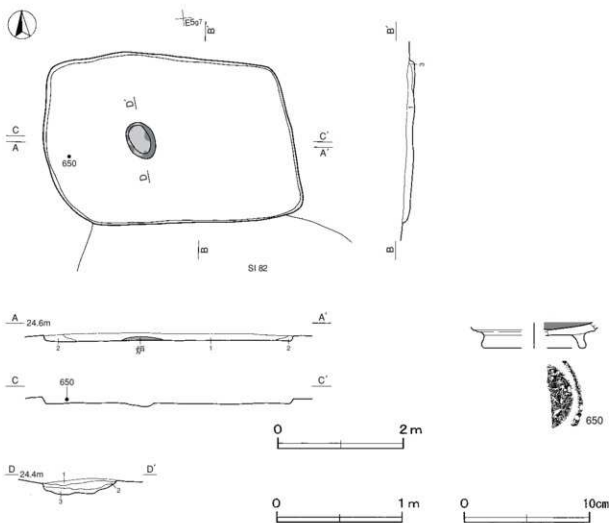
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点(高台付碗)のほか、古墳時代の土師器片6点が出土している。650は西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 第40・44・48・53号住居跡と同様に、竈は無く炉跡だけが検出された。時期を特定できる遺物は出土していないが、遺構の形状や規模、主軸方向などが近接する第89号住居跡と類似していることから平安時代と判断した。



第186図 第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表(第186図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
650	土師器	高台付碗	-	(2.0)	(7.7)	長石・石英・雲母	にがい橙	普通	高台貼り付け後十字	覆土下層	5%

第88号住居跡 (第187図)

位置 調査区東部のE 5g5区、標高24.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第89号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.22m、短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-43°-Wである。壁高は16~21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、西側が踏み固められている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

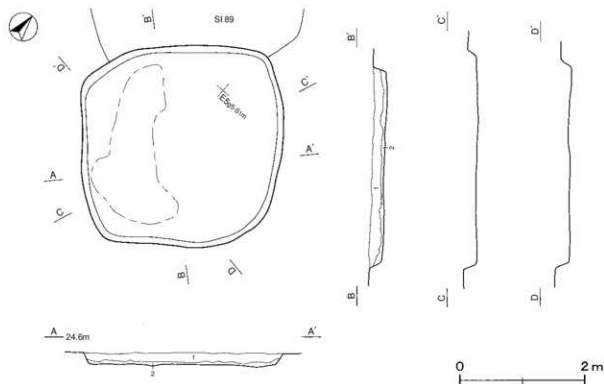
土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片3点が出土しているが、埋没の過程で流れ込んだと考えられる。遺物は細片のため図示できない。

所見 竈や炉を含めた屋内施設は検出されておらず、時期を判定する遺物も出土していない。時期は、10世紀前半に比定されている第89号住居跡を掘り込んでいることから10世紀前半以降とした。



第187図 第88号住居跡実測図

第89号住居跡 (第188図)

位置 調査区東部のE 5f4区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第88号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.35mの方形で、主軸方向はN-52°-Wである。壁高は5~10cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に踏み固められている部分は確認されていない。

炉 2か所。炉1は西コーナー部寄りに位置している。長径54cm、短径41cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は中央部やや南寄りに位置している。長径63cm、短径45cmの楕円形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉である。それぞれの炉床は火を受けて赤変硬化しており、使用された時期差については明確ではない。

炉1土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子微量

炉2土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量

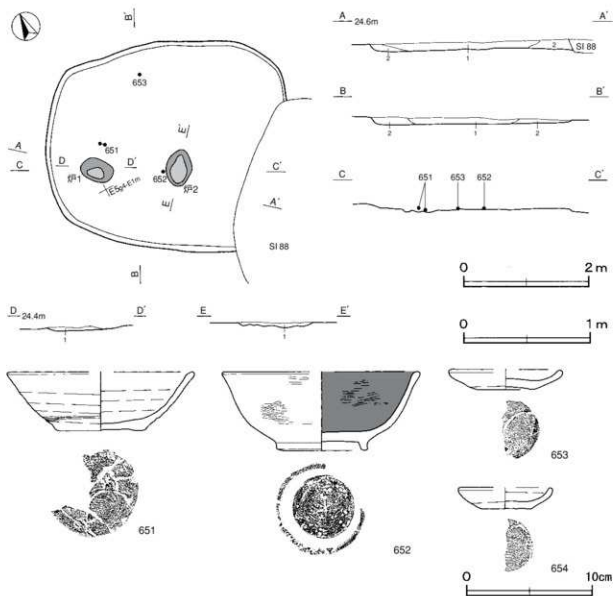
覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物粒子微量

遺物出土状況 土師器片4点（坏1、高台付碗1、小皿2）のほかに、古墳時代の土師器片26点も出土している



第188図 第89号住居跡・出土遺物実測図

る。651は炉1際、652は炉2際、653は北東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 第40・44・48・53・83号住居跡と同様に、竈は無く炉跡だけが検出された。時期を特定できる遺物は少ないが、時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表（第188図）

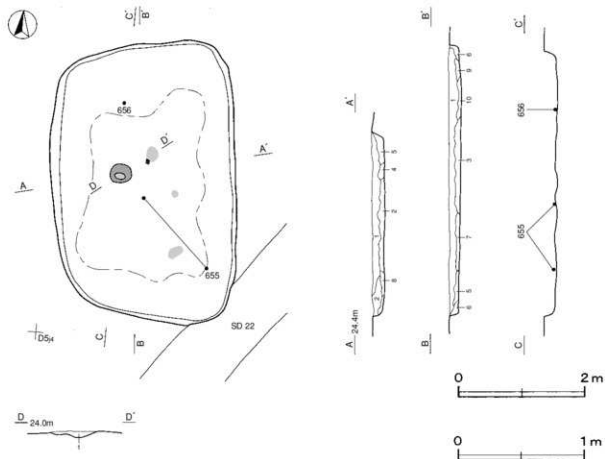
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
651	土師器	杯	[14.5]	4.7	7.0	長石・石英・雲母	黄	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	覆土下層 ～床面	45%
652	土師器	高台付椀	[15.3]	6.3	7.3	長石・石英・雲母 対状磁物	黄	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け 体部内・外面ヘリ磨き	床面	45% 刷書「+」
653	土師器	小皿	[8.6]	1.6	4.6	長石・石英・赤色 砂子	にじみ黄橙	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	床面	50%
654	土師器	小皿	[7.1]	1.7	4.0	長石・石英・赤色 砂子	灰黄緑	普通	底部回転糸切り ロクロナデ	覆土中	40%

第91号住居跡（第189・190図）

位置 調査区東部のD5i4区、標高24.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.45m、短軸2.97mの隅丸長方形で、主軸方向は $N-1^{\circ}-W$ である。壁高は15～20cmで、外傾して立ち上がっている。



第189図 第91号住居跡実測図

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。中央部及び南東コーナー寄りから焼土塊や炭化材がわずかに出土している。

炉 中央部やや西寄りに位置している。長径37cm、短径31cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 におい赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量

覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片90点(塚63, 高台付椀15, 小皿4, 高坏3, 甕5)が出土している。655は中央部及び南東コーナー部の床面から出土した土器片が接合したものである。656は中央部北寄りの床面から出土している。

所見 第40・44・48・53・83・89号住居跡と同様に、竈は無く炉跡だけが検出された。床面から焼土塊や炭化材が確認されており、床面も焼けて赤変していることから焼失住居と考えられる。時期を特定できる遺物は少ないが、時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第190図 第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表(第190図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
655	土師器	高台付椀	-	(3.6)	(6.7)	長石・石英・雲母・貝殻混物	におい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	床面	5%
656	土師器	小皿	7.5	1.7	5.9	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り ロクロナゲ	床面	95%

第93号住居跡(第191図)

位置 調査区東部のD5j5区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 全体は確認できなかったが、長軸3.09m、短軸2.55mが確認された。主軸方向をN-65°-Wとする長方形と推定される。壁高は5~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、炉の周辺が踏み固められている。炉の南東側に攪乱を受けている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径53cm、短径38cmの不定形で、床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉

である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

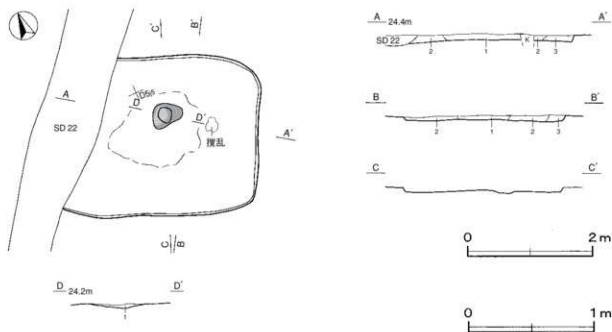
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片4点が出土しているが、埋没の過程で流れ込んだと考えられる。遺物は細片のため図示できない。

所見 第40・44・48・53・83・89・91号住居跡と同様に、竈は無く炉跡だけが検出された。時期を特定できる遺物は出土していないが、遺構の形状や規模などが近接する他の同時代の住居跡と類似しており平安時代と判断した。



第191図 第93号住居跡実測図

表6 平安時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係 (古→新)
							土師器	土師器	土師器	土師器				
40	I 4 16	N-10°-W	方形	3.24×3.21	4~10	平坦	-	-	-	砂1	人為	土師器、鉄製品	10世紀前半	本跡→SK612
44	H 4 12	N-90°-E	長方形	3.40×2.40	12~28	平坦	-	-	-	砂2	人為	土師器	平安時代	
48	H 4 a3	N-87°-E	長方形	3.89×2.54	38~55	平坦	-	-	-	砂1	人為	土師器	平安時代	
53	G 5 a4	N-89°-E	長方形	3.25×2.81	15~20	平坦	-	-	-	砂1	人為		平安時代	
83	E 5 g6	N-84°-W	長方形	3.95×2.66	8~10	平坦	-	-	-	砂1	自然	土師器	平安時代	SI82→本跡
88	E 5 g5	N-43°-W	方形	3.22×3.20	16~21	平坦	-	-	-	-	自然	土師器、磁器	10世紀前半以降	SI89→本跡
89	E 5 14	N-52°-W	方形	3.65×3.35	5~10	平坦	-	-	-	砂2	自然	土師器	10世紀前半	本跡→SI88
91	D 5 14	N-1°-W	隅丸長方形	4.45×2.97	15~20	平坦	-	-	-	砂1	人為	土師器	10世紀前半	本跡→SD22
93	D 5 15	N-65°-W	[長方形]	(3.09)×2.55	5~8	平坦	-	-	-	砂1	人為	土師器	平安時代	本跡→SD22

(2) 土坑 (平安時代)

第145号土坑 (第192図)

位置 調査区南部のI 5g2区、標高25.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.41mの円形で、長径方向はN-0°である。深さは24cmで、底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物や遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

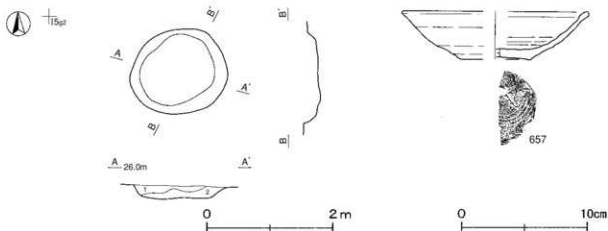
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片3点(坏)が出土している。657は覆土中から出土した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀末葉～10世紀初頭と考えられる。



第192図 第145号土坑・出土遺物実測図

第145号土坑出土遺物観察表 (第192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
057	土師器	坏	[14.4]	3.9	[5.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り ロタロナデ	覆土中	30%

第668号土坑 (第193図)

位置 調査区北部のD 5h4区、標高24.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.75m、短軸2.06mの隅丸長方形で、長軸方向はN-88°-Eである。深さは18cm、底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

ピット 長径52cm、短径44cmの楕円形で、深さは14cmである。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

4 褐色 ローム粒子少量

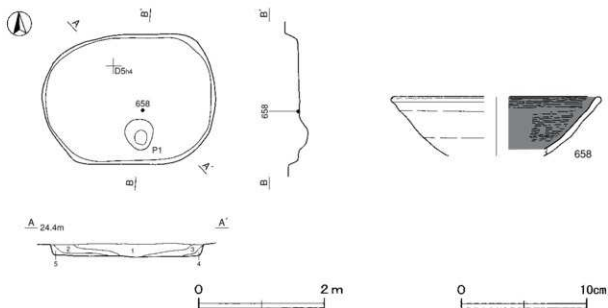
2 黒褐色 ロームブロック微量

5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片12点(坏類6、甕6)が出土している。658はビット北側の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀末葉～10世紀初頭と考えられる。



第193図 第668号土坑・出土遺物実測図

第668号土坑出土遺物観察表 (第193図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
658	土師器	椀	[16.2]	(4.7)	-	長石・石英・赤色 鉄子	橙	普通	体部内面へラ削き ロケロナア	底面	25%

表7 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m) (長径×短径) (長径×短径)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (旧→新)
145	I 5 g 2	N - 0°	円形	1.50×1.41	24	緩斜	平坦	人為	土師器	
668	D 5 b 4	N - 88° - E	隅丸長方形	2.75×2.06	18	緩斜	平坦	自然	土師器	

茨城県教育財団文化財調査報告第296集

薬師入遺跡 2

阿見町吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上 巻

平成20(2008)年3月19日 印刷
平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 高野高連印刷
〒310-0853 茨城県水戸市平須町1822-122
TEL 029-305-5588